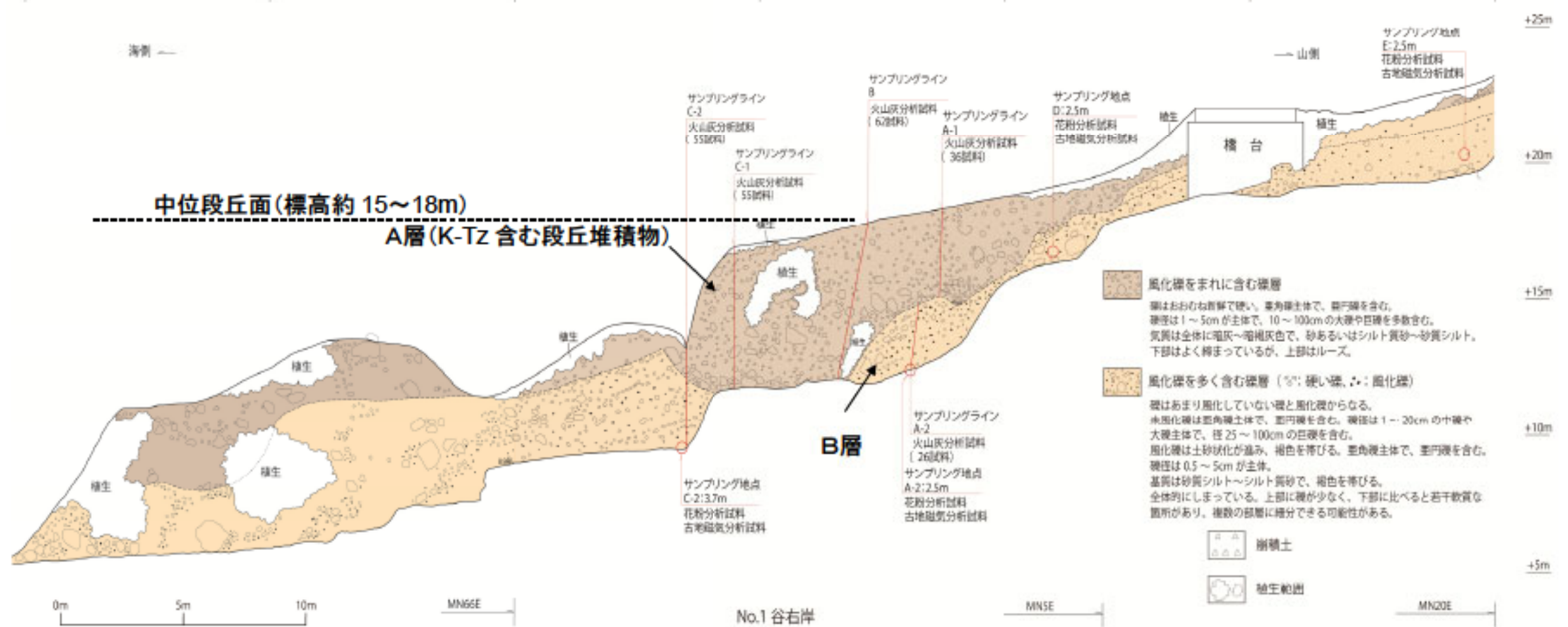
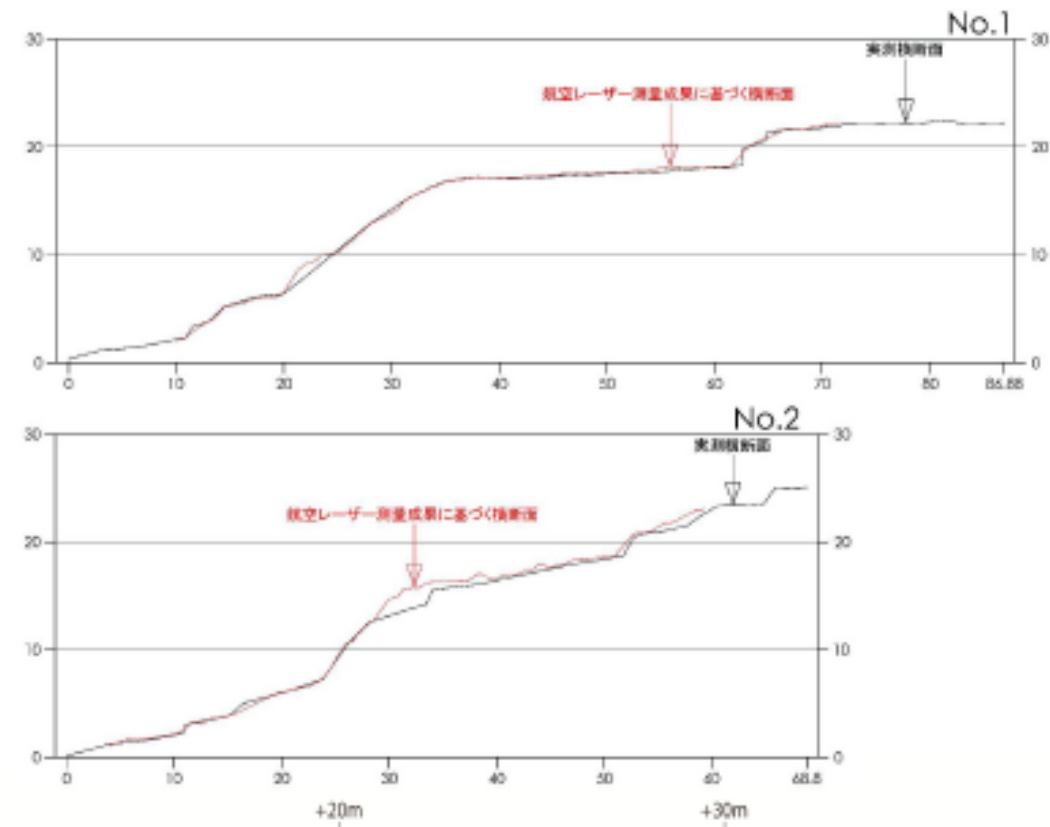
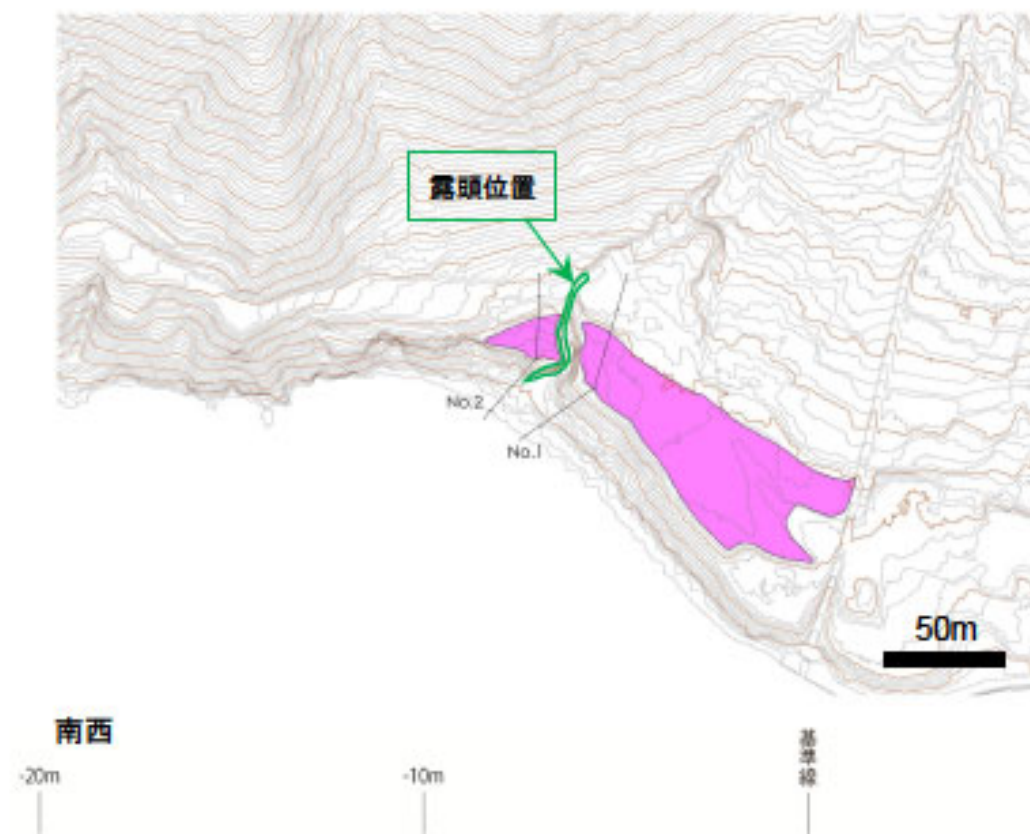
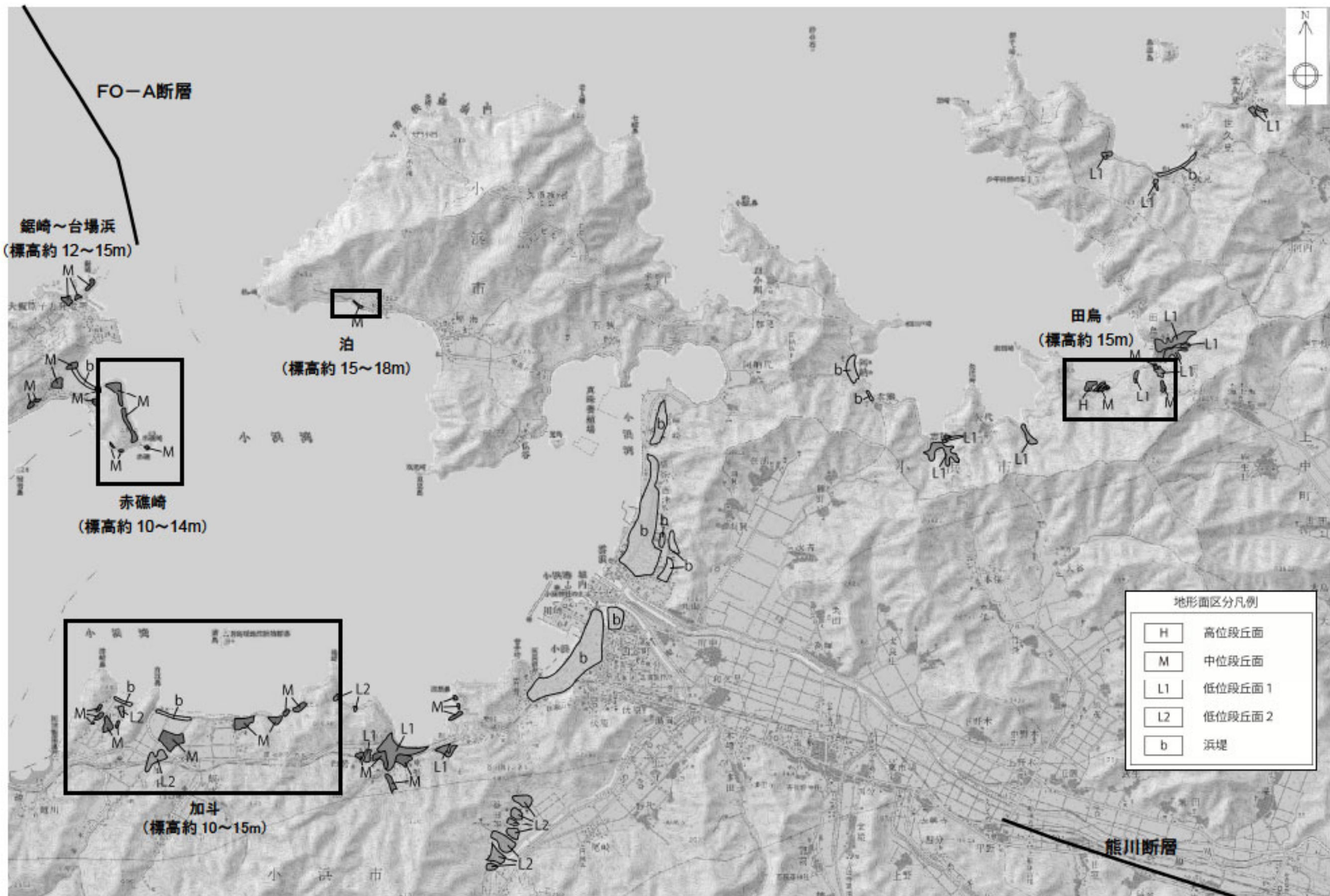


第 3.2.60 図(2) 内外海半島双児崎海岸の縦断測量結果(2)



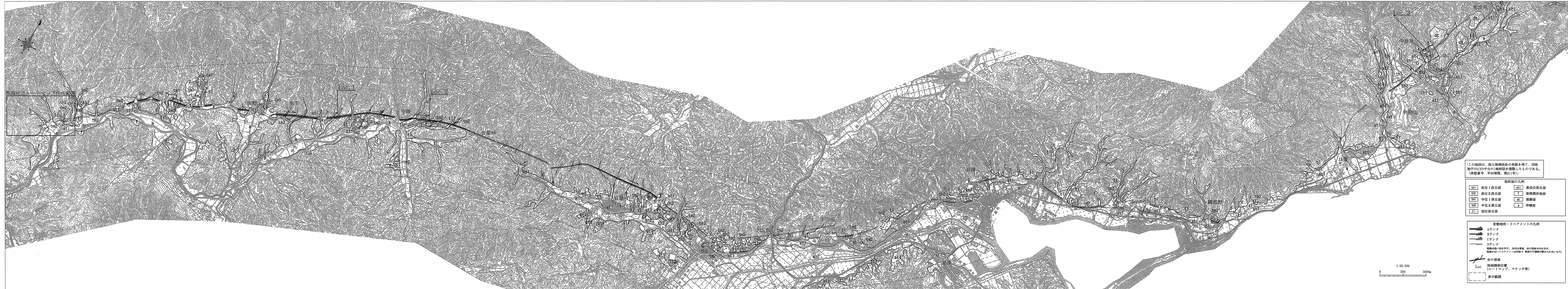
- A層は、火山灰分析の結果、MIS 5に離水した平坦面を覆って堆積したものと考えられる。
- B層は、層相及び火山灰分析の結果から、MIS 7以前の堆積物と考えられる。
- A層及びB層には亜円礫が含まれることから、海成堆積物と考えられる。

第 3.2.61 図 内外海半島泊段丘調査結果

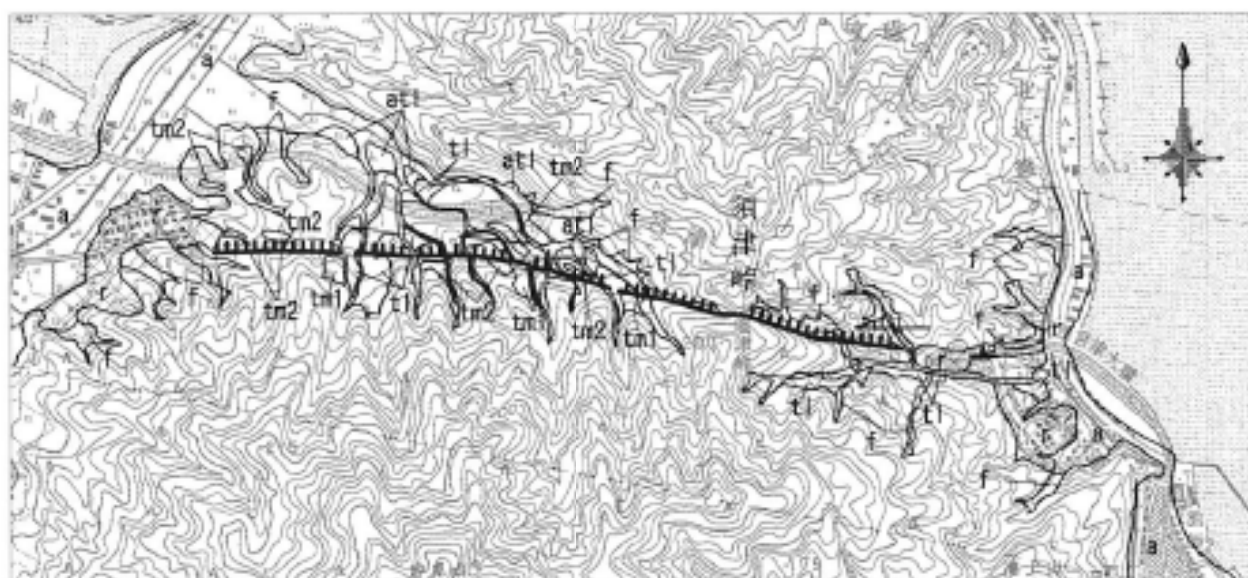


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の
 数値地図 50000 (地図画像) を複製したものである。
 (承認番号 平 26 情復、第 211 号)」

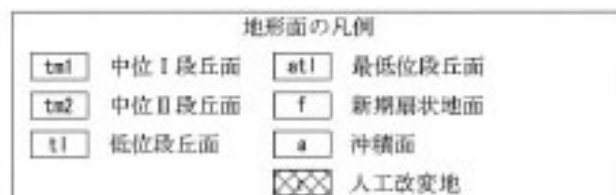
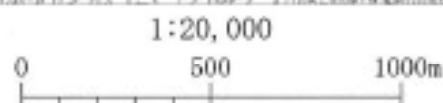
第 3. 2. 62 図 小浜湾周辺の中位段丘面標高分布



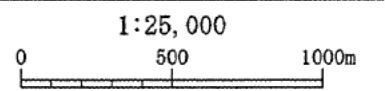
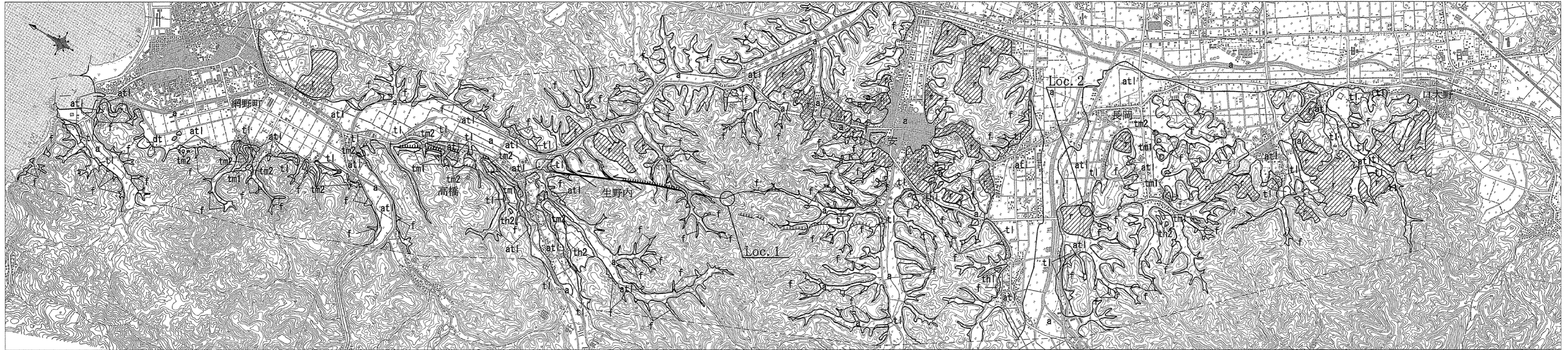
第3.2.63図 山田断層周辺の地形調査結果
 6-3-284



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」



第3. 2. 64図 須津峠断層周辺の地形調査結果



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情複、第211号)」

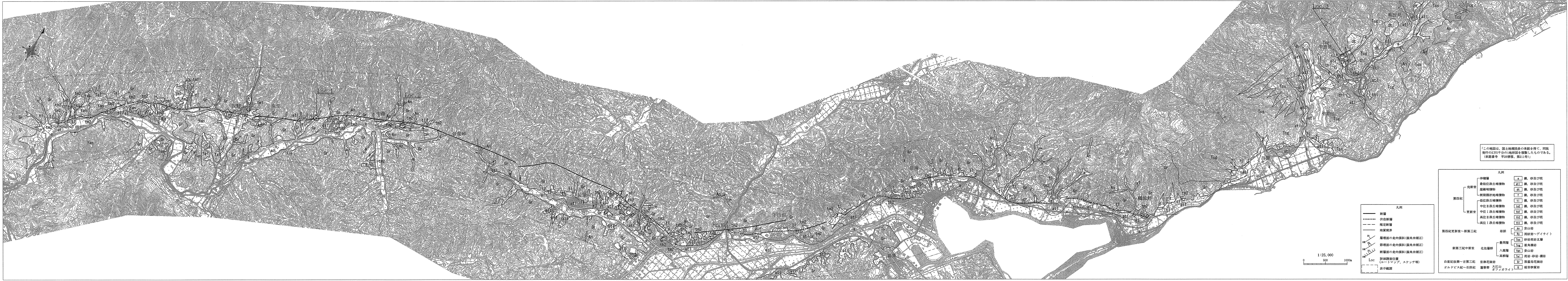
変動地形・リニアメントの凡例

	Bランク
	Cランク
	Dランク
	短線は低い側を示す。 矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。 短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
	谷の屈曲
	Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
	表示範囲

地形面の凡例

	th1 高位I段丘面		at1 最低位段丘面
	th2 高位II段丘面		f 新期扇状地面
	tm1 中位I段丘面		dt 崖斜面
	tm2 中位II段丘面		a 沖積面
	t1 低位段丘面		人工改変地

第3. 2. 65図 郷村断層周辺の地形調査結果
6-3-286



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平28博検、第211号)

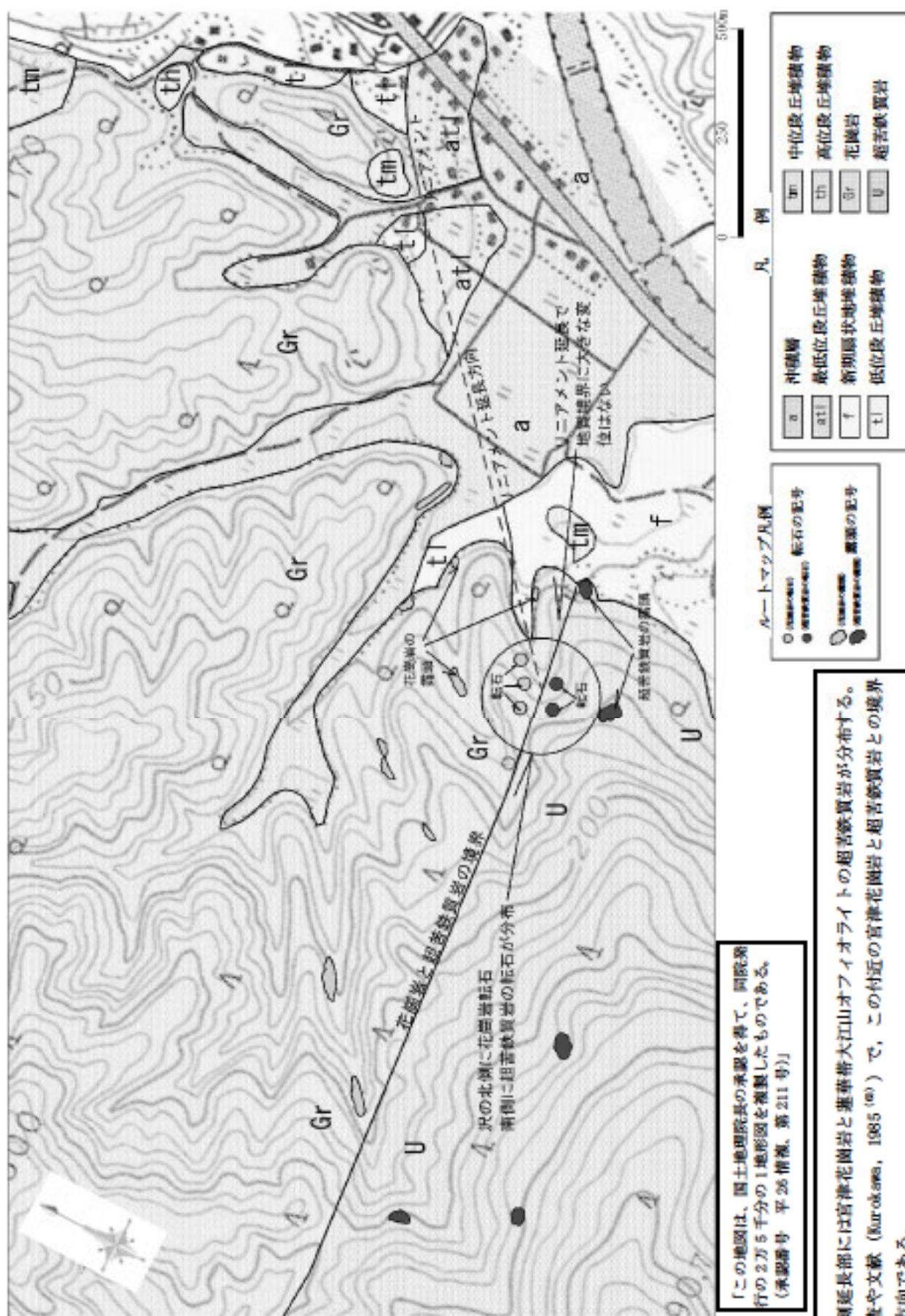
凡例

——	断層
-----	伏在断層
- - - - -	推定断層
———	地質境界
▲▲▲	層理面の走向傾斜(偏角未補正)
▲▲▲	節理面の走向傾斜(偏角未補正)
▲▲▲	断層面の走向傾斜(偏角未補正)
●	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
□	表示範囲

凡例

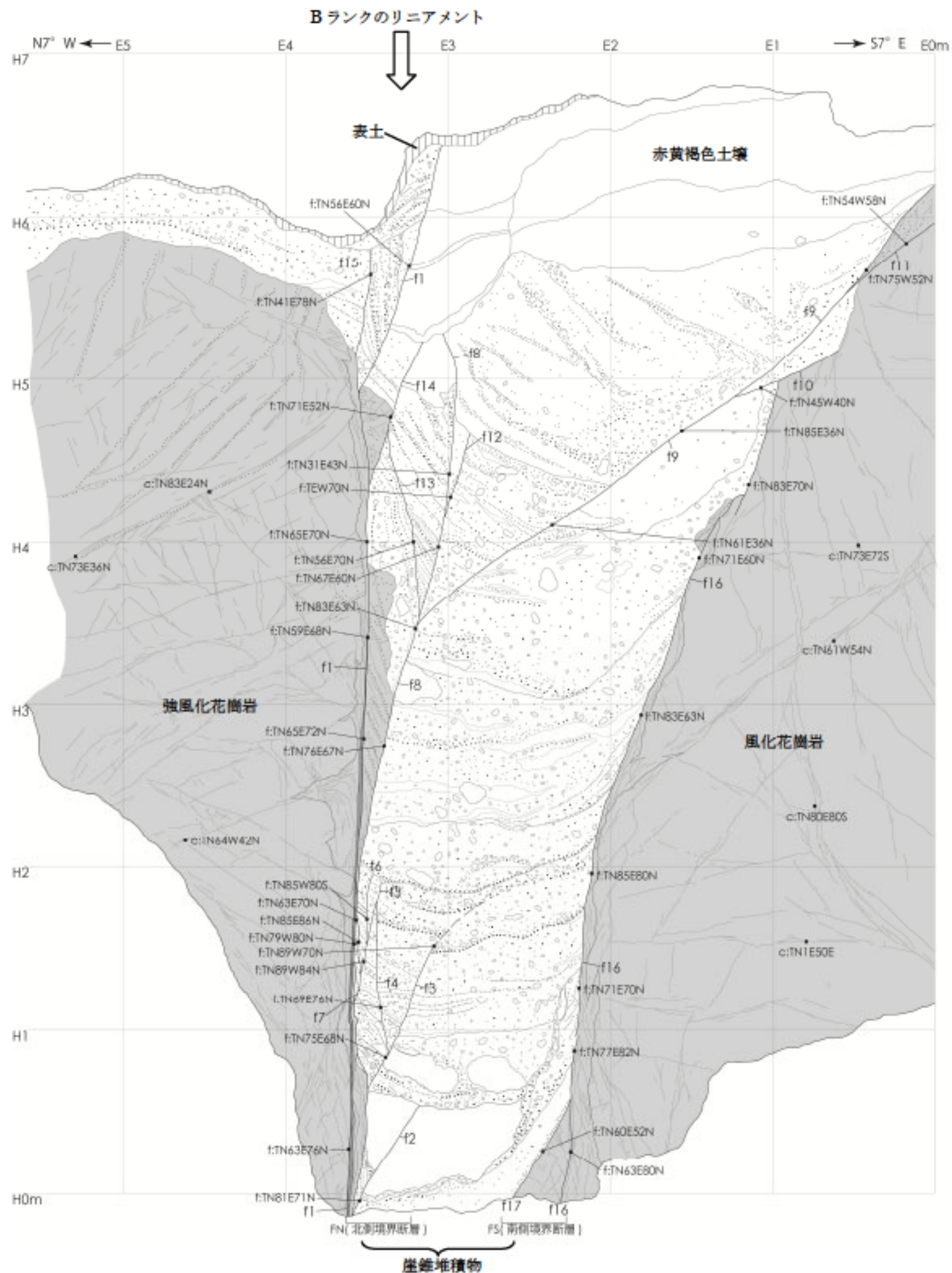
沖積層	a	礫、砂及び泥
最低位段丘堆積物	at1	礫、砂及び泥
崖線堆積物	at	礫、砂及び泥
新期扇状地堆積物	f	礫、砂及び泥
低位段丘堆積物	t1	礫、砂及び泥
中位II段丘堆積物	tm2	礫、砂及び泥
中位I段丘堆積物	tm1	礫、砂及び泥
高位II段丘堆積物	th2	礫、砂及び泥
高位I段丘堆積物	th1	礫、砂及び泥
第四紀更新世～新第三紀	An	安山岩
	ay	流紋岩～デイサイト
新第三紀中新世	Tas	砂岩泥岩互層
	Tog	亜角礫岩
	Yan	安山岩
	Ta1	泥岩・砂岩・礫岩
白亜紀後期～古第三紀	Gr	黒雲母花崗岩
オルドビス紀～石炭紀	U	超苦鉄質岩

第3.2.66図 山田断層周辺の地質図
6-3-287



第 3.2.67 図 山田断層 西端付近ルートマップ

山田断層西側延長部には官津花崗岩と蓮華帯大江山オフィオライトの超苦鉄質岩が分布する。地表地質調査や文献 (Kurakawa, 1985 (6)) で、この付近の官津花崗岩と超苦鉄質岩との境界はほぼ東西方向である。官津花崗岩と超苦鉄質岩との地質境界とリニアメント延長のトレースとは斜交し、花崗岩と超苦鉄質岩の境界に断層を示唆する変位は認められないことを確認した。



【地形と露頭位置】
 但東町虫生（むしゅう）周辺では、尾根・河谷の系統的な右屈曲及び傾斜変換部や鞍部の連続が認められ、Bランクリニアメント直下にリニアメントの方向と調和的な走向を示す断層露頭が認められる。

【地質構成】
 基盤岩の地質は粗粒花崗岩からなり、第四系の堆積層が花崗岩を覆って分布する。第四系の堆積層は主に崖錐堆積物からなり、層厚1m程度の赤黄褐色土壌が崖錐堆積物を覆う。地表付近には厚さ10cm程度の表土が分布する。

【地質構造】
 花崗岩に挟み込まれるように崖錐堆積物が分布し、花崗岩と崖錐堆積物は主に断層で接する。

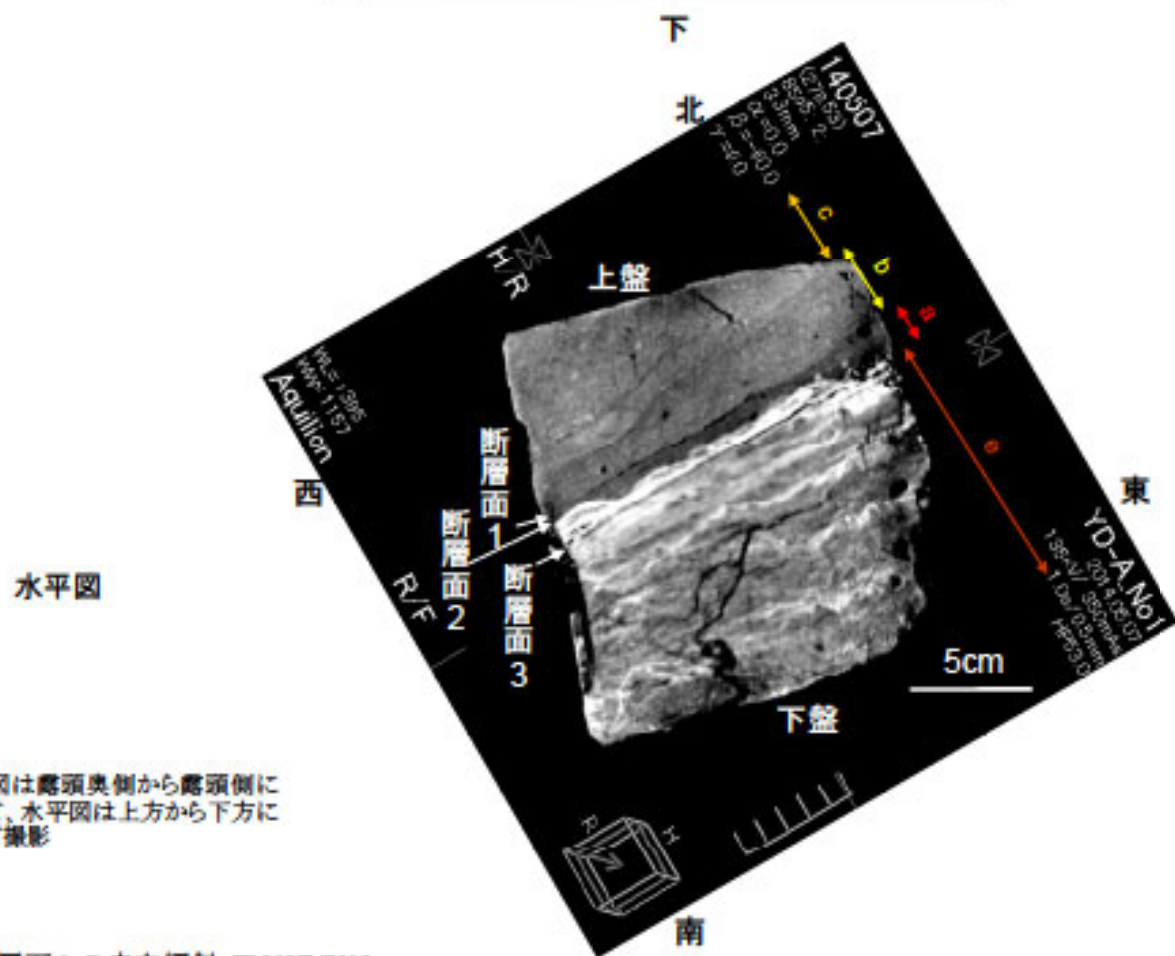
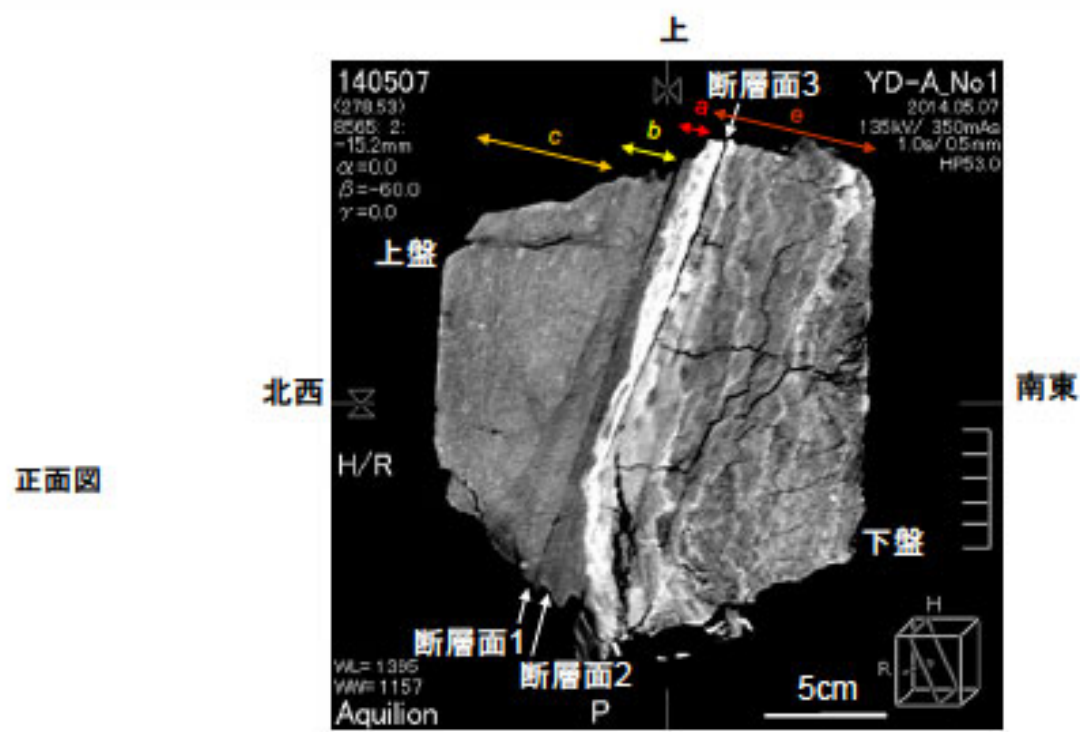
<北側境界断層（主断層）>
 北側境界断層の主断層面は直線的で積層構造がある幅数cmの断層ガウジを伴う。主として主断層面の前縁に数条の派生断層が分布し、崖錐堆積物に北側隆起の逆断層センスの変位・変形が認められる。

<南側境界断層>
 南側境界断層は花崗岩と崖錐堆積物が断層で接しており、崖錐堆積物の引きずり構造から正断層センスの変位を有すると判断した。断層ガウジは認められない。

凡例



第 3.2.68 図(1) 山田断層 露頭スケッチ (Loc.1 表層部付近)

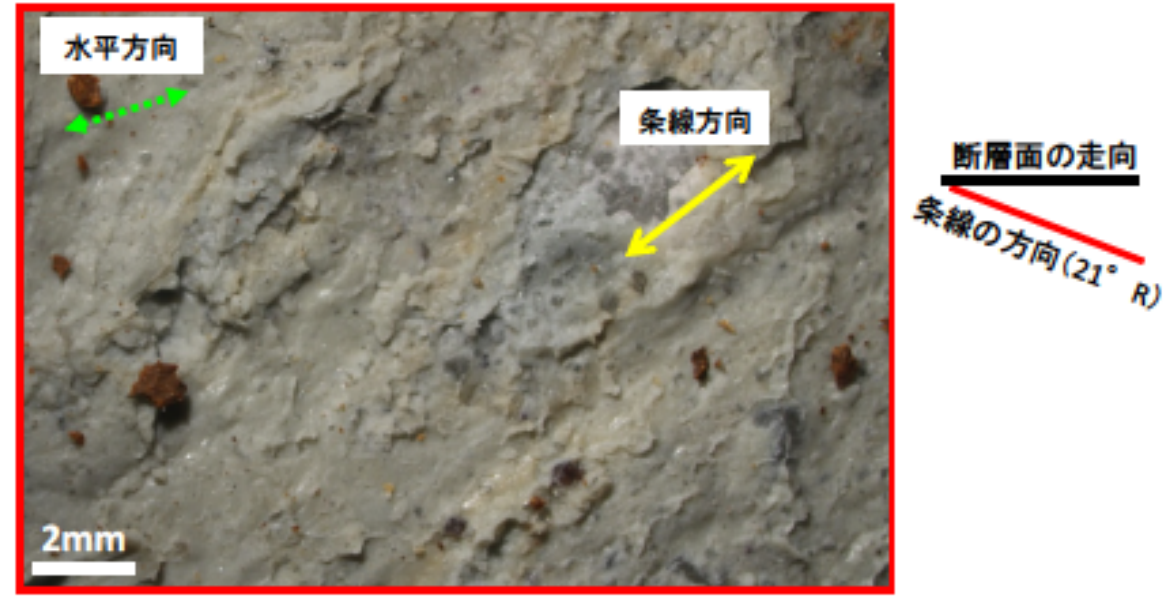


※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、水平図は上方から下方に向けて撮影

断層面1の走向傾斜: TN60E/71N
 縦ずれ成分: 不明, 横ずれ成分: 右横ずれ(bで認められる:aやb,c,eはスケッチに対応)
 肉眼観察による分帯 a:断層ガウジ(一部で風化), b:断層角礫帯, c:フォリエーティッドカタクレーサイト, e:強風化断層角礫帯
 ブロック中には3条の断層面が確認される(断層面1~3).
 断層面1はaとbの境界に分布し, 断層面2と3はそれぞれ, aとe中に分布する.
 断層面1と2は直線性が高いが, 断層面3は断層面1と2に比べ, 小刻みに湾曲する.



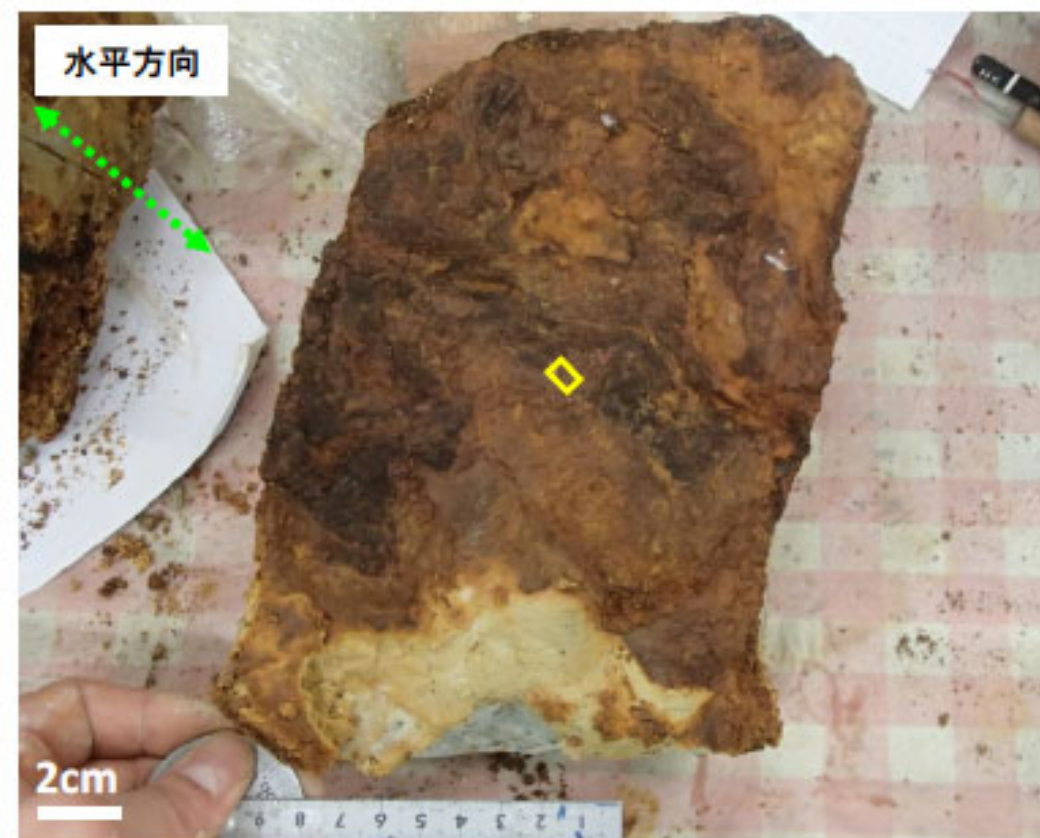
断層面1(上盤下面)



断層面1の状況
センス不明



断層面2(上盤下面)

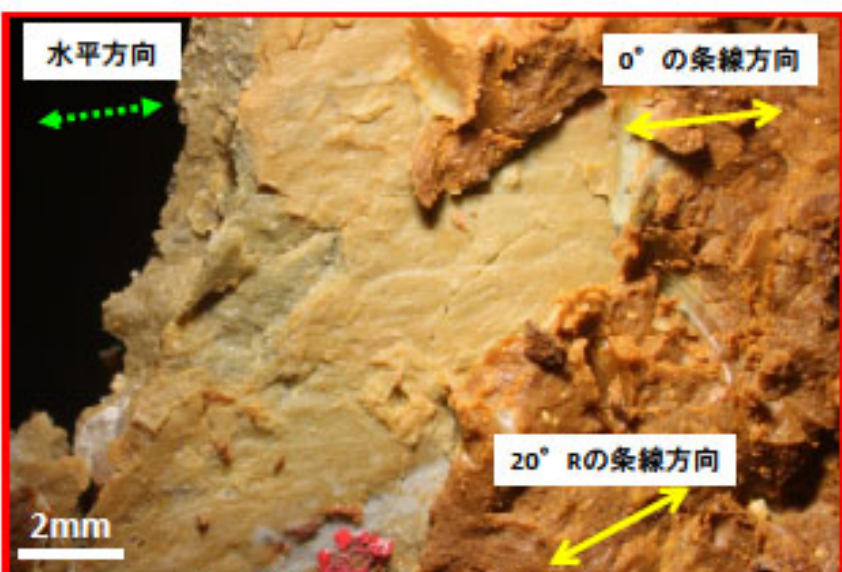


断層面3(上盤下面)



断層面の走向
条線方向(20° R)

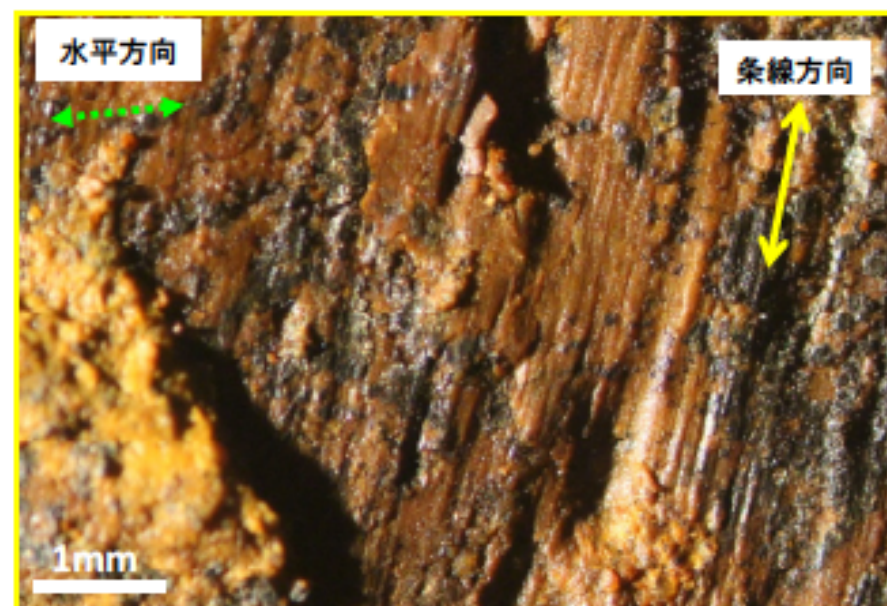
断層面2の状況
センス不明



断層面の走向
条線方向(0°)

断層面2の状況
センス不明

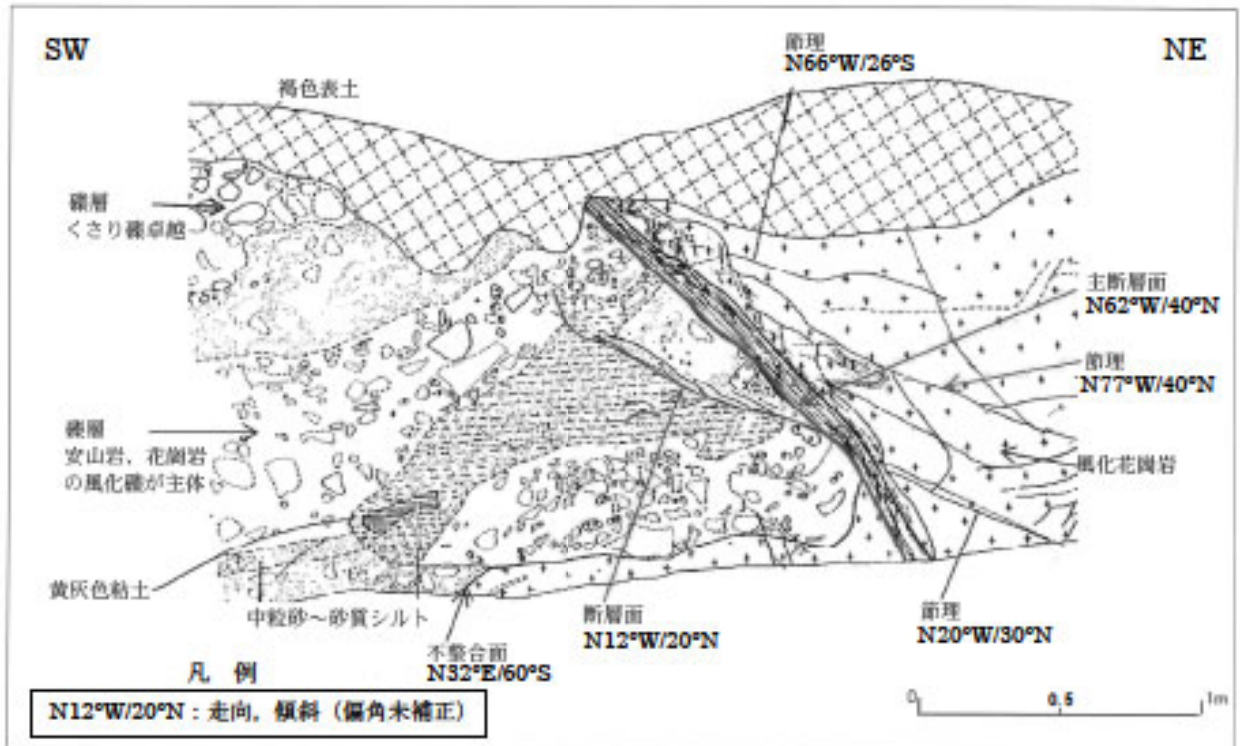
0°の条線は20° Rの条線に切られる



断層面の走向
条線方向(73° R)

断層面3の状況
センス不明

第3.2.69図(2) 山田断層 条線観察結果 (Loc. 1、YD-A No. 1 試料) (2)

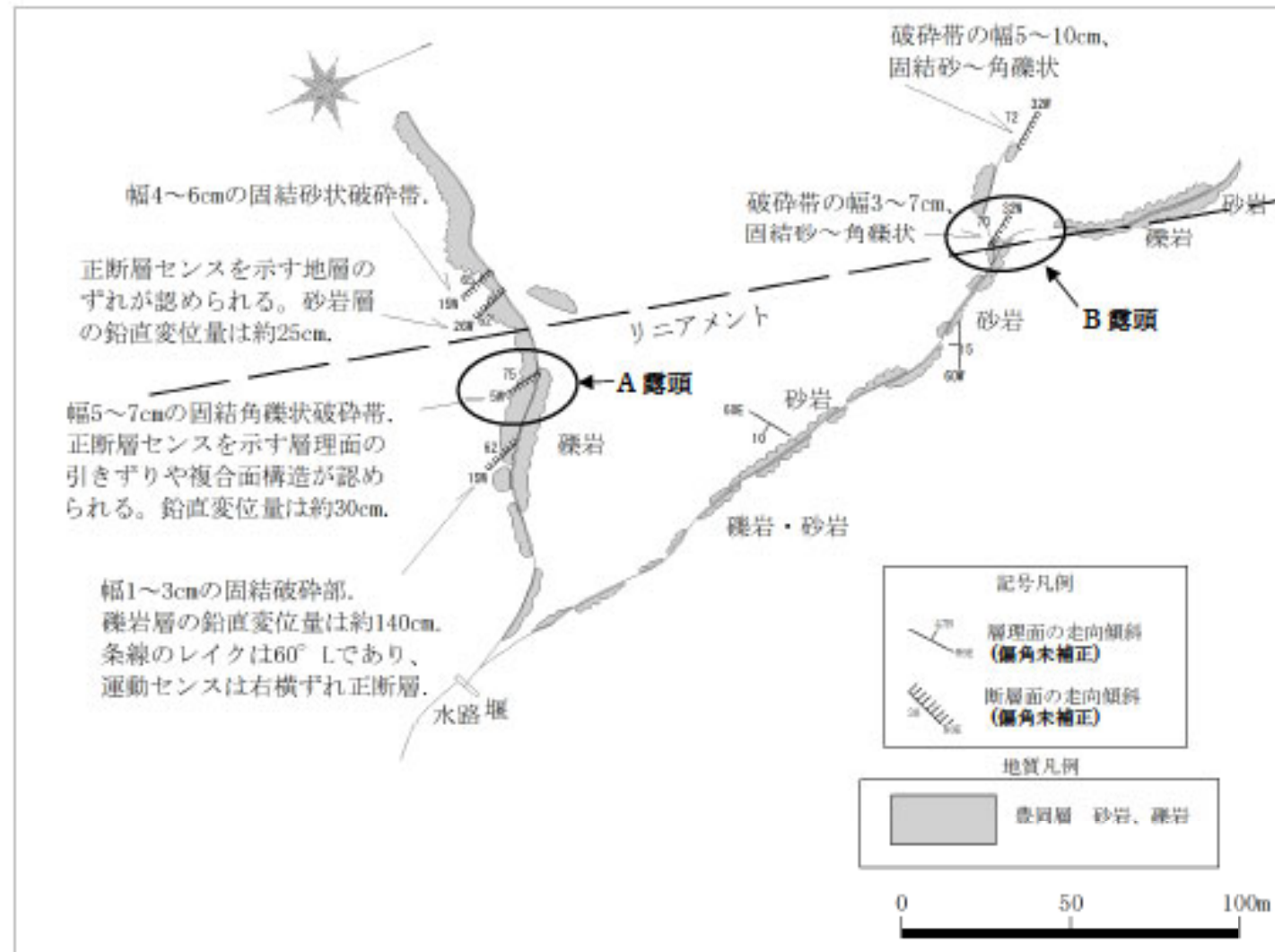


花崗岩中の断層露頭

赤黄褐色に風化し、よく締まった礫層及びシルト層と風化花崗岩が断層で接している。

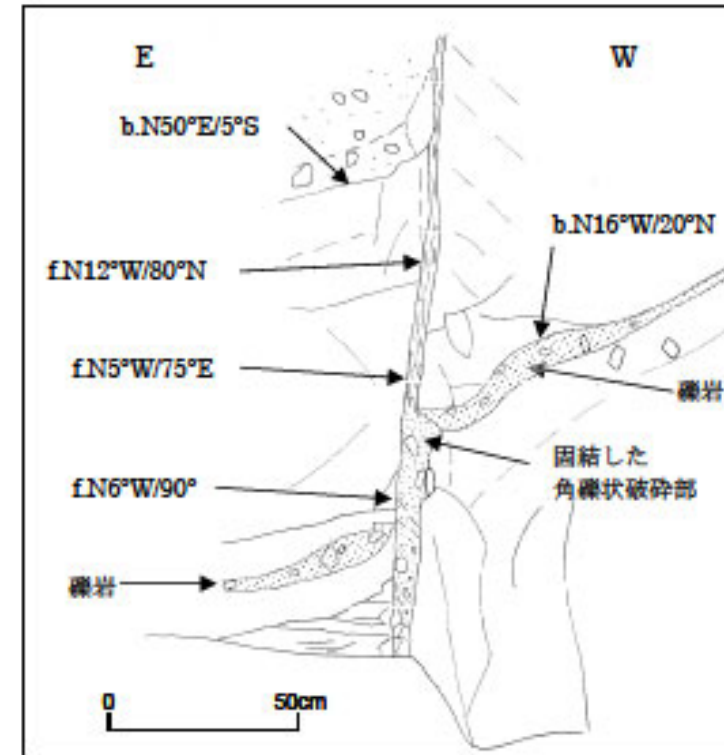
主断層の破碎帯の幅は約10~15cmであり、幅約1~1.5cmの粘土を伴う。堆積物中にも断層が見られ、砂礫層に変位を与えている。

第 3.2.70 図 山田断層 露頭スケッチ (Loc. 2)



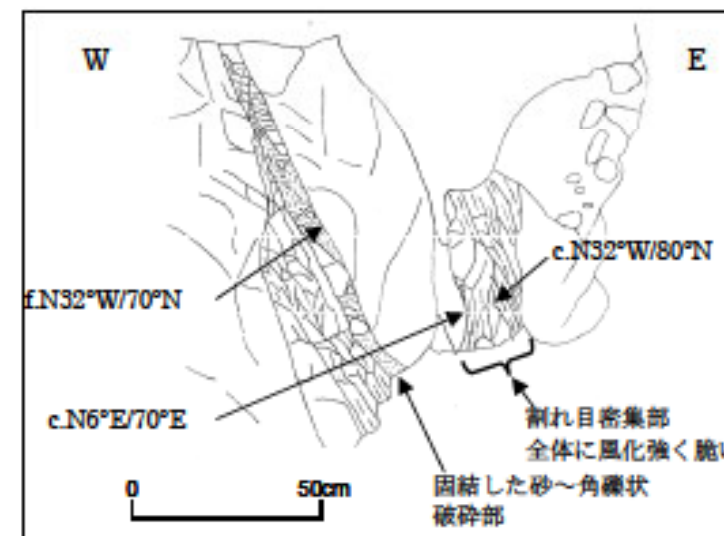
ルートマップ

リニアメントを横断する2本の沢筋で連続露頭を確認し、6条の断層が認められた。6条の断層のうち5条の断層は固結し、さらに3条の断層で正断層センスが認められた。



A露頭 スケッチ

礫岩・砂岩中の破砕帯
幅約5~7cmの固結角礫状破砕部からなり、粘土は挟まない。
正断層センスを示す層理面の引きずりや複合面構造が認められる。鉛直変位量は約30cm。



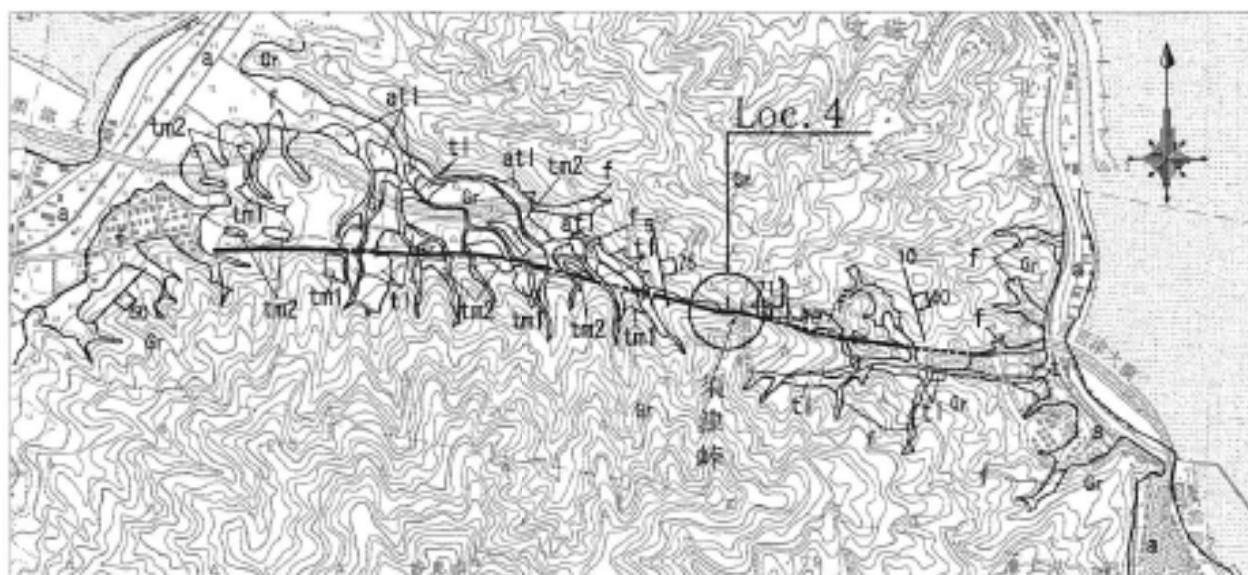
B露頭 スケッチ

礫岩中の破砕帯
幅約3~7cmの固結砂~角礫状破砕部からなり、周囲に割れ目の多いゾーンを含む。幅約20cmの割れ目密集部が見られる。

凡例

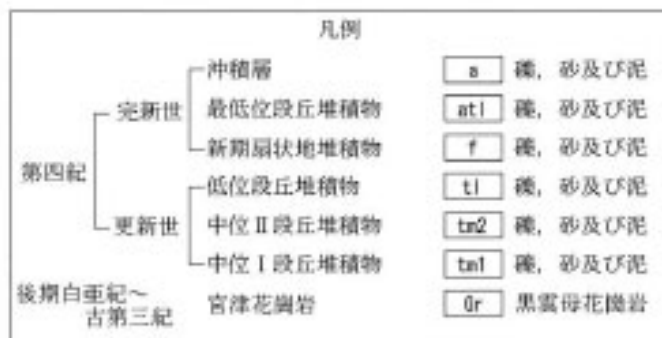
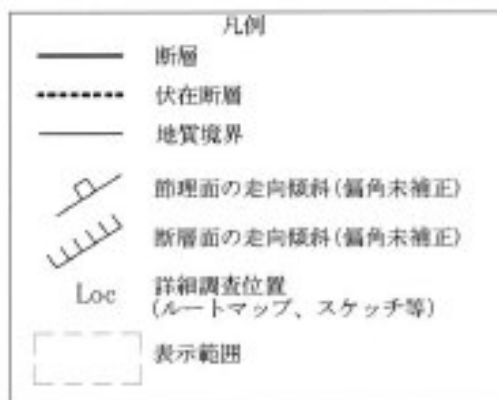
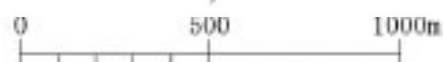
- f.N32°W/70°N: 断層面の走向傾斜 (偏角未補正)
- b.N16°W/20°N: 層理面の走向傾斜 (偏角未補正)
- c.N6°E/70°E: 割れ目の走向傾斜 (偏角未補正)

第 3.2.71 図 山田断層 中波見西方詳細ルートマップ及び露頭スケッチ (Loc. 3)



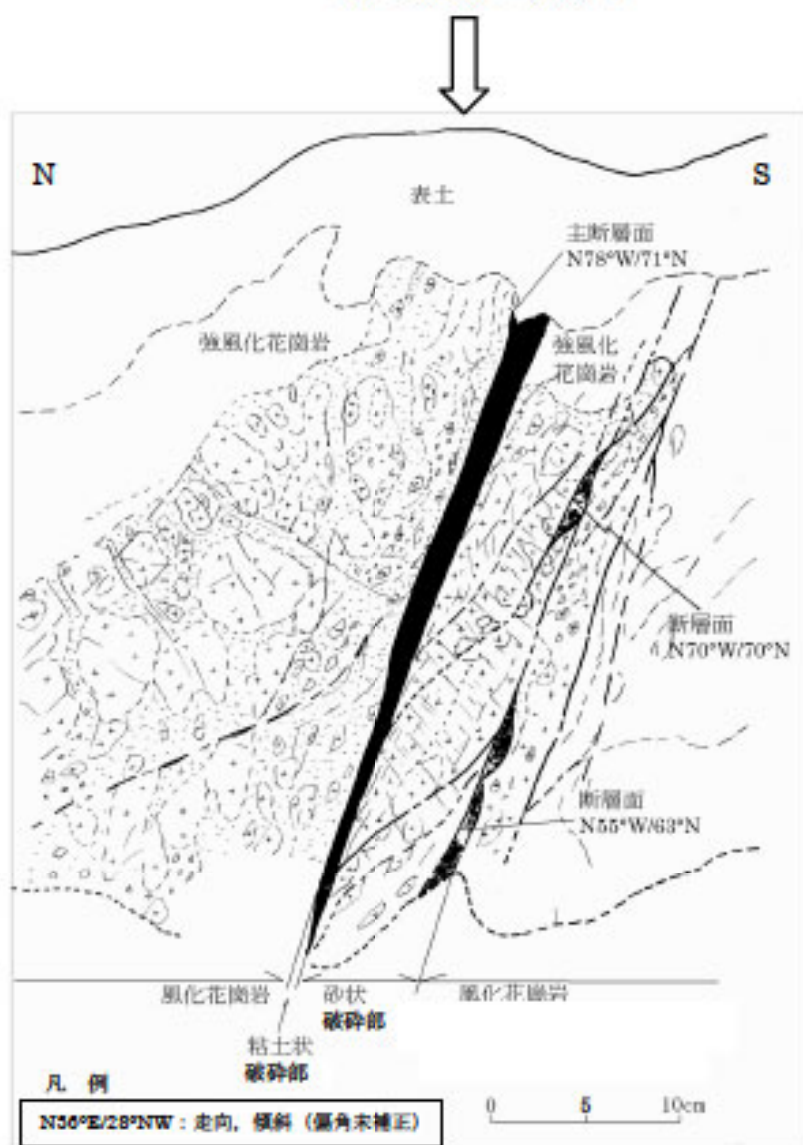
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万6千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」

1:20,000



第3.2.72図 須津峠断層周辺の地質図

Bランクのリニアメント



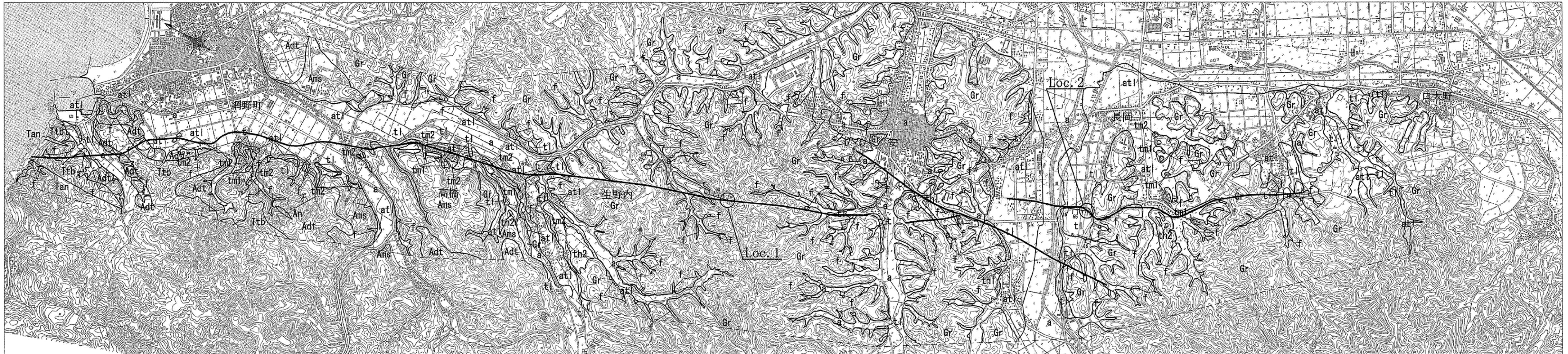
リニアメント判読位置付近の破砕帯

断層の上下盤は風化花崗岩であり、上盤側は褐色、下盤側は灰色～暗灰色を呈する。

主断層面はN78° W/71° Nを示し、断層面は明瞭でほぼ直線的である。断層面に沿って幅約1～1.5cmの灰茶色軟質粘土(図中の黒色部)が認められる。

下盤側に幅約7～10cmの砂状破砕部があり、N55～70° W/63～70° Nの断層面が認められ、主断層面と概ね調和的な走向傾斜を示す。

第 3. 2. 73 図 須津峠断層 露頭スケッチ (Loc. 4)



1:25,000
0 500 1000m

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」

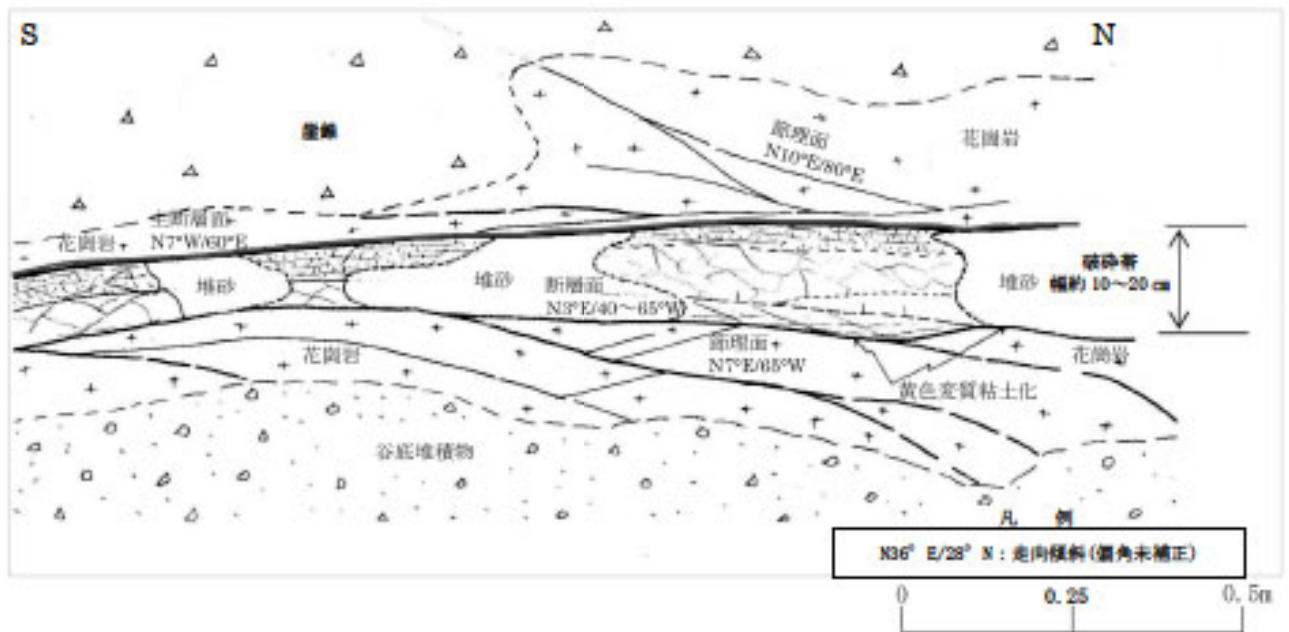
凡例

——	断層
- - - -	伏在断層
- · - ·	推定断層
——	地質境界
20	層面の走向傾斜(偏角未補正)
30E 20	節理面の走向傾斜(偏角未補正)
30E 20	断層面の走向傾斜(偏角未補正)
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
□	表示範囲

凡例

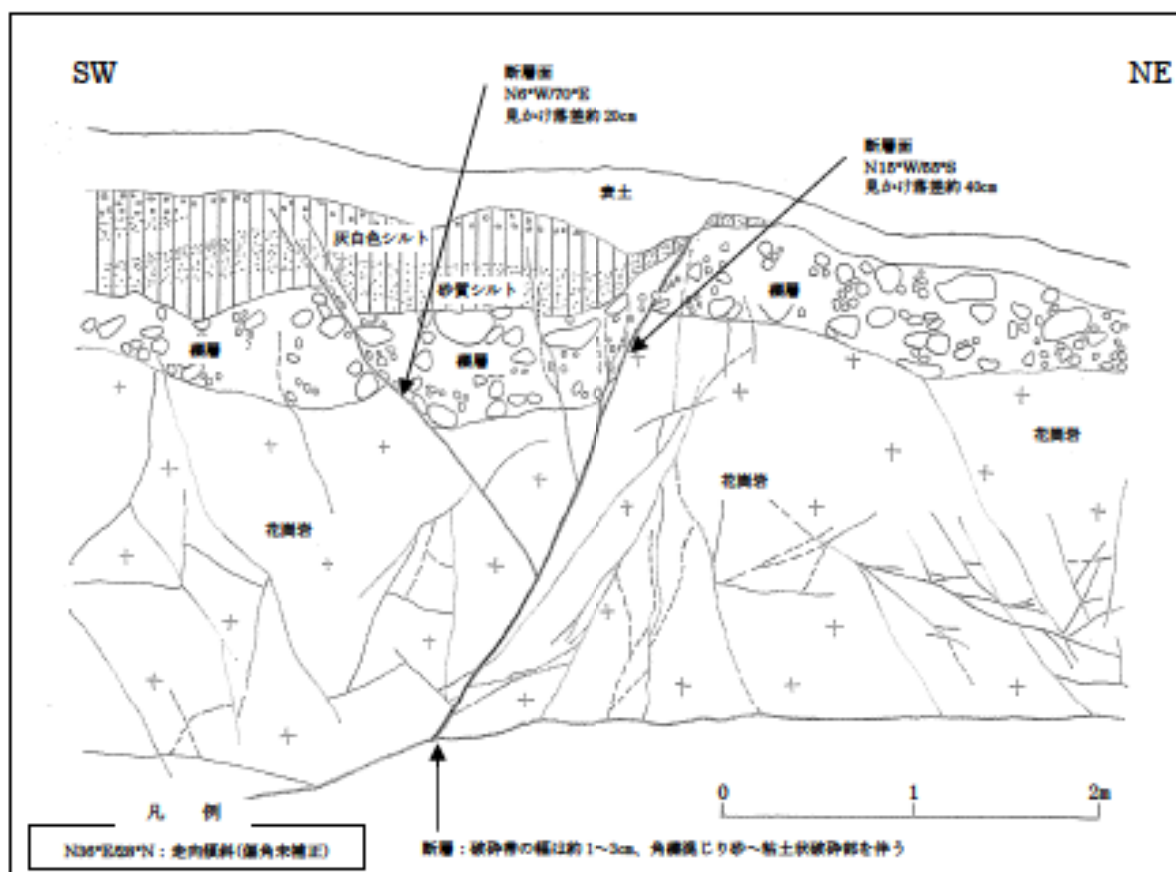
第四紀	全新世	沖積層	a	礫、砂及び泥
	第四紀	最低位段丘堆積物	at1	礫、砂及び泥
		崖錐堆積物	dt	礫、砂及び泥
		新期扇状地堆積物	f	礫、砂及び泥
		低位段丘堆積物	t1	礫、砂及び泥
		中位II段丘堆積物	tm2	礫、砂及び泥
	更新世	中位I段丘堆積物	tm1	礫、砂及び泥
	高位II段丘堆積物	th2	礫、砂及び泥	
	高位I段丘堆積物	th1	礫、砂及び泥	
第四紀更新世～新第三紀	岩脈	An	安山岩	
新第三紀中新世	北但層群	丹後層	Tan	安山岩
		網野層	Ttb	含礫軽石質凝灰岩・礫岩
		網野層	Adt	石英安山岩質軽石凝灰岩
		Ams	泥岩・砂岩・礫岩	
白亜紀後期～古第三紀	宮津花崗岩	Gr	黒雲母花崗岩	

第3.2.74図 郷村断層周辺の地質図
6-3-297



花崗岩中の断層露頭
 幅約10~20cmの破砕帯であり、粘土混じり角礫~ブロック状を呈し、幅約1~2mmの粘土を挟む。
 断層面の走向は N7° W~N3° E 方向であり、リニアメントの方向とほぼ調和的である。

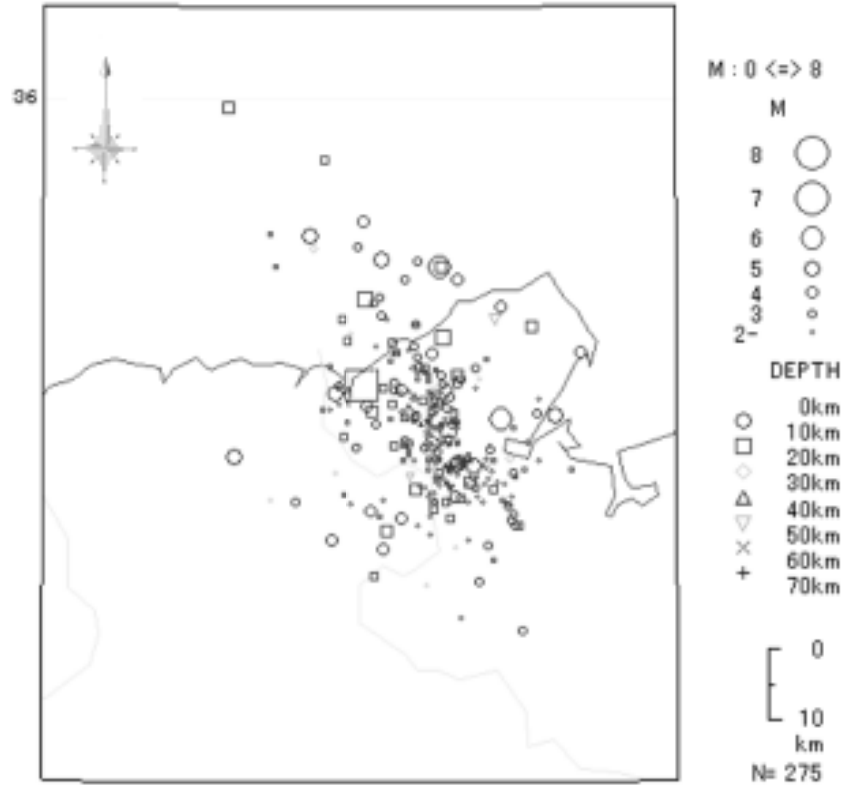
第 3.2.75 図 郷村断層 露頭スケッチ (Loc. 1)



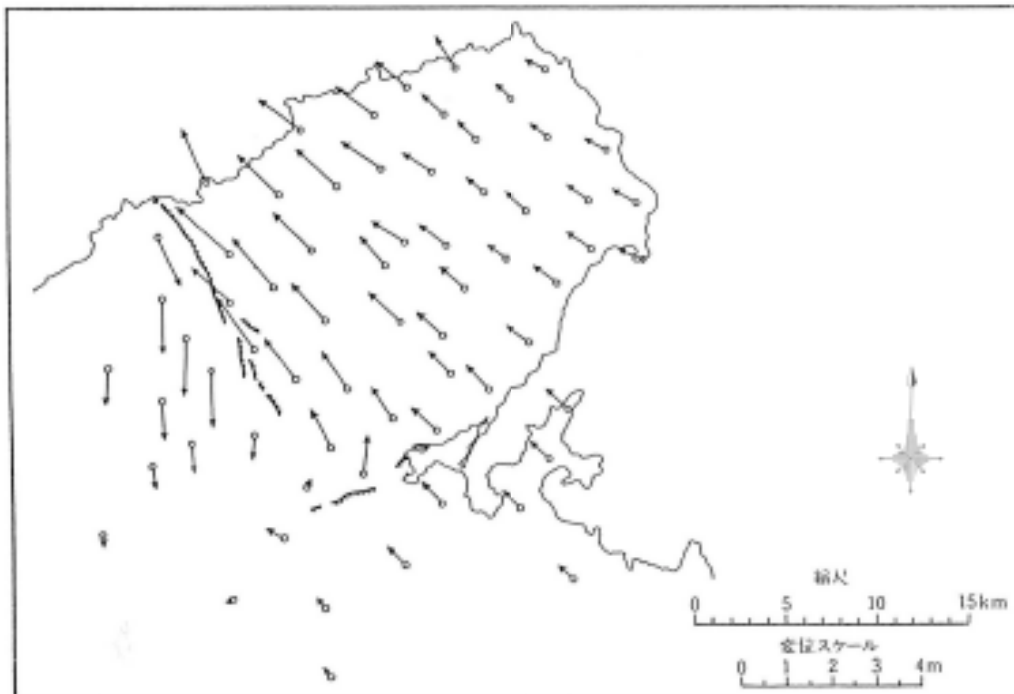
花崗岩中の断層露頭
 破砕帯の幅は約1~3cmであり、角礫混じり砂~粘土状である。
 上位の礫層及びシルト層を見かけ約20~40cm変位させている。

第 3.2.76 図 郷村断層 露頭スケッチ (Loc. 2)

1927 3/7 0:0 -- 1928 3/7 0:0

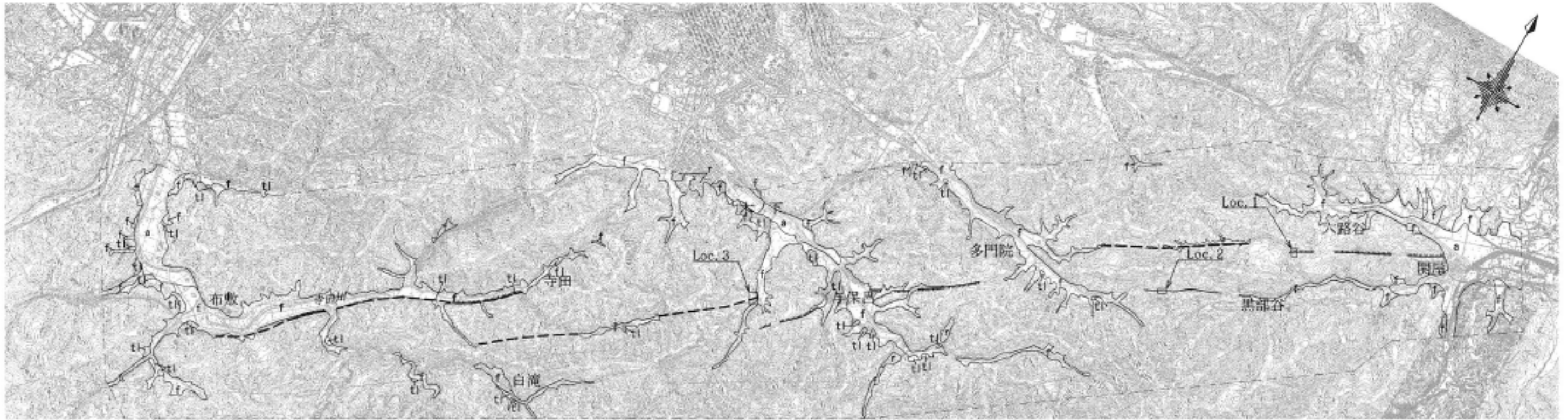


a) 北丹後地震の発生から1年間の地震活動。
(気象庁の地震・火山月報(カタログ編)⁽¹⁵¹⁾を用いて作成)



b) 北丹後地震震源域の三角点の水平変位量分布 (坪井, 1930)
(宇佐美(2003)⁽¹⁵²⁾より引用)

第3. 2. 77図 北丹後地震の余震分布及び水平変位量分布



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」

1:50,000
0 500m 1000m

変動地形・リニアメントの凡例

—— Dランク
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

--- 主なリニアメント
岡田・東郷編(2000)™に記載されている断層組織地形を転記したもの

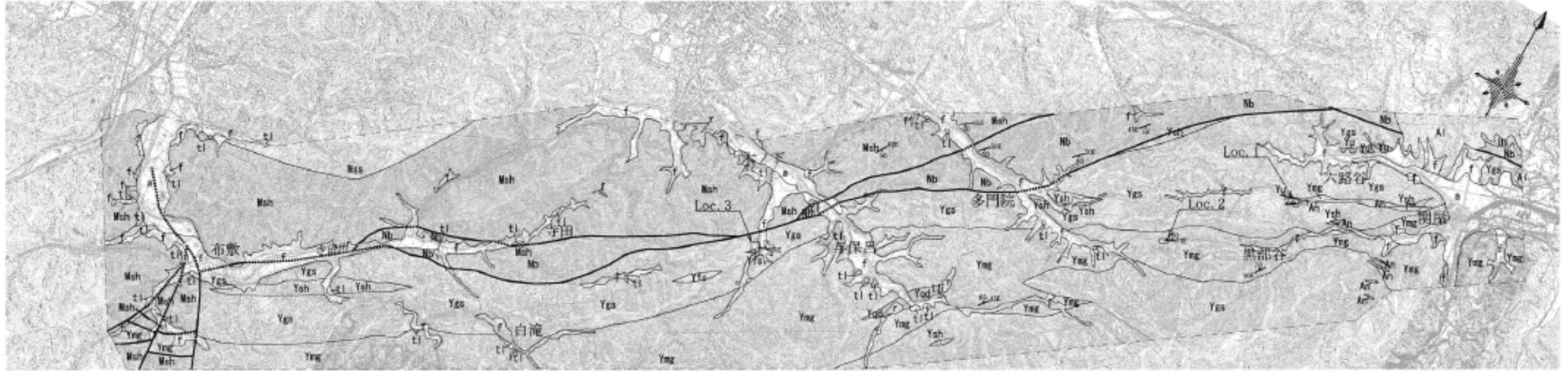
Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)

表示範囲

地形面の凡例

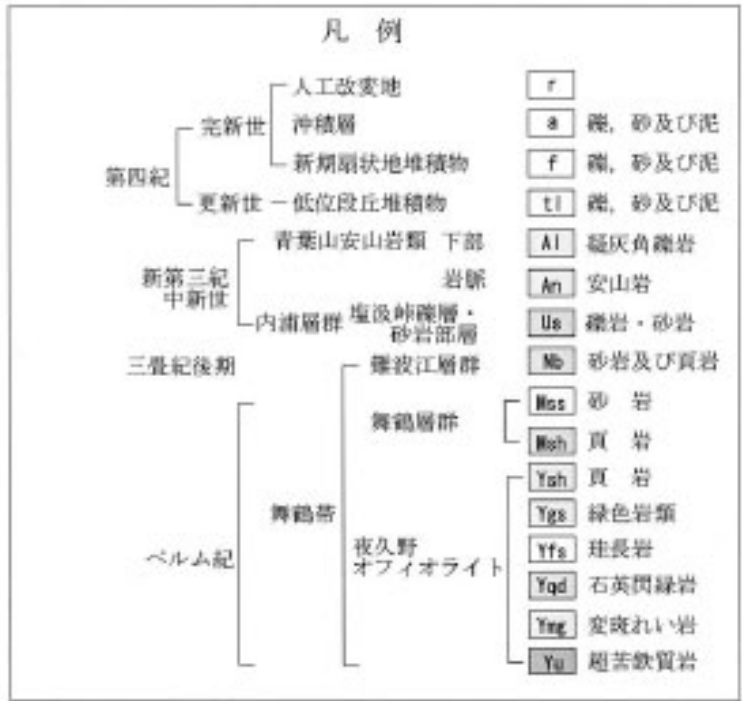
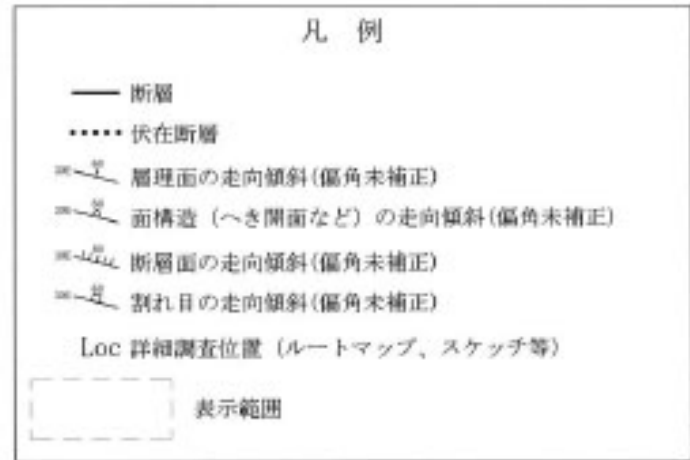
[tl] 低位段丘面
[f] 新期扇状地面
[a] 沖積面
[r] 人工改変地

第3.2.78図 多門院リニアメント周辺の地形調査結果



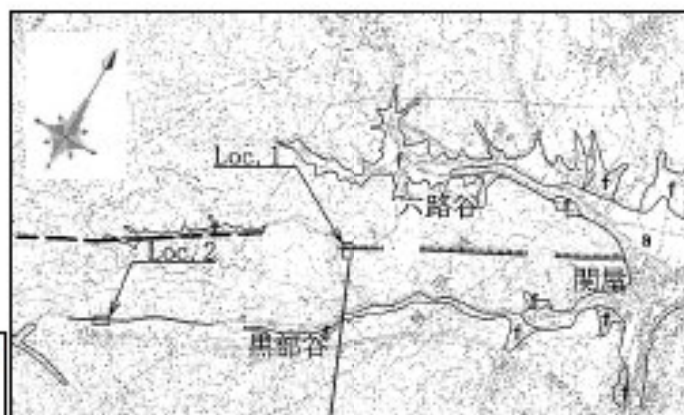
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」

1:50,000
0 500m 1000m



第3. 2. 79図 多門院リニアメント周辺の地質図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」

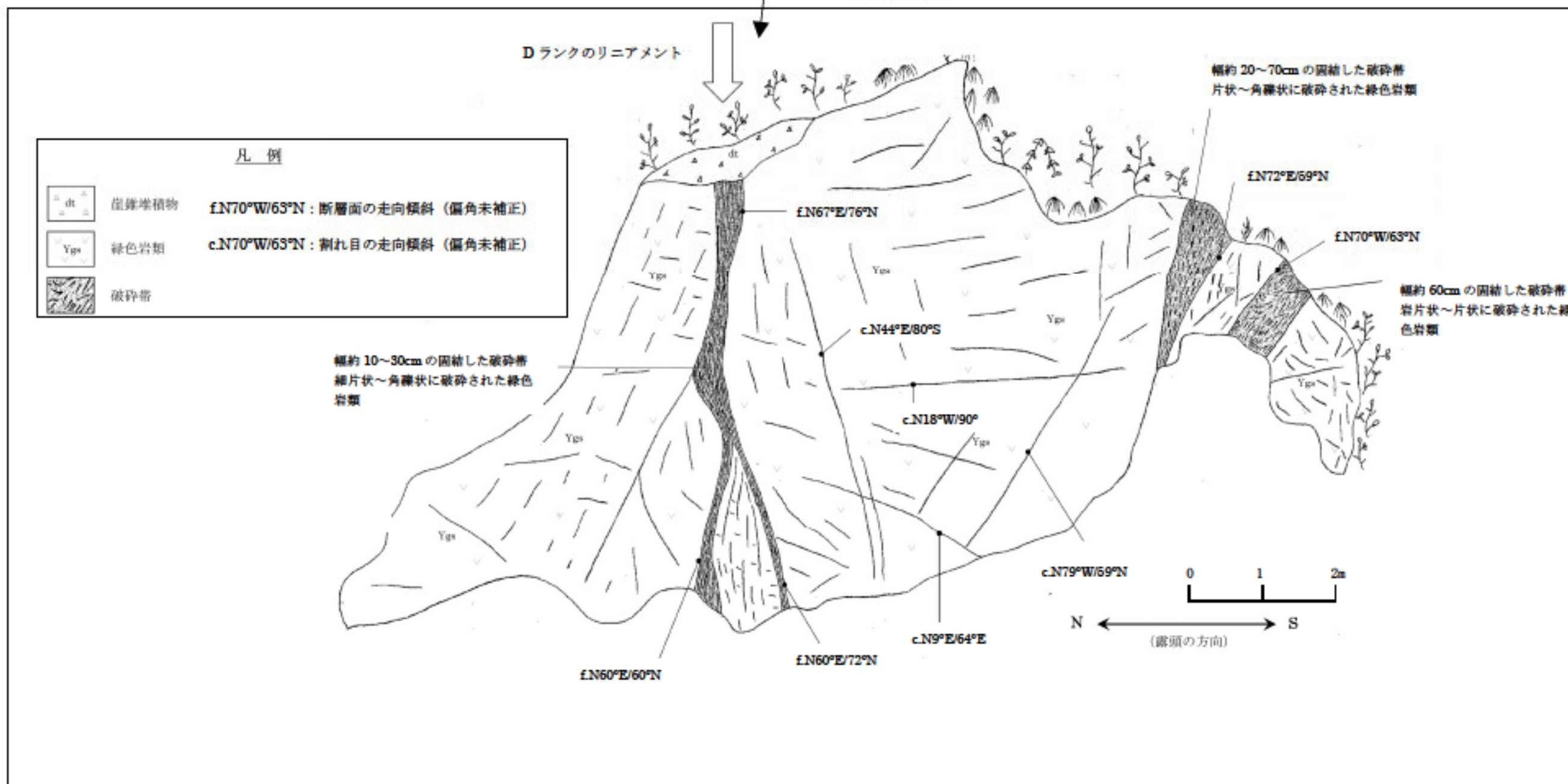


露頭位置図

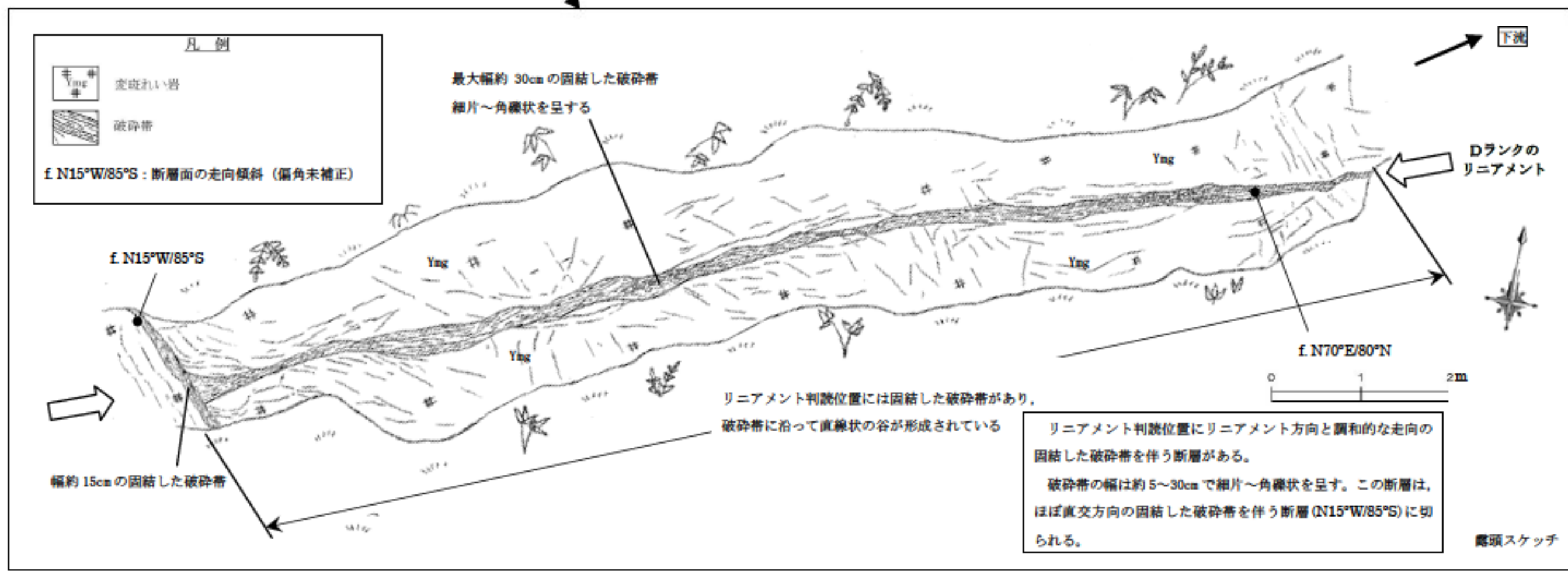
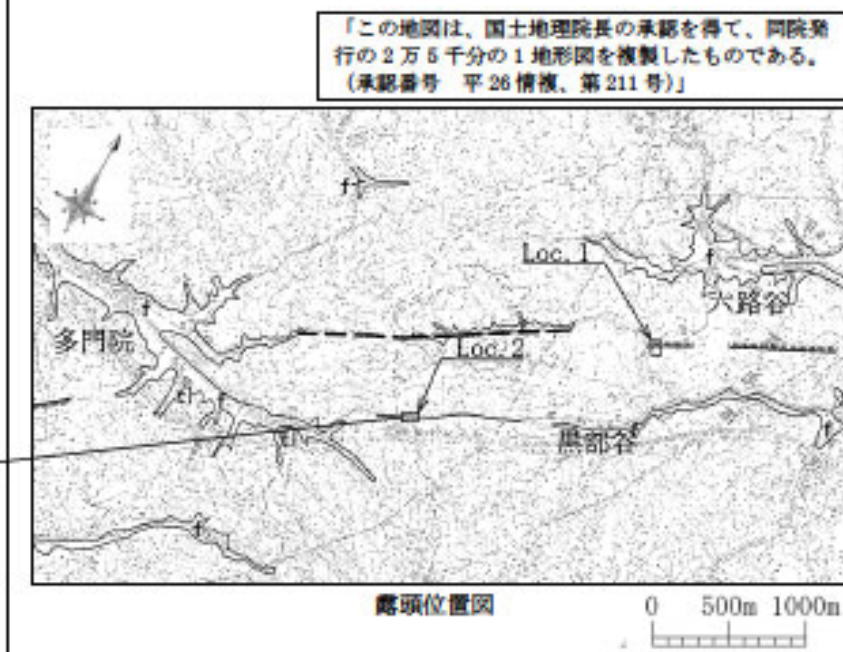
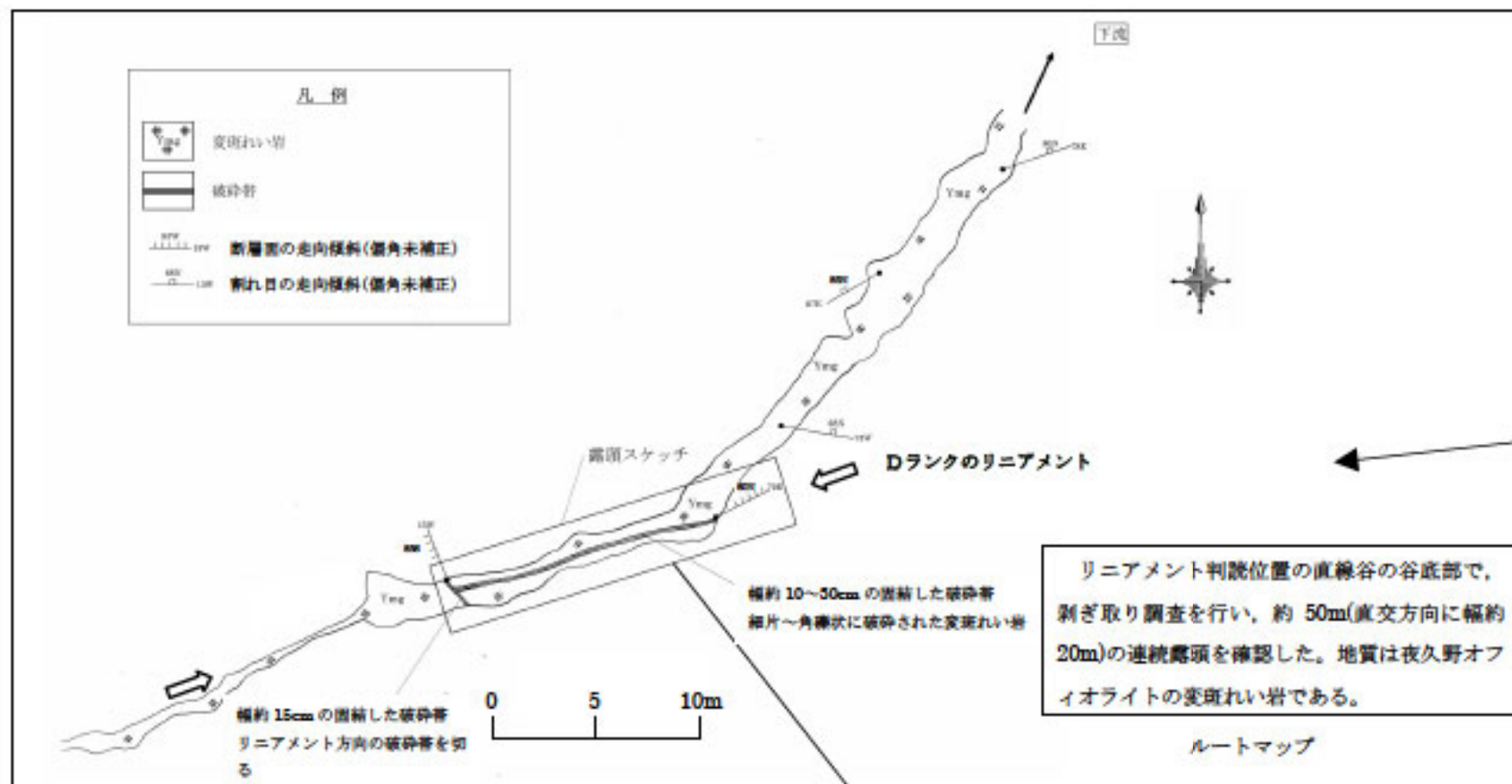
0 500m 1000m

リニアメント直交方向に長さ約 15mの緑色岩類の連続露頭を確認した。

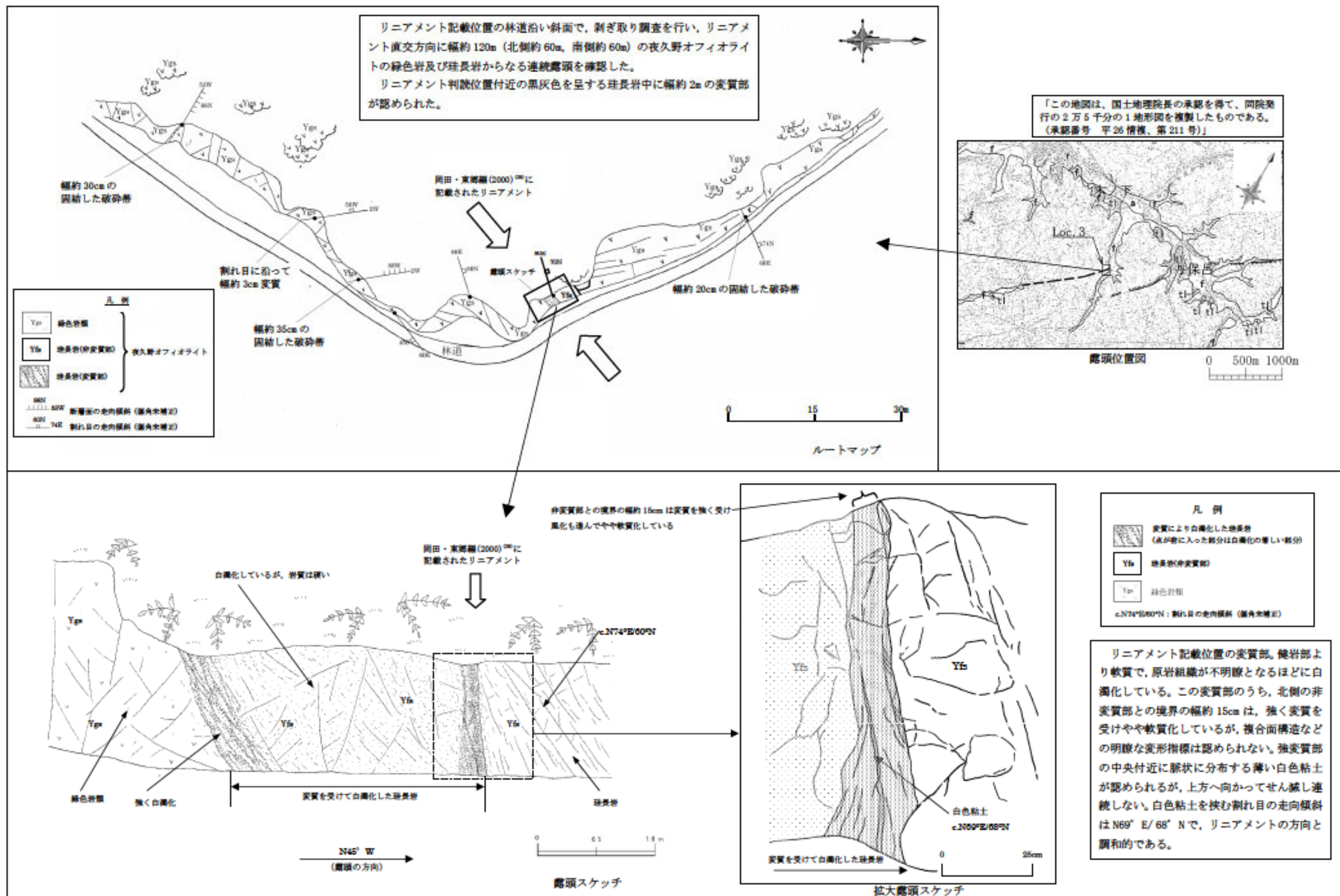
リニアメント判読位置にリニアメント(N60° E)方向と調和的な方向を示す断層 (N60° ~67° E/60° ~76° N) が認められ、破碎帯は固結している。他の2条の断層はE-W方向 (N72° E/59° N, N70° W/63° N) を示し、いずれの破碎帯も固結している。



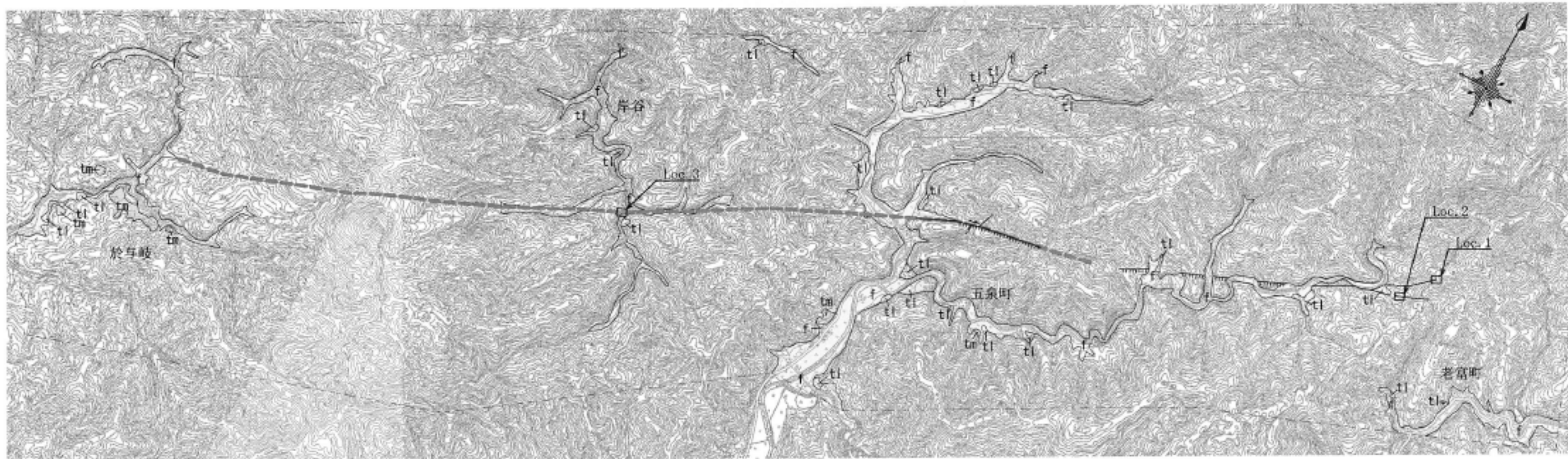
第 3.2.80 図 多門院リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 1)



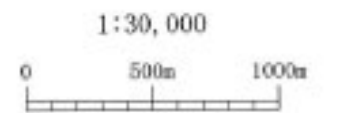
第 3. 2. 81 図 多門院リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc. 2)



第3.2.82図 多門院リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc. 3)



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」



変動地形・リニアメントの凡例

— Dランク
短線は低い側を示す。矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

— 主なリニアメント
岡田・東郷編(2000)に記載されている断層組織地形を転記したもの

谷の屈曲

Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)

表示範囲

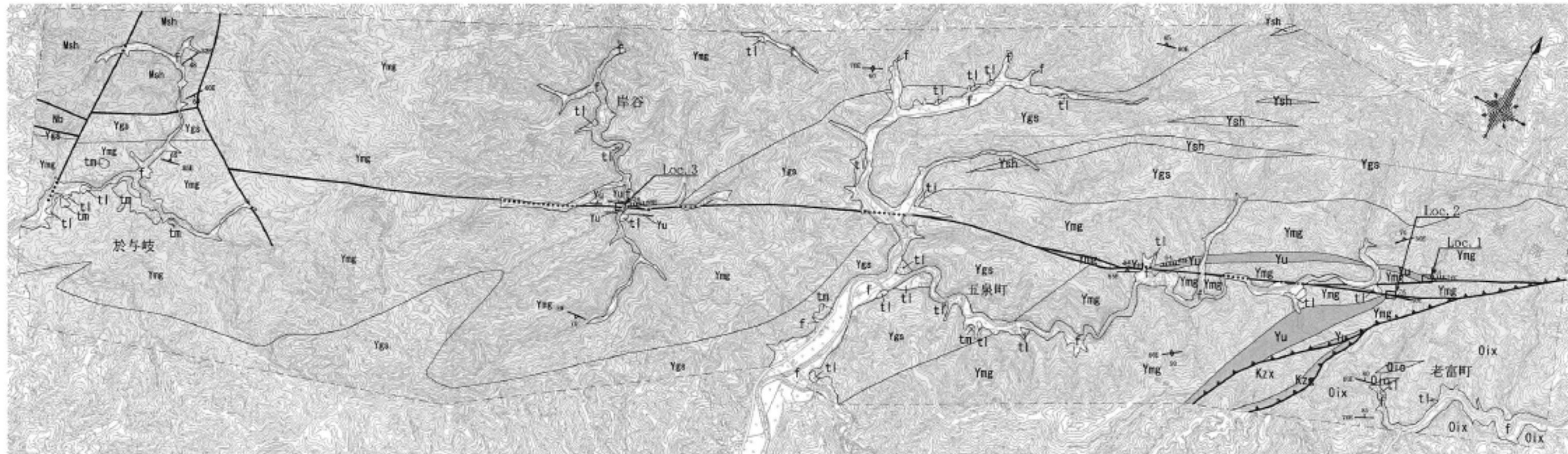
地形面の凡例

tn 中位段丘面

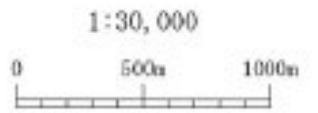
tl 低位段丘面

f 新期扇状地面

第3.2.83図 岸谷リニアメント周辺の地形調査結果



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」



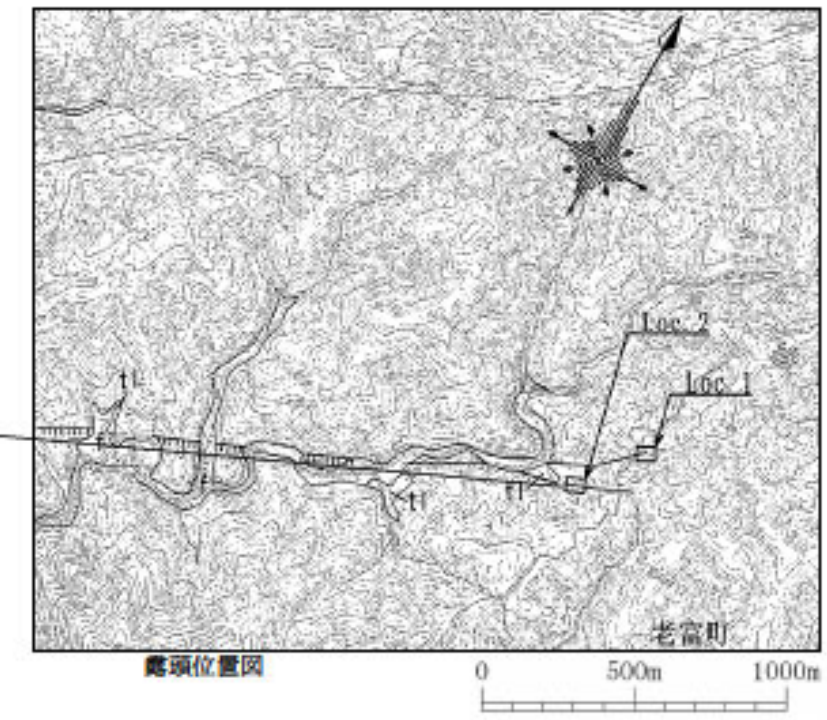
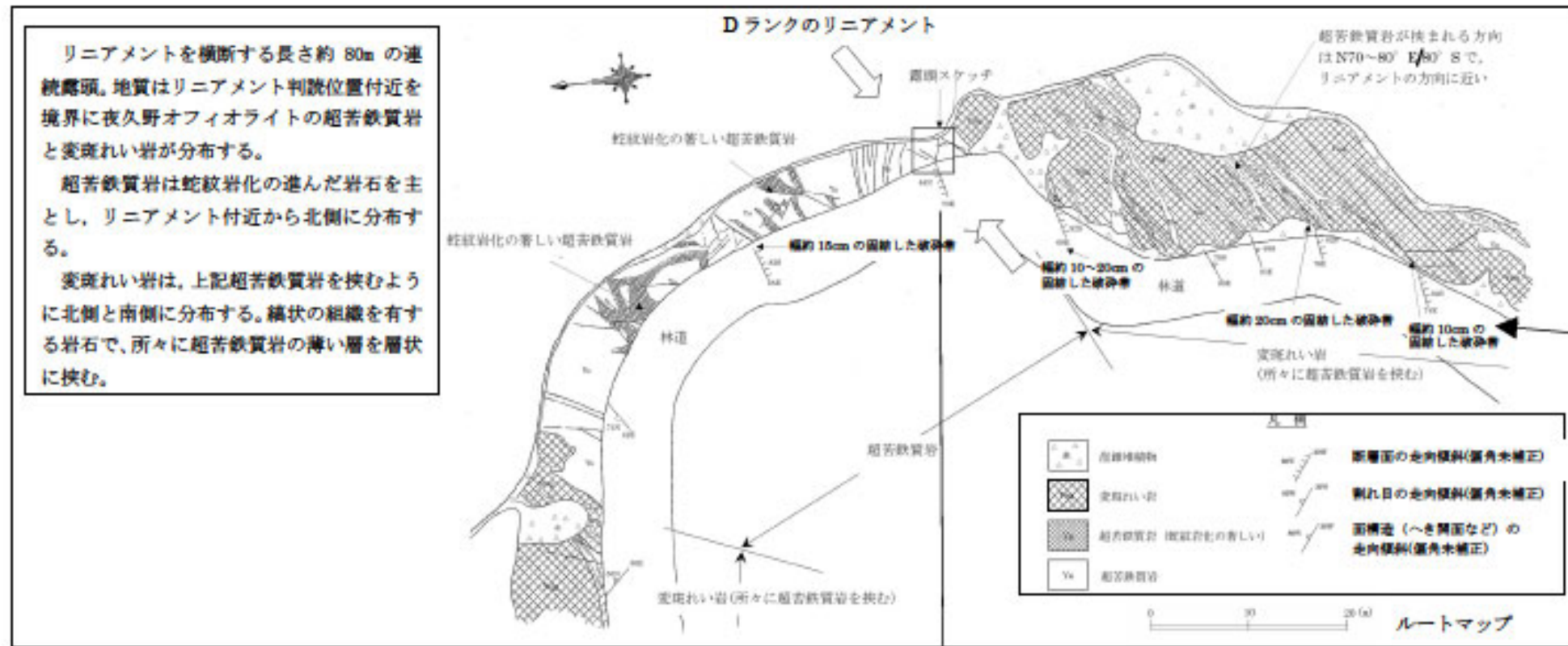
凡例

- 断層
- 伏在断層
- ▲ 地質体・コンプレックスの境界
- ↘ 面構造（へき開面など）の走向傾斜（偏角未補正）
- ↘ 断層面の走向傾斜（偏角未補正）
- Loc 詳細調査位置（ルートマップ、スケッチ等）
- 表示範囲

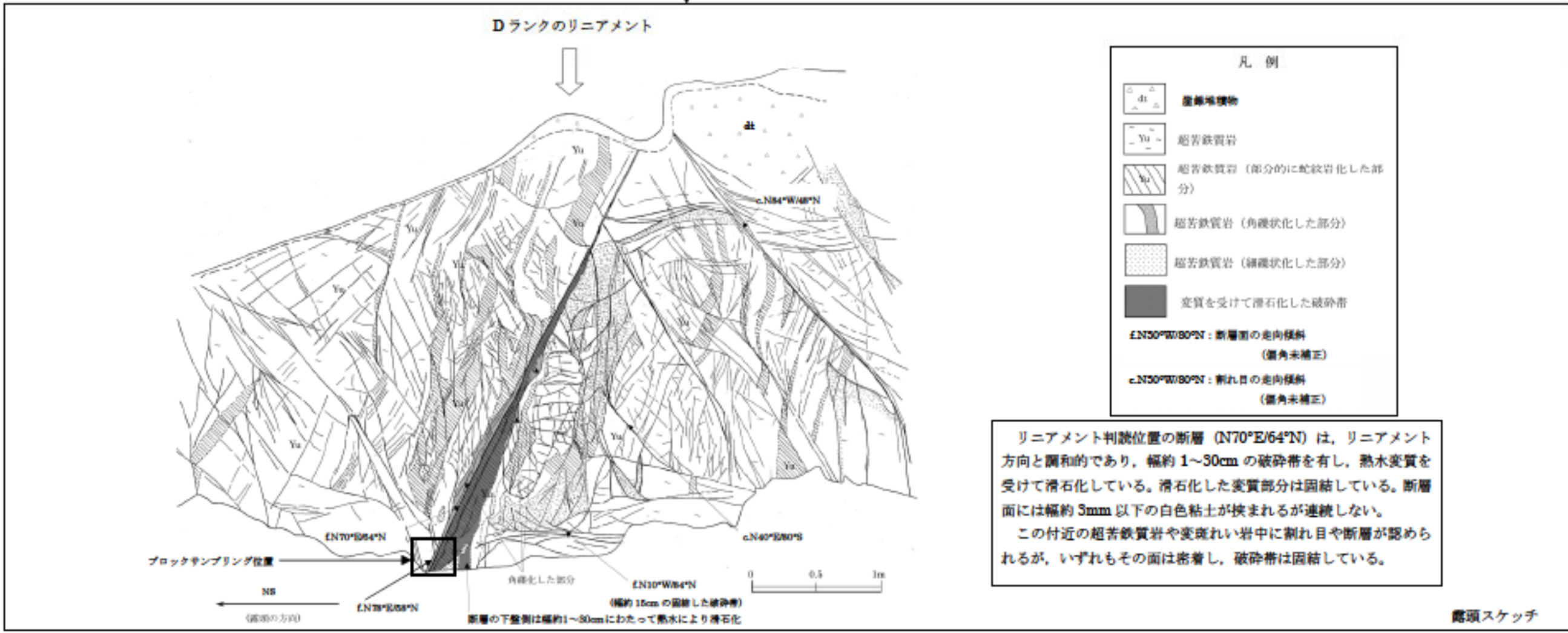
凡例

第四紀	完新世	新期扇状地堆積物	f	礫、砂及び泥
	更新世	低位段丘堆積物	tl	礫、砂及び泥
		中位段丘堆積物	tm	礫、砂及び泥
ペルム紀 中～後期	超丹波帯	上月層	Kzx	泥質混在岩及び頁岩（砂岩、チャートを伴う）
		大飯層	Kzg	緑色岩類（チャートを伴う）
三疊紀後期	舞鶴層群		Oix	頁岩（砂岩・チャートを伴う）
			Oio	チャート
ペルム紀 舞鶴帯	舞鶴層群		Ni	砂岩及び頁岩
			Msh	頁岩
	夜久野 オフィオライト		Ysh	頁岩
			Ygs	緑色岩類
	Yng	変斑れい岩		
		Yu	超苦鉄質岩	

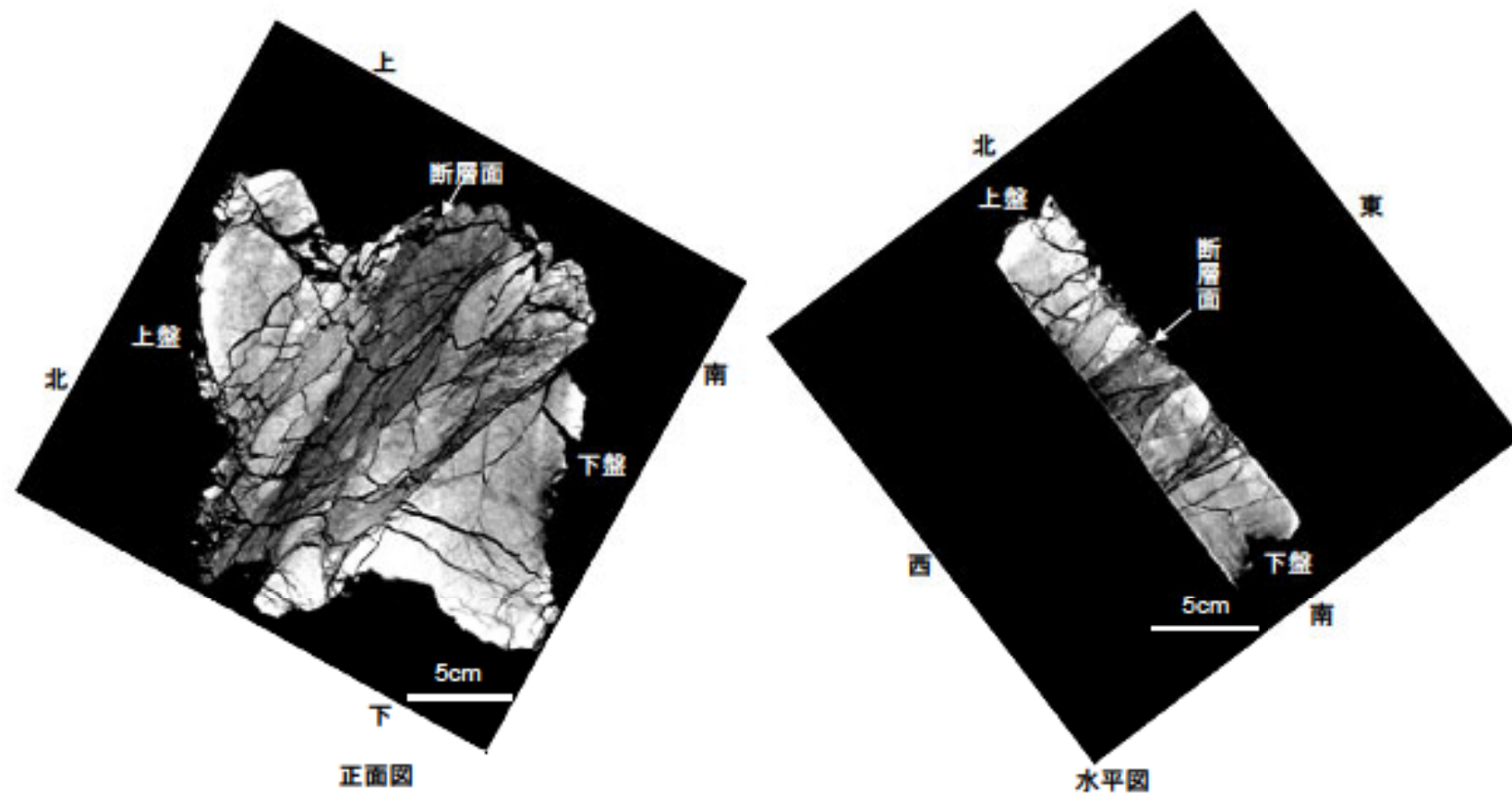
第3.2.84図 岸谷リニアメント周辺の地質図



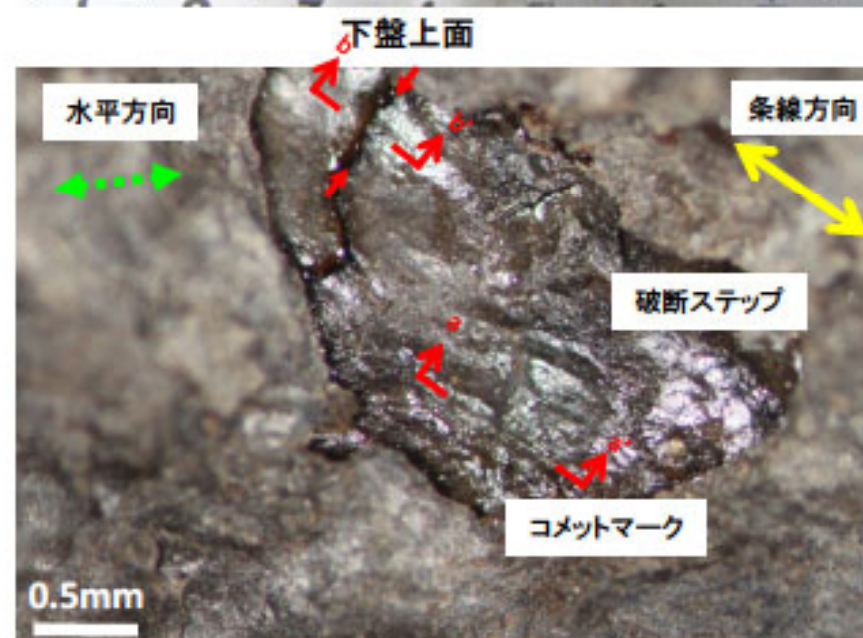
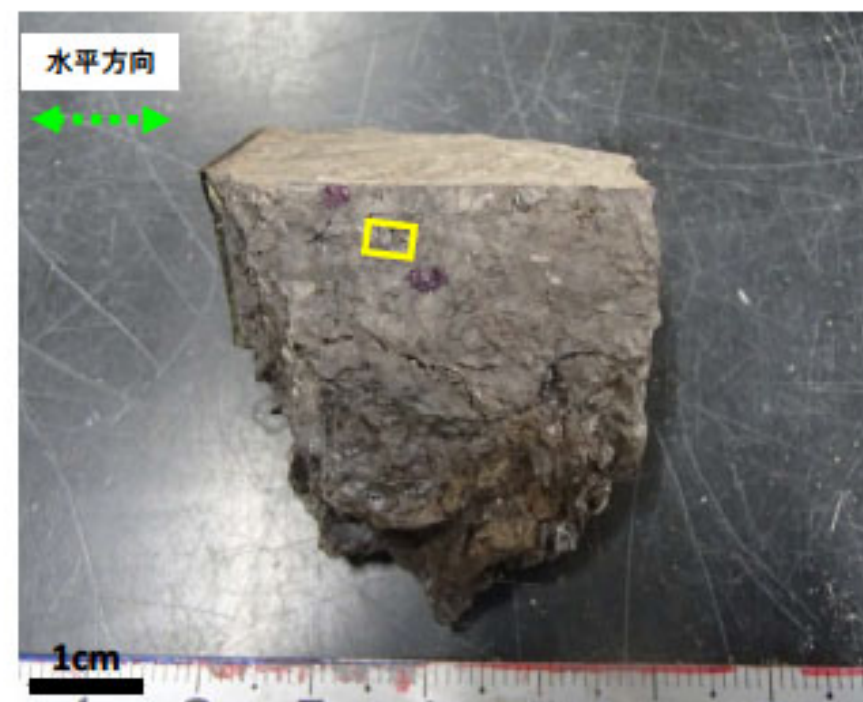
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院長の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」



第 3.2.85 図 岸谷リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc. 1)



※正面図は研磨片の方向と合わせて露頭側から露頭奥側に向けて、
水平図は上方から下方に向けて撮影。



断層面の状況

左横ずれ正断層

断層の走向傾斜: N70E/64N
 縦ずれ成分: 正断層, 横ずれ成分: 不明
 断層面はブロック中央部に認められる。
 断層面に沿って幅 1cm 程度の低密度部が認められる。

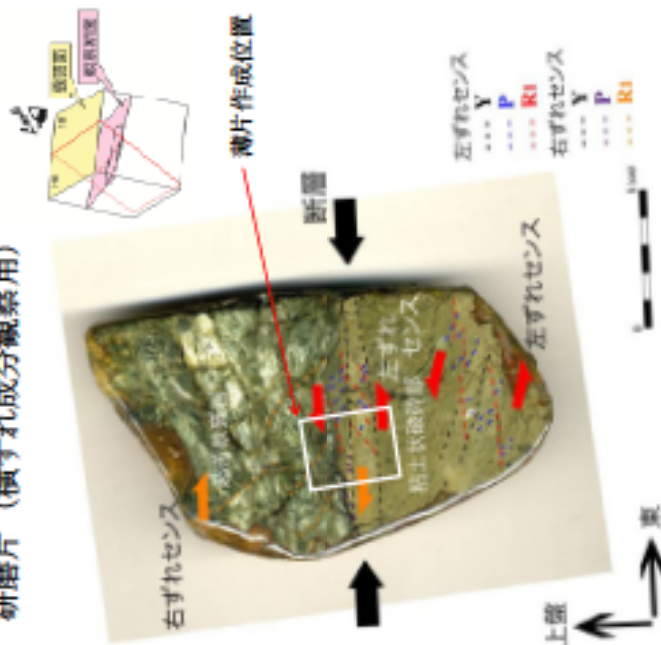
・条線観察の結果、条線のレイクは 42° R であり、運動センスは左横ずれ正断層である。
 ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

第 3.2.86 図 岸谷リニアメント 条線観察結果 (Loc. 1)



せん断センスを示す複合面構造 (狩野・村田、1998⁽¹⁴⁾)

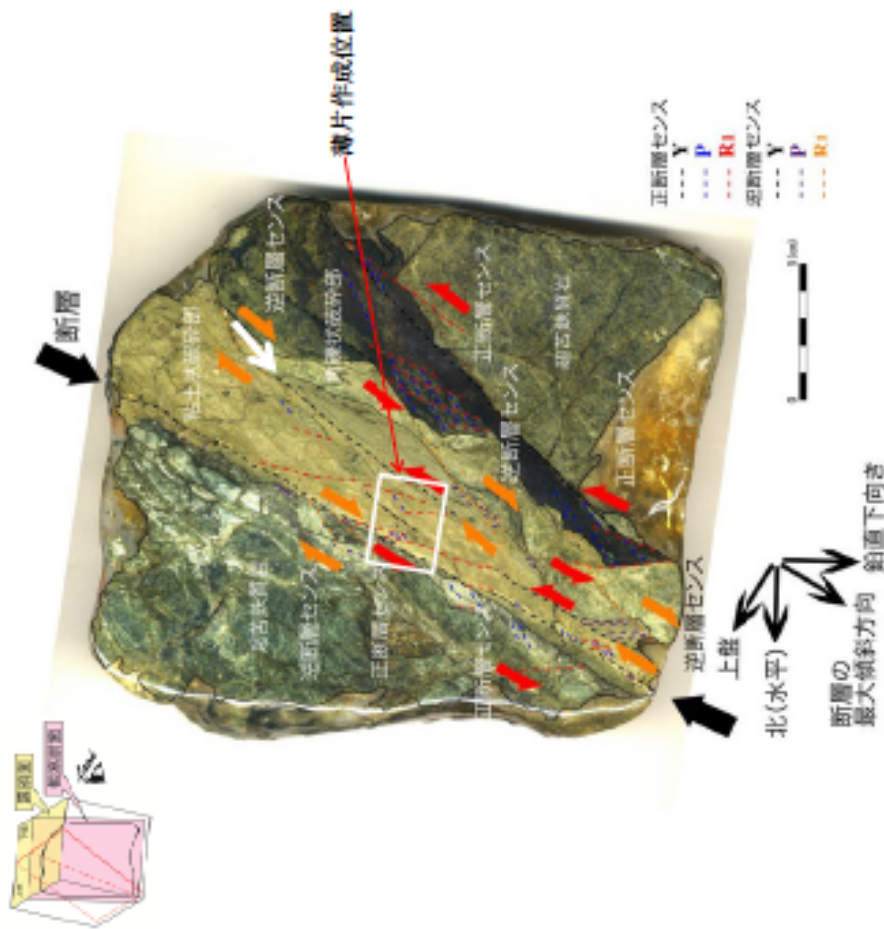
研磨片 (横ずれ成分観察用)



研磨片観察結果 (横ずれ成分)

- ・超古巻質岩を原岩とする角礫状破砕部及び粘土状破砕部からなる。
- ・最新活動面 (Y面) 直近では左ずれセンスの変形組織が連続的に認められる。
- ・最新活動面付近及びその外側の領域では右ずれセンスの変形組織が点在している。

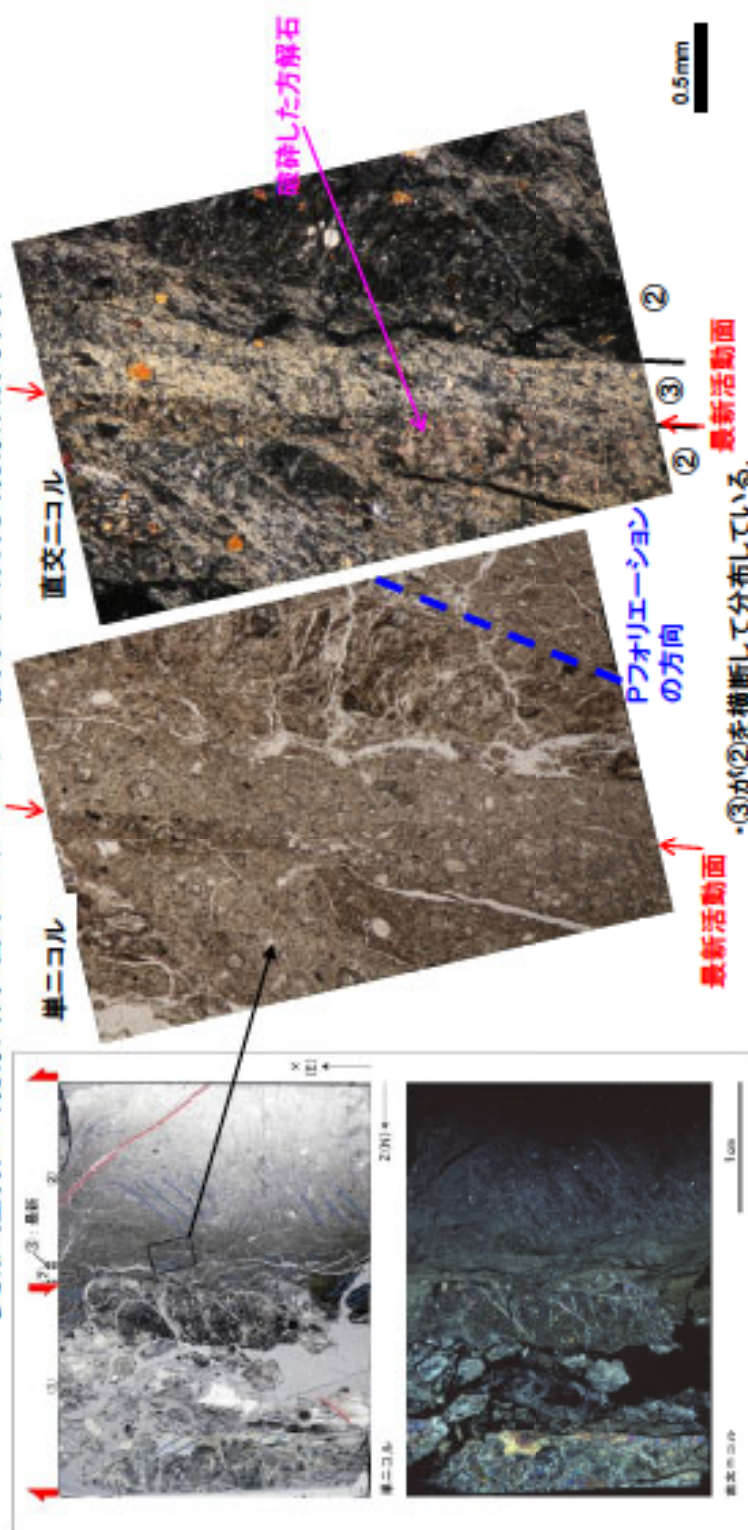
研磨片 (縦ずれ成分観察用)



研磨片観察結果 (縦ずれ成分)

- ・超古巻質岩を原岩とする角礫状破砕部及び粘土状破砕部からなる。
- ・最新活動面 (Y面) 直近では正断層センスの変形組織が連続的に認められる。
- ・最新活動面付近及びその外側の領域では逆断層センスの変形組織が点在している。

変形組織の観察(岸谷リニアメント 横ずれ成分観察用薄片)

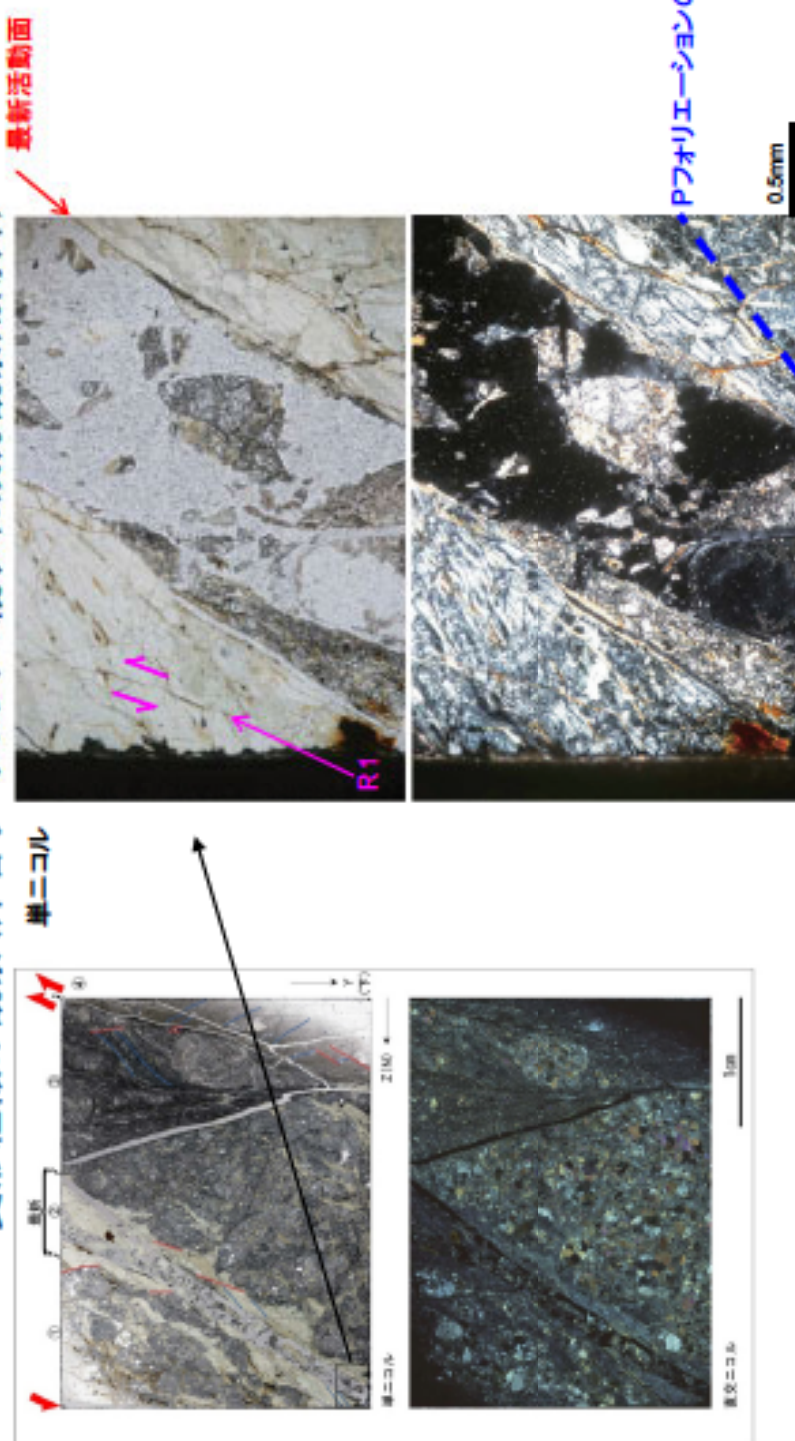


- ・③が②を横断して分布している。
- ・破砕した方解石が認められる。
- ・②と③に左横ずれ成分を示すPフォリエーションが認められる。

薄片観察結果 (横ずれ成分)

- ・分帯：①中～粗粒カタクレーサイト (②直近で、一部に粘土状凝砕部が認められる)、②砂礫混じり粘土状凝砕部、③粘土状凝砕部 (最新)
- ・分帯は凝砕度とY面、凝砕構造に基づく。
- ・①中の粘土状凝砕部は②に切られフラグメント化している。
- ・①のカタクレーサイト・粘土状凝砕部は樹枝状に成長した方解石脈により横断されており、②と③は方解石脈に横断されず方解石脈を破砕している。
- ・③が②を横断して分布していることから、③が最新であることがわかる。
- ・①では右横ずれ成分を示すR1面とPフォリエーションが認められる。
- ・②と③に左横ずれ成分を示すR1面やPフォリエーションが認められる。
- ・以上のことから、断層活動は右横ずれ成分から左横ずれ成分に反転した可能性がある。

変形組織の観察(岸谷リニアメント 縦ずれ成分観察用薄片)

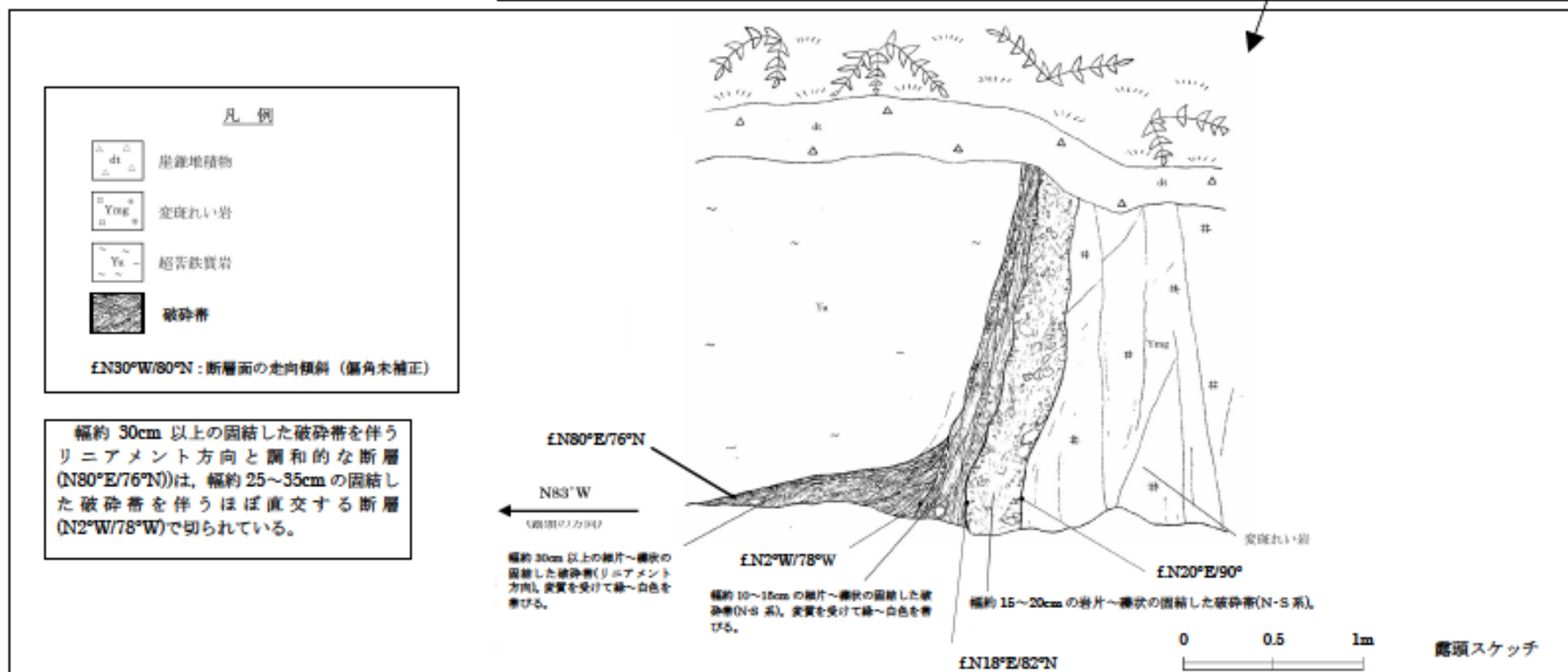
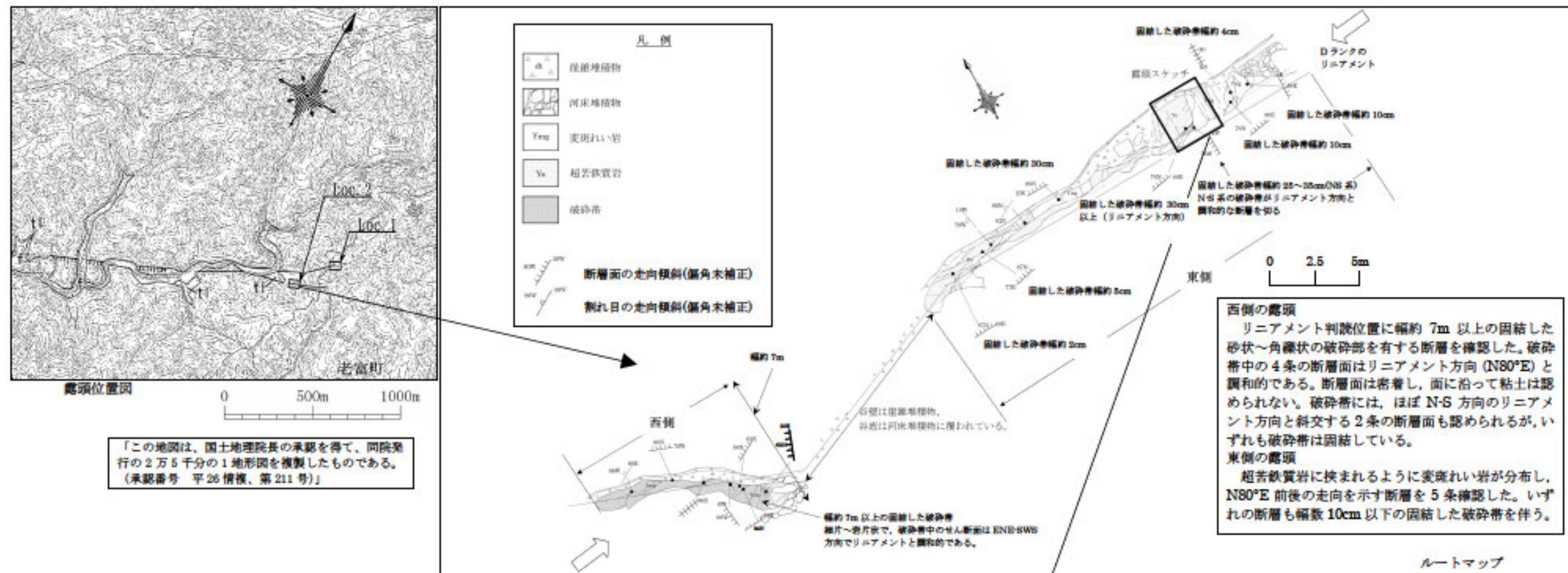


岸谷リニアメント
縦ずれ成分観察用薄片

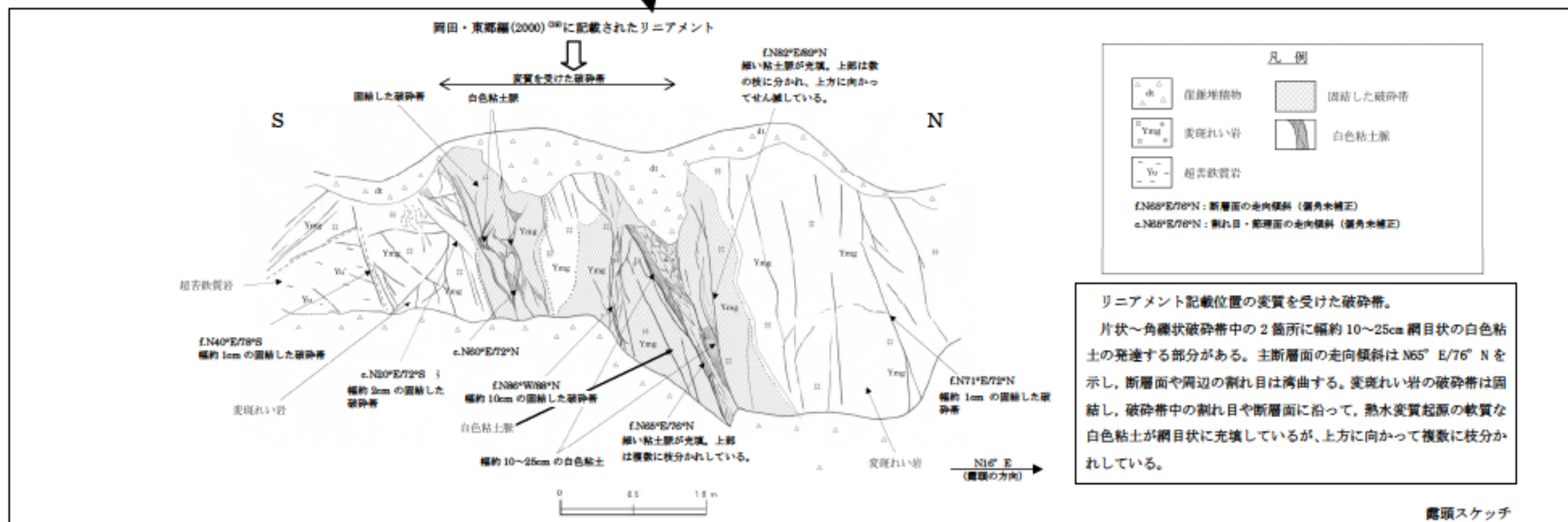
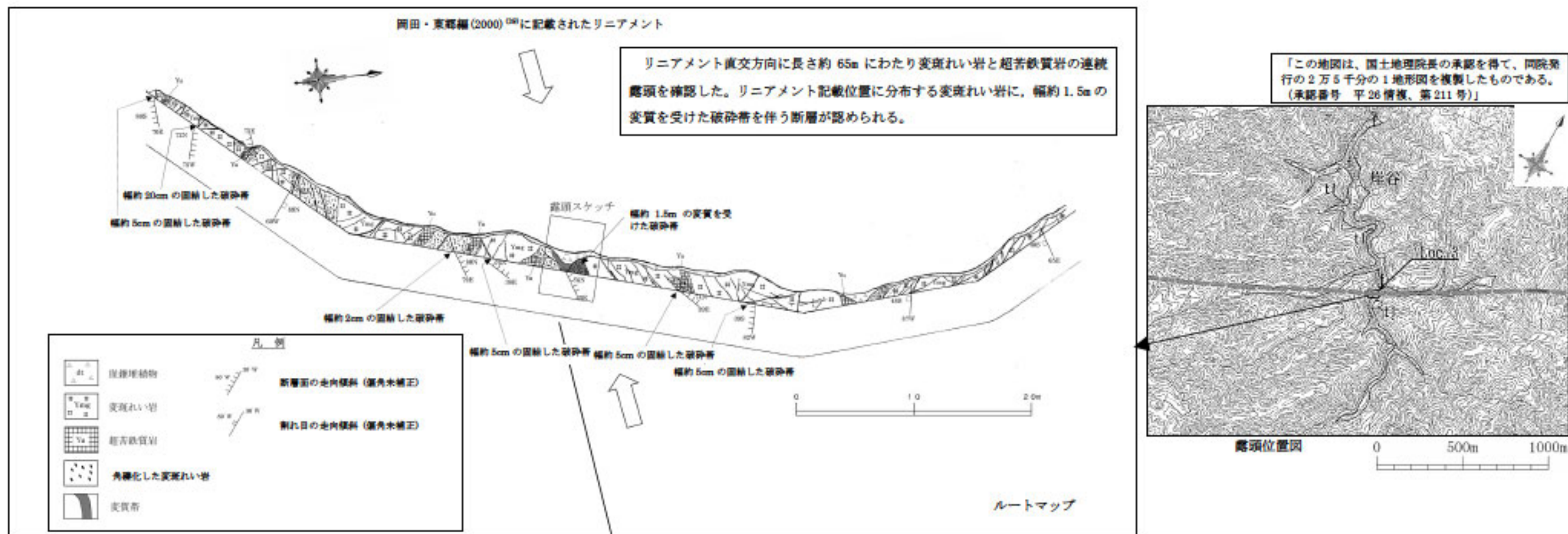
・最新活動面は②中に分布する。
・②中に正断層成分を示すR1面やPフォリエーションが認められる。

薄片観察結果(縦ずれ成分)

- ・分帯：①粗粒カタクレーサイト、②粘土状破砕部(最新、基質に蛇紋石を含む)、③中粒カタクレーサイト(フラグメント濃集部)、④砂礫混じり粘土状破砕部
- ・分帯は破砕度とY面、テクスチャーによる。
- ・最新活動面は②中に分布する。
- ・②の外側に位置する④は、連続性のないY面(縦ずれ成分観察用研磨片で確認；白矢印)に沿う。さらに④は、横ずれ成分観察用薄片の②(砂礫混じり粘土状破砕部)に相当する。横ずれ成分観察用薄片で砂礫混じり粘土状破砕部は粘土状破砕部(最新)に横断される。
- ・②と④に正断層成分を示すR1面やPフォリエーションが認められる。
- ・④に逆断層成分を示すR1面やPフォリエーションが認められる。
- ・以上のことから、断層活動は逆断層成分から正断層成分に反転した可能性がある。



第 3.2.88 図 岸谷リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc. 2) 6-3-313



第 3.2.89 図 岸谷リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc. 3)



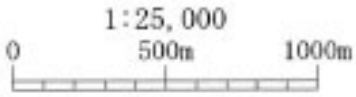
地形面の凡例

tn	中位段丘面
tl	低位段丘面
f	新期扇状地面
dt	崖錐面
a	沖積面
r	人工改変地

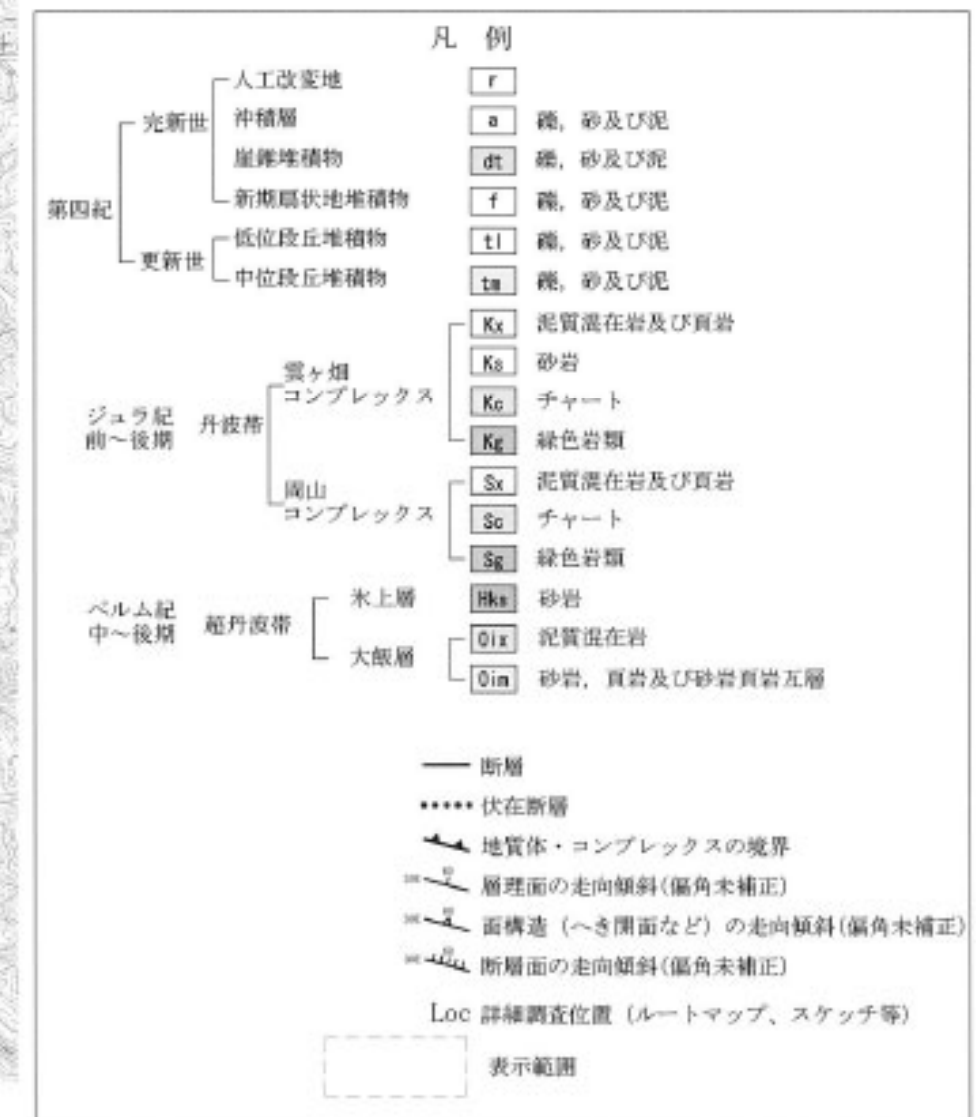
変動地形・リニアメントの凡例

	Dランク
短線は低い側を示す。矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。	
	谷の屈曲
I	リニアメント番号
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
	表示範囲

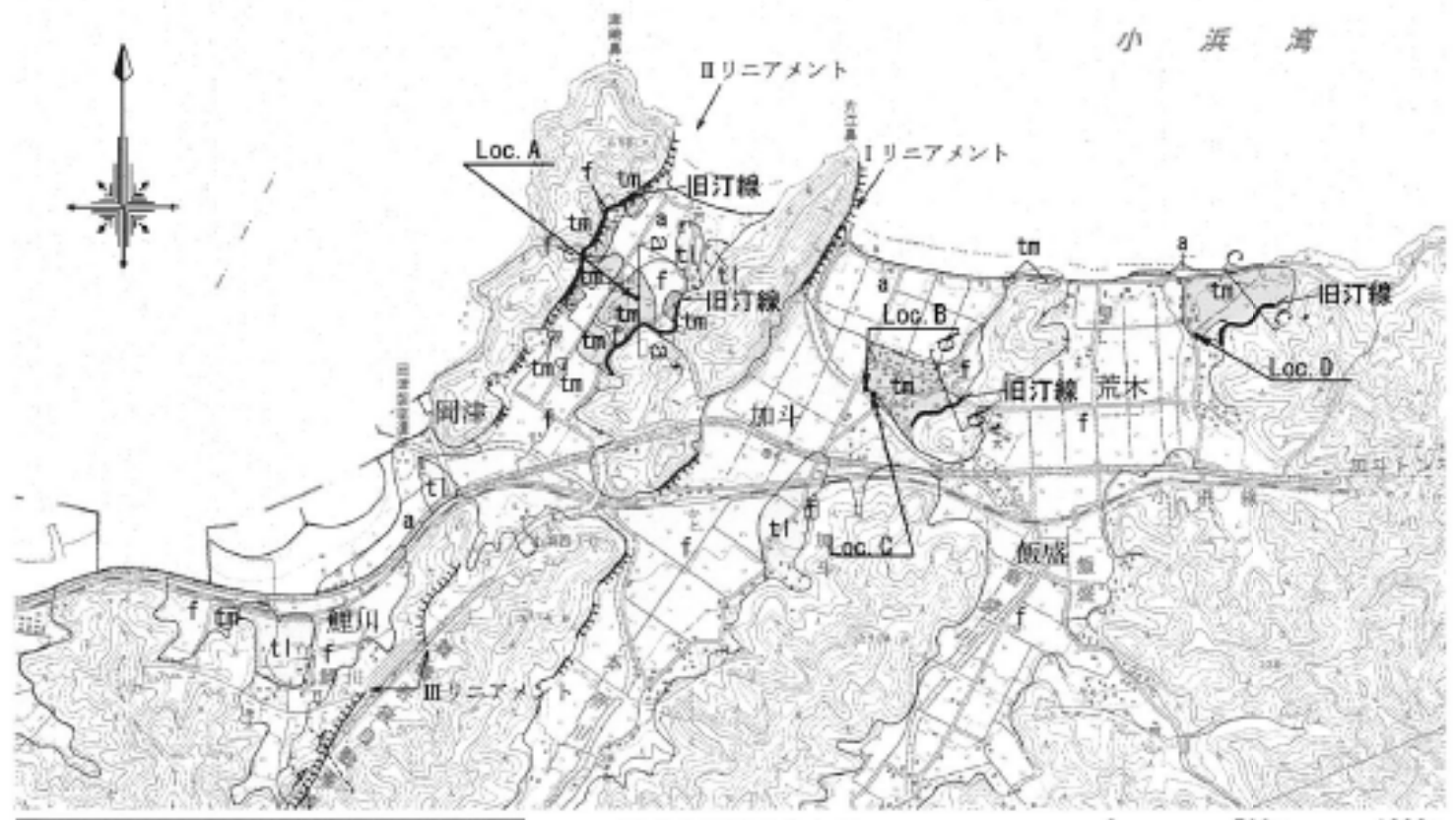
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情複、第211号)」



第3.2.90図 加斗リニアメント周辺の地形調査結果

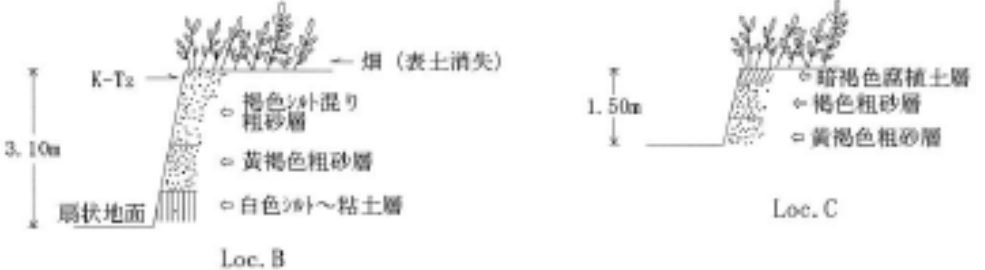
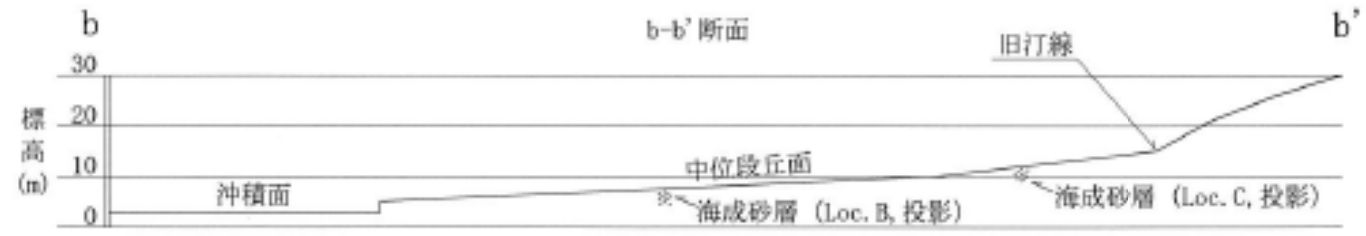
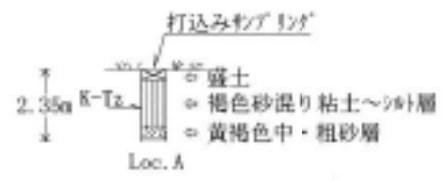
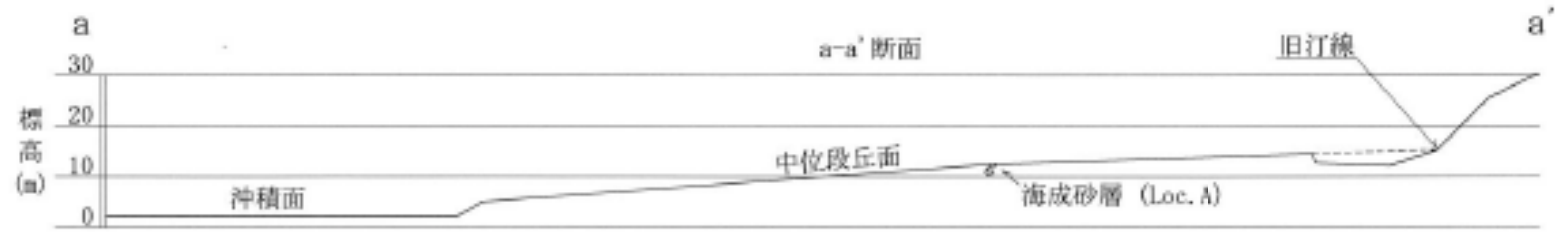
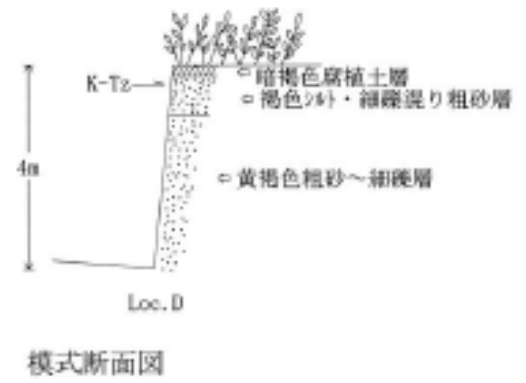
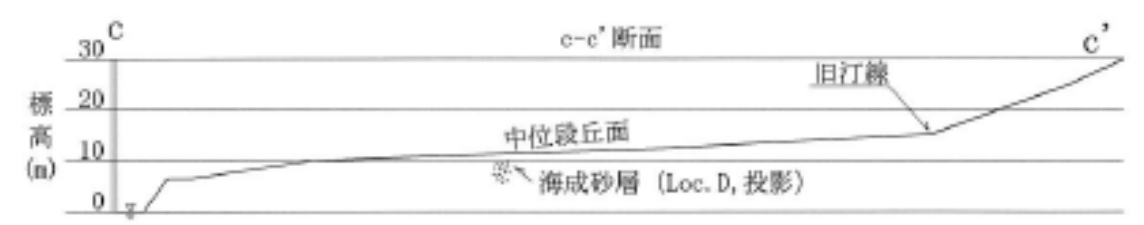


第3.2.91図 加斗リニアメント周辺の地質図



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情機、第211号)」

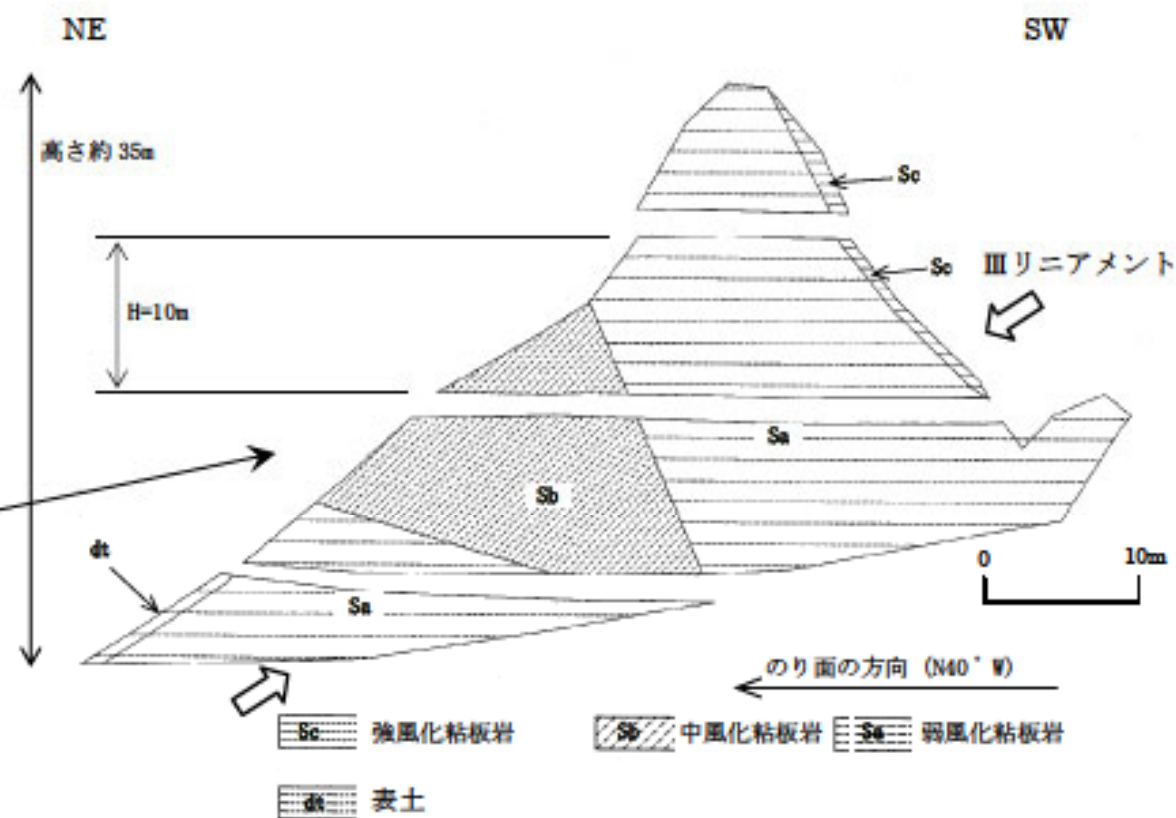
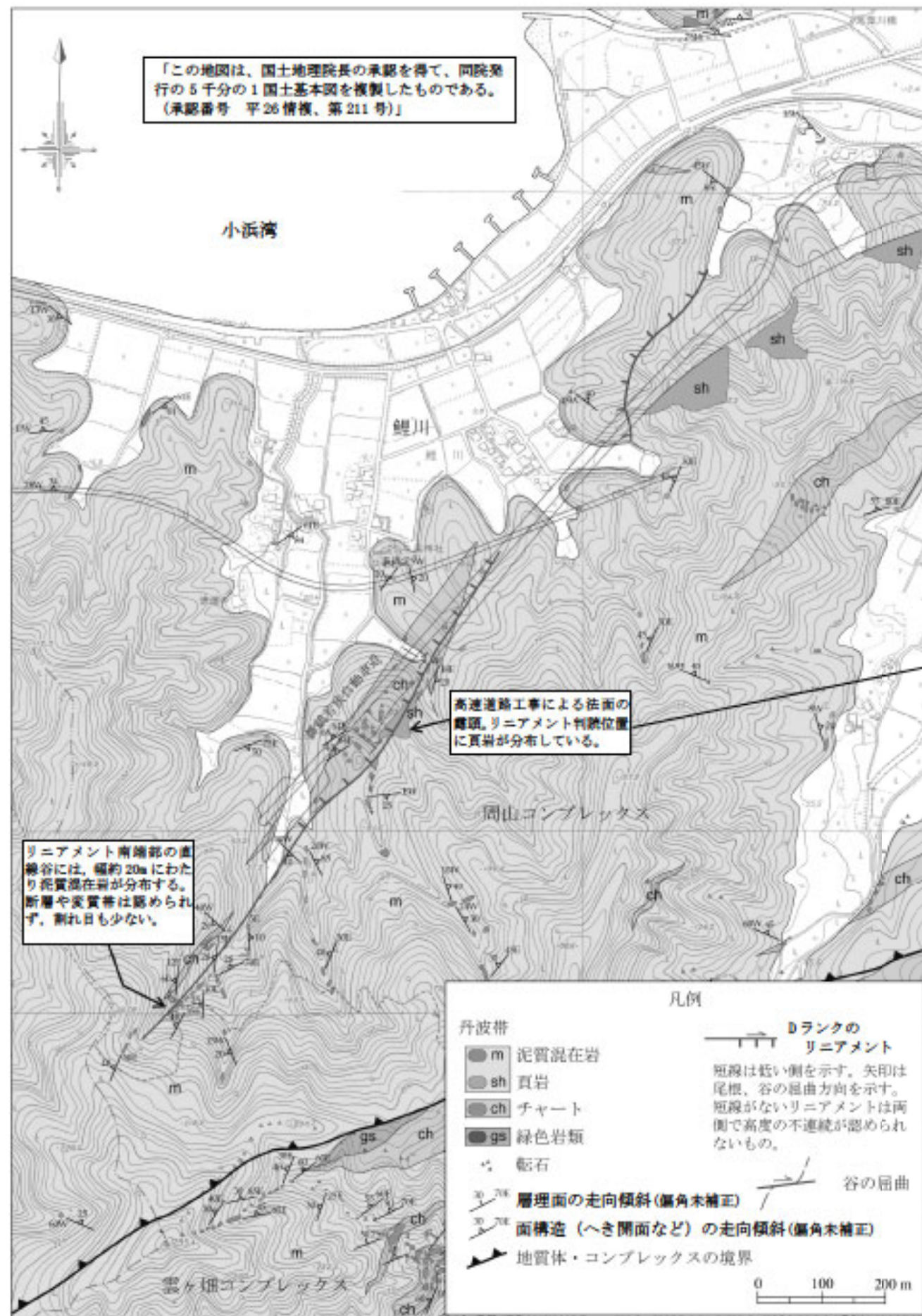
海成中位段丘分布図



- 凡例
- tn 中位段丘面
 - tl 低位段丘面
 - f 新期扇状地面
 - a 沖積面
 - Dランクのリニアメント
 - 短線は低い側を示す。矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
 - 〰 旧汀線
 - a-a' 断面線
 - Loc. A 海成段丘堆積物確認位置
 - K-Tz → K-Tz降灰層準 (火山灰分析結果)

Iリニアメント及びIIリニアメント付近に分布する海成中位段丘面の分布高度に有意な差は認められない。

第3.2.92図 加斗リニアメント周辺の海成中位段丘分布図

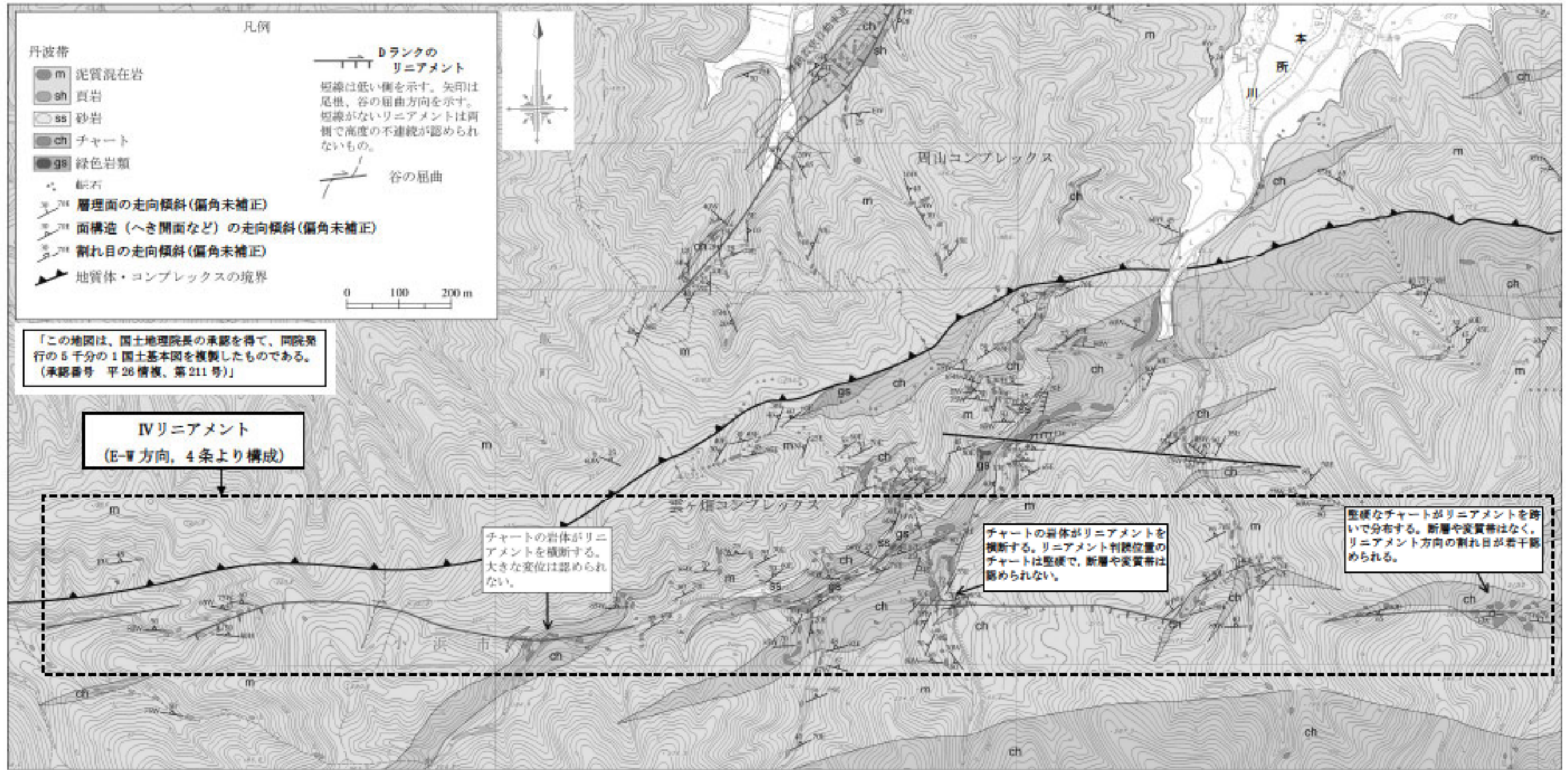


法面スケッチ

(西日本高速道路株式会社殿より提供頂いた舞鶴若狭自動車道工事記録に加筆)

IIIリニアメント沿いの鯉川南方において、2箇所の谷の右屈曲の間に位置する、リニアメント判読位置にある高速道路切土法面(長さ約70m)の施工記録によれば、北西向きの法面には一部やや風化を受けた頁岩が分布しているが、断層は記載されていない。

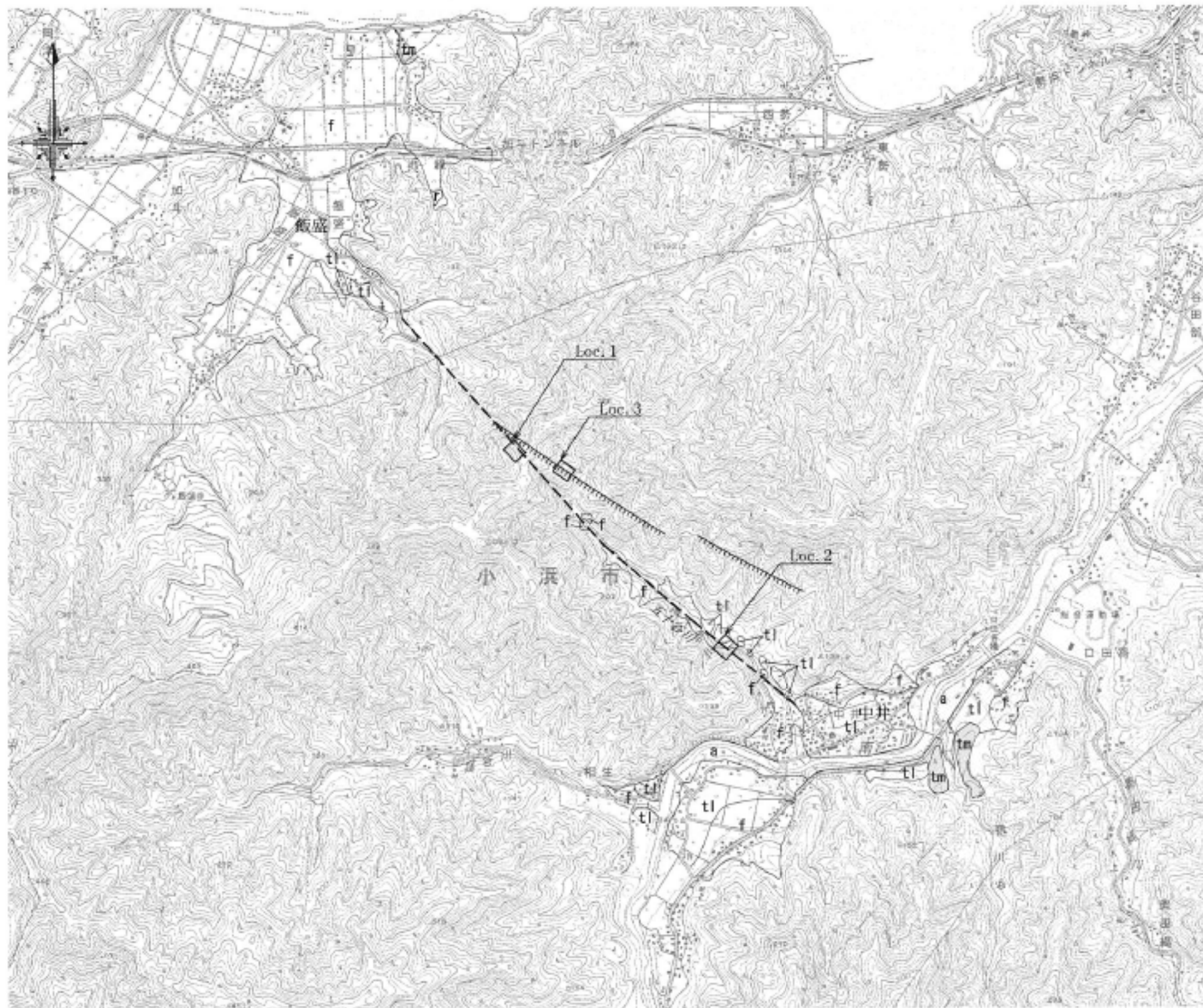
第3.2.93図 加斗リニアメント ルートマップ・法面スケッチ (IIIリニアメント)



IVリニアメント沿いの本所川上流地域では、丹波帯の泥質混在岩、チャート、緑色岩類、砂岩が分布する。

リニアメントを横断して分布するチャートには断層や変質帯は認められず、断層を示唆する変位はみられない。

第3.2.94図 加斗リニアメント ルートマップ (IVリニアメント)



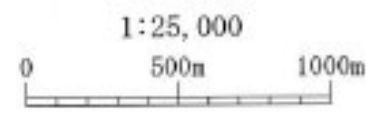
地形面の凡例

tm	中位段丘面
tl	低位段丘面
f	新期扇状地面
a	沖積面
r	人工改変地

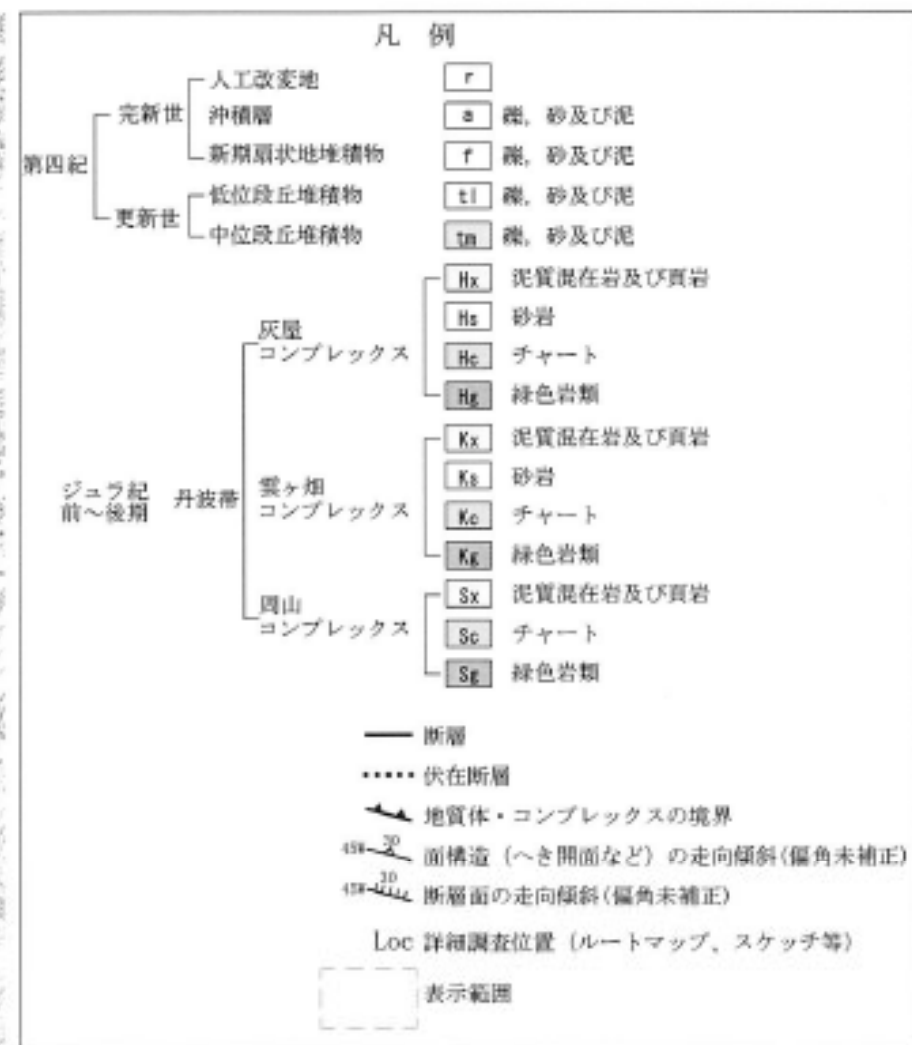
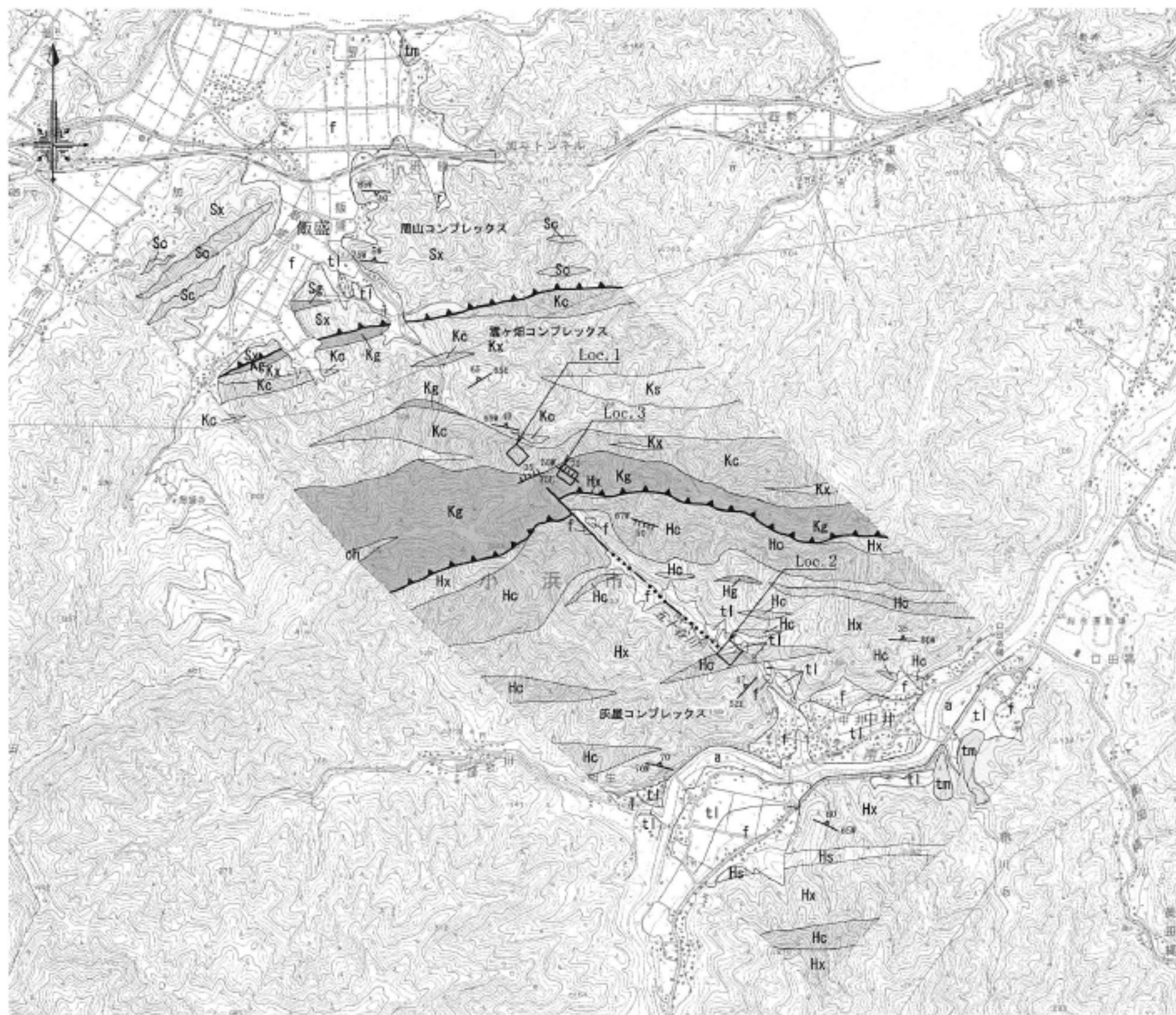
変動地形・リニアメントの凡例

.....	Dランク
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。	
---	主なリニアメント
岡田・東郷編(2000) ¹³⁾ に記載されている断層組織地形を転記したもの	
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
□	表示範囲

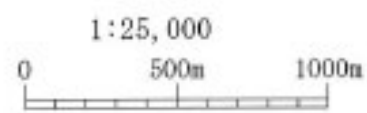
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」



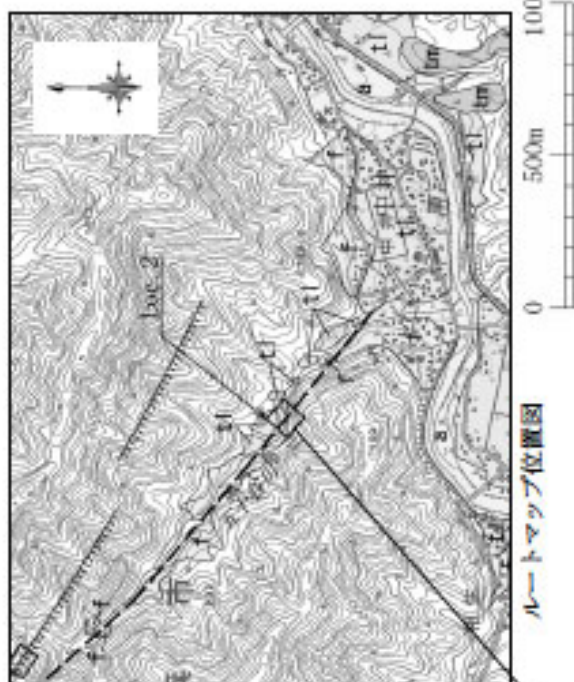
第3.2.95図 中井リニアメント周辺の地形調査結果



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平28情復、第211号）」

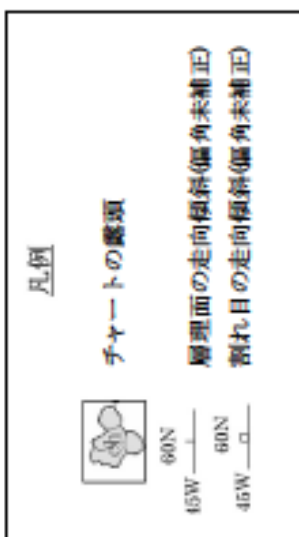


第3.2.96図 中井リニアメント周辺の地質図

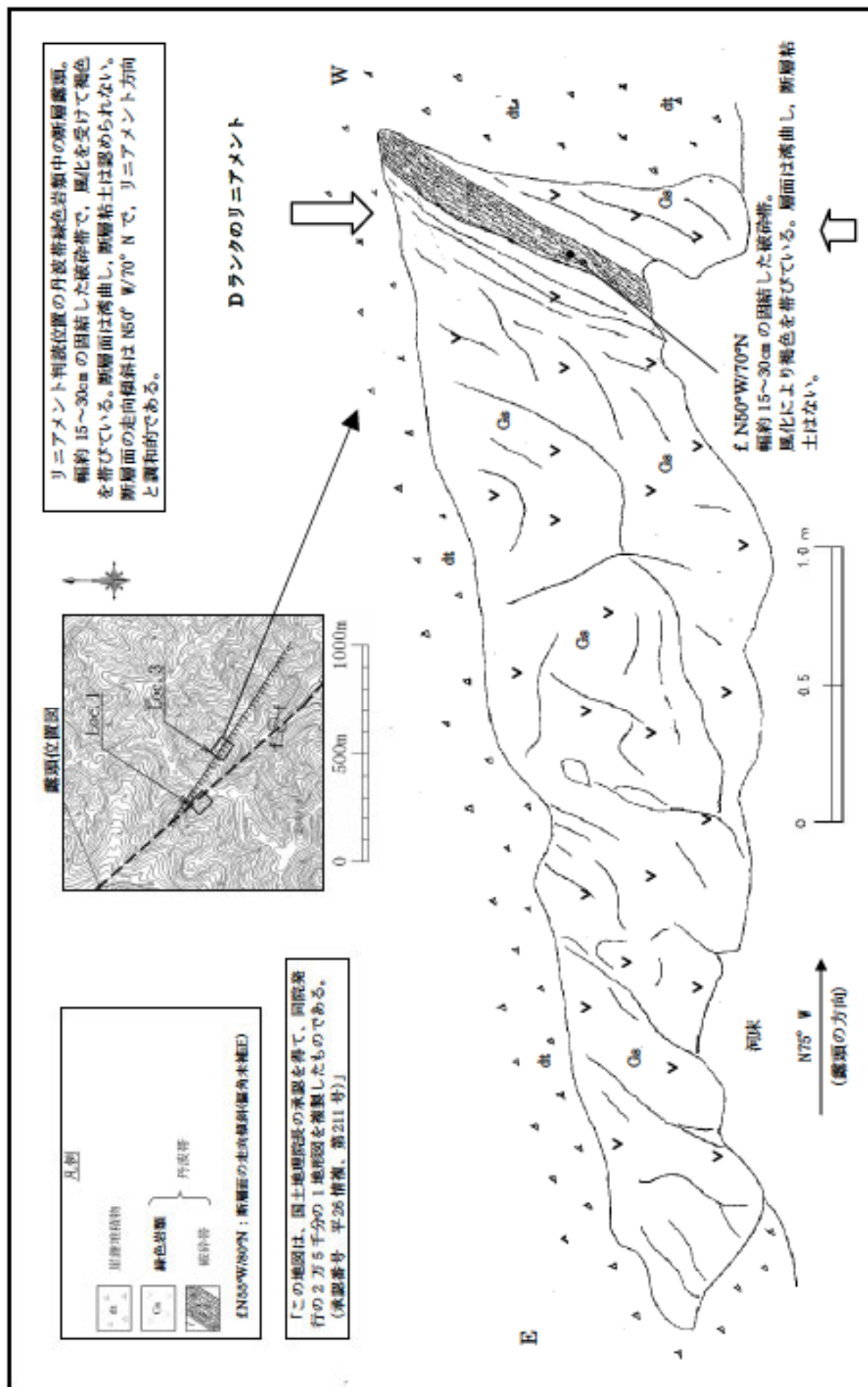


リニアメント直交方向に長さ約 55m のほぼ連続した露頭を確認した。河床にはチャートの露頭が密に分布し、断面は認められない。割れ目の方向とリニアメントの方向は一致しない。

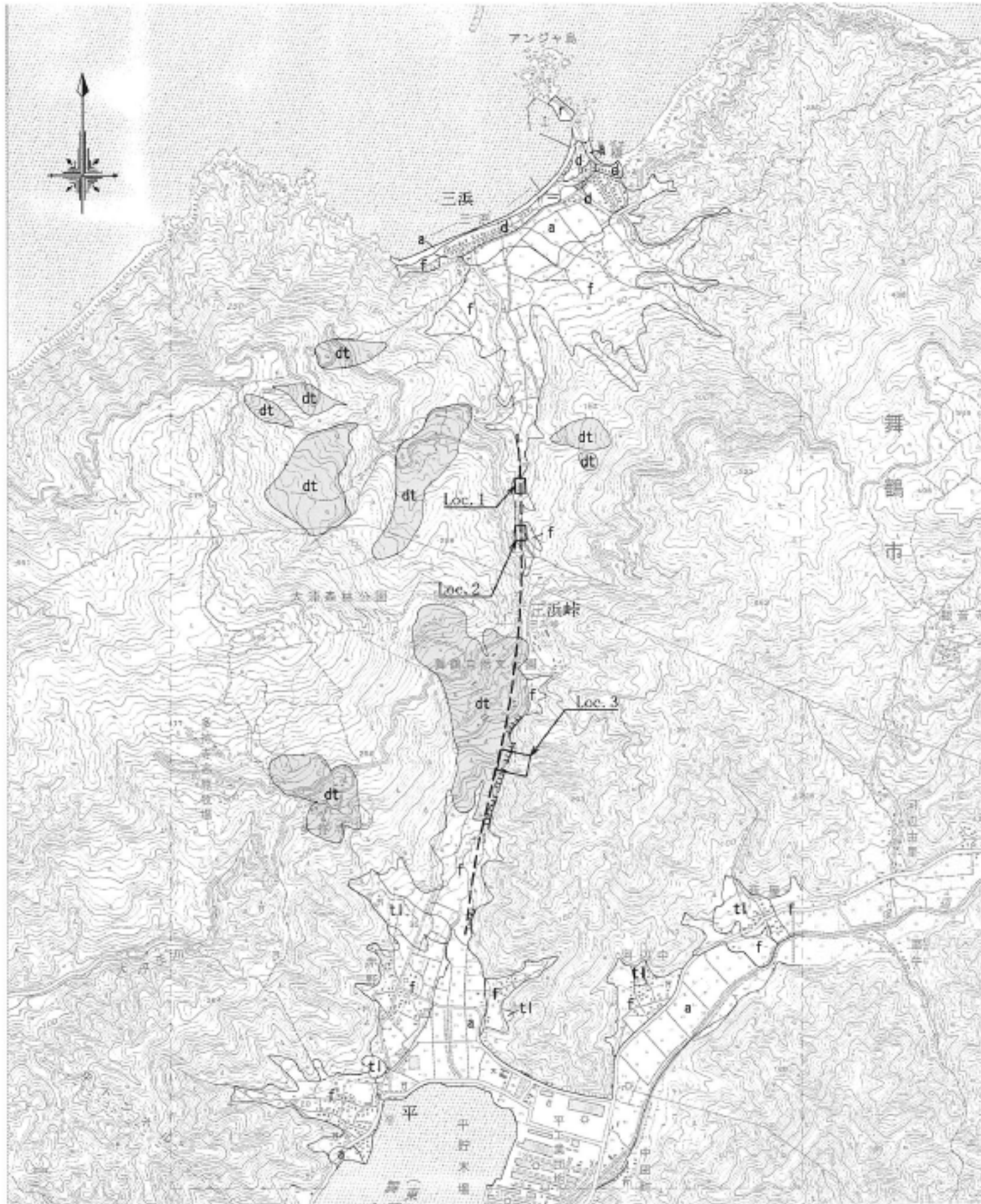
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平 26 情報、第 211 号)」



第 3.2.98 図 中井リニアメント ルートマップ (Loc. 2)



第3.2.99図 中井リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 3)



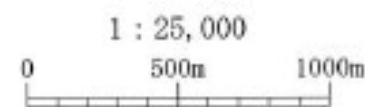
地形面の凡例

tl	低位段丘面
f	新期扇状地面
dt	崖錐面
a	沖積面
d	砂丘
r	人工改変地

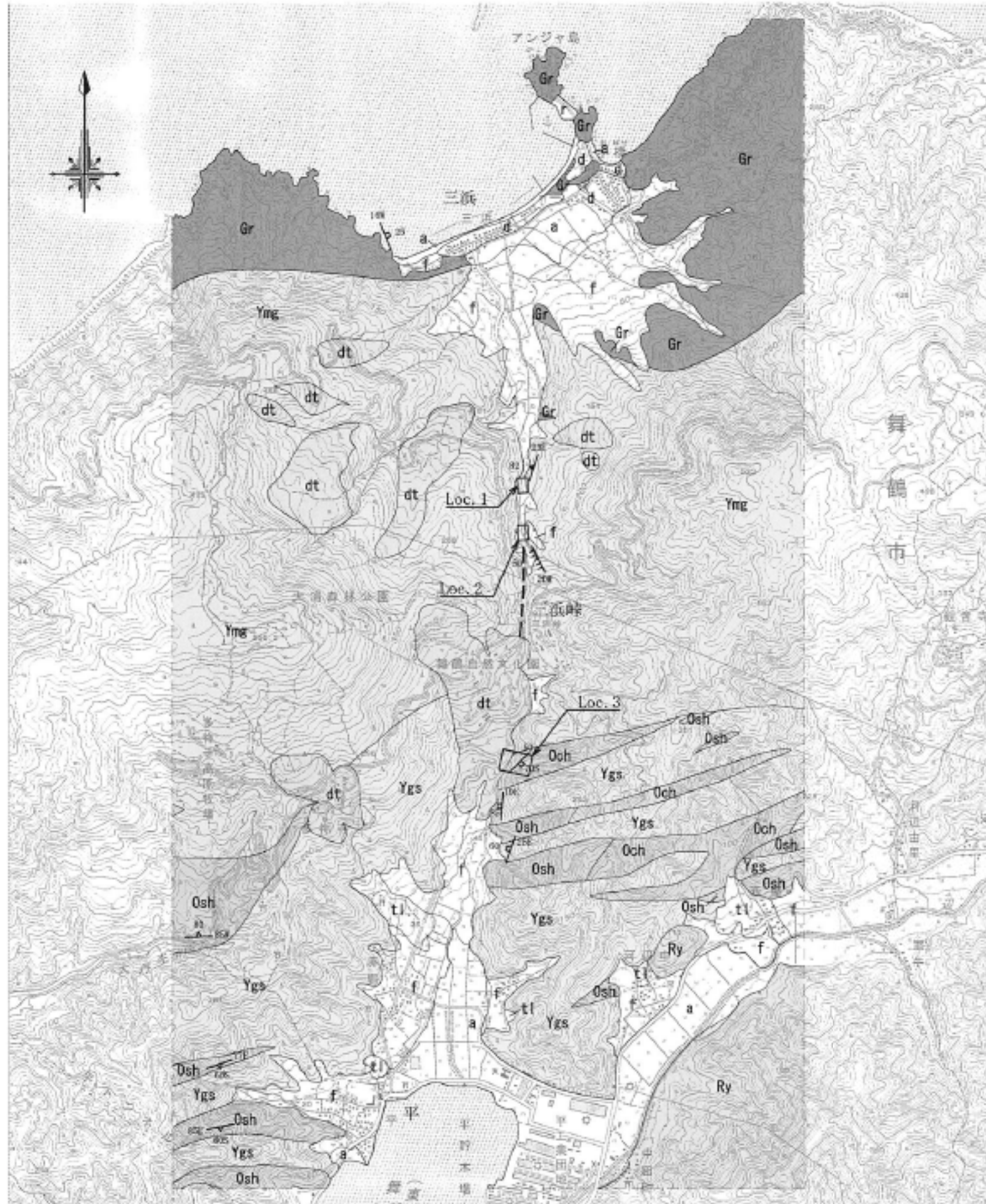
変動地形・リニアメントの凡例

——	Dランク
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。	
---	主なリニアメント
岡田・東郷編(2000) ¹⁾ に記載されている断層組織地形を転記したもの	
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
□	表示範囲

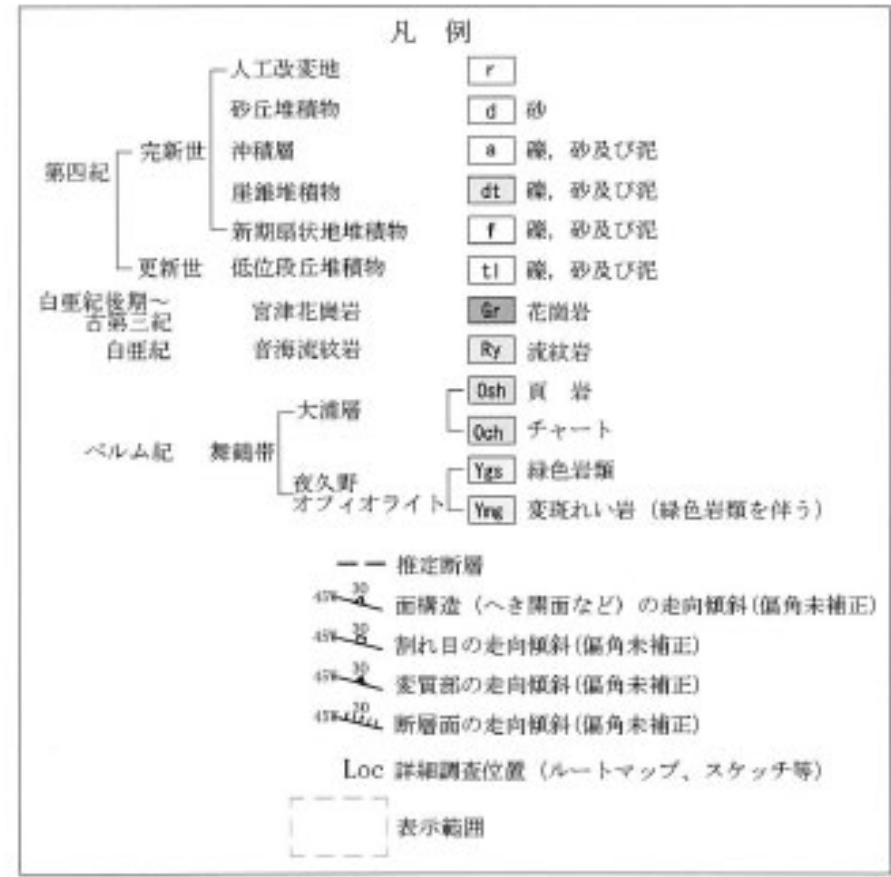
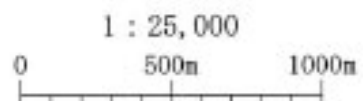
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平28情復、第211号)」



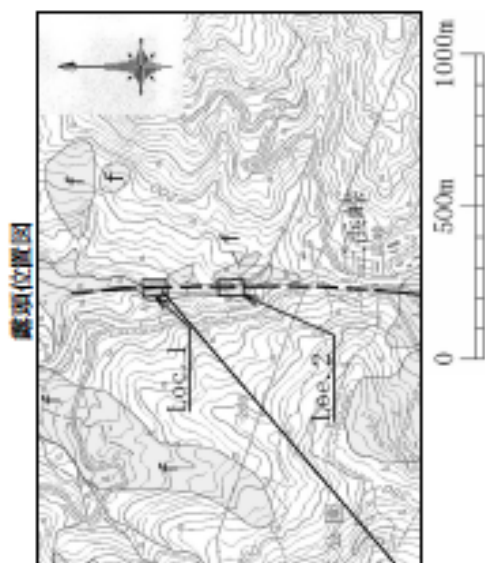
第3.2.100図 三浜峠リニアメント周辺の地形調査結果



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」

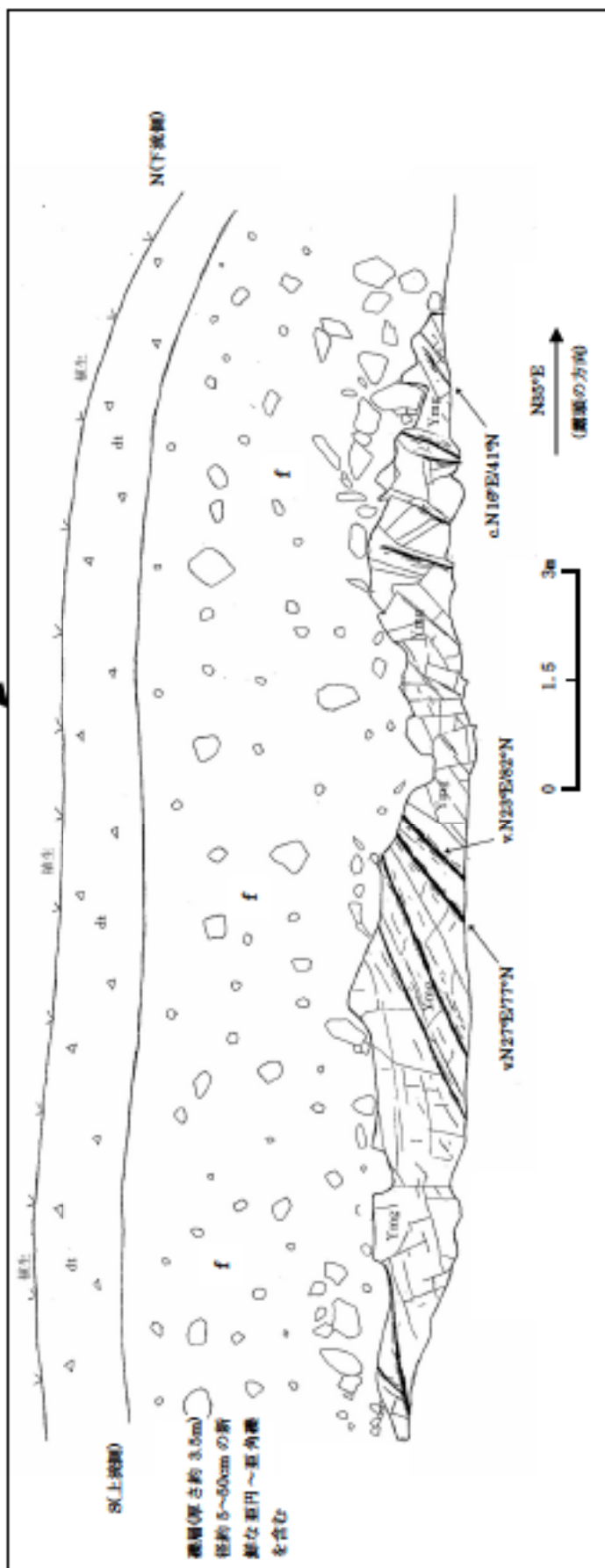
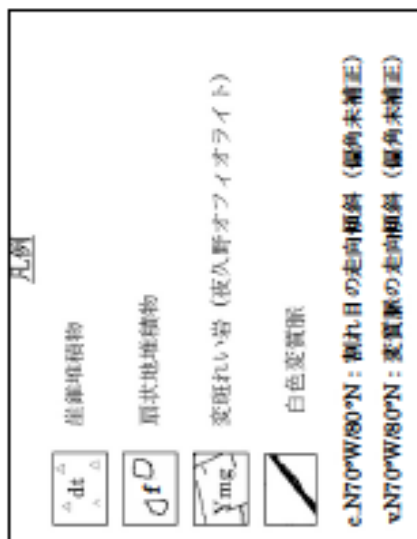


第3.2.101図 三浜峠リニアメント周辺の地質図



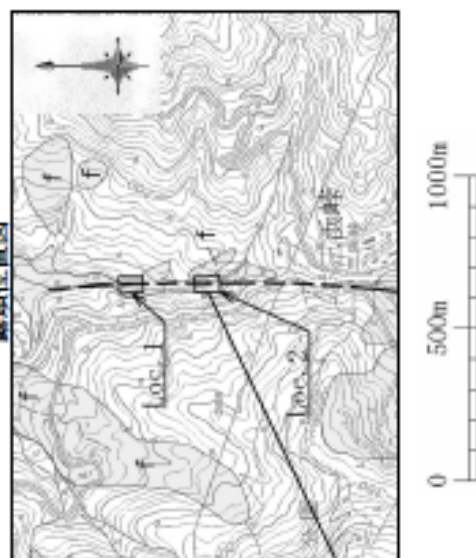
リアメント記載位置付近で剥ぎ取り調査を実施し、夜久野オオフィオライトの変斑れい岩を確認した。
 変斑れい岩中には割れ目を充填する白色変質脈が複数認められるが、断層は認められない。割れ目の走向傾斜は、概ね $N16^{\circ} \sim 27^{\circ} E/41^{\circ} \sim 82^{\circ} N$ で、リアメント方向と概ね調和的である。また、幅数 cm の白色変質脈は周辺の岩盤に比べてやや鋭い。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院長の 2 万 5 千分の 1 地形図を複製したものである。(承認番号 平 26 情産、第 211 号)」



第 3.2.102 図 三浜峠リアメント 震頭スケッチ (Loc. 1)

露頭位置図



リニアメント記載位置付近で剥ぎ取り調査を実施し、夜久野オフィオライトの緑色岩類中に固結した角礫状破砕部を有する断層を確認した。

断層主部近傍はやや細片化しており、断層から下流側(北側)に離れるに従って細片化の程度が弱くなり固の左側付近で緑色岩に漸移的に変化する。

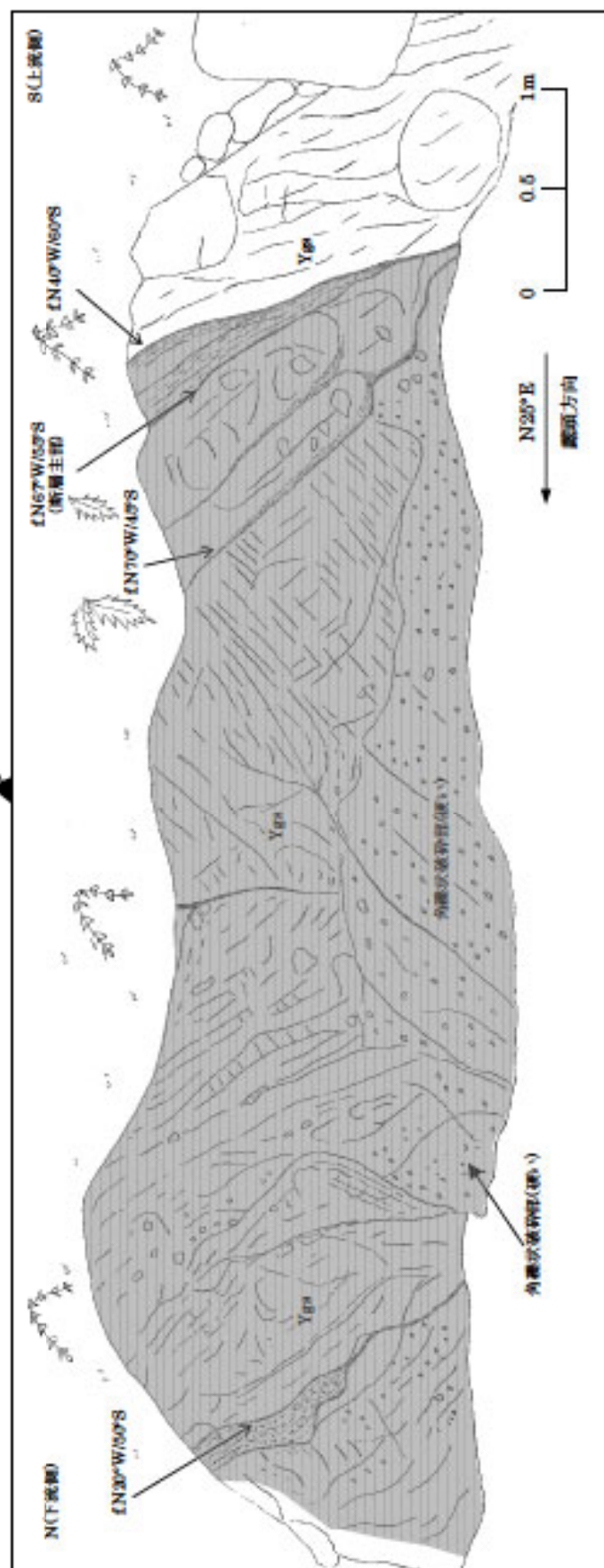
リニアメント方向に近い断層面 (N20°W/50°S) やリニアメントに斜交する断層面(N40°~70°W/45°~60°S)が認められるが、いずれも固結して湾曲し不明瞭である。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情発、第211号)」

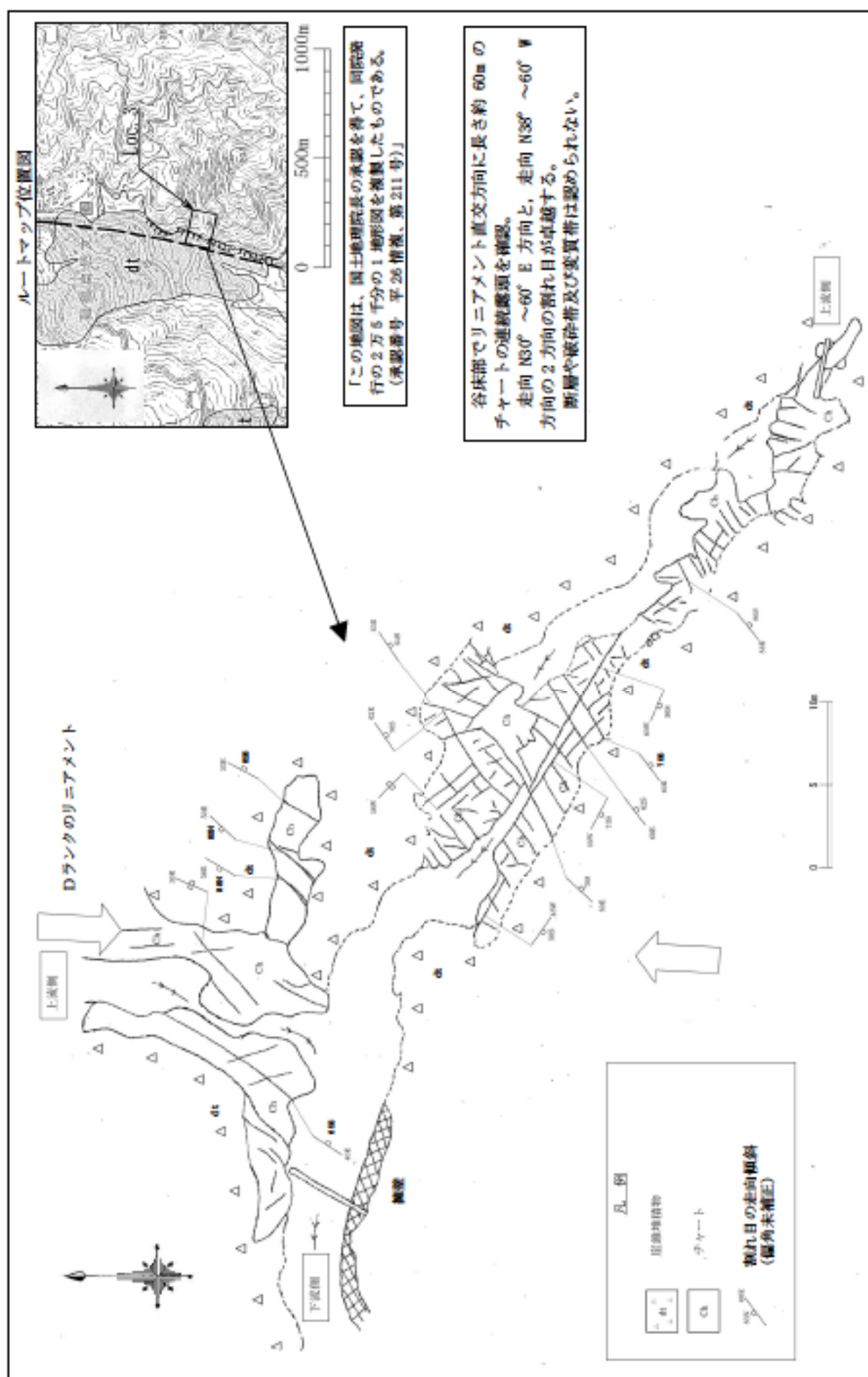
凡例

- 緑色岩類 (夜久野オフィオライト)
- 固結した角礫状破砕部
- 固結した砂~角礫状破砕部
- 固結した砂~緑礫状破砕部

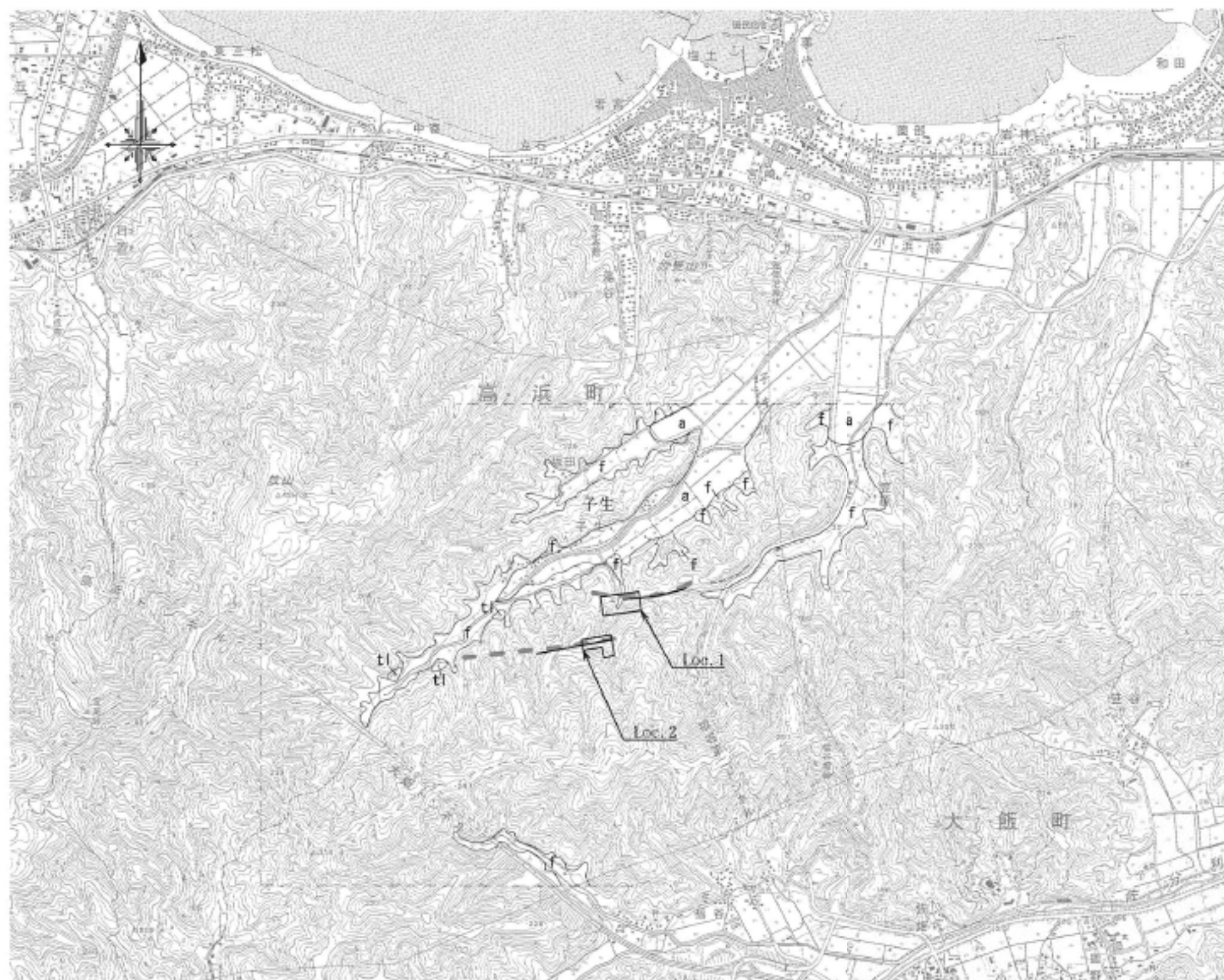
EN70°W/80°N : 断層面の走向傾斜 (固角未補正)



第 3. 2. 103 図 三浜峠リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 2)



第 3. 2. 104 図 三浜峠リニアメント ルートマップ (Loc.3)



地形面の凡例

t1 低位段丘面
 f 新期扇状地面
 a 沖積面

変動地形・リニアメントの凡例

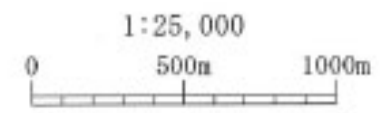
Dランク
 短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

— 主なリニアメント
 岡田・東郷編(2000)™に記載されている断層組織地形を転記したもの

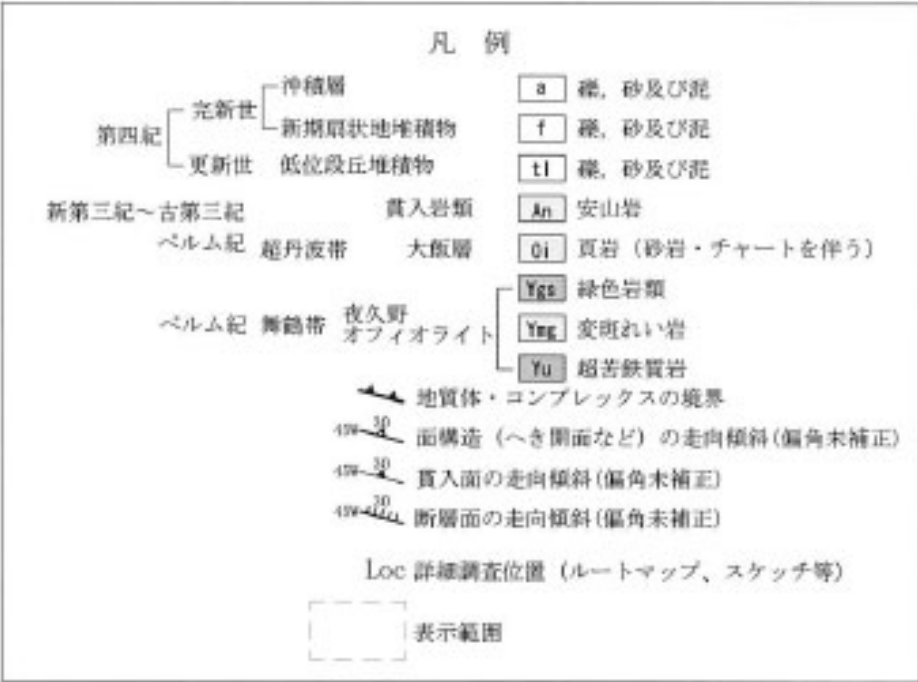
Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)

表示範囲

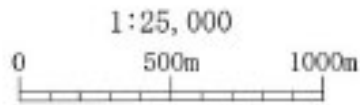
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」



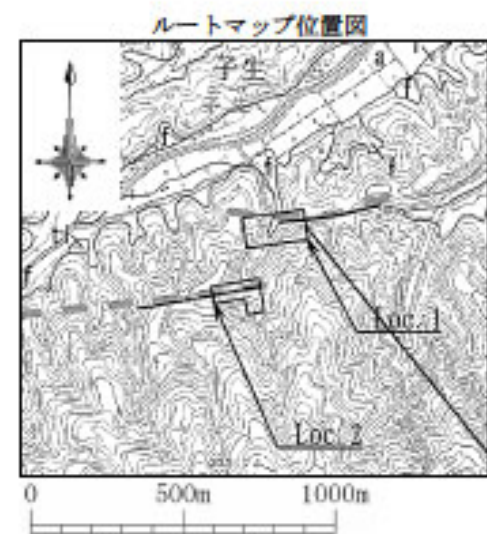
第3.2.105図 子生リニアメント周辺の地形調査結果



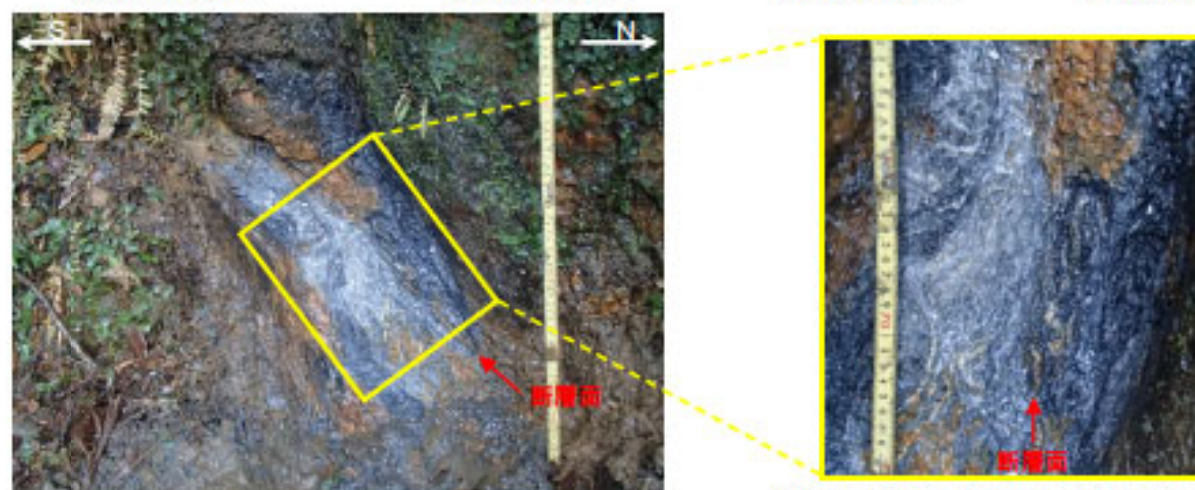
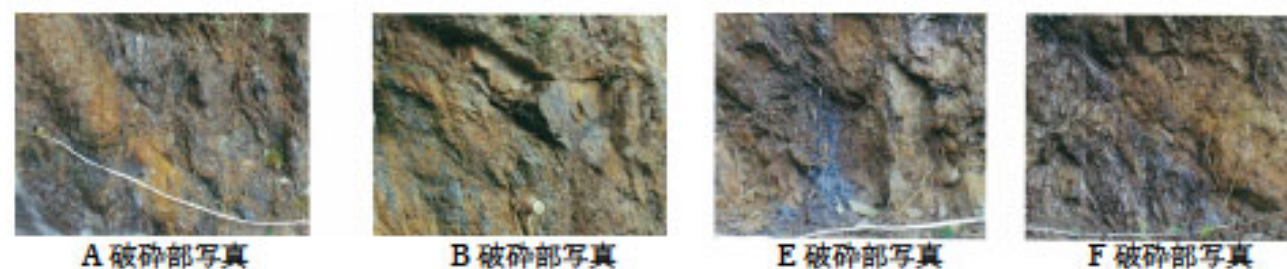
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平26情復、第211号）」



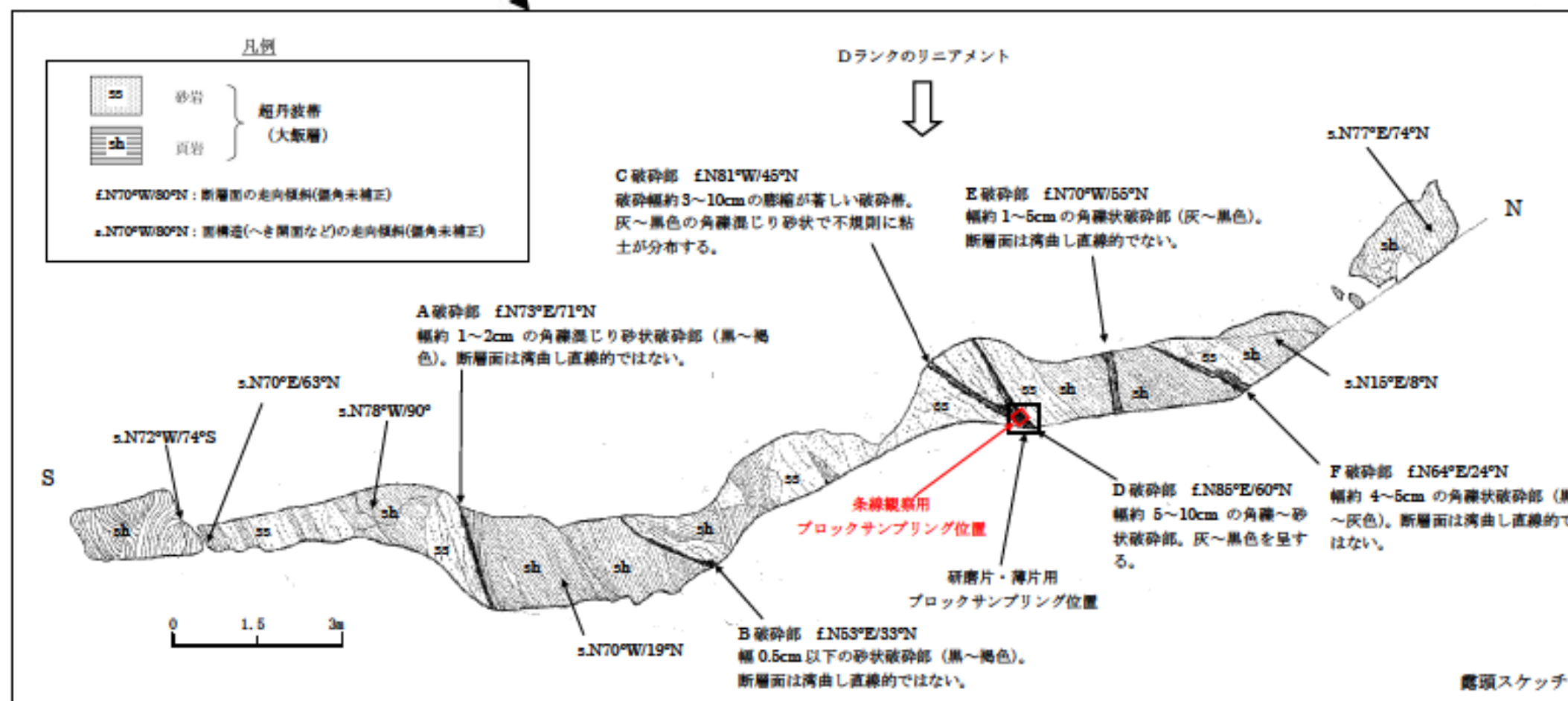
第3.2.106図 子生リニアメント周辺の地質図



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」



C, D 破砕部写真 C破砕部がD破砕部をせん断する。逆断層成分を示す引きずり構造とR1面 (観察面の勾配 70° E)



本地点はリニアメントを挟んで約20mの連続露頭である。

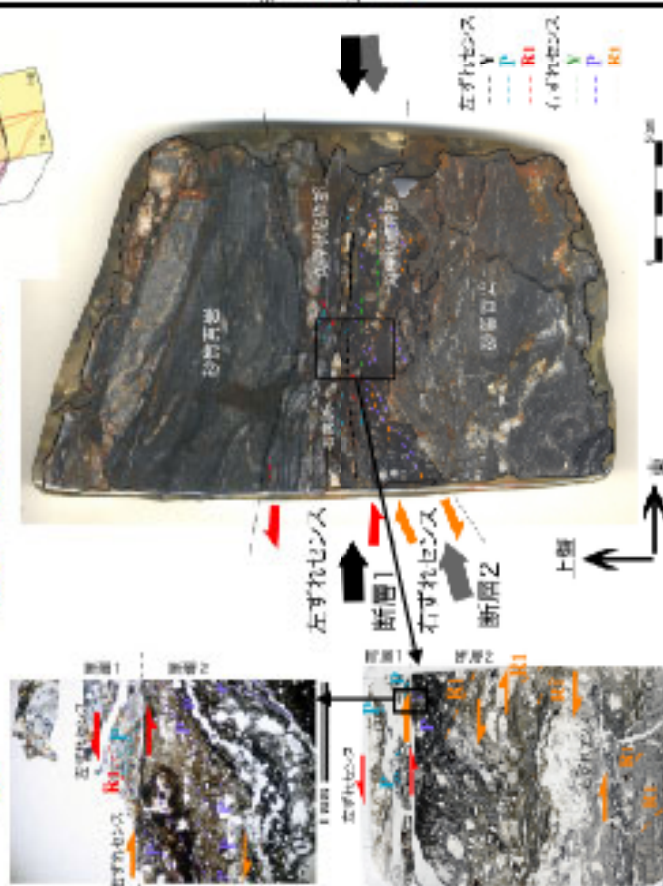
地質は超丹波帯の頁岩と砂岩で、6ヶ所の破砕部が認められる。断層面の走向は N53° E~N70° W でリニアメント方向 (N80° E) と概ね調和的である。断層面は湾曲や凹凸を示す。各破砕帯は幅数 cm~10cm 程度で破砕された頁岩が角礫混じり砂状ないし角礫状を呈する。

リニアメント判読位置には C 破砕部と D 破砕部が認められる。D 破砕部は C 破砕部にせん断される。C 破砕部中の灰白色粘土 (幅 1~2cm) を伴う断層面でブロックをサンプリングし、変形組織の観察及び条線観察を実施した。

第3.2.107図 子生リニアメント 露頭スケッチ (Loc.1) 6-3-332



研磨片 (横ずれ成分観察用)

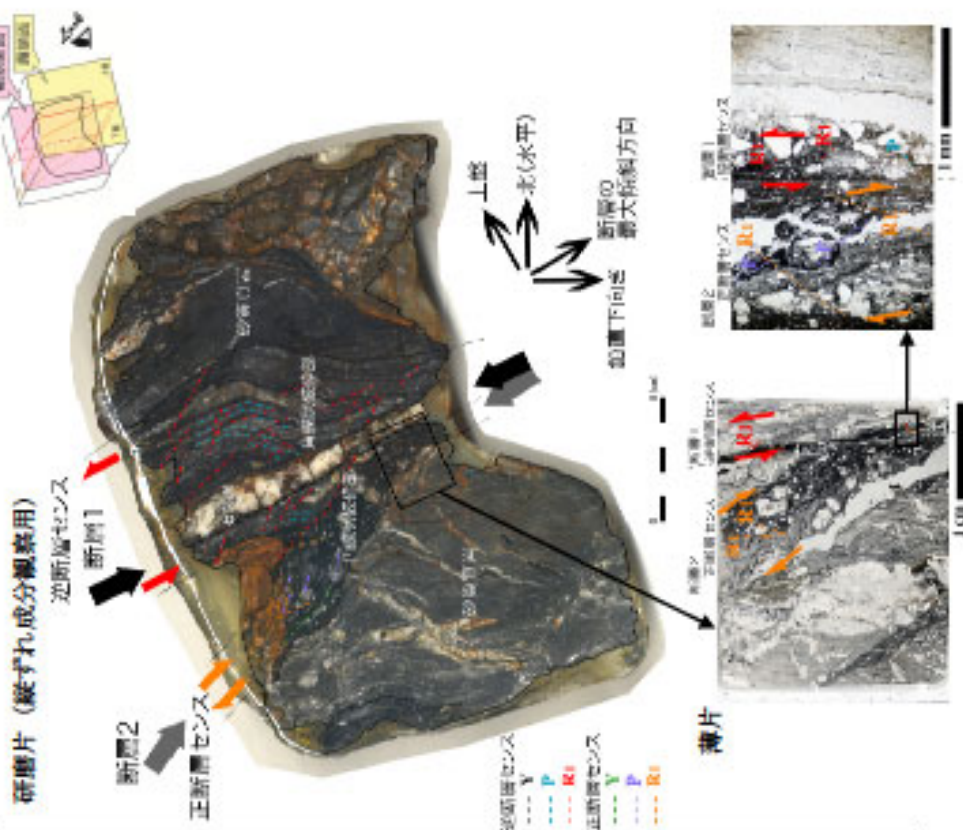


研磨片観察結果

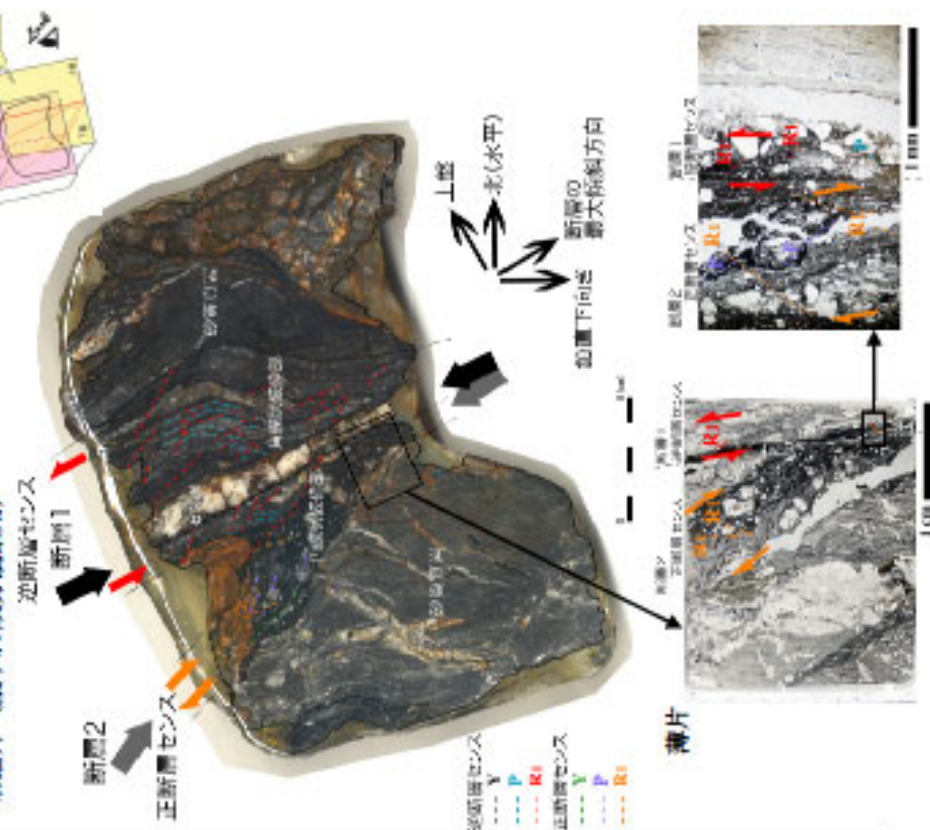
- ・角礫状岩砕部からなる。
- ・Y面とP面・R1面の関係から、断層1は左ずれセンスを示し、断層2は右ずれセンスを示す。

研磨片観察結果

- ・角礫状岩砕部は角礫った粒子からなり、面状構造が発達することからカタクレーサイトと判断される。
- ・P面とR1面の関係から、断層1は左ずれセンスを示し、断層2は右ずれセンスを示す。



研磨片 (縦ずれ成分観察用)



研磨片観察結果

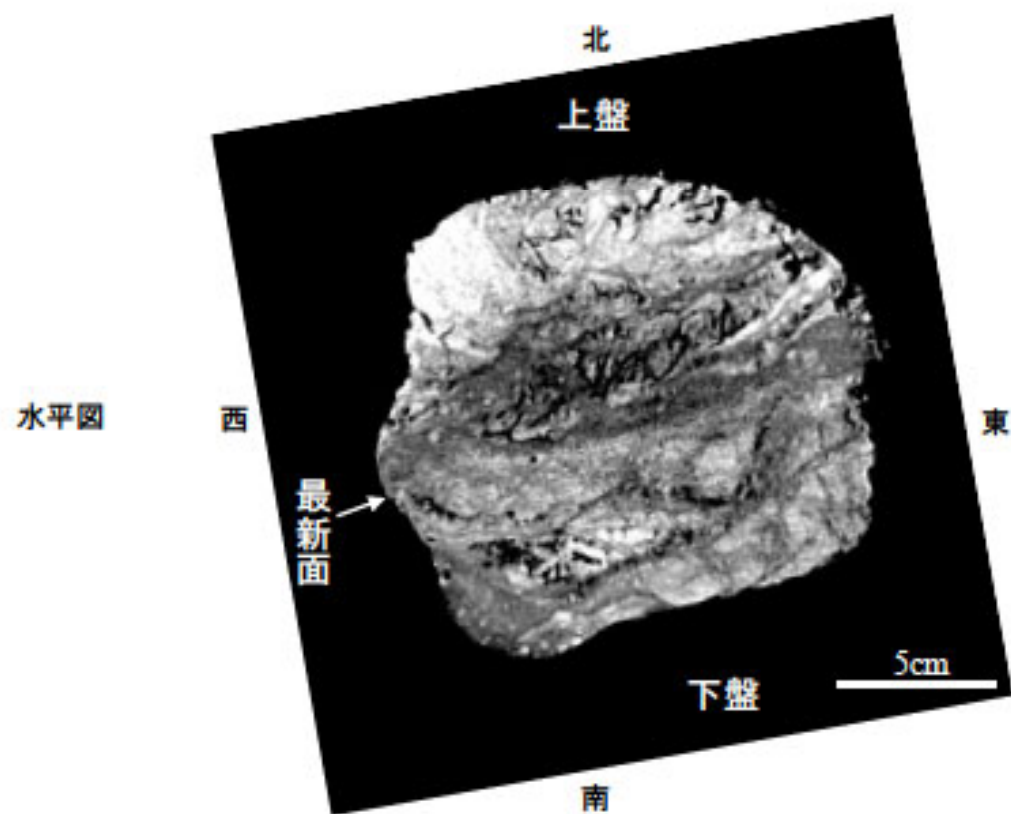
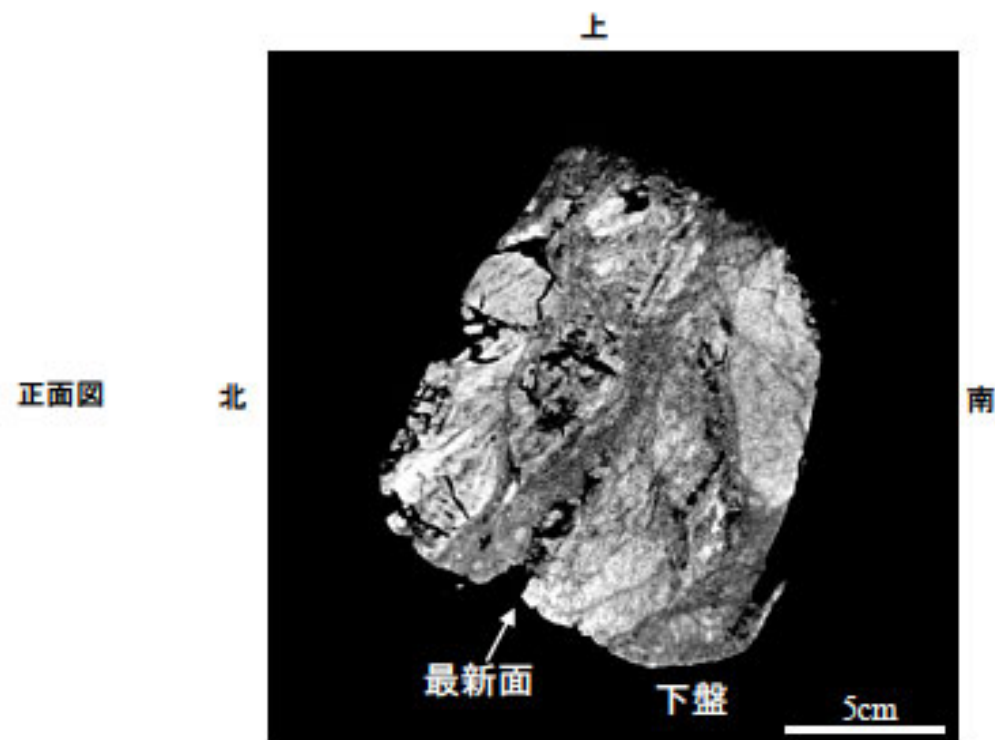
- ・角礫状岩砕部からなる。
- ・Y面とP面・R1面の関係から、断層1は逆断層センスを示し、断層2は正断層センスを示す。

研磨片観察結果

- ・角礫状岩砕部は角礫った粒子からなり、面状構造が発達することからカタクレーサイトと判断される。
- ・P面とR1面の関係から、断層1は逆断層センスを示し、断層2は正断層センスを示す。

最新活動時の運動センスは、左横ずれ、逆断層センスである

第3.2.108 図 子生リニアメント 研磨片・薄片観察結果 (Loc.1)



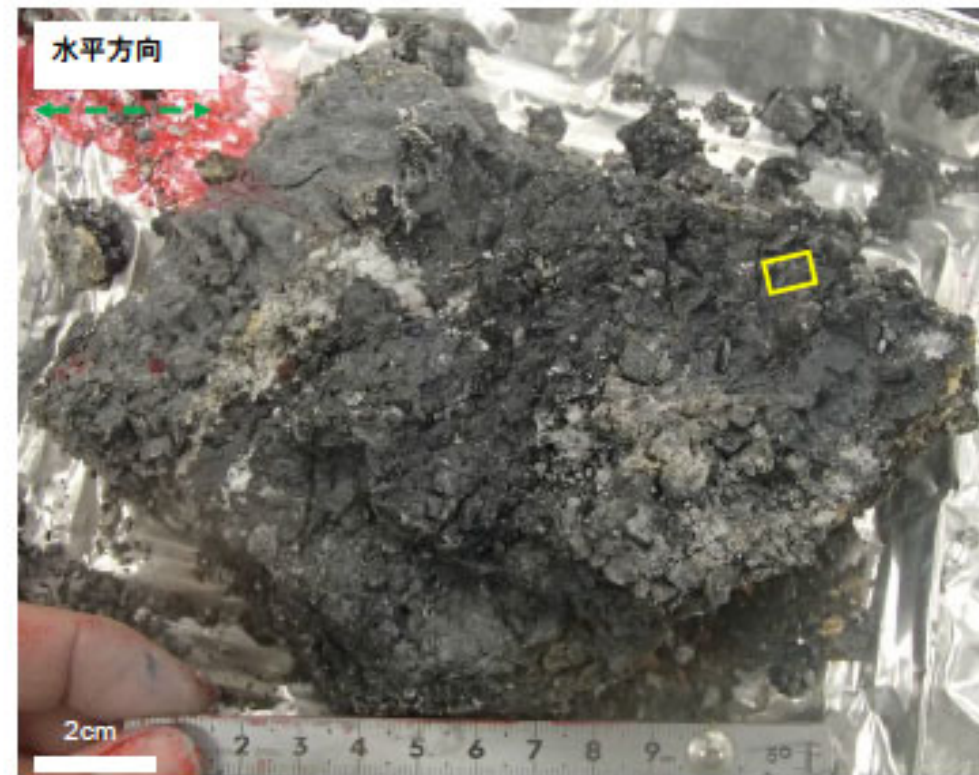
※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、
水平図は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜: TN73E/48N(現場での計測データ)

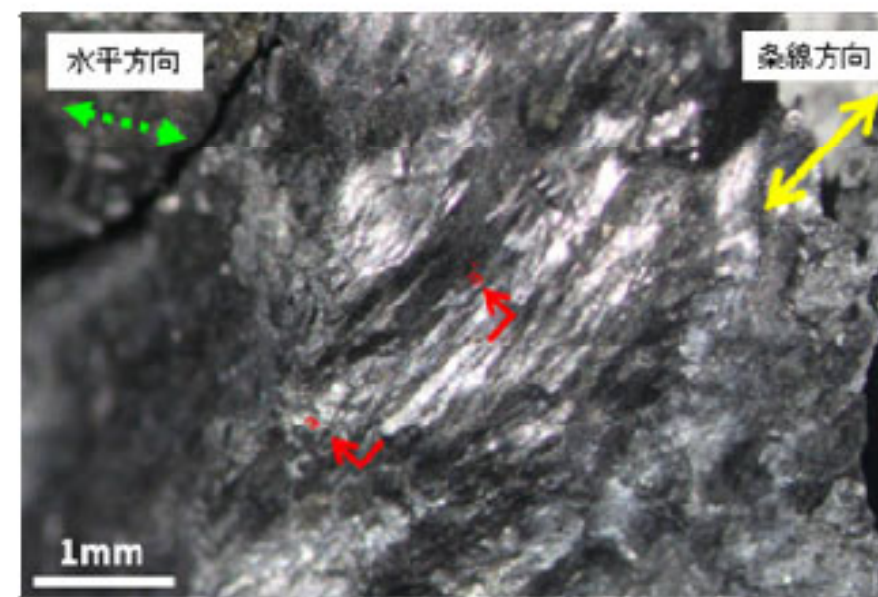
縦ずれ成分: 逆断層, 横ずれ成分: 左横ずれ

最新面はやや湾曲している。

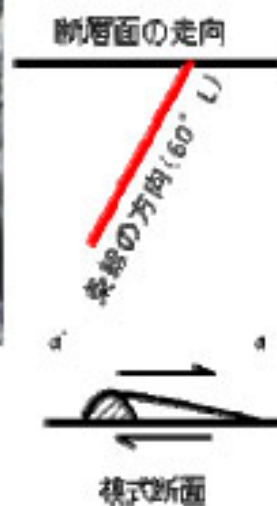
最新面に沿う幅約2cm以下のゾーンで密度が低い(粘土状破砕部)。このゾーンは膨縮する。



CB-B1(下盤上面)

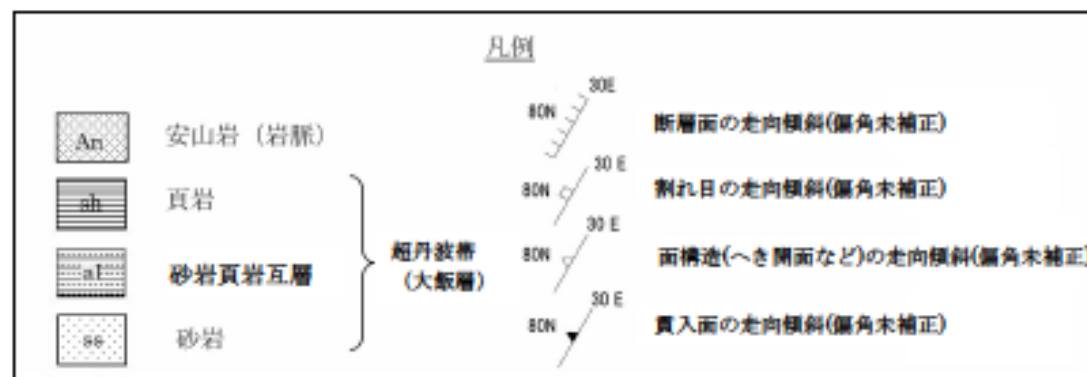
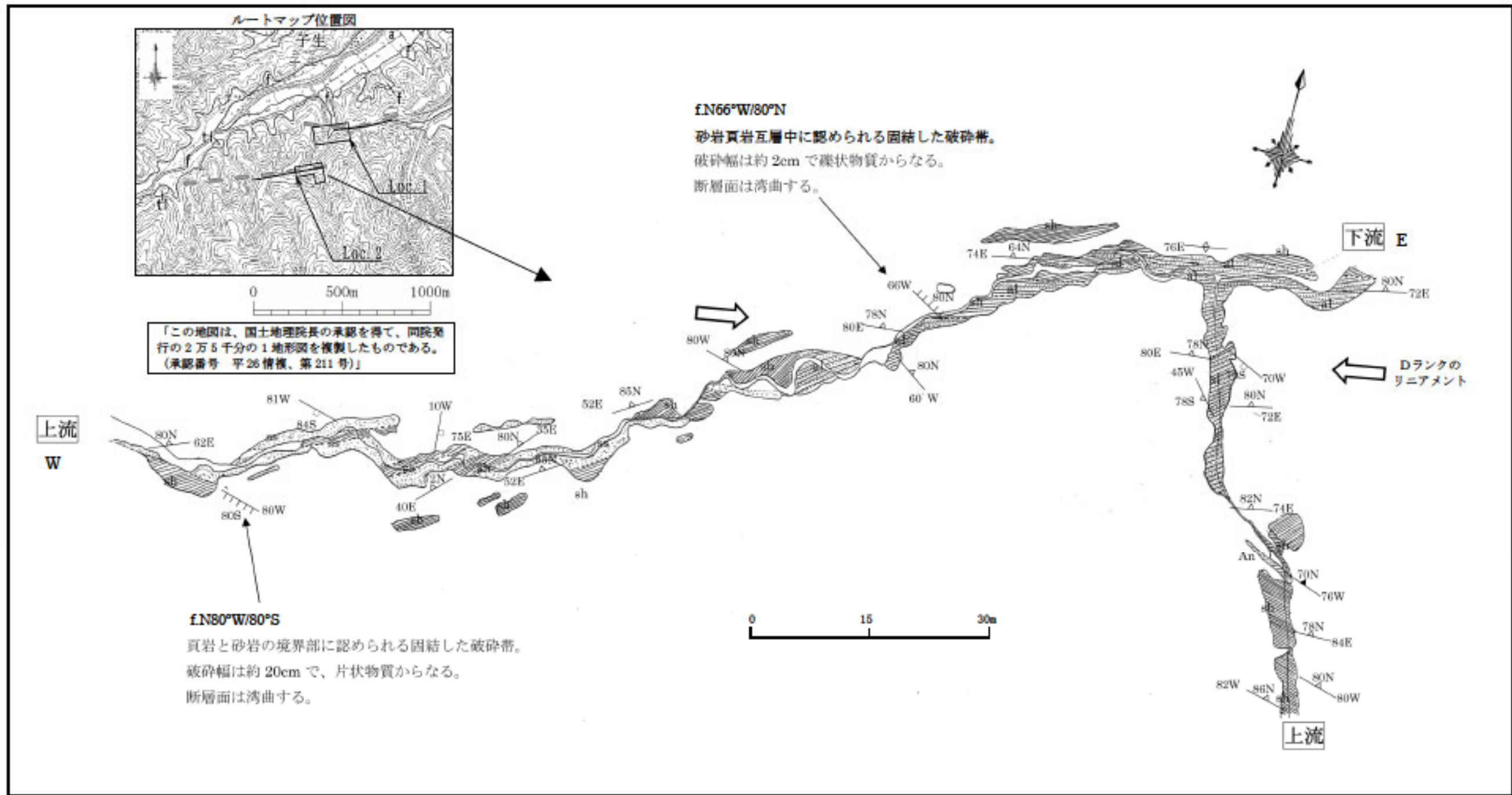


断層面の状況
左横ずれ逆断層



- 条線観察の結果、条線のレイクは60° Lであり、運動センスは左横ずれ逆断層である。
- これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

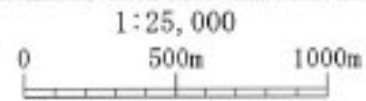
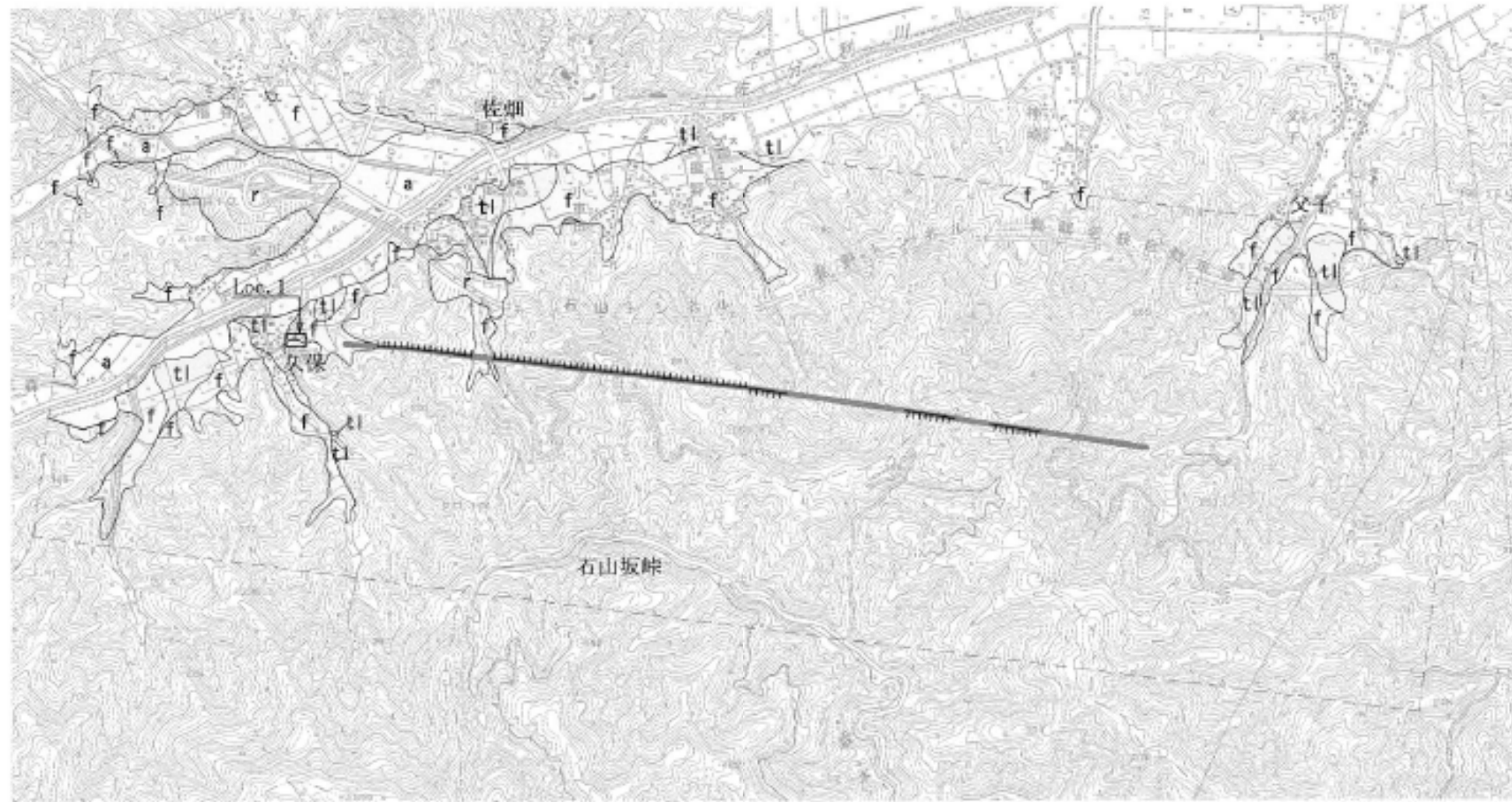
第 3.2.109 図 子生リニアメント 条線観察結果 (Loc.1、CB-B1 試料)



河床および河岸斜面において剥ぎ取り調査を実施し、リニアメント直交方向に長さ約60mにわたり、砂岩と頁岩の連続露頭を確認した。ここに2条の断層が認められ、破砕帯の幅はそれぞれ約2cmと約20cmである。断層面の走向傾斜はN66°W/80°NとN80°W/80°Sで、リニアメント方向(N80°E)とほぼ調和的である。断層面は湾曲し、いずれの破砕帯も固結している。

リニアメント判読位置付近には、約1~2cm間隔で発達する頁岩及び砂岩頁岩互層中のへき開面が顕著である。リニアメント通過付近のへき開面の卓越方向はE-Wで、北側に高角度で傾斜しており、リニアメント方向と調和的である。

第3.2.110図 子生リニアメント ルートマップ (Loc. 2)

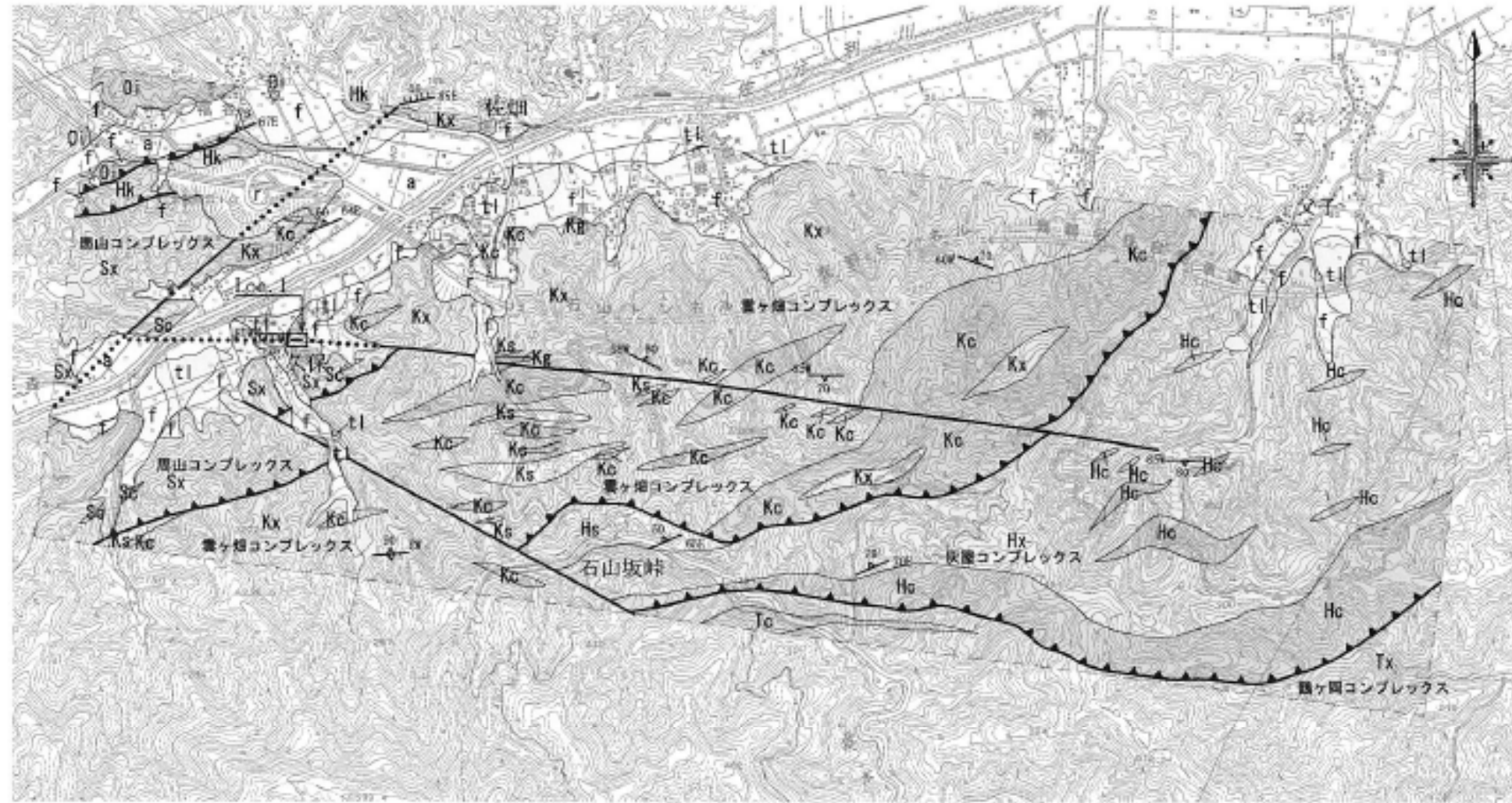


変動地形・リニアメントの凡例	
	Dランク 短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
	連続性に富むシャープなリニアメント (L) 岡田・東郷編(2000) ²⁹⁾ に記載されている断層組織地形を転記したもの
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
	表示範囲

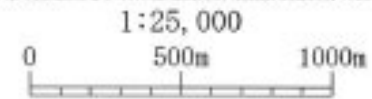
地形面の凡例	
	低位段丘面
	新期扇状地面
	沖積面
	人工改変地

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」

第3.2.111図 石山坂峠北リニアメント周辺の地形調査結果



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」



凡 例

—	断層
.....	伏在断層
▲▲▲	地質体・コンプレックスの境界
↘	面構造（へき開面など）の走向傾斜（偏角未補正）
↘	断層面の走向傾斜（偏角未補正）
Loc	詳細調査位置（ルートマップ、スケッチ等）
□	表示範囲

凡 例

第四紀	人工改変地	r	
	光新世 沖積層	a	礫、砂及び泥
	更新世 低位段丘堆積物	tl	礫、砂及び泥
ジュラ紀 前～後期	鶴ヶ岡 コンプレックス	Tx	泥質混在岩及び頁岩
		Tc	チャート
	灰層 コンプレックス	Hx	泥質混在岩及び頁岩
		Ho	砂岩
	雲ヶ畑 コンプレックス	Hc	チャート
		Kx	泥質混在岩及び頁岩
		Ks	砂岩
		Kc	チャート
	周山 コンプレックス	Kg	緑色岩類
		Sx	泥質混在岩及び頁岩
ベルム紀 中～後期	超丹波帯	Se	チャート
		Hk	砂岩（頁岩を伴う）
	大飯層	Oi	頁岩（砂岩・チャートを伴う）

第3.2.112図 石山坂峠北リニアメント周辺の地質図

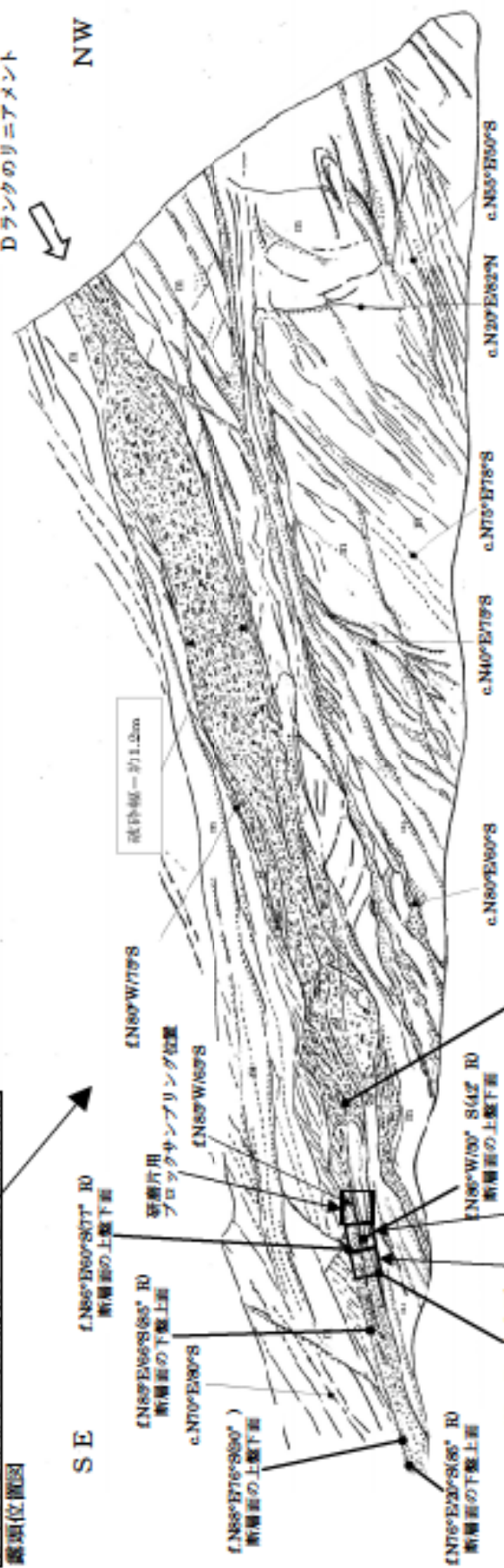


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平 56 情 復、第211号)」



リニアメント剥離位置の肥賢泥在岩(丹波帯)中の破砕帯露頭。
 幅約1.2mの黒色を帯びた破砕帯で、破砕帯を含めた破砕帯周辺幅約4mは、灰色～白色の変質粘土層が発達する。破砕帯は角礫状を呈し、所々に変質粘土層が認められ、分布は不規則である。断面面は湾曲し、直線的でない。断面面の走向傾斜は $N80^{\circ}W/75^{\circ}S$ であり、リニアメント方向($N80^{\circ}W$)と調和的である。変質粘土層は幅約0.5~30cmで、断面面及び割れ目に沿って網目状に分布している。

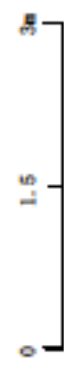
Dランクのリニアメント
 NW



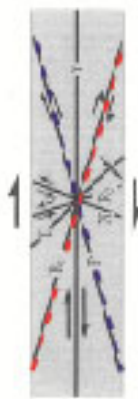
凡 例

- 肥賢泥在岩 (丹波帯)
- 角礫状破砕帯
- 変質粘土

$[N80^{\circ}W75^{\circ}S]$: 断面面の北向傾斜
 $[N80^{\circ}W75^{\circ}S/42^{\circ}ID]$: 断面面の北向傾斜 (条線の方角)
 $[N80^{\circ}W75^{\circ}S]$: 割れ目の北向傾斜
 北北向傾斜の圖角未補正

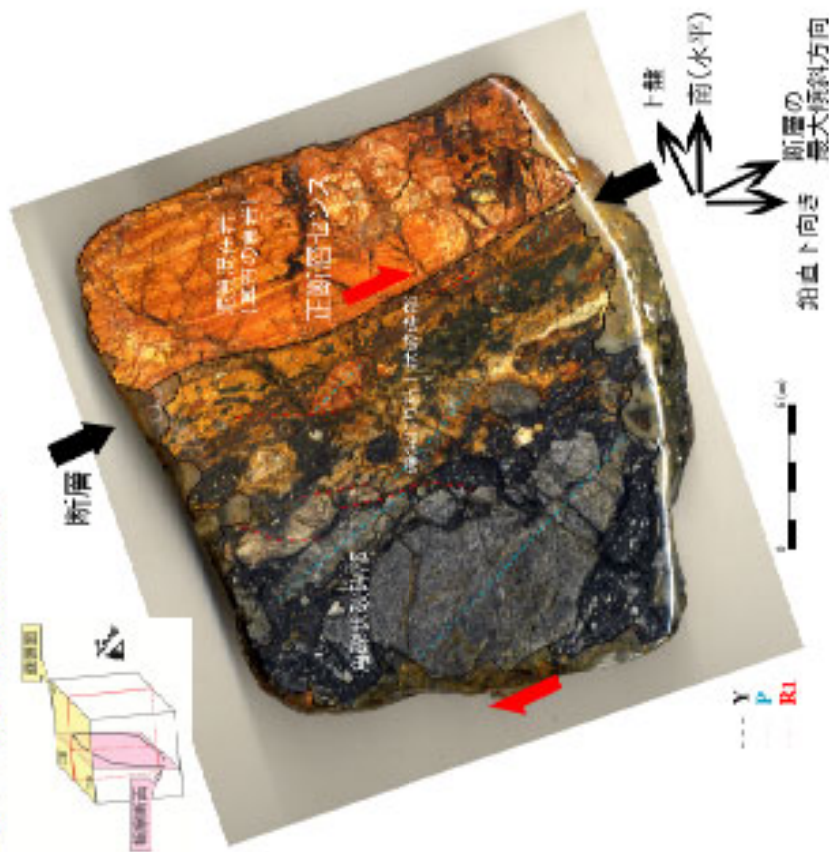


第 3. 2. 113 図 石山坂峠北リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 1)

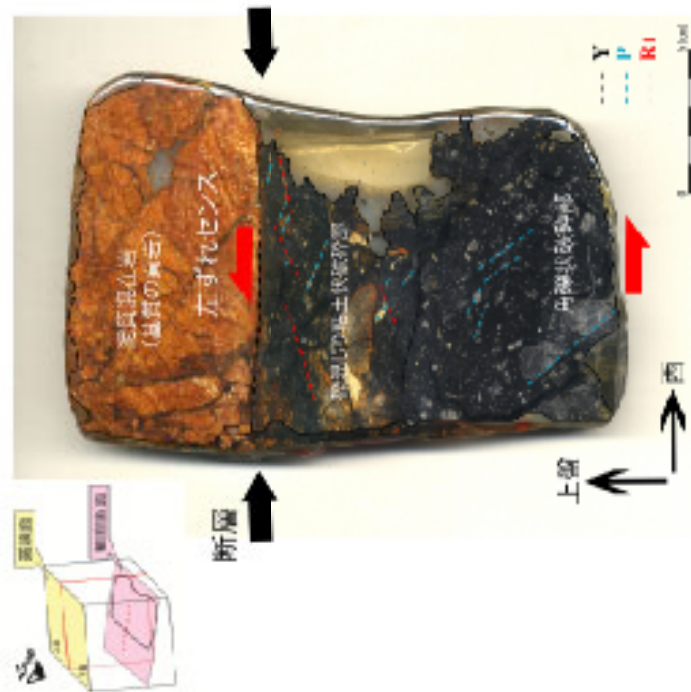


せん断センスを示す複合面構造 (狩野・村田, 1998(160) に加筆)

研磨片 (縦ずれ成分観察用)



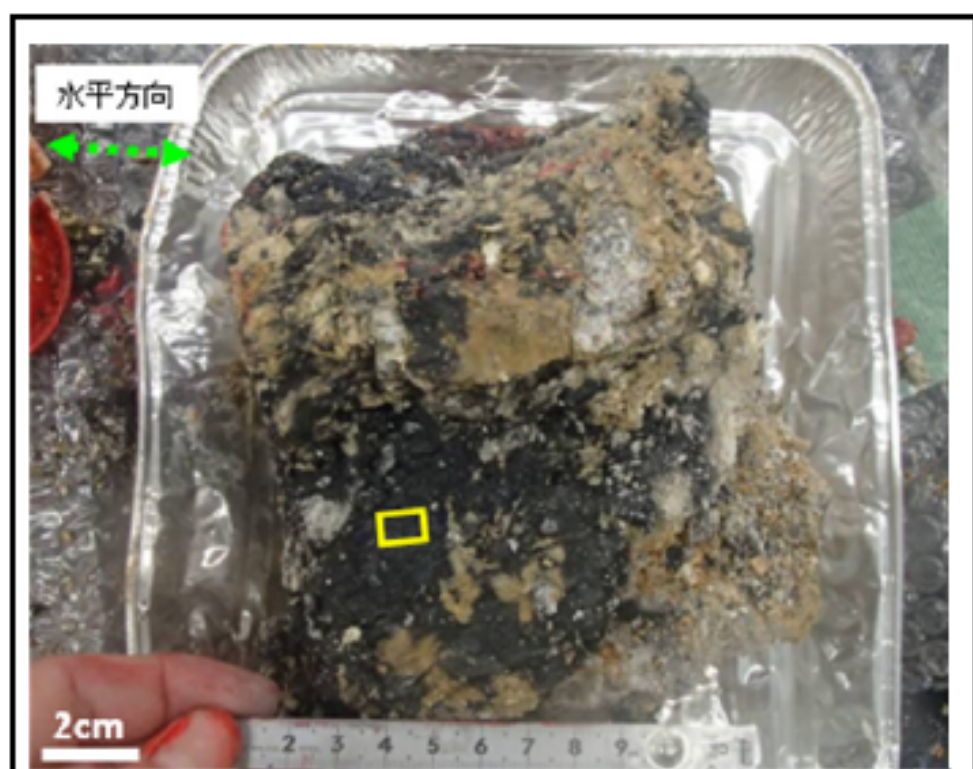
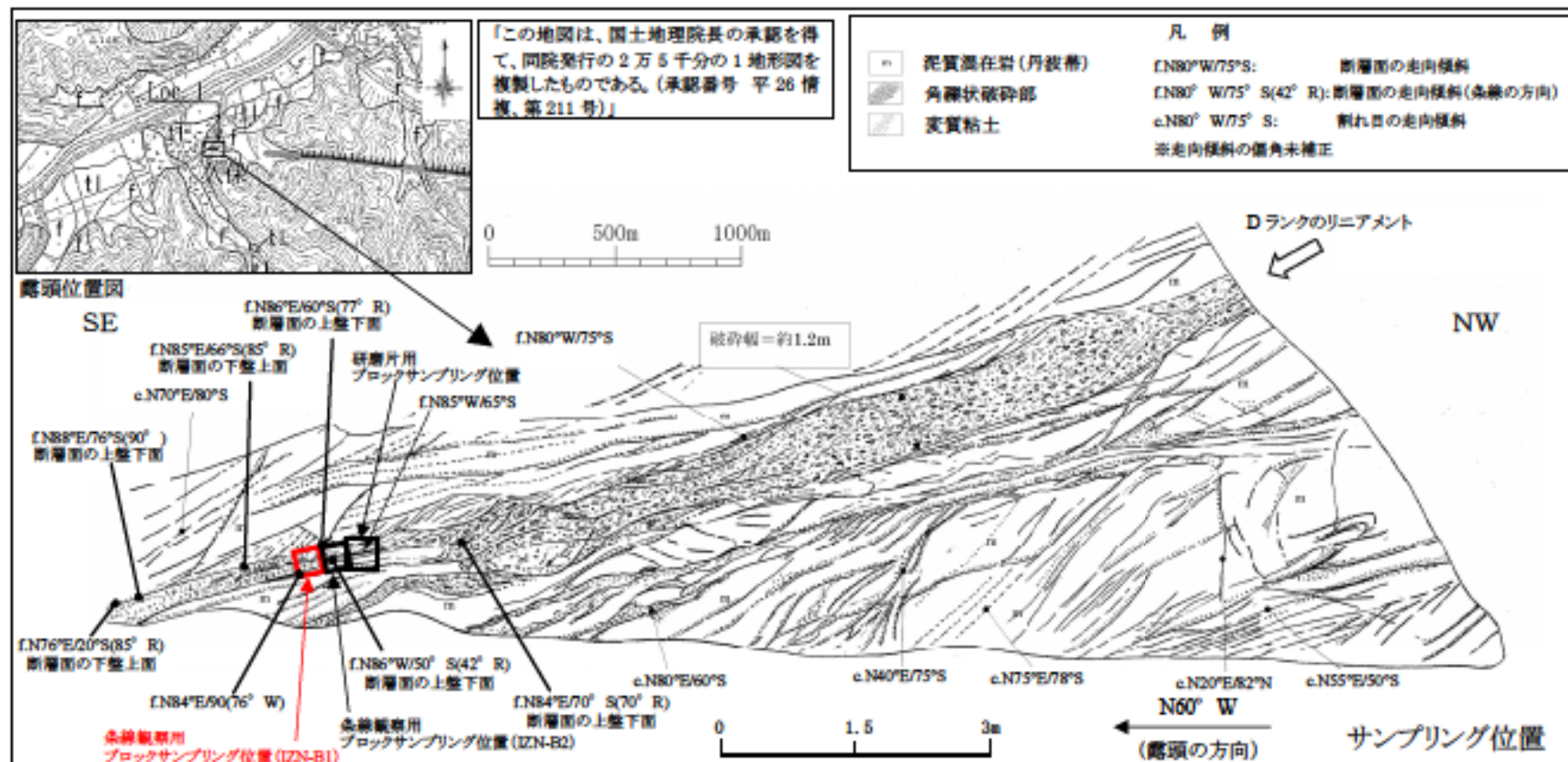
研磨片 (横ずれ成分観察用)



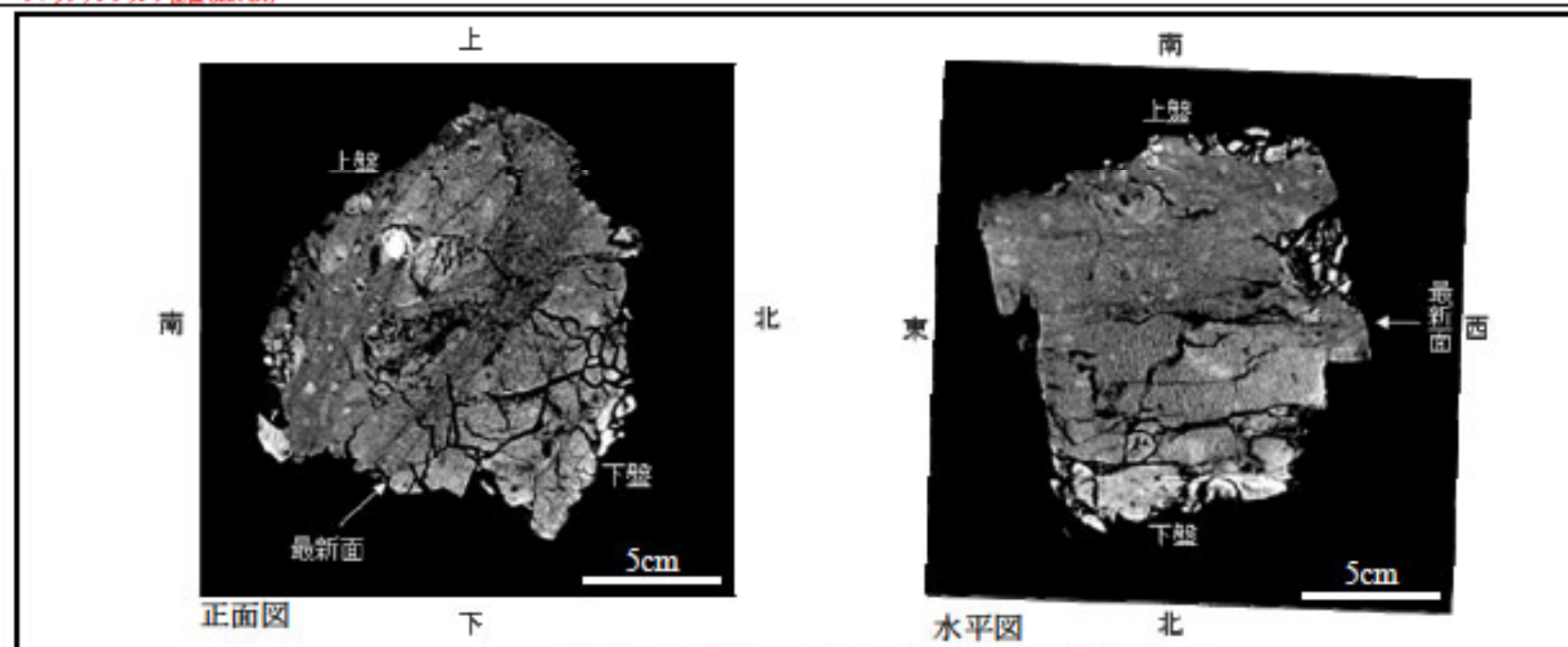
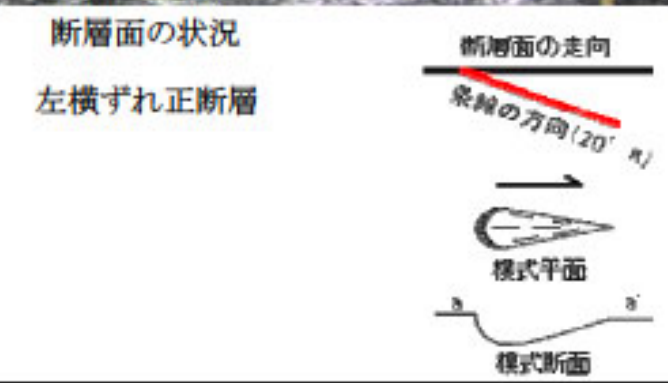
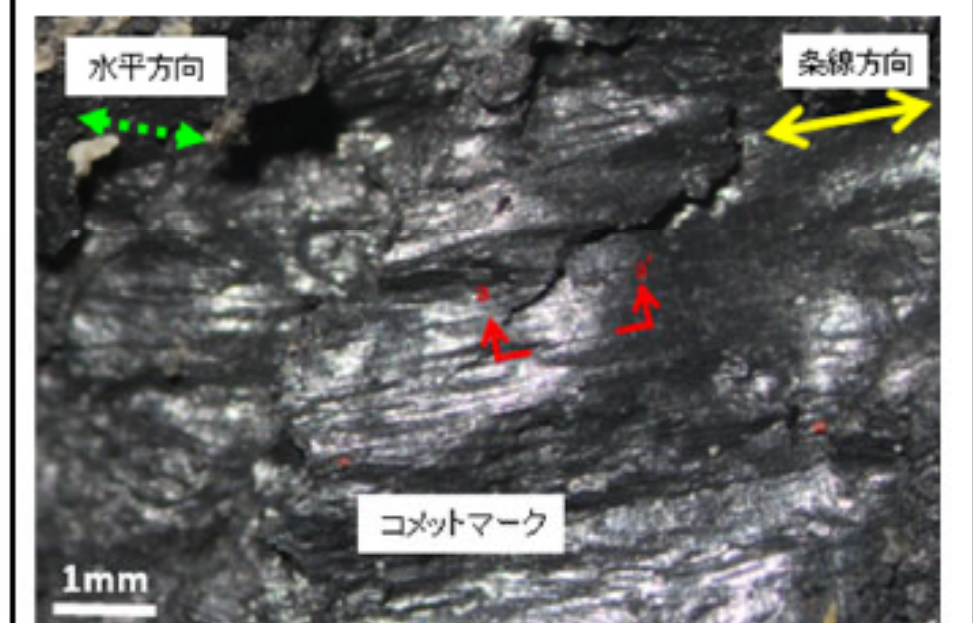
研磨片観察結果

- ・泥質泥在岩を原岩とする角礫状破砕部及び礫混じり粘土状破砕部からなる。
- ・Y面とP面・R1面の間隔から、最新活動を示す断層面の変形組織は左ずれ・正断層センスを示す。

第 3. 2. 114 図 石山坂峠北リニアメント 研磨片観察結果 (Loc. 1)



IZN-B1 (上盤下面)

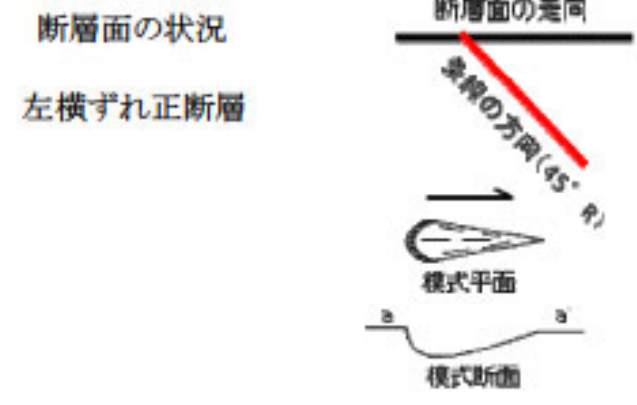
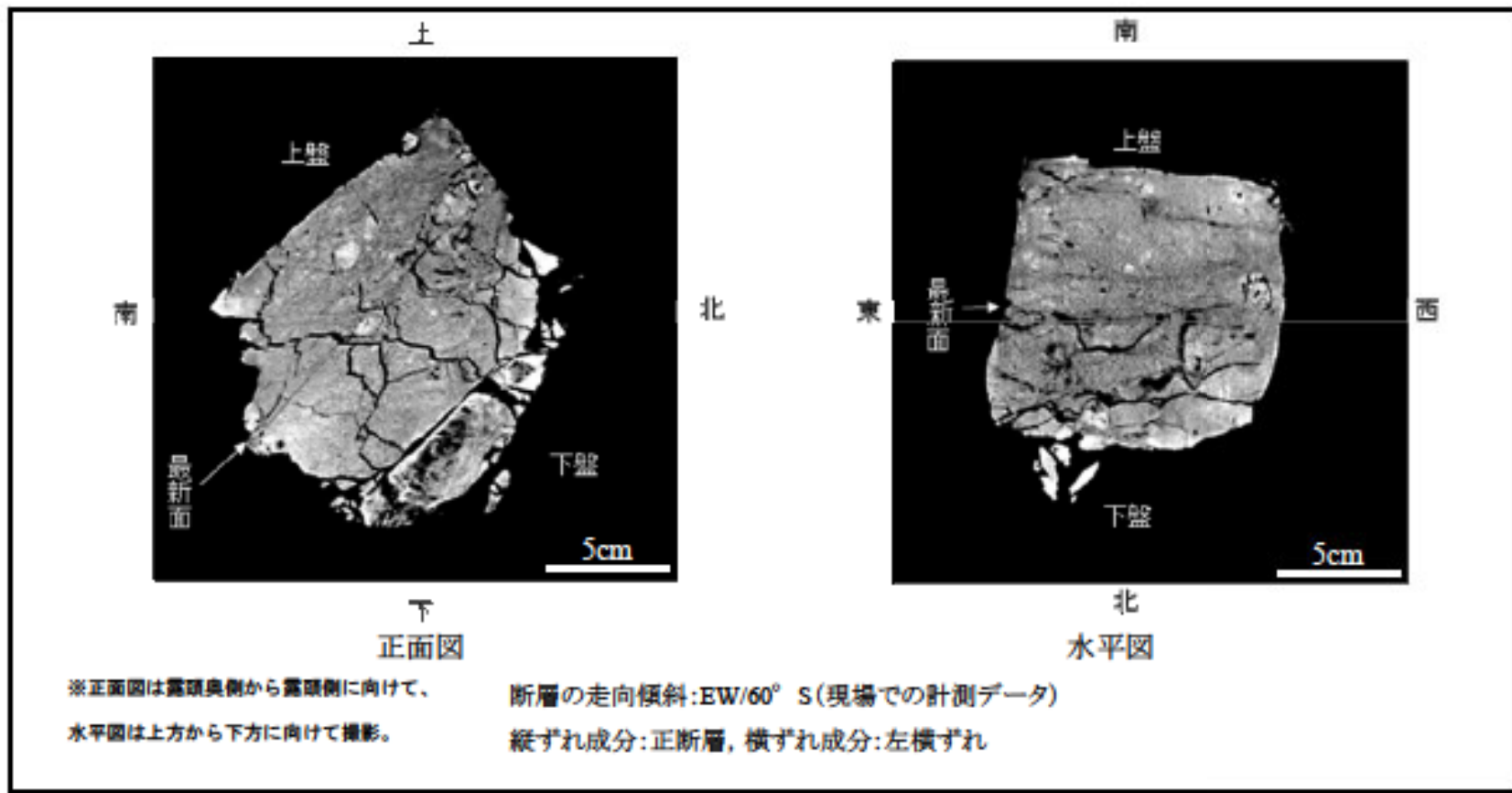
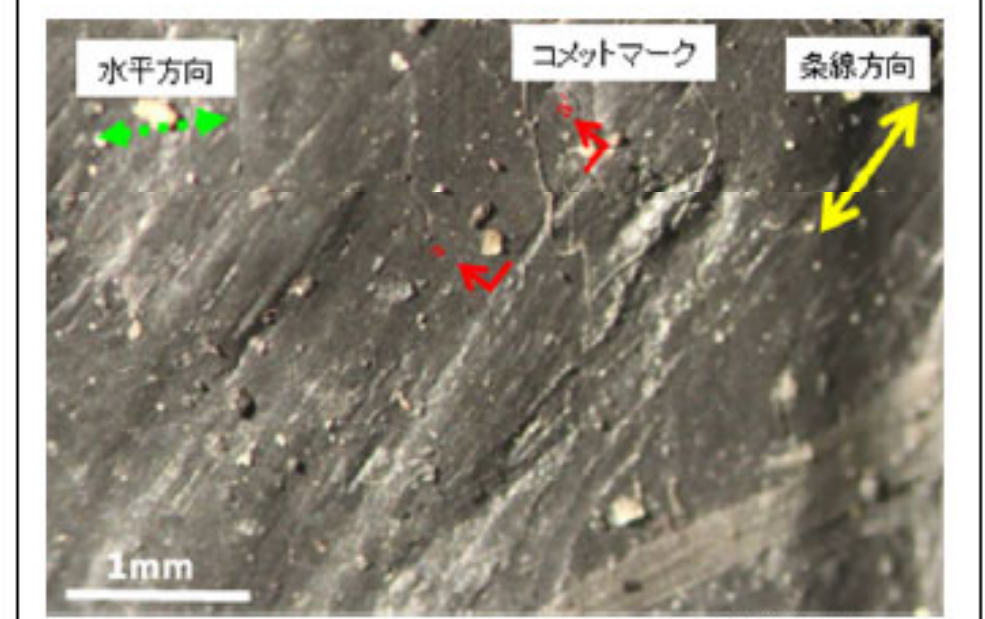
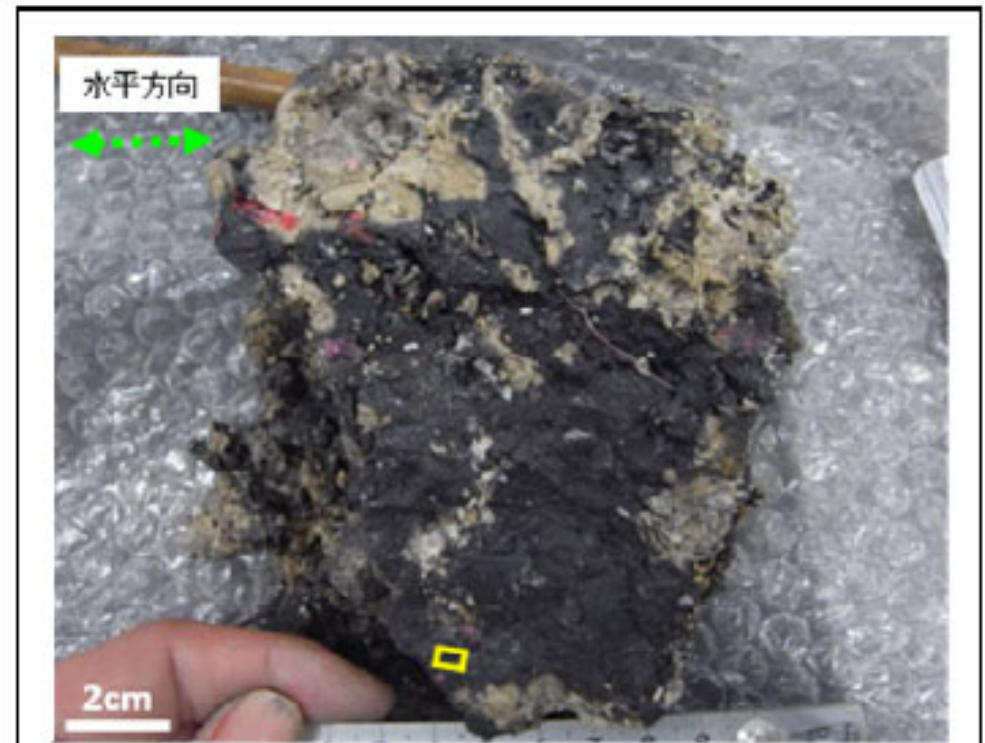
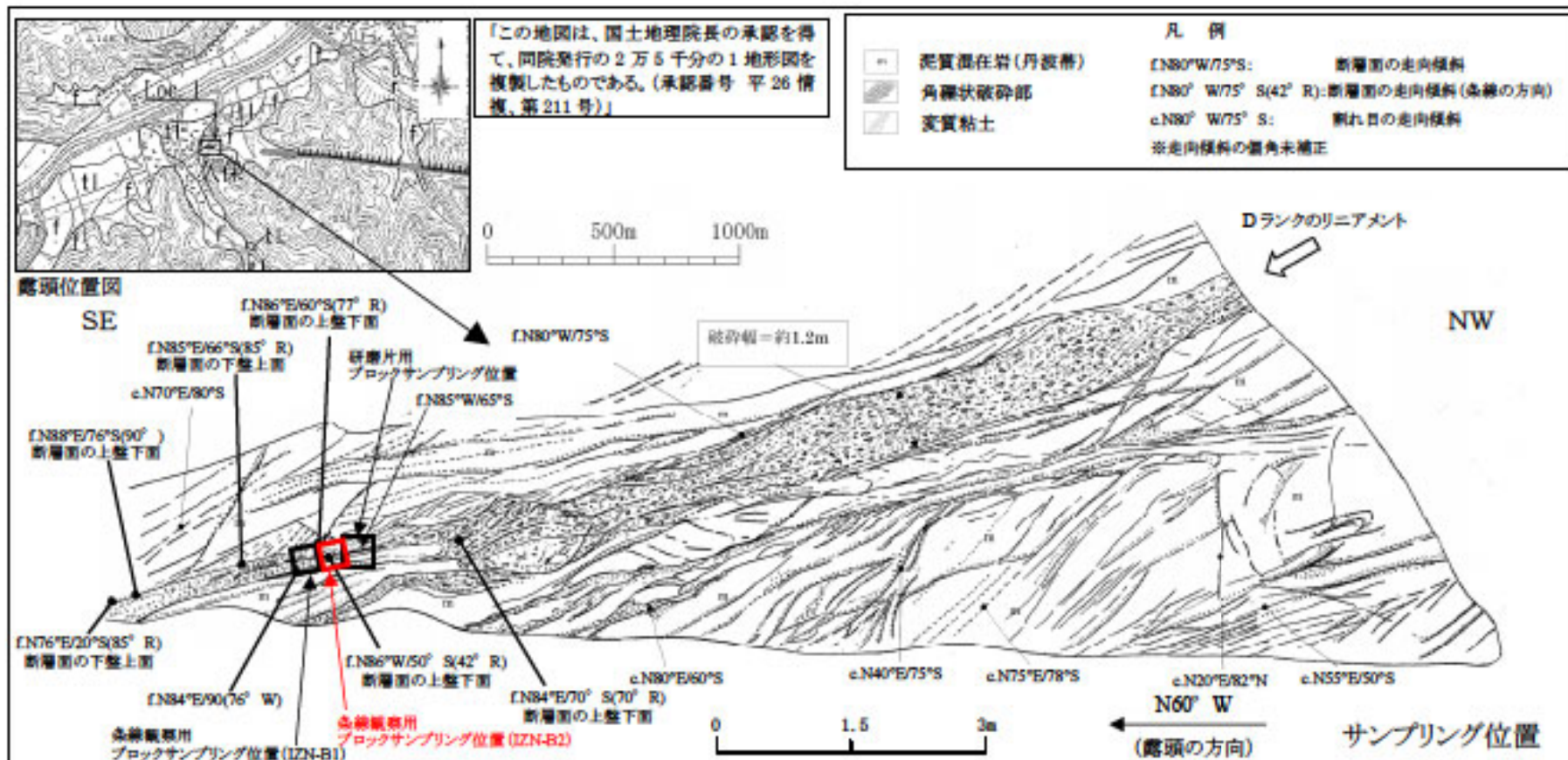


※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、
 水平図は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜: TN85° E/60° S (現場での計測データ)
 縦ずれ成分: 正断層, 横ずれ成分: 左横ずれ
 最新面はやや不明瞭である。
 最新面に沿う幅約1cm以下のゾーンでやや密度が低い。このゾーンは膨縮する。
 熱水変質により礫混じり粘土状破砕部が強く変質しており、露頭及び研磨片レベルでの膨縮が激しい。
 また活断層で見られるような粘土状破砕部の分帯あるいは積層構造は認められない。

- ・条線観察の結果、条線のレイクは20° Rであり、運動センスは左横ずれ正断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

第 3. 2. 115 図(1) 石山坂峠北リニアメント 条線観察結果 (Loc. 1、IZN-B1 試料)



- ・条線観察の結果、条線のレイクは45° Rであり、運動センスは左横ずれ正断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

第 3. 2. 115 図(2) 石山坂峠北リニアメント 条線観察結果(Loc. 1、IZN-B2 試料)
6-3-341

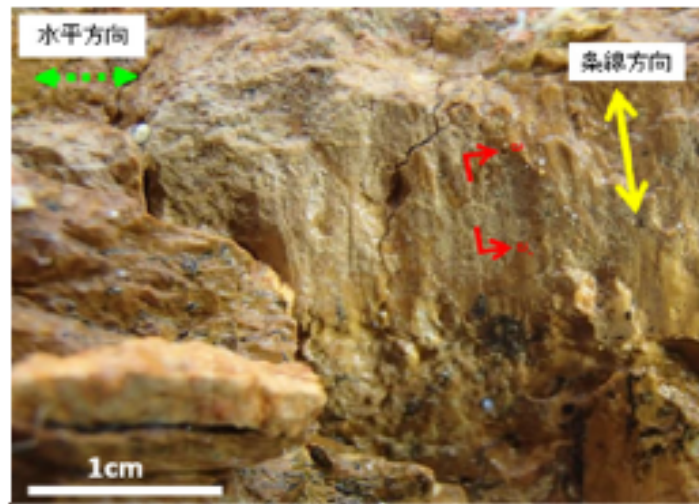


写真 a 断層面の下盤上面

断層面の走向/傾斜: TN88° W/66° S

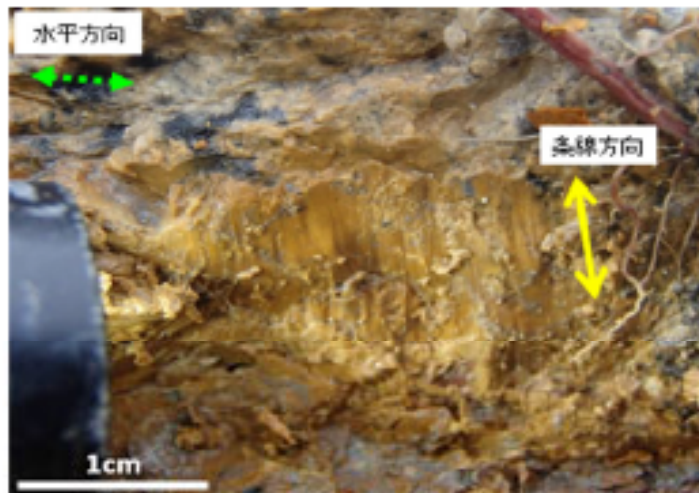


写真 b 断層面

断層面の走向/傾斜: TN89° W/90°

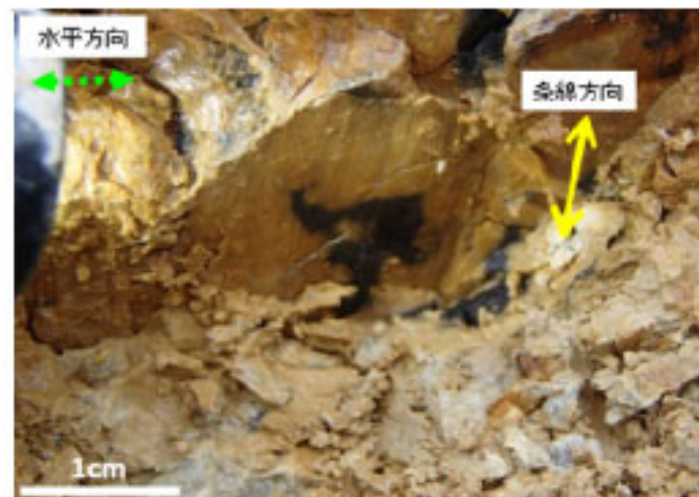


写真 c 断層面の上盤下面

断層面の走向/傾斜: TN87° W/60° S

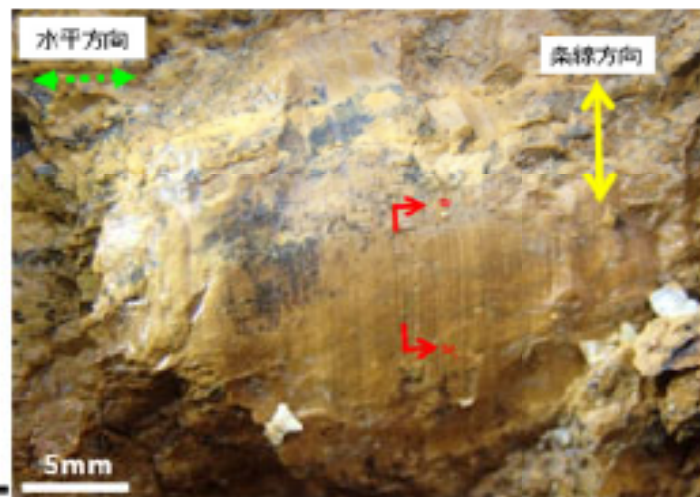


写真 d 断層面の上盤上面

断層面の走向/傾斜:
TN85° W/76° S



写真 e 断層面の上盤下面

断層面の走向/傾斜:
TN89° W/70° S

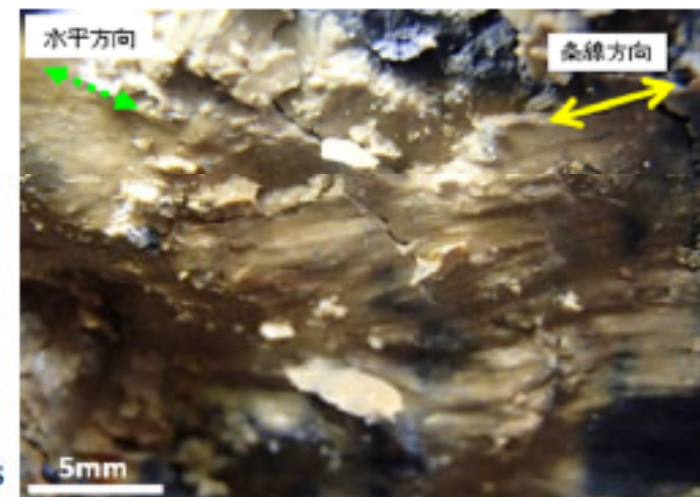


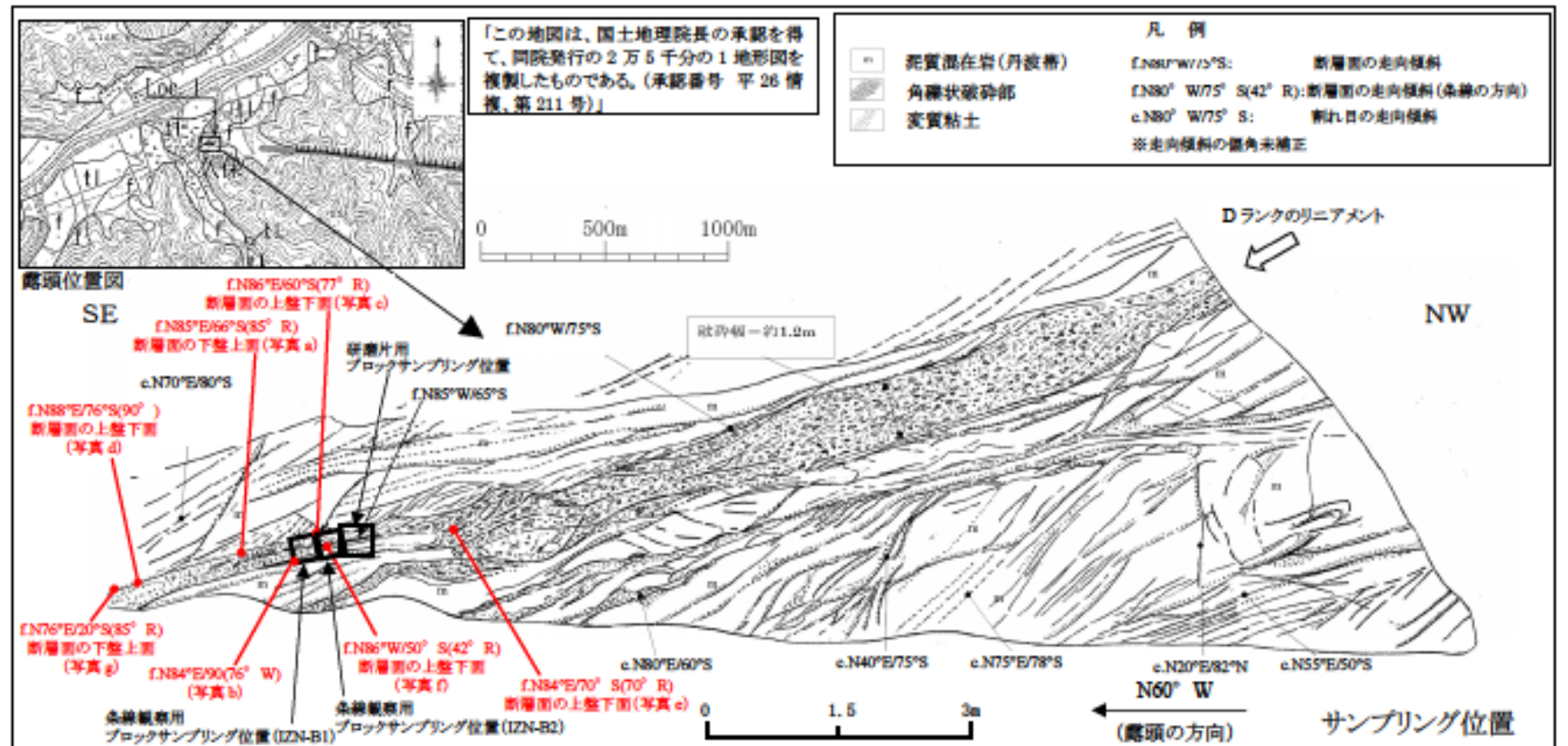
写真 f 断層面の上盤下面

断層面の走向/傾斜:
TN79° W/50° S



写真 g 断層面の下盤上面

断層面の走向/傾斜:
TN83° E/20° S
条線はやや不明瞭





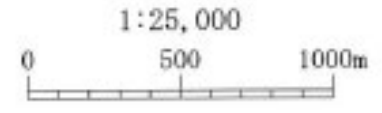
地形面の凡例

tl	低位段丘面
f	新期扇状地面
a	沖積面
r	人工改変地

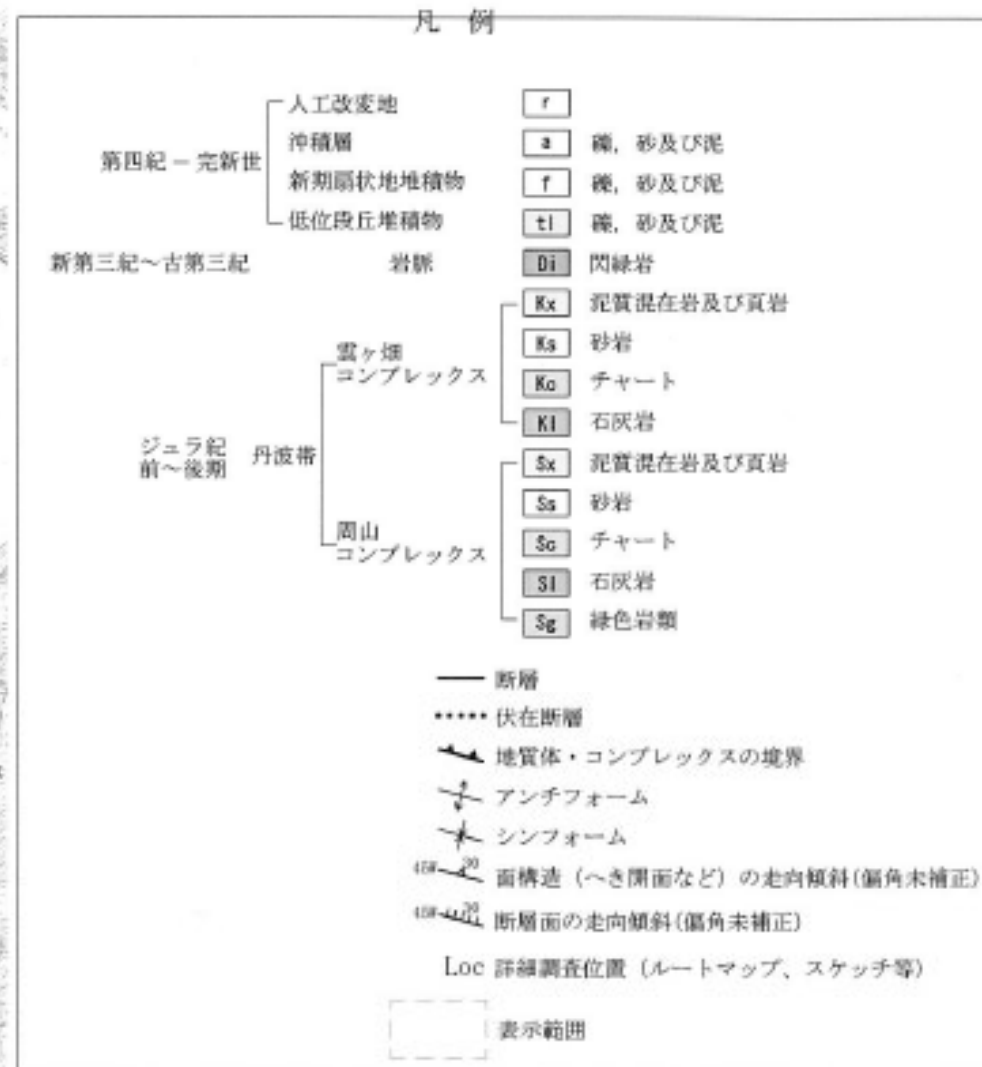
変動地形・リニアメントの凡例

---	Dランク 短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
—	主要リニアメント 岡田・東郷編(2000) ²⁰⁰ に記載されている断層組織地形を転記したもの
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
□	表示範囲

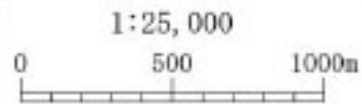
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」



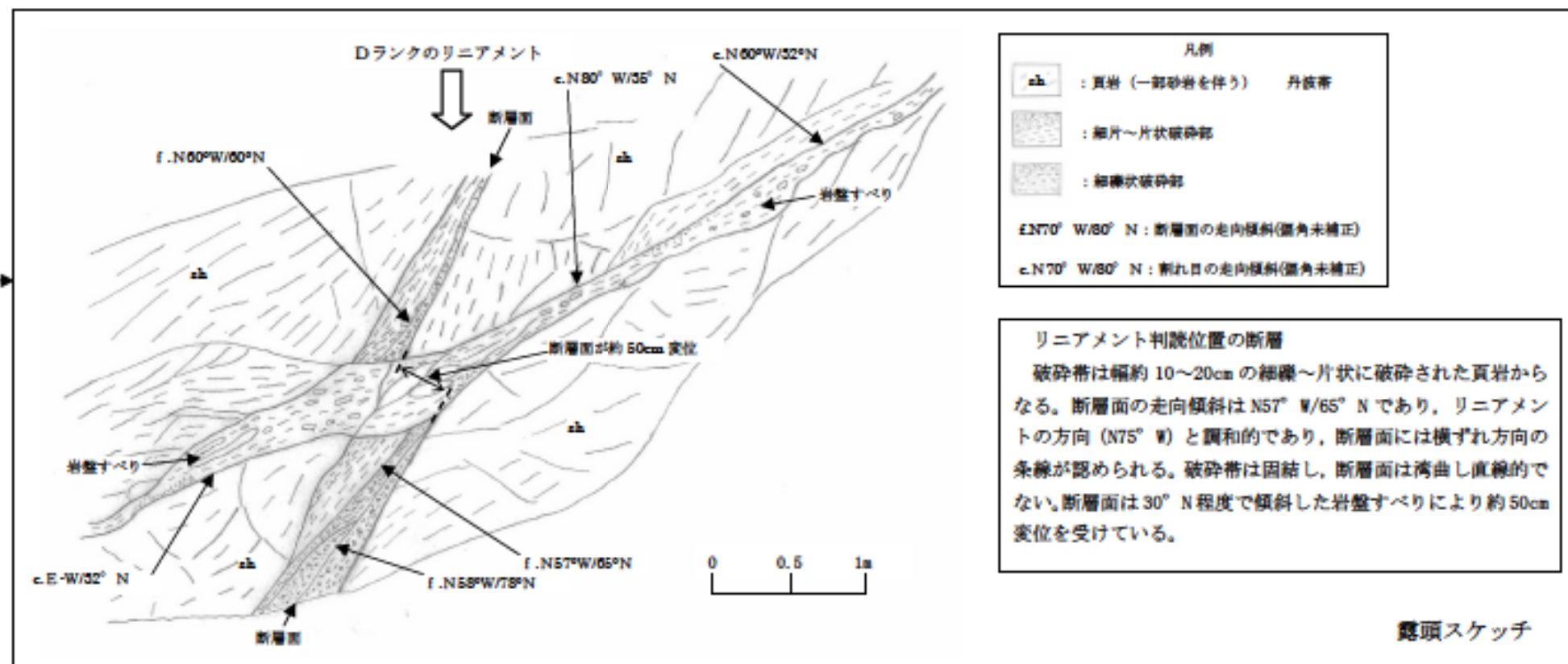
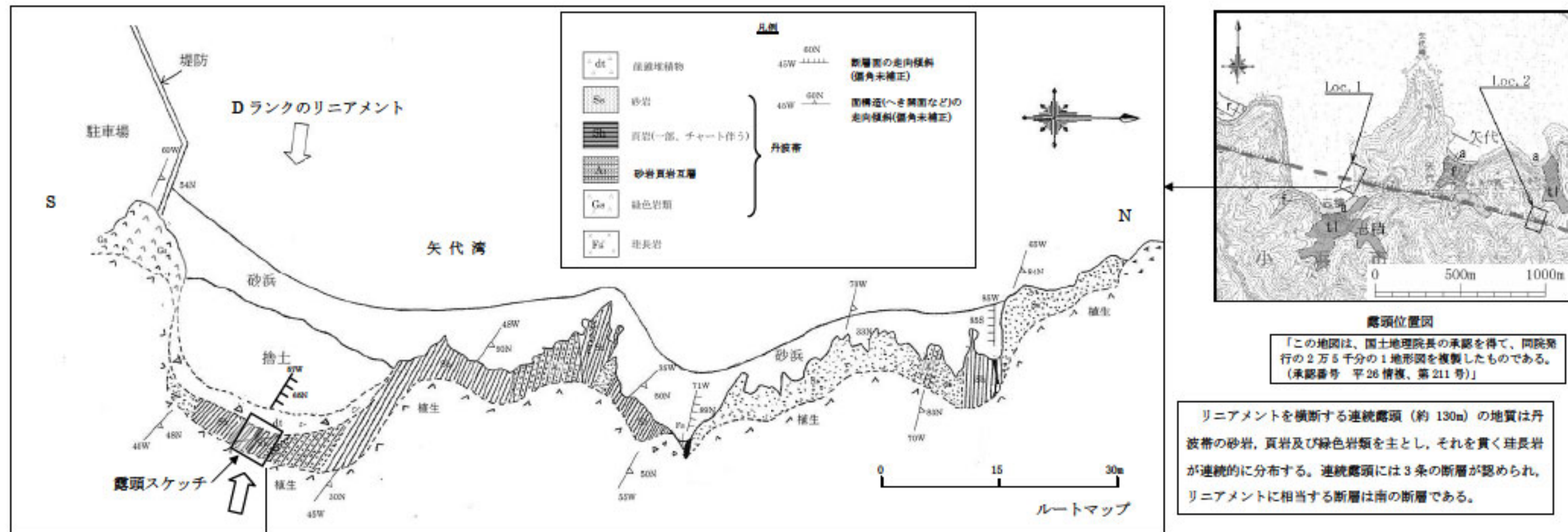
第3.2.116図 矢代リニアメント周辺の地形調査結果



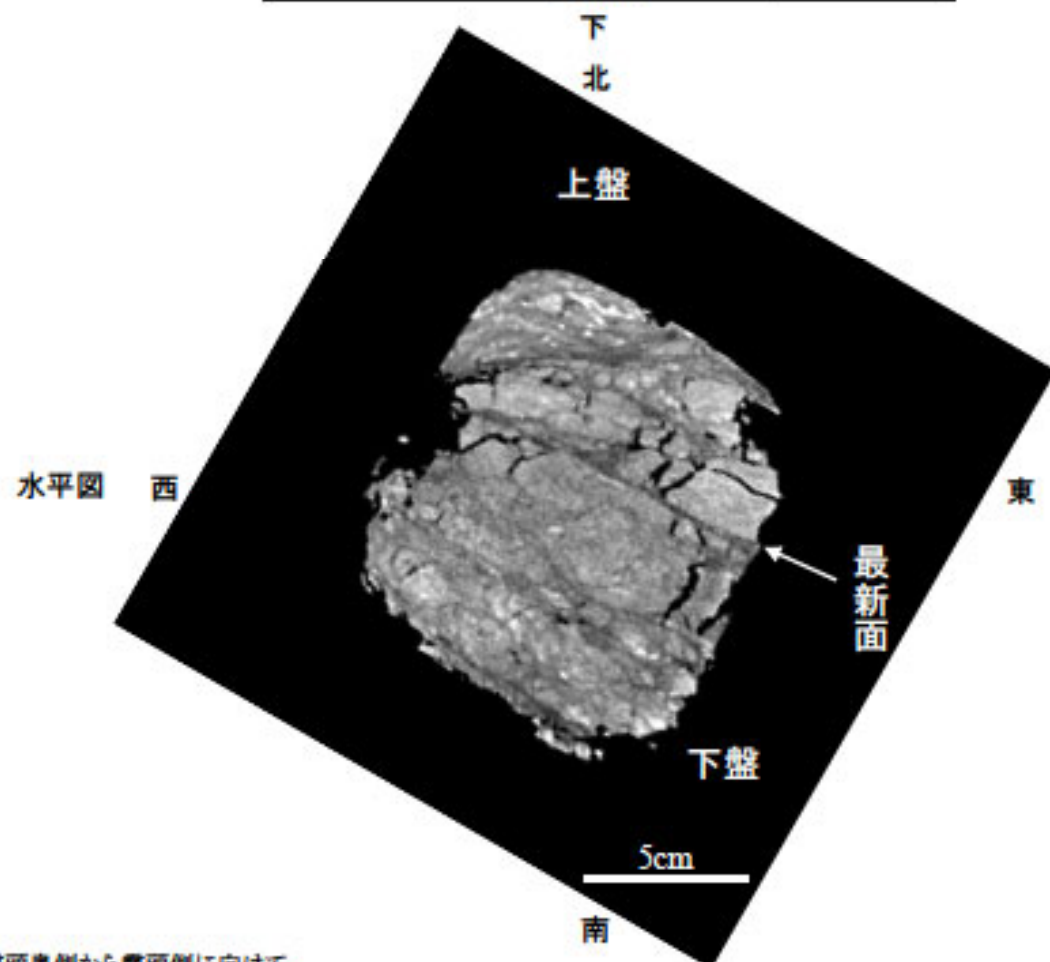
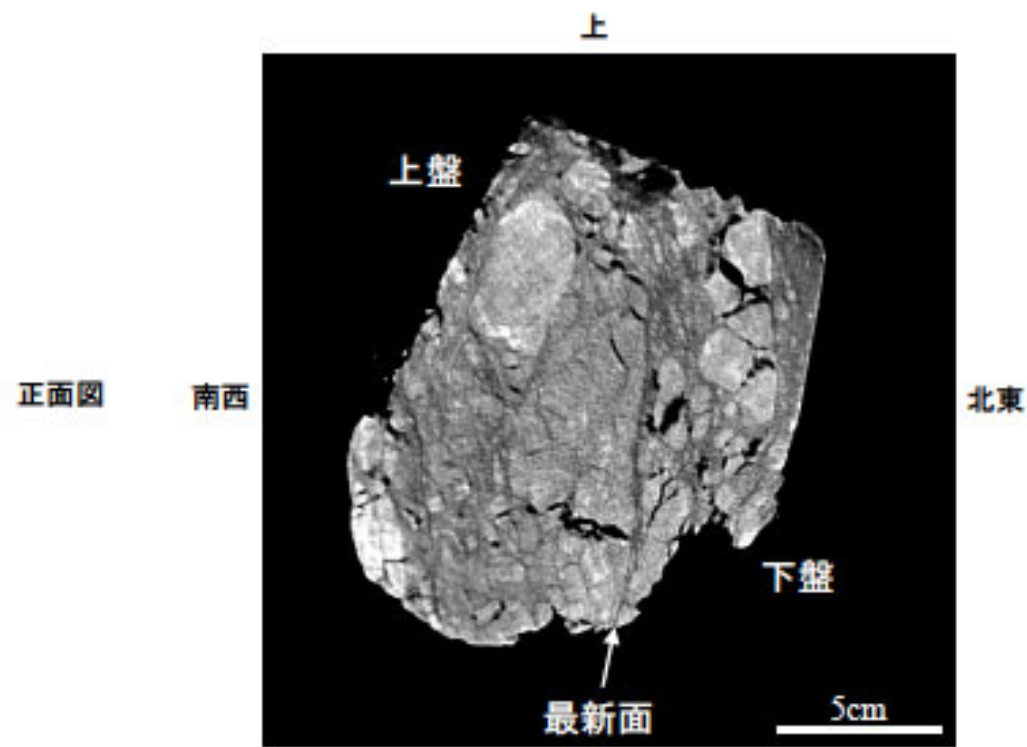
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」



第3.2.117図 矢代リニアメント周辺の地質図



第3.2.118図 矢代リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc.1)



※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、
水平面は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜: TN67W/85S (現場での計測データ)

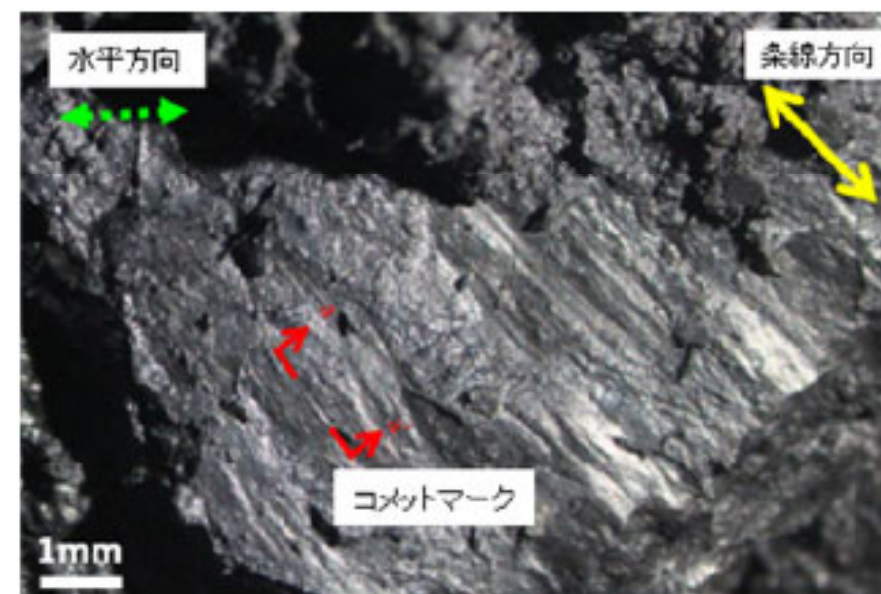
縦ずれ成分: 不明, 横ずれ成分: 右横ずれ

最新面はやや湾曲している。

最新面に沿う幅約 2mm のゾーンで密度が低い(粘土状破砕部)。



YS-B1(上盤下面)



断層面の走向

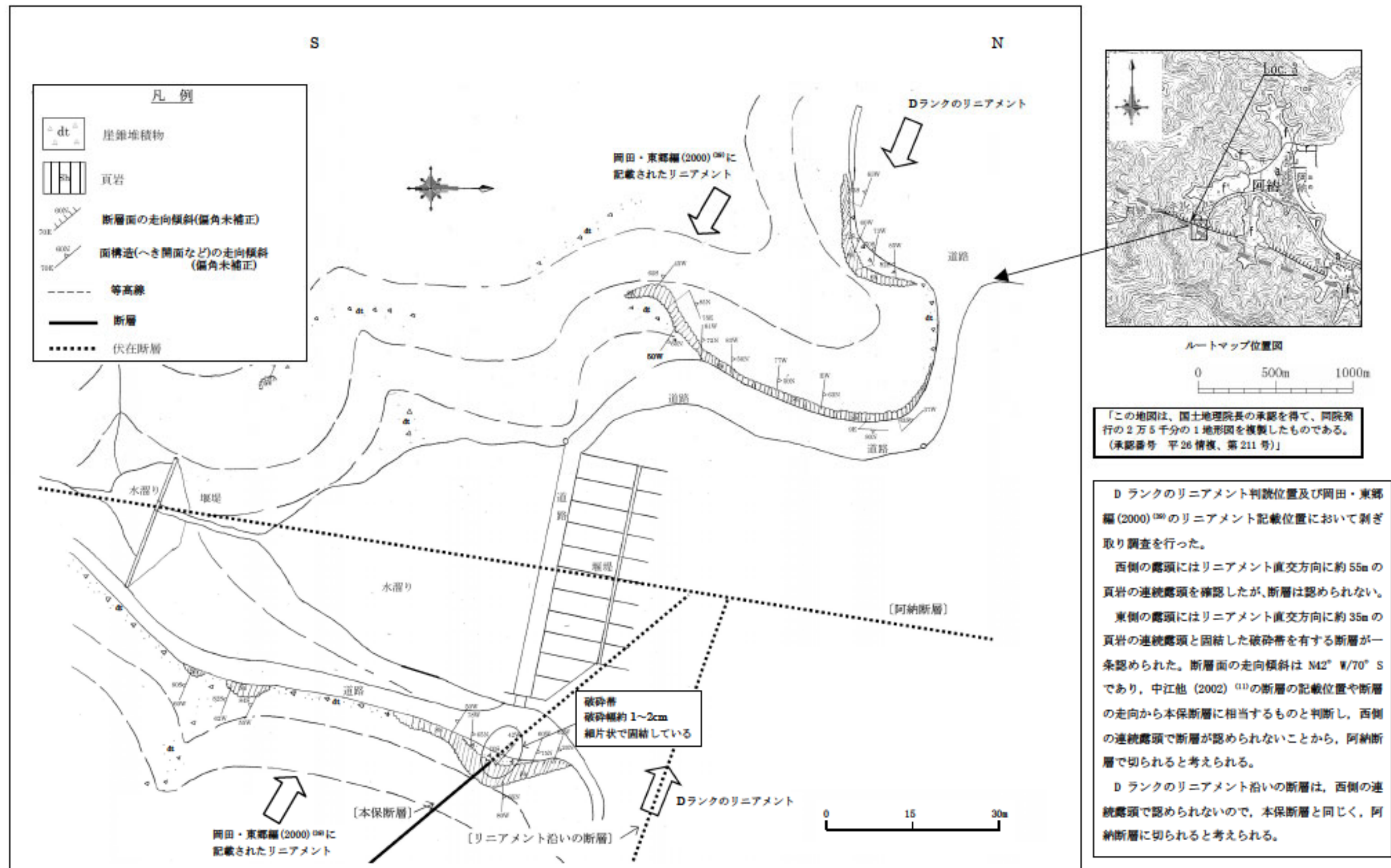


断層面の状況
右横ずれ正断層

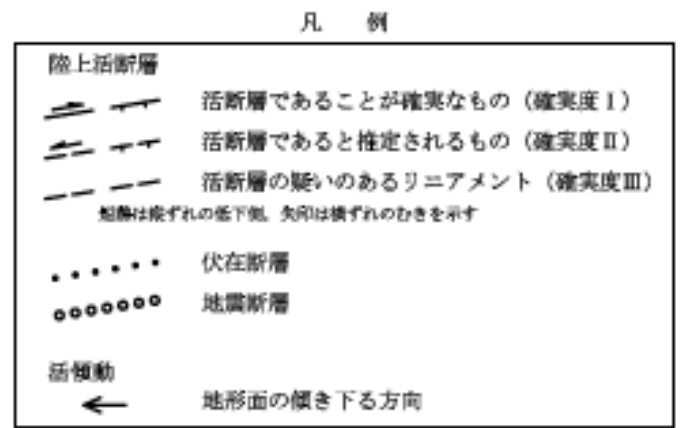
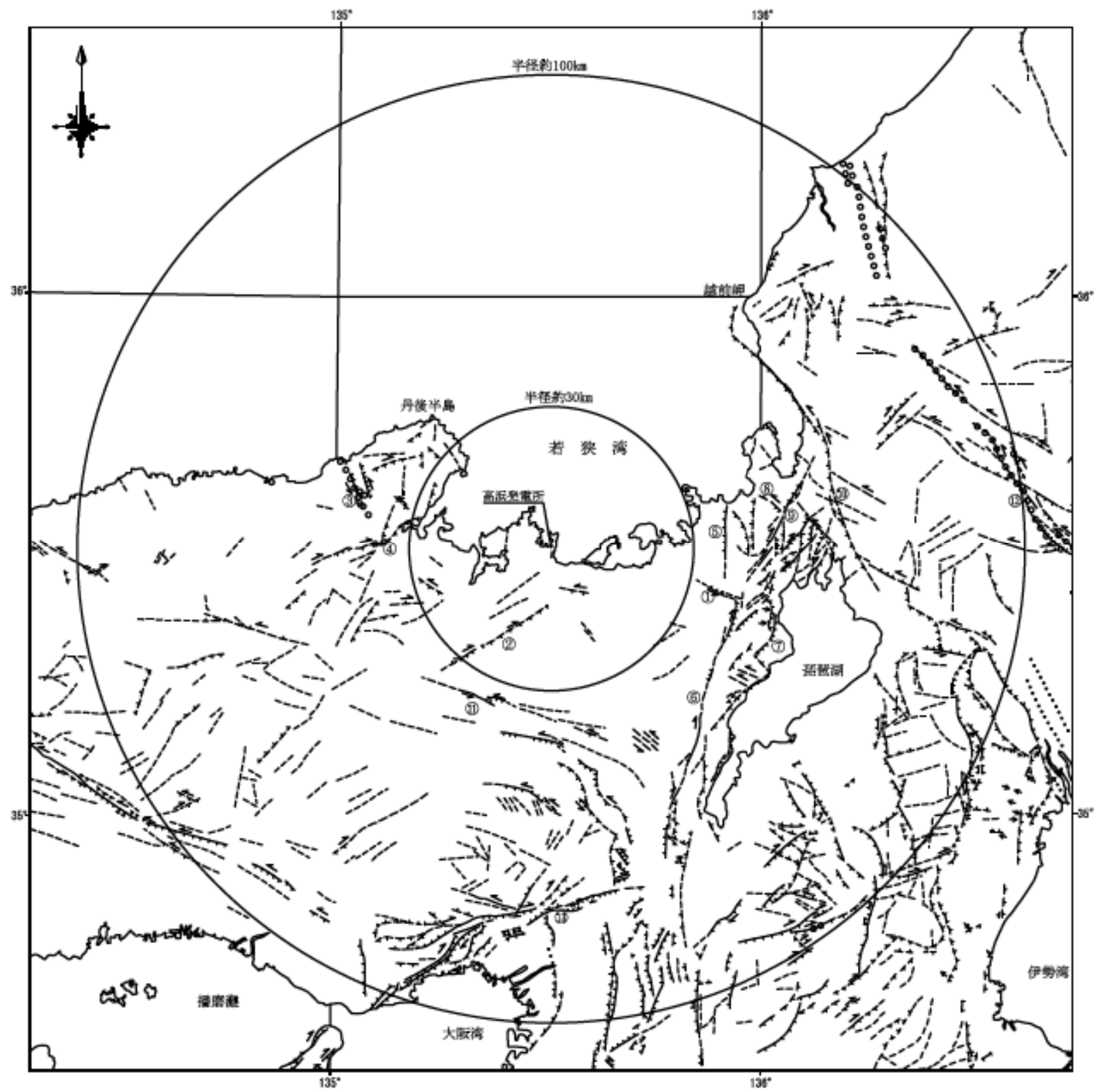


- 条線観察の結果、条線のレイクは50° Lであり、運動センスは右横ずれ正断層である。
- これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

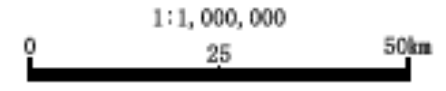
第 3. 2. 120 図 矢代リニアメント 条線観察結果 (Loc. 2、YS-B1 試料)



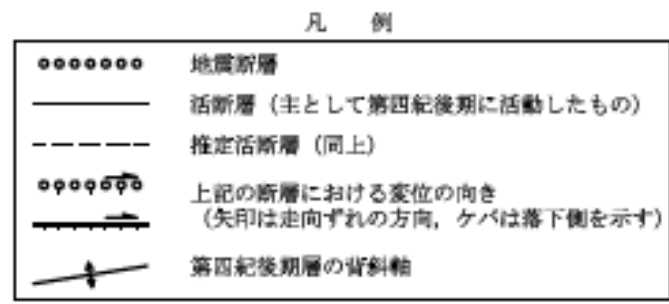
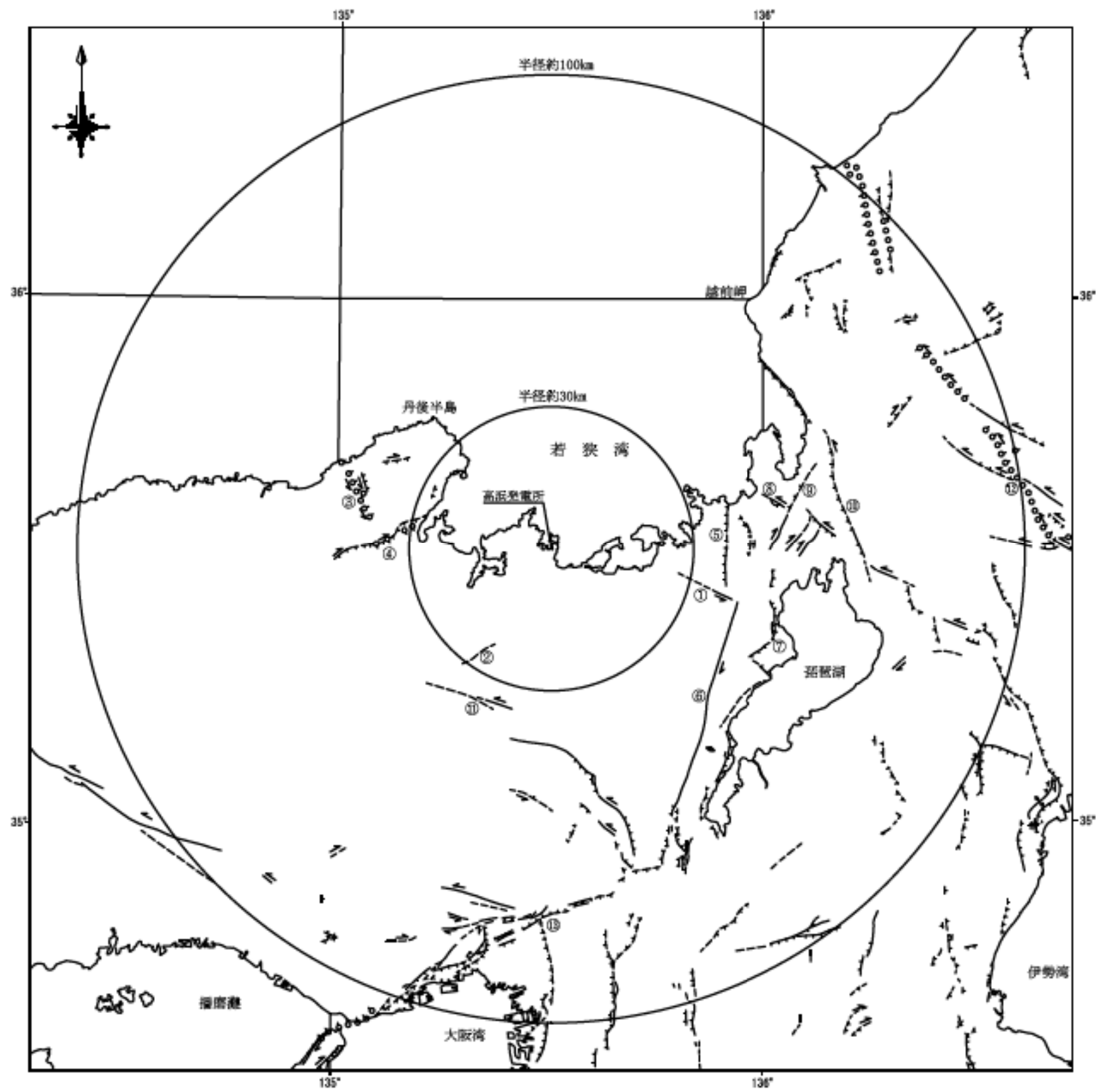
第3.2.121図 矢代リニアメント ルートマップ (Loc. 3)



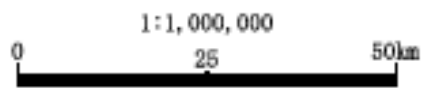
①	熊川断層
②	上林川断層
③	郷村断層
④	山田断層
⑤	三方断層
⑥	花折断層
⑦	琵琶湖西岸断層系
⑧	野坂断層
⑨	敦賀断層
⑩	柳ヶ瀬断層
⑪	三峠断層
⑫	濃尾地震断層系
⑬	有馬-高槻構造線



第3.2.122図 敷地周辺陸域の活断層分布図「[新編]日本の活断層」
(半径約100km)

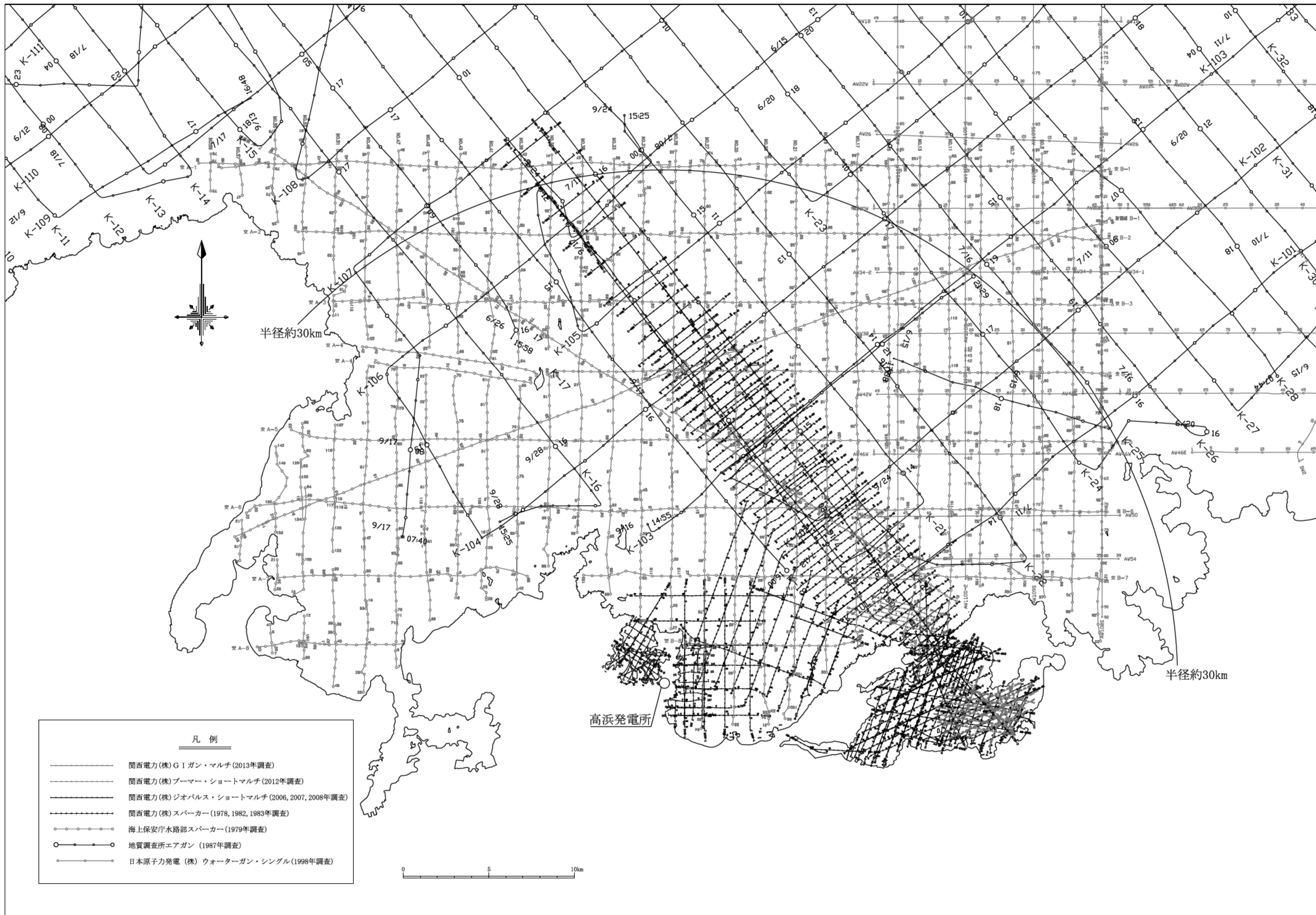


①	熊川断層
②	上林川断層
③	郷村断層
④	山田断層
⑤	三方断層
⑥	花折断層
⑦	琵琶湖西岸断層系
⑧	野坂断層
⑨	教賀断層
⑩	柳ヶ瀬断層
⑪	三峠断層
⑫	濃尾地震断層系
⑬	有馬-高槻構造線



※『50万分の1活構造図「岡山」「金沢」「京都(第2版)」』より作成

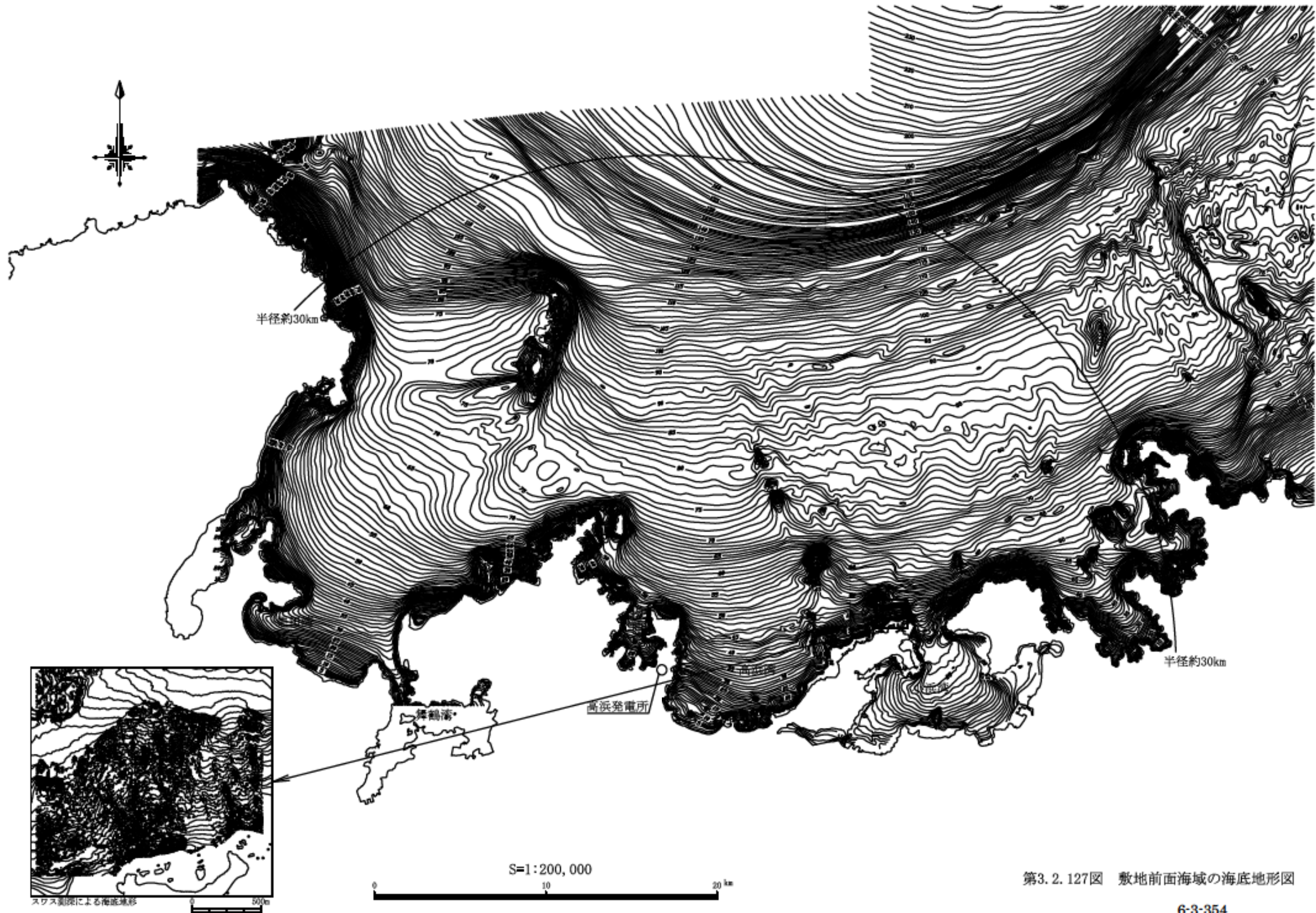
第3.2.123図 敷地周辺陸域の活断層分布図「活構造図」(半径約100km)



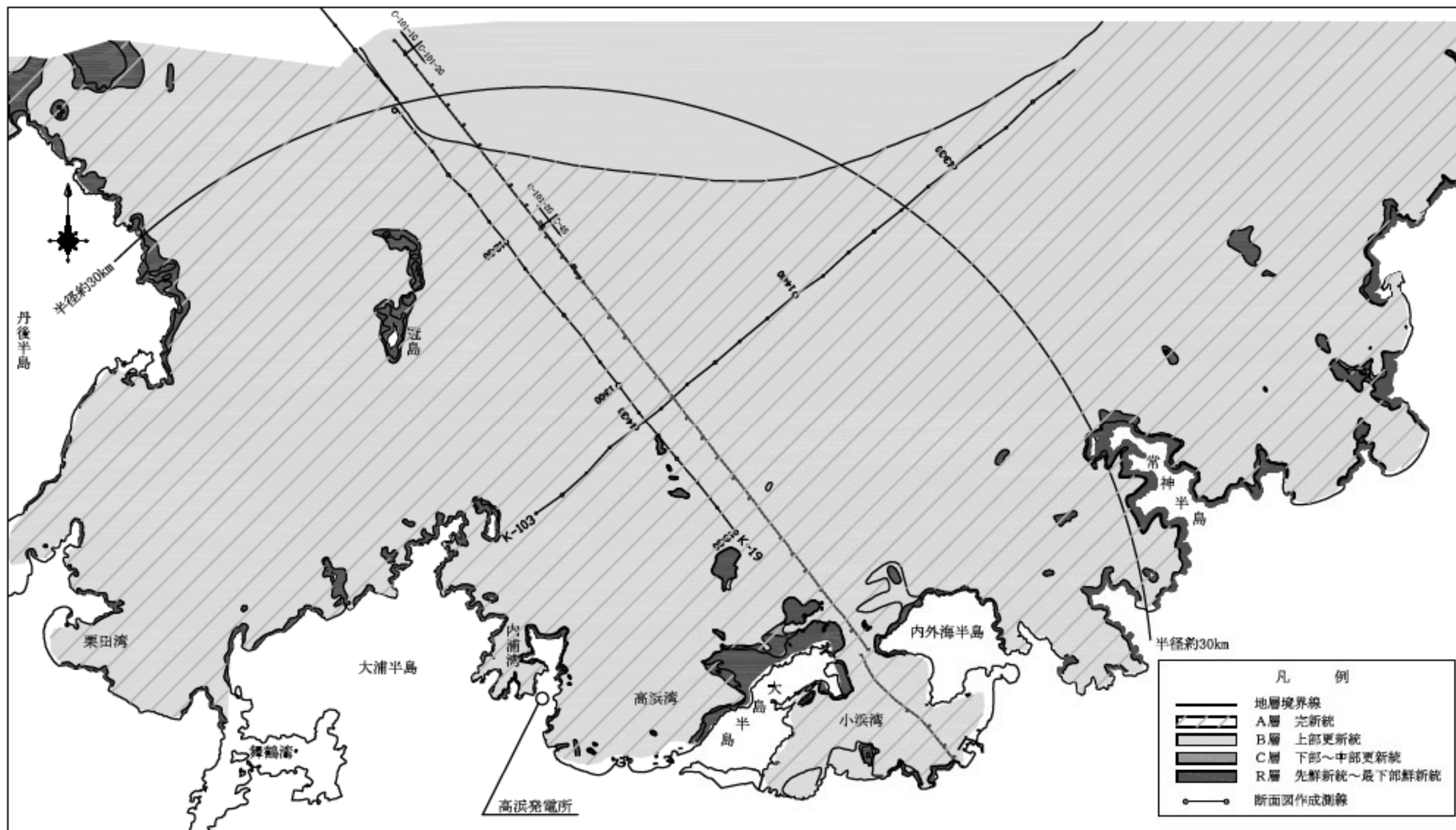
第3.2.124図 敷地前面海域の海上音波探査測線図



第3.2.126図 保安院調査による変形構造確認箇所付近の調査位置図



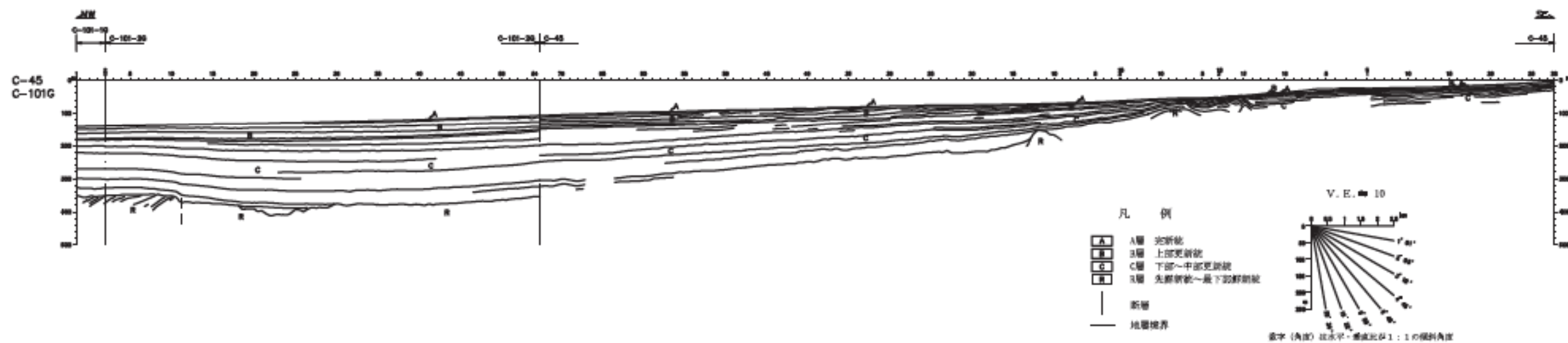
第3.2.127図 敷地前面海域の海底地形図



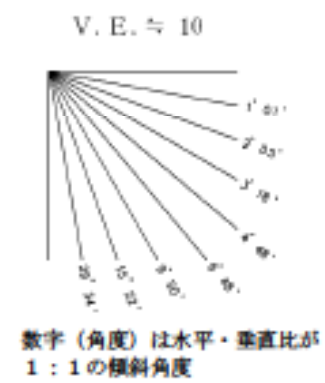
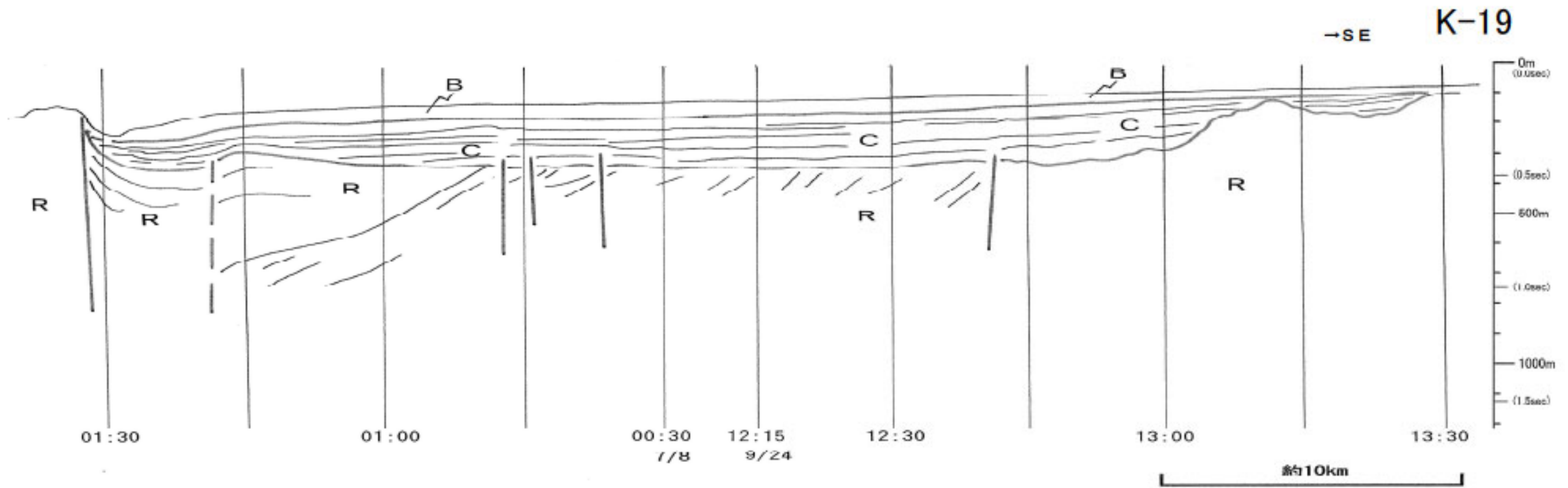
S=1:200,000



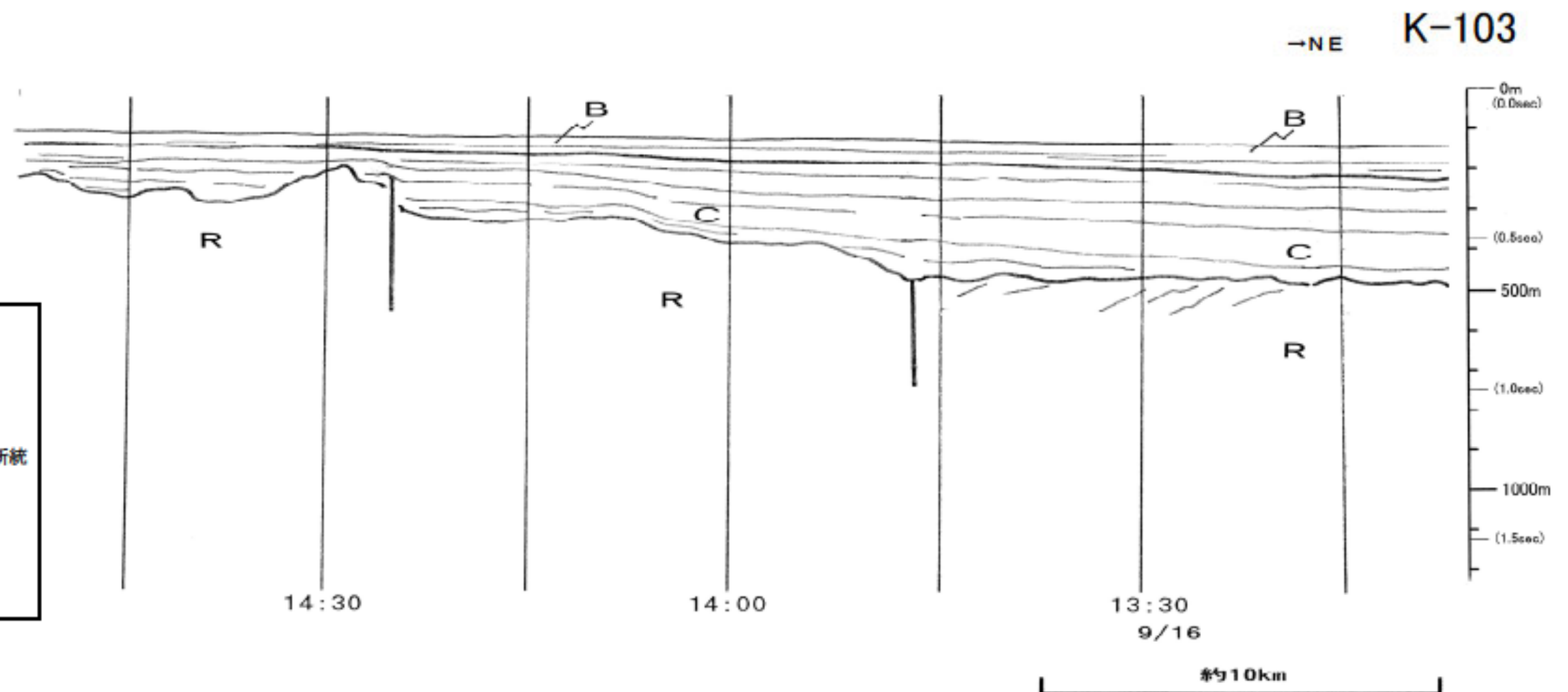
第3.2.128図 敷地前面海域の海底地質図



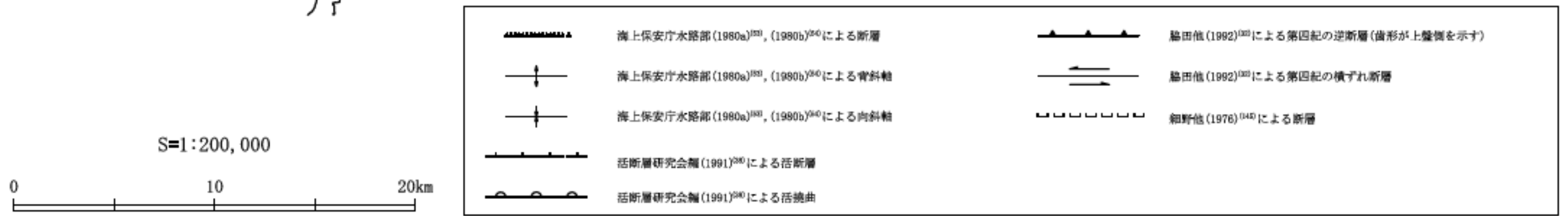
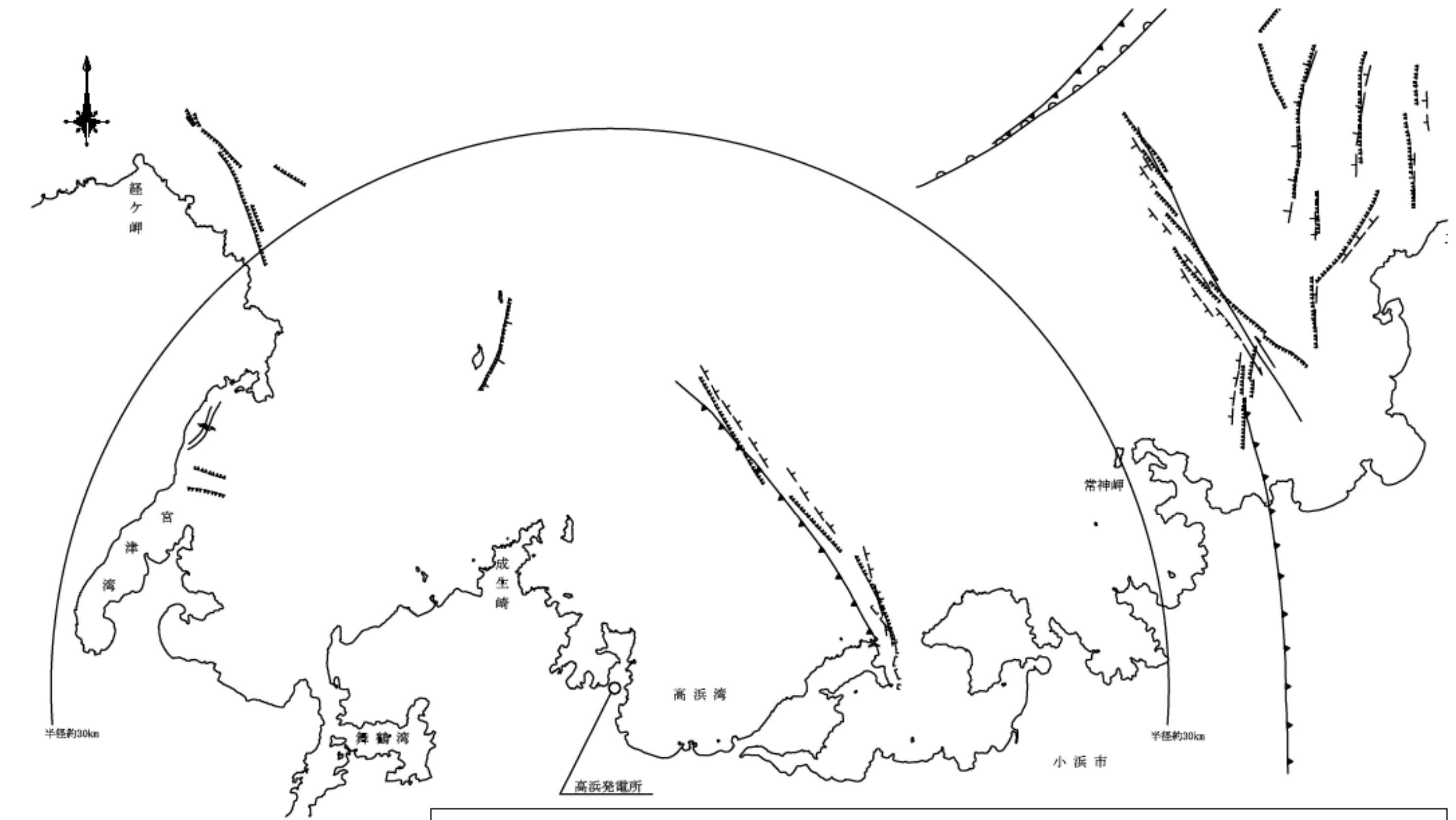
第3. 2. 129図(1) 敷地前面海域の地質断面図(1)



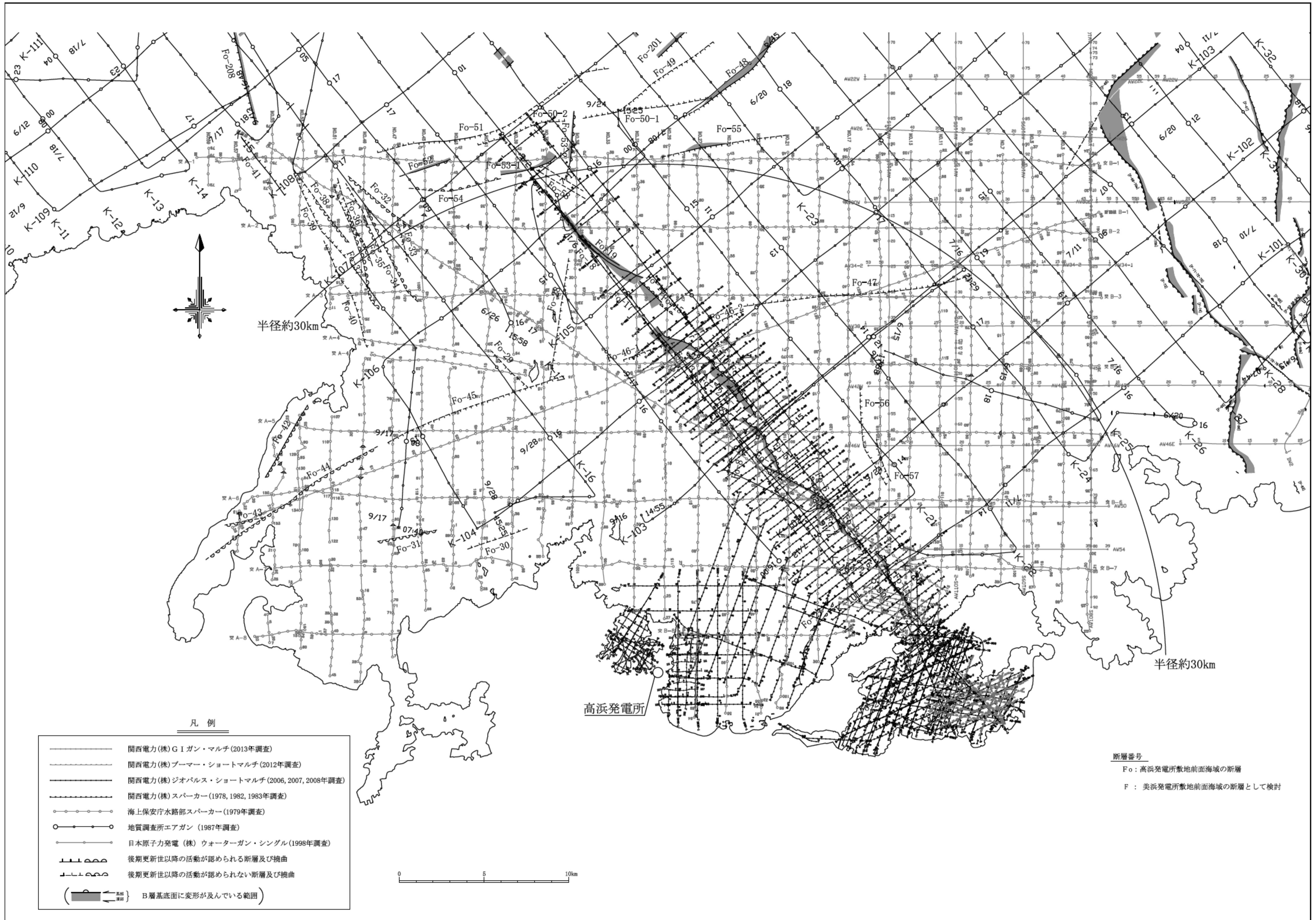
凡例	
A層	完新統
B層	上部更新統
C層	下部～中部更新統
R層	先鮮新統～最下部鮮新統
	断層
	地質境界



第3.2.129図(2) 敷地前面海域の地質断面図(2)



第3.2.130図 敷地前面海域の文献断層分布図
6-3-358



凡例

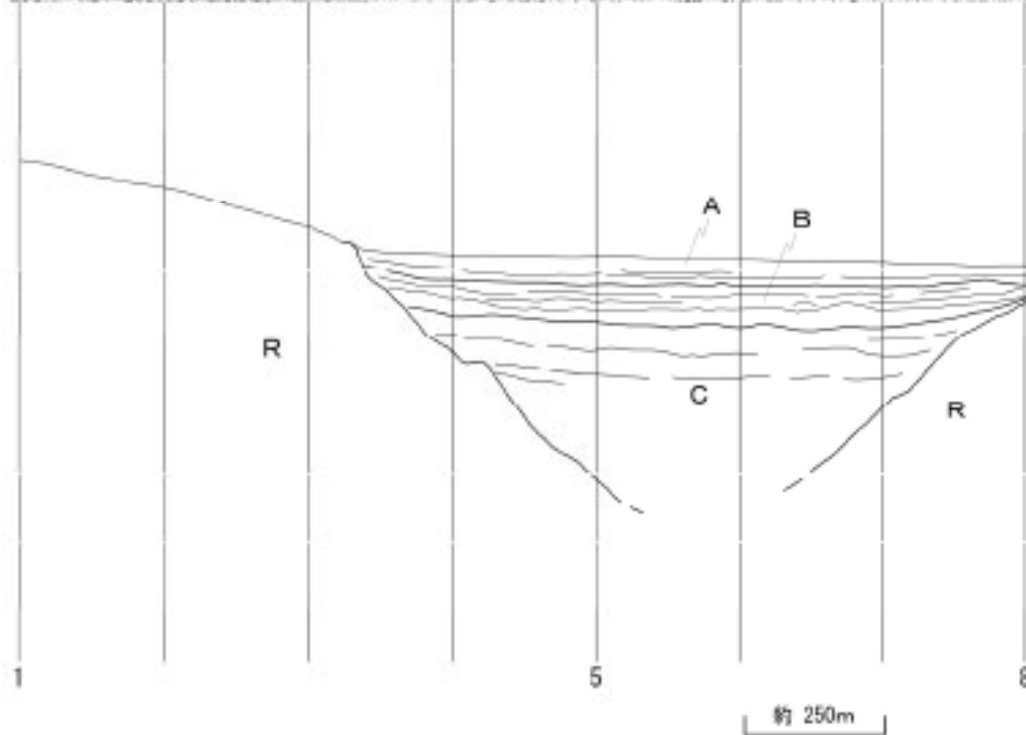
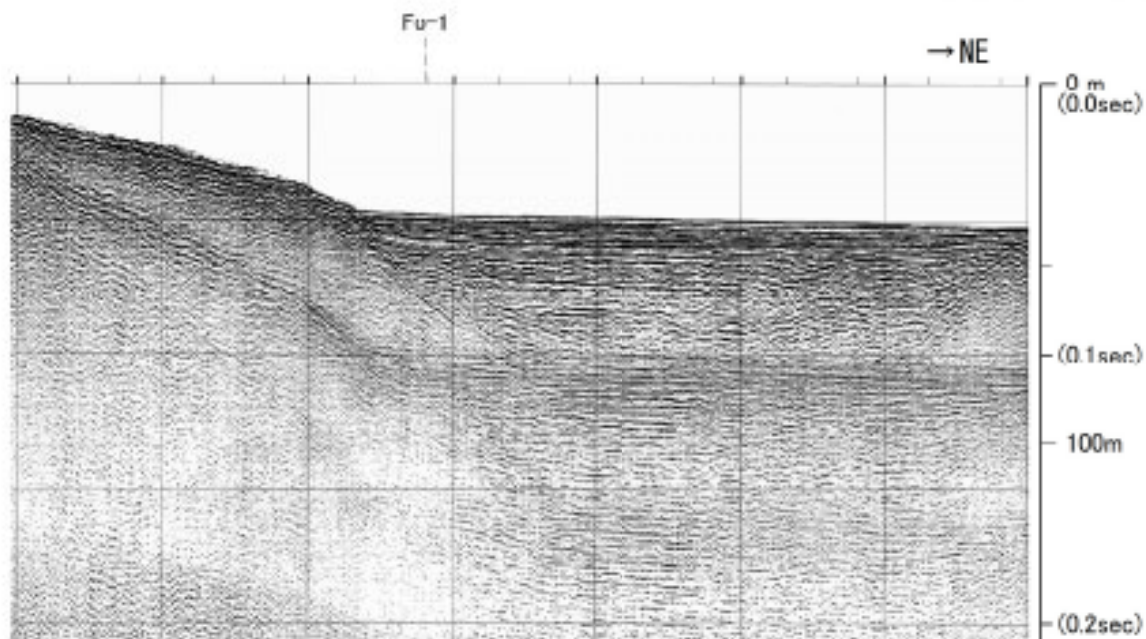
- 関西電力(株) G I ガン・マルチ (2013年調査)
- - - 関西電力(株) プーマー・ショートマルチ (2012年調査)
- 関西電力(株) ジオバルス・ショートマルチ (2006, 2007, 2008年調査)
- 関西電力(株) スパークー (1978, 1982, 1983年調査)
- ○ ○ ○ 海上保安庁水路部スパークー (1979年調査)
- ○ ○ ○ 地質調査所エアガン (1987年調査)
- ○ ○ ○ 日本原子力発電(株) ウォーターガン・シングル (1998年調査)
- ||||| 後期更新世以降の活動が認められる断層及び拗曲
- ||||| 後期更新世以降の活動が認められない断層及び拗曲
- { } B層基底面に变形が及んでいる範囲

- 断層番号
- Fo : 高浜発電所敷地前面海域の断層
 - F : 美浜発電所敷地前面海域の断層として検討

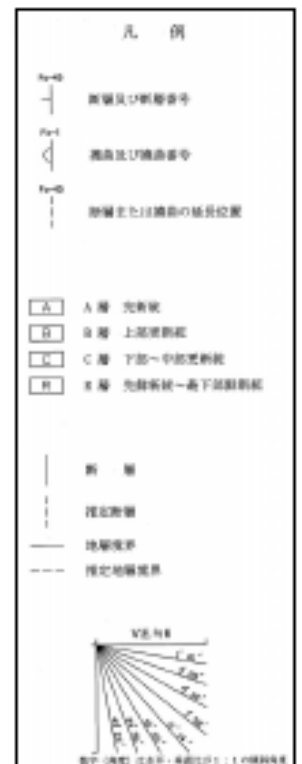
第3.2.131図 敷地前面海域の断層分布図

C-2G

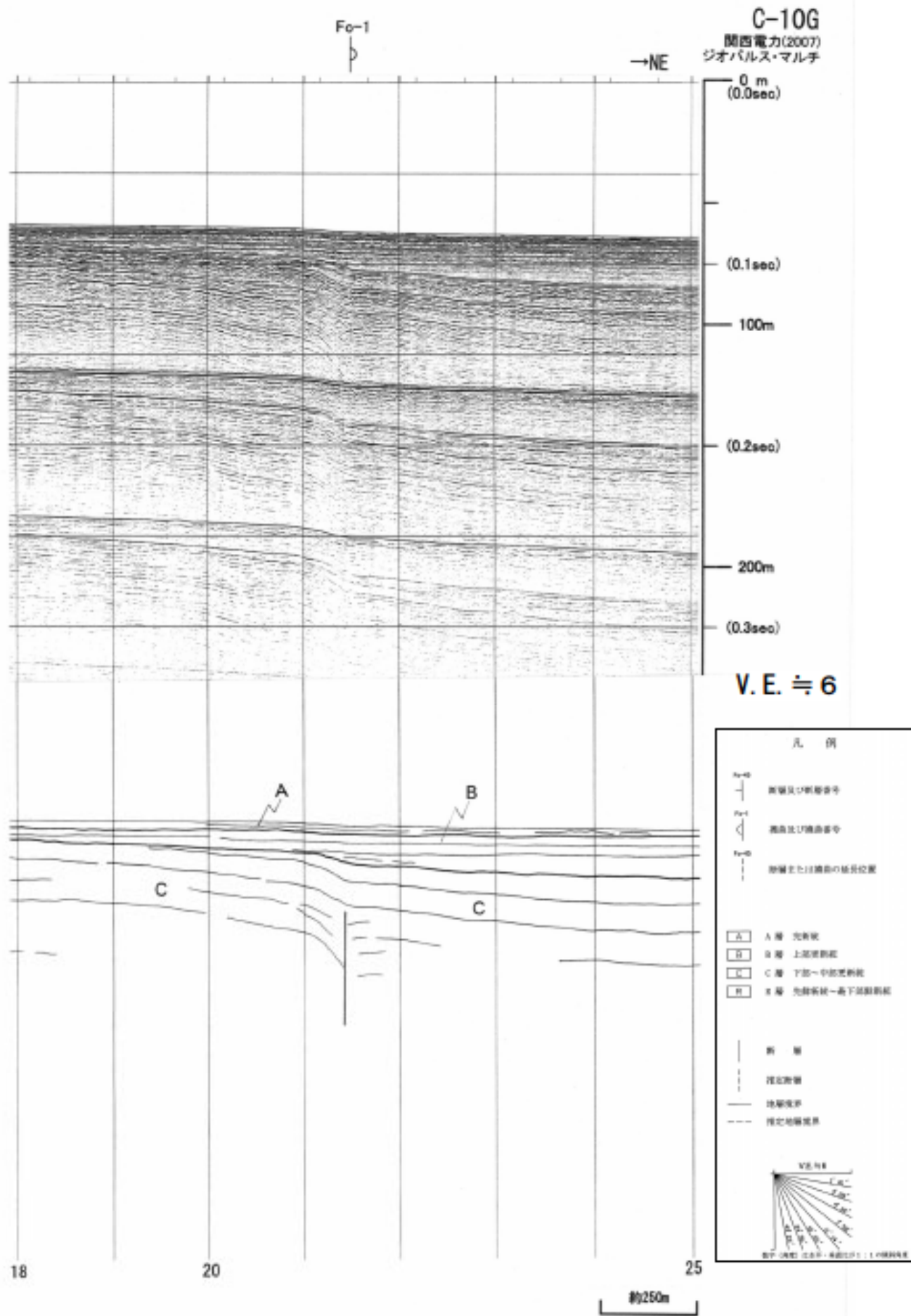
関西電力(2007)
ジオバルス・マルチ



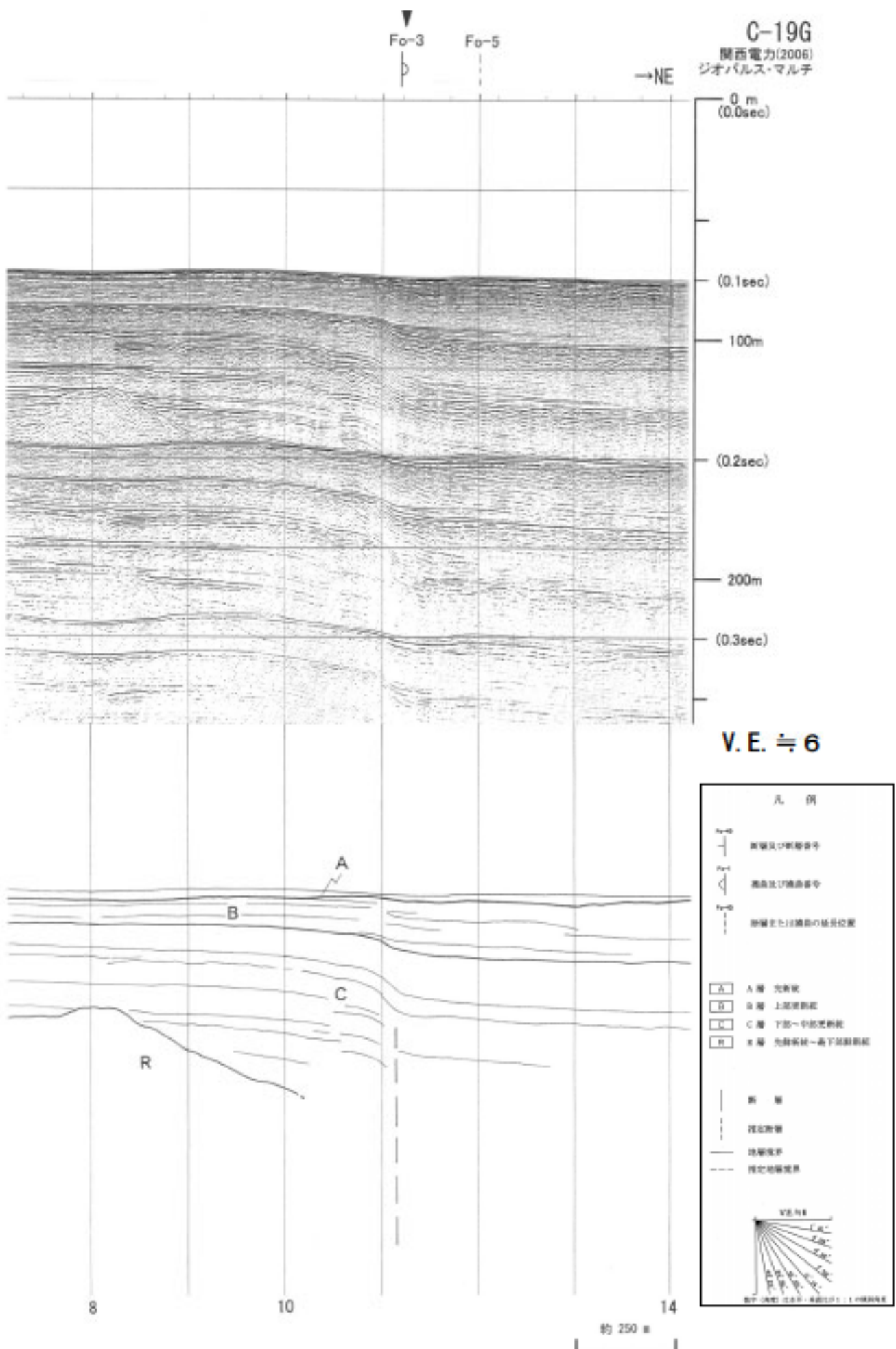
V.E. ≒ 6



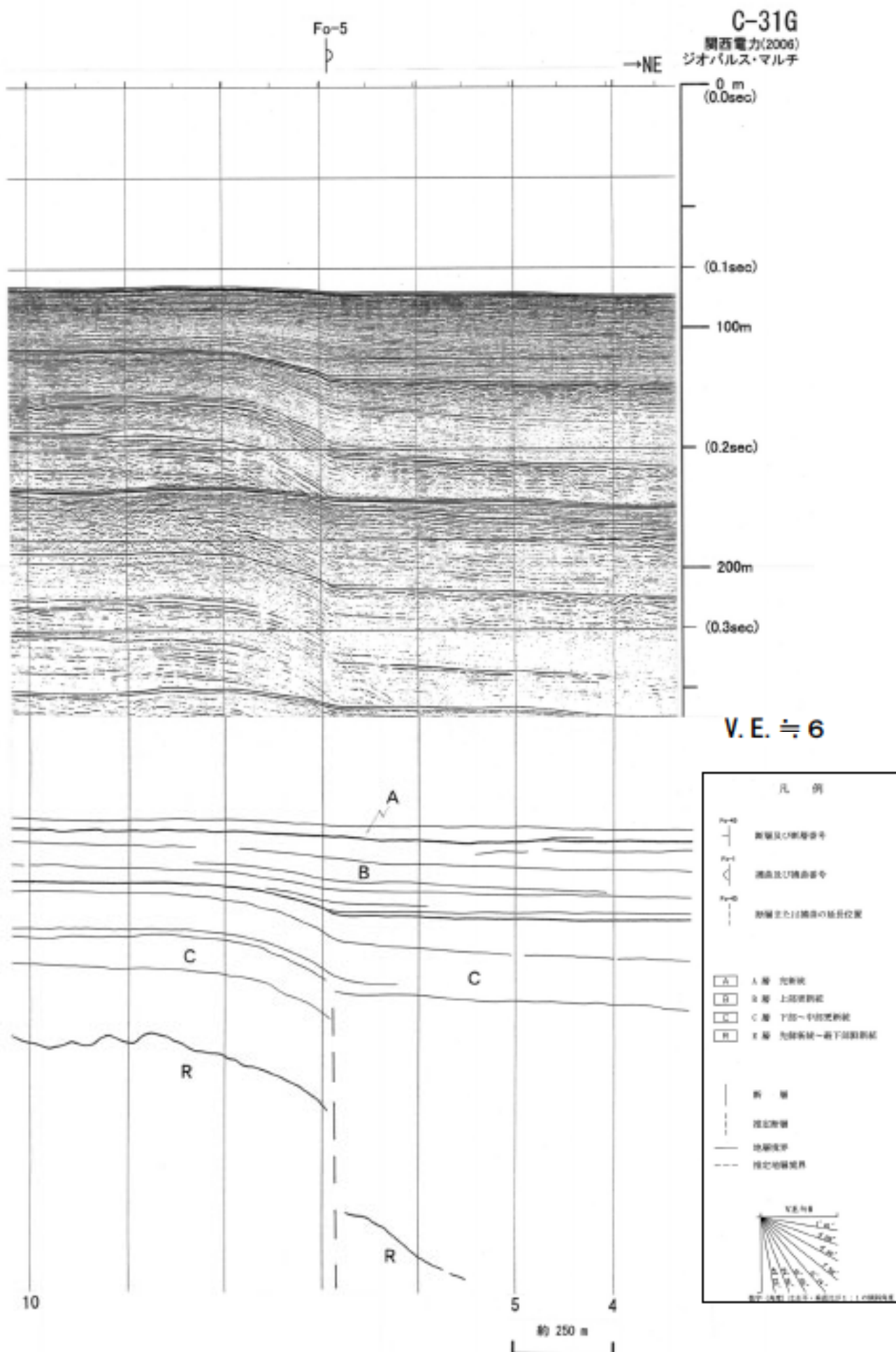
第 3.2.132 図(1) FO-A断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-2G)



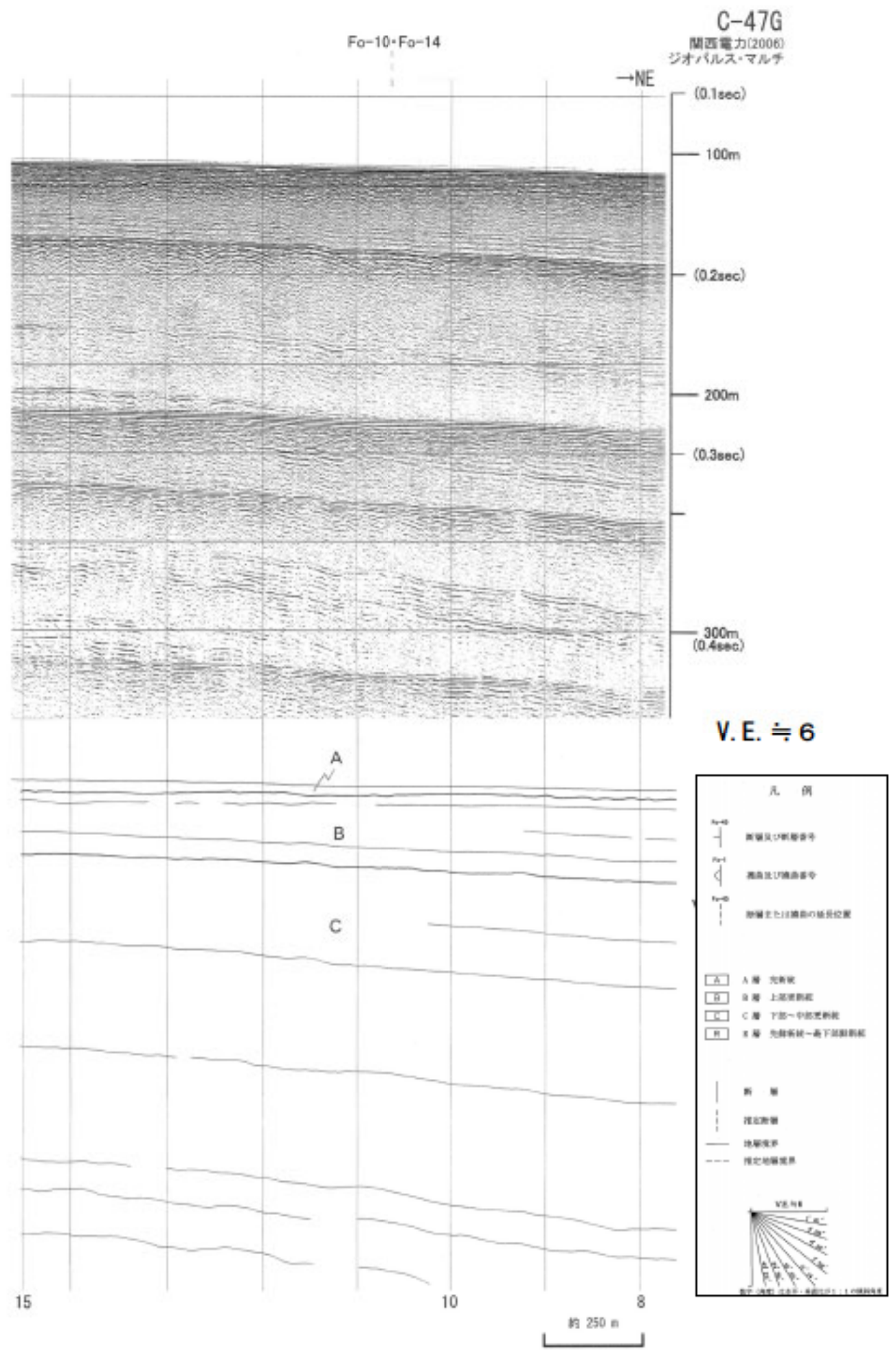
第 3. 2. 132 図(2) FO-A断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-10G)



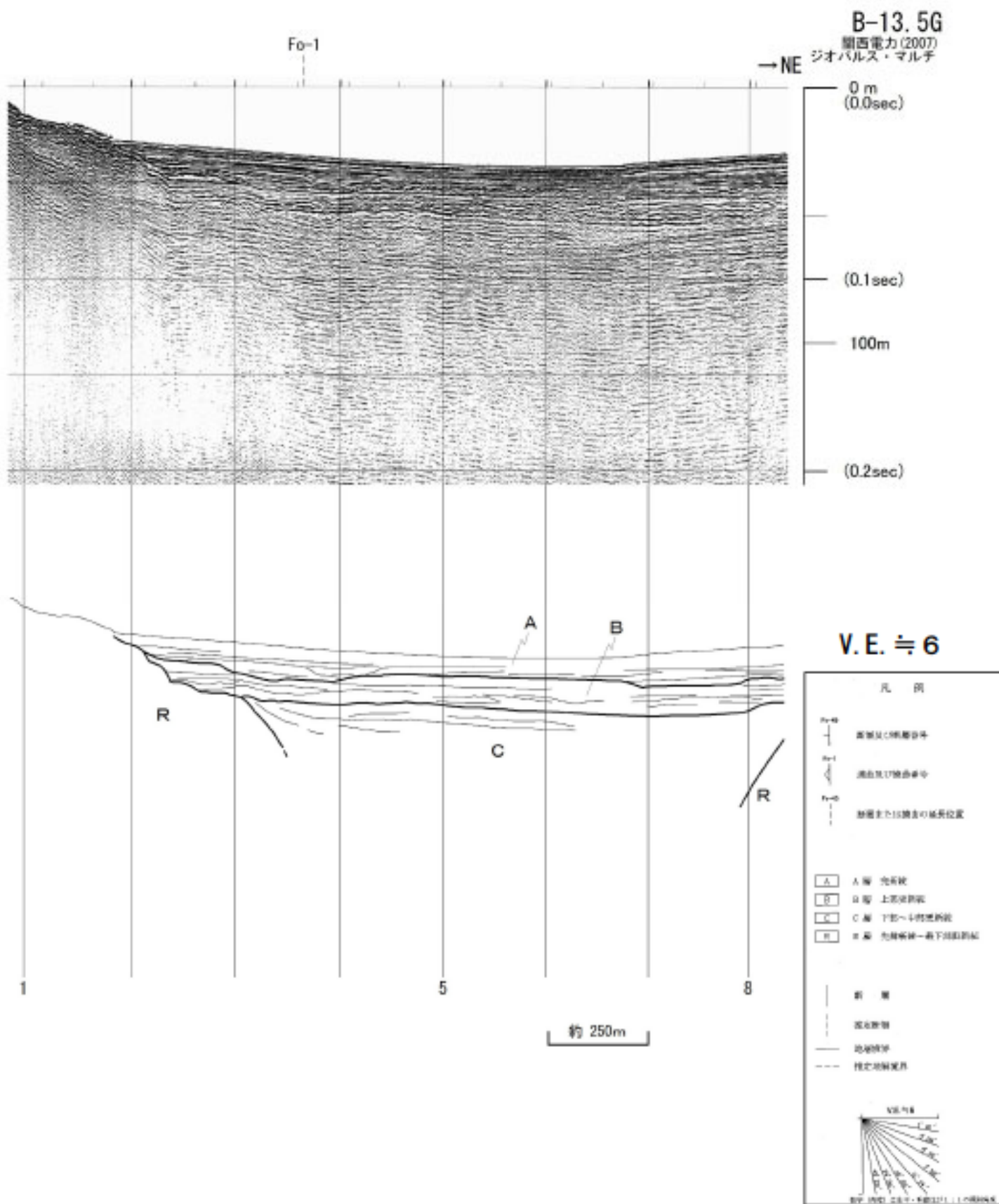
第 3. 2. 132 図(3) FO-A断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-19G)



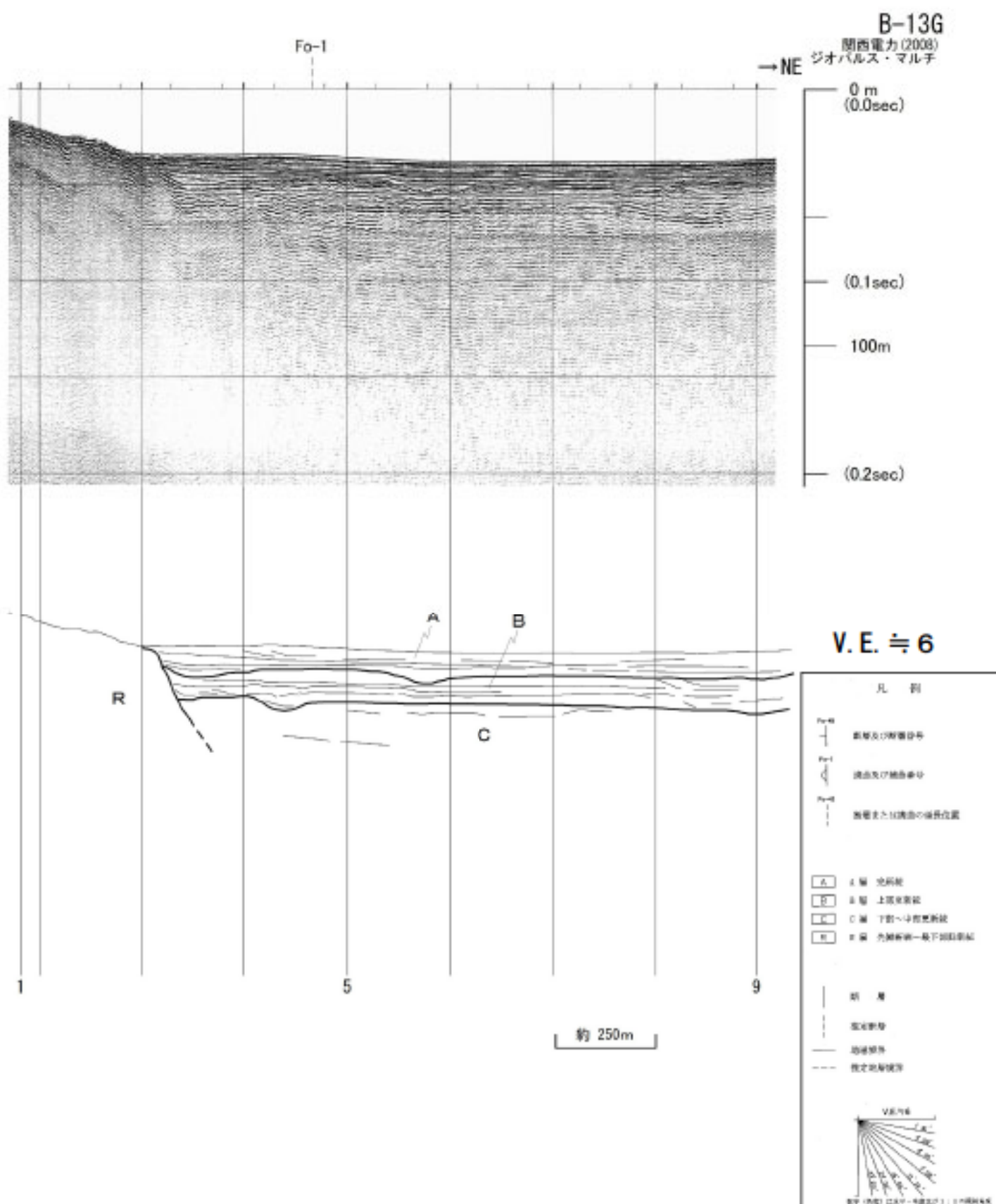
第 3. 2. 132 図(4) FO-A断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-31G)



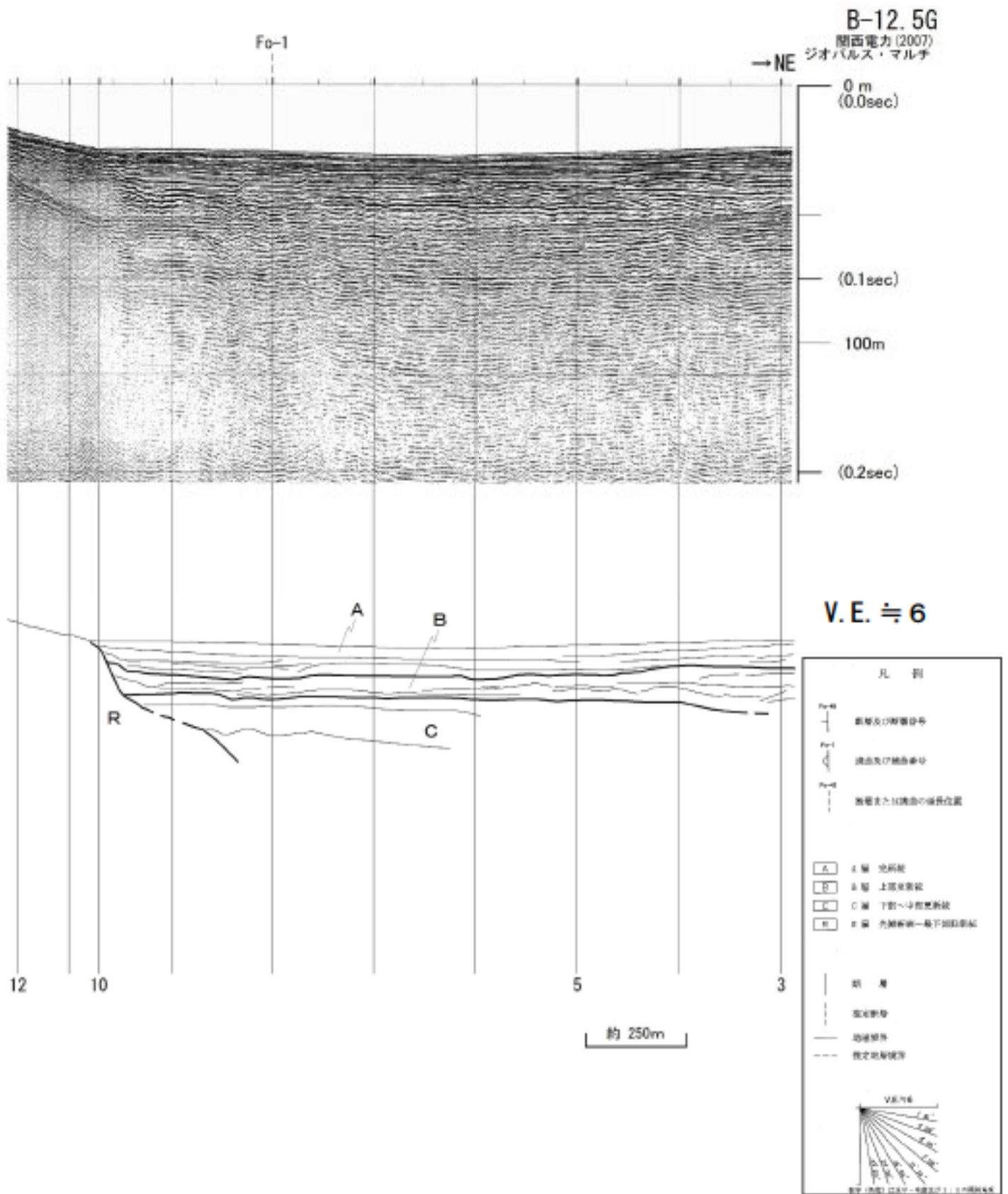
第 3.2.132 図(5) FO-A断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-47G)



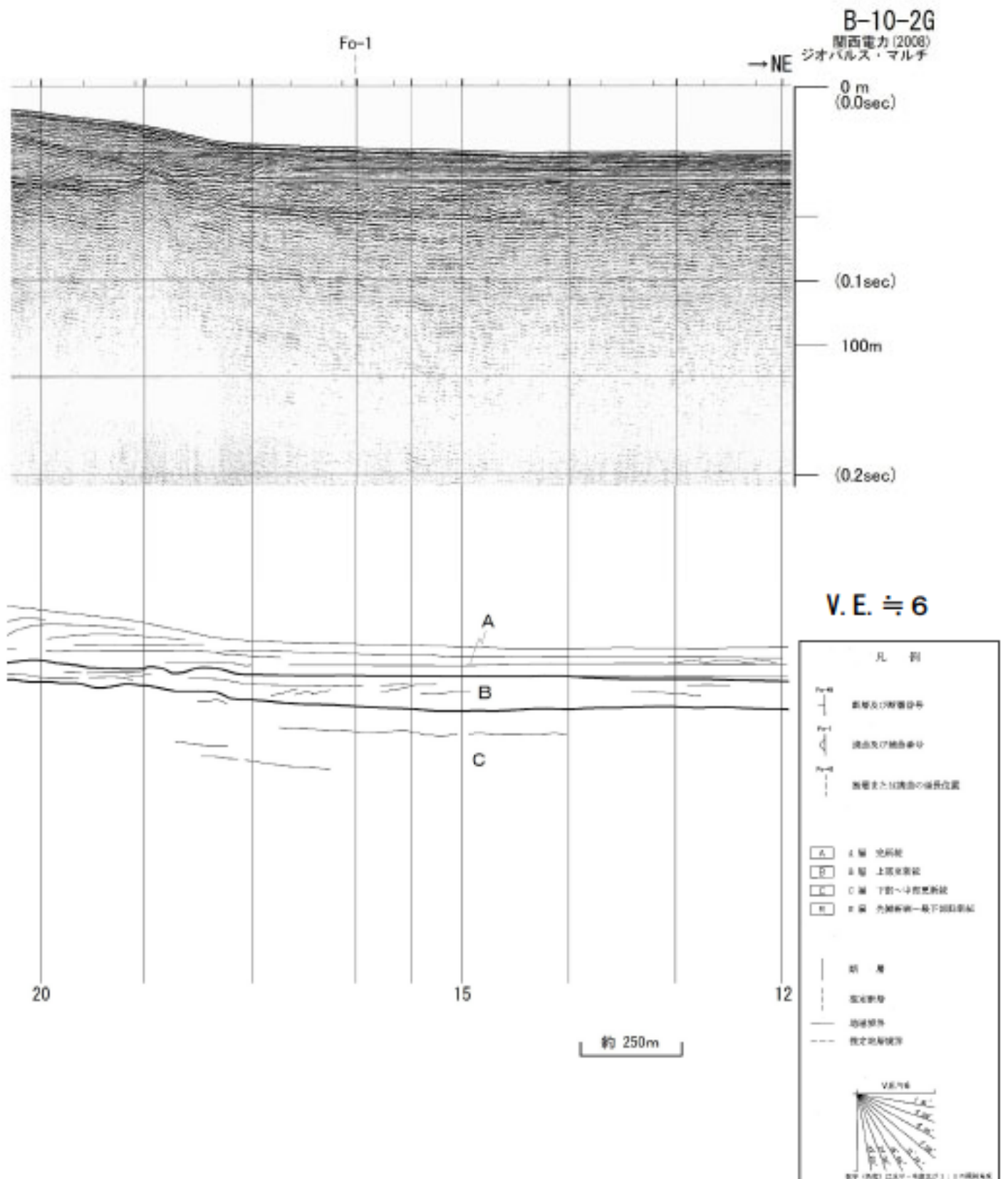
第 3.2.133 図(3) FO-A断層南方の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 B-13.5G)

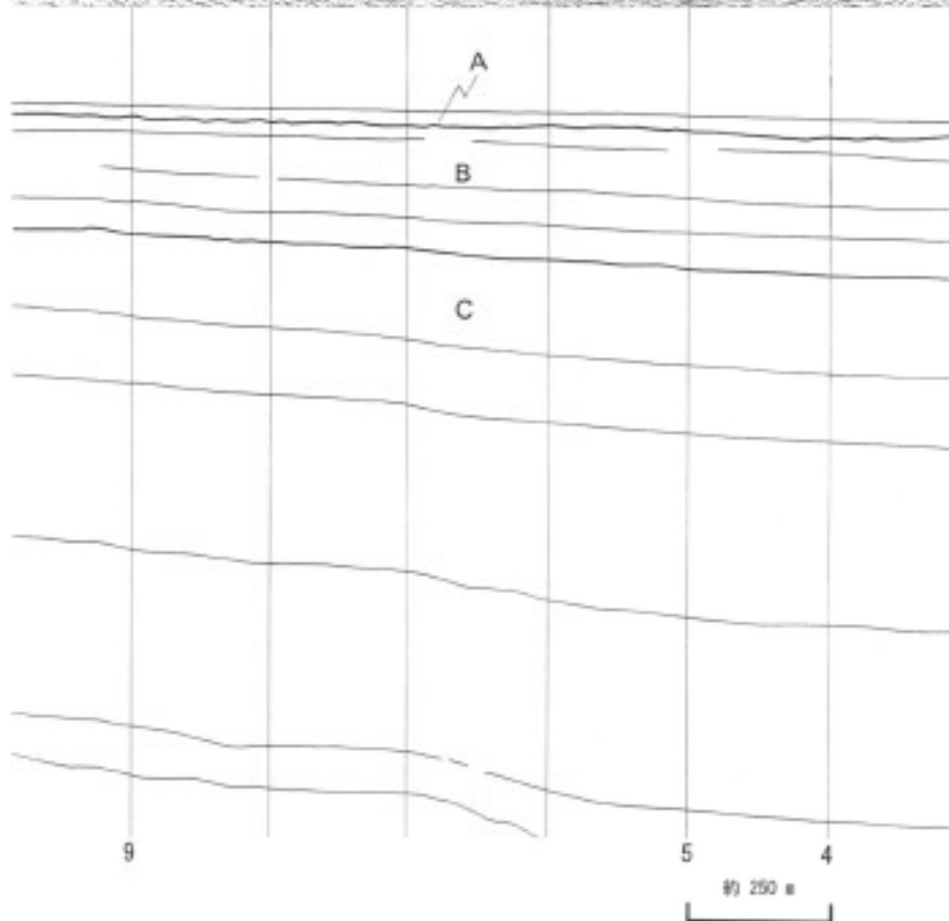
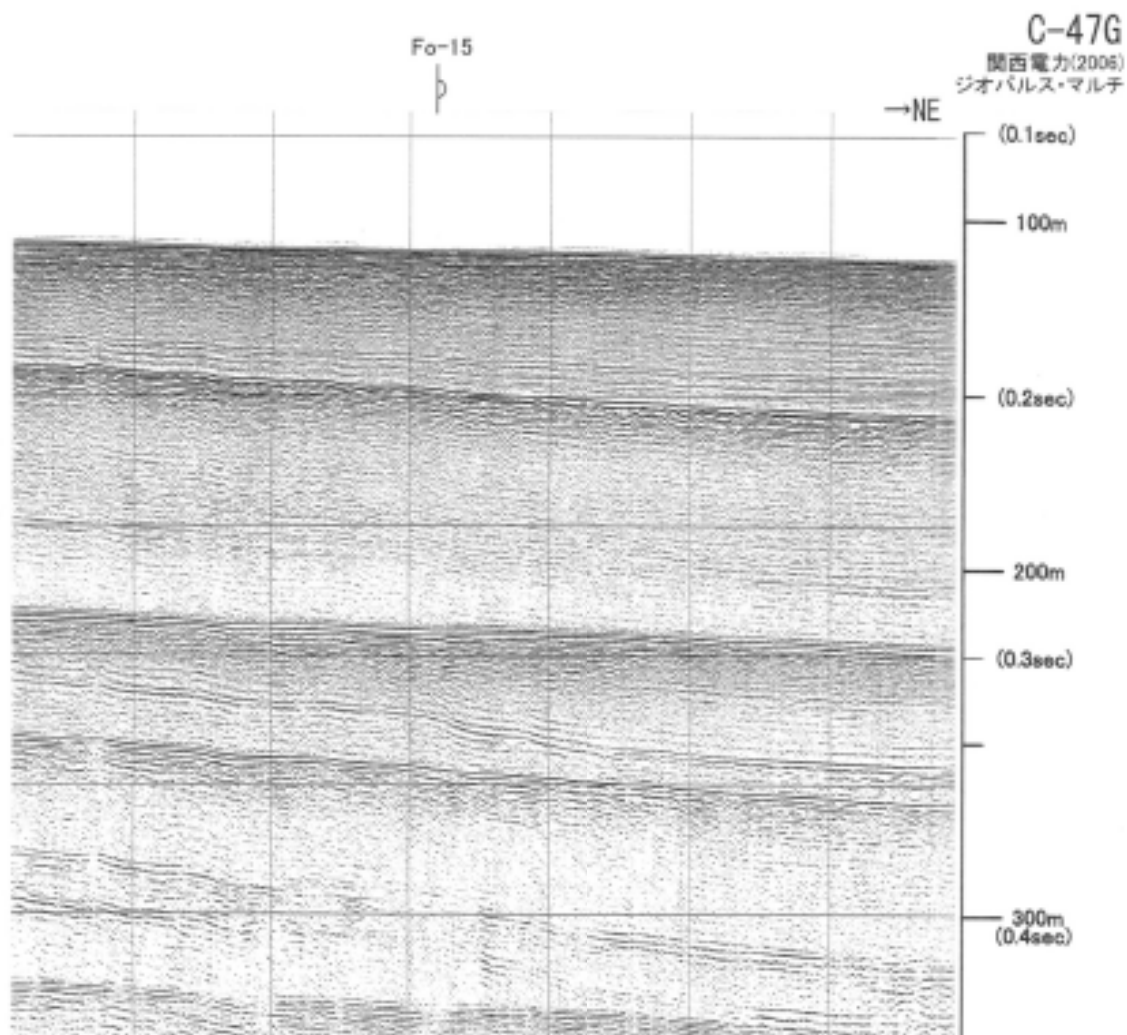


第 3.2.133 図(4) FO-A断層南方の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 B-13G)

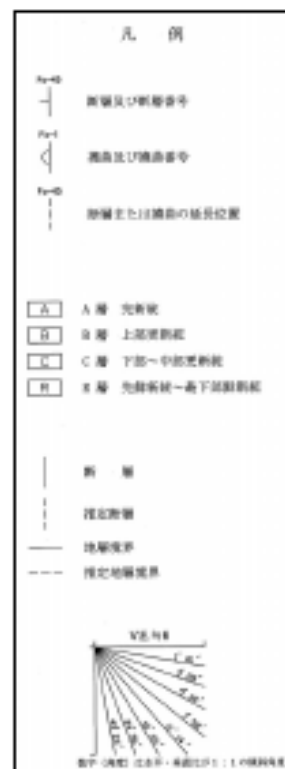


第 3. 2. 133 図(5) FO-A断層南方の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 B-12.5G)

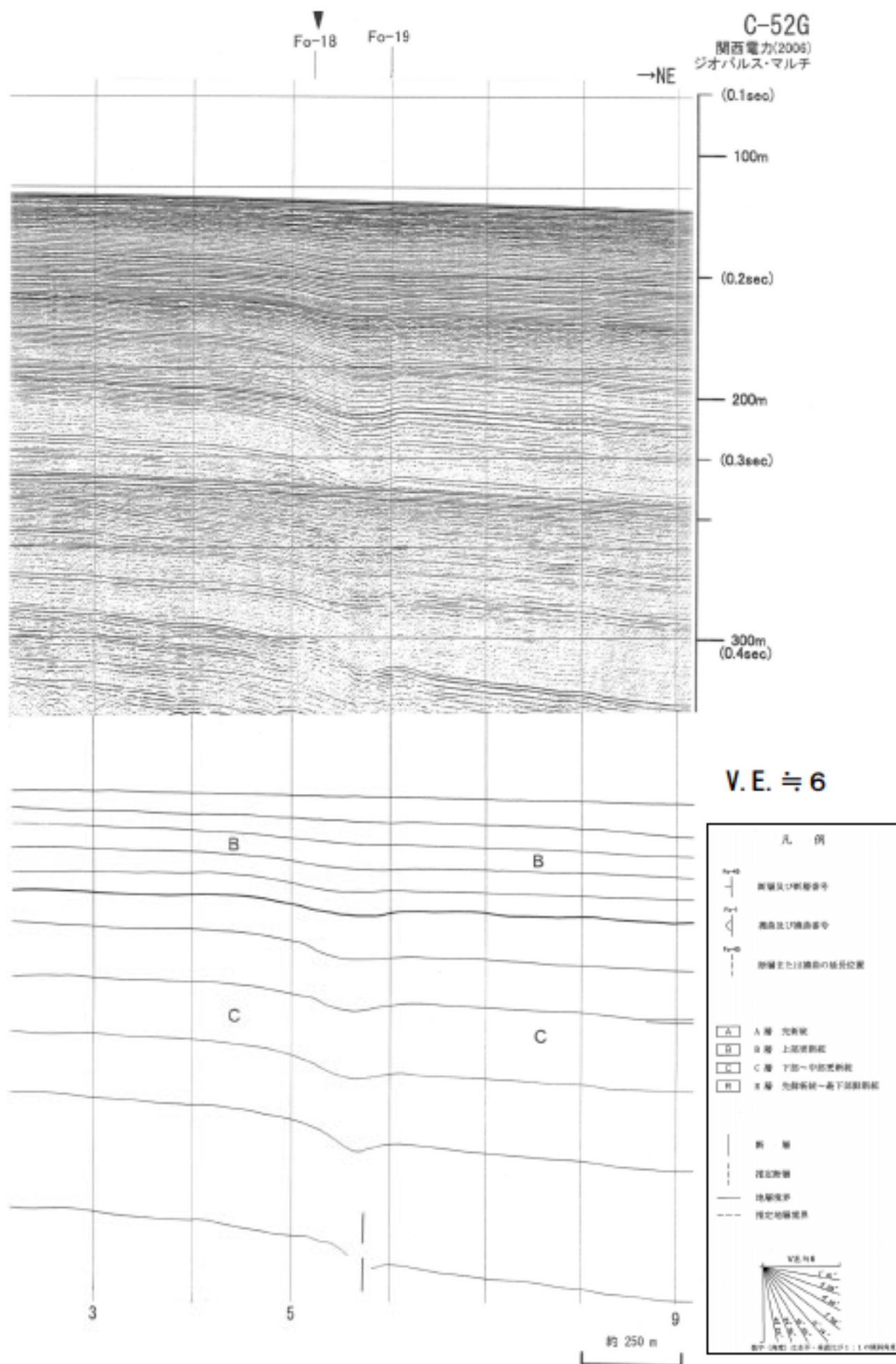




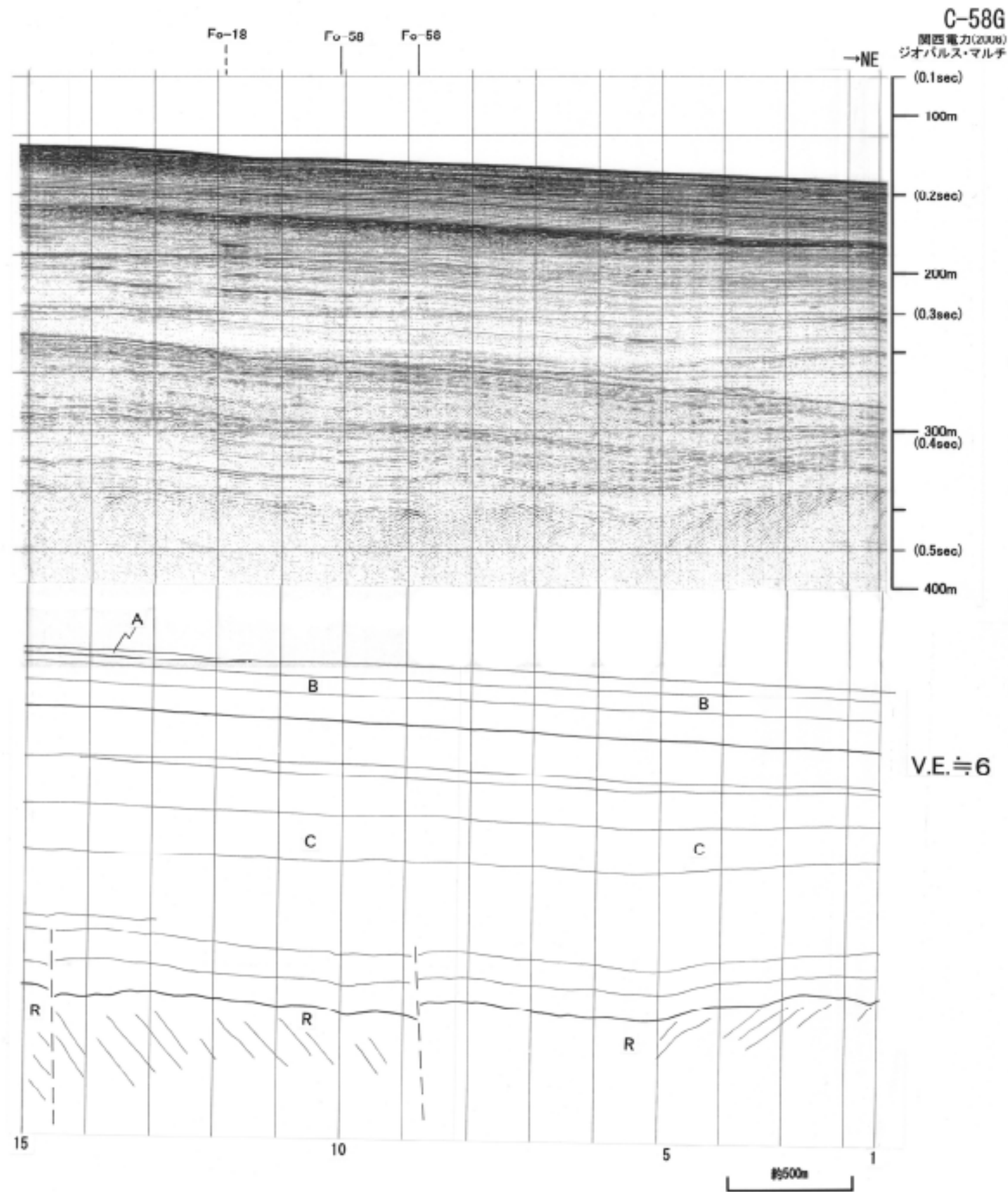
V. E. ≒ 6



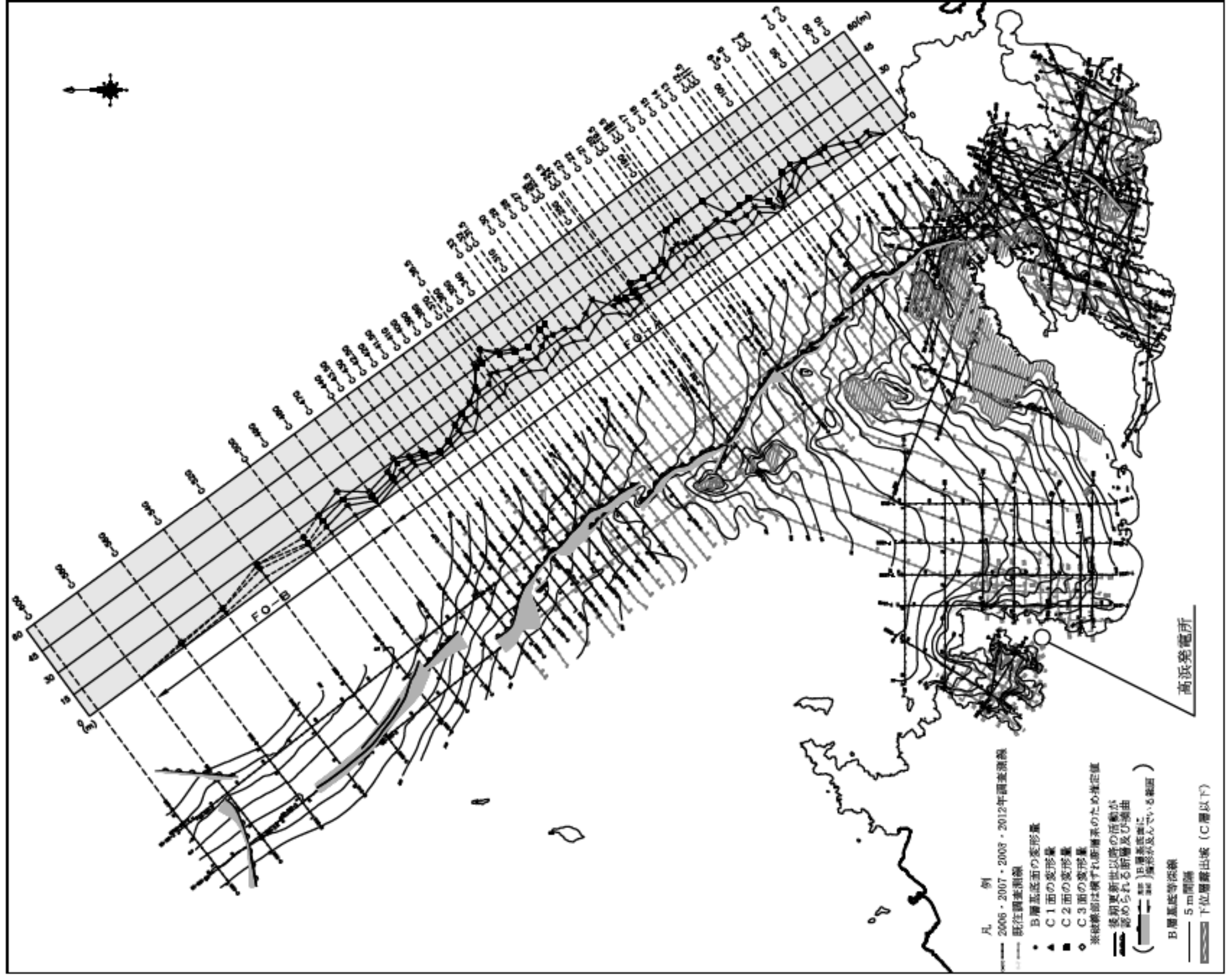
第 3. 2. 134 図(1) FO-B断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-47G)



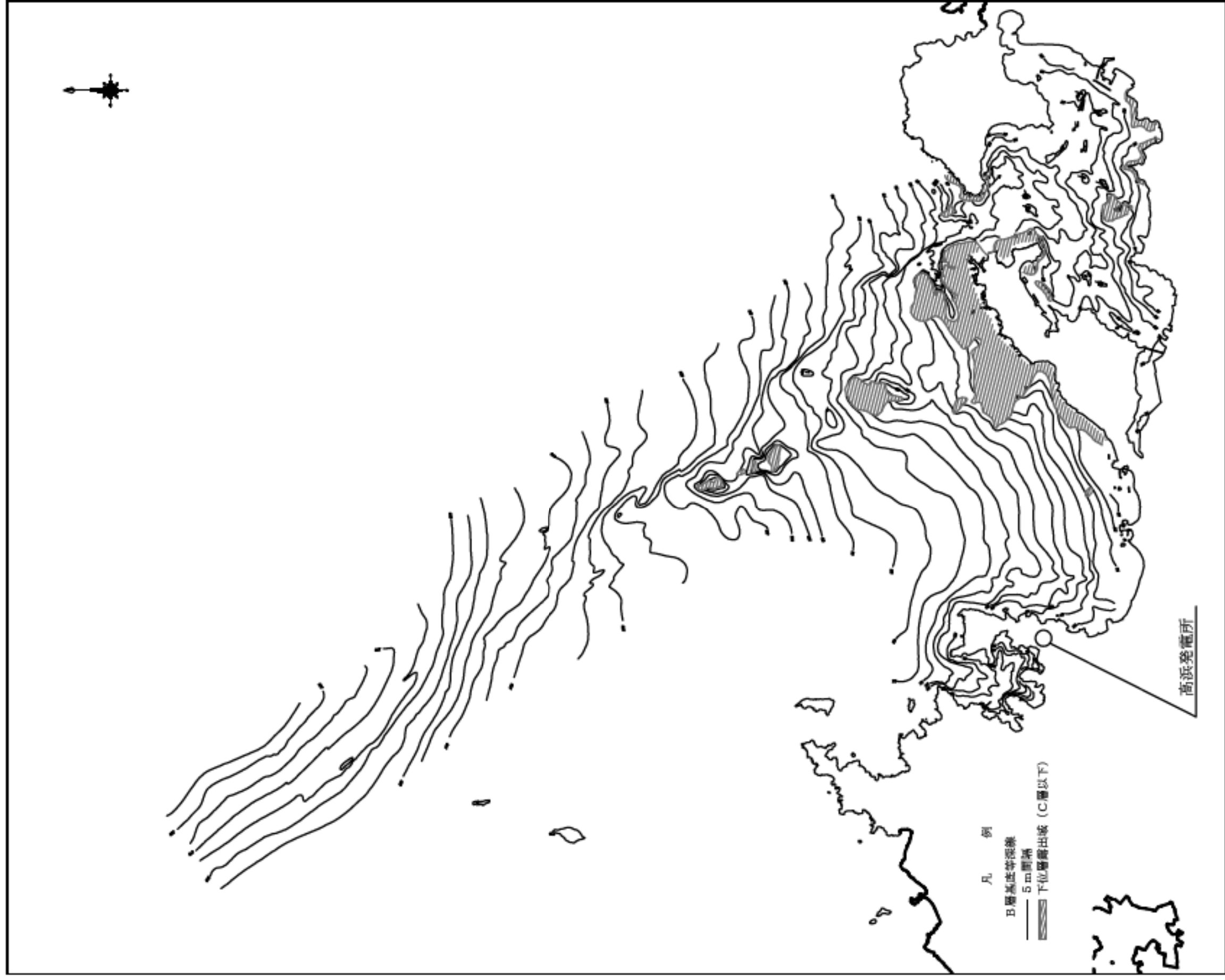
第 3. 2. 134 図(2) FO-B断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-52G)



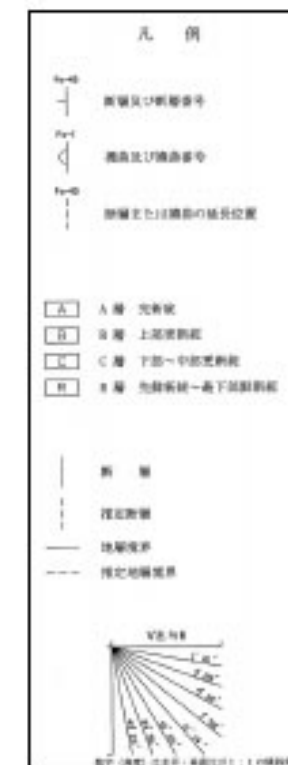
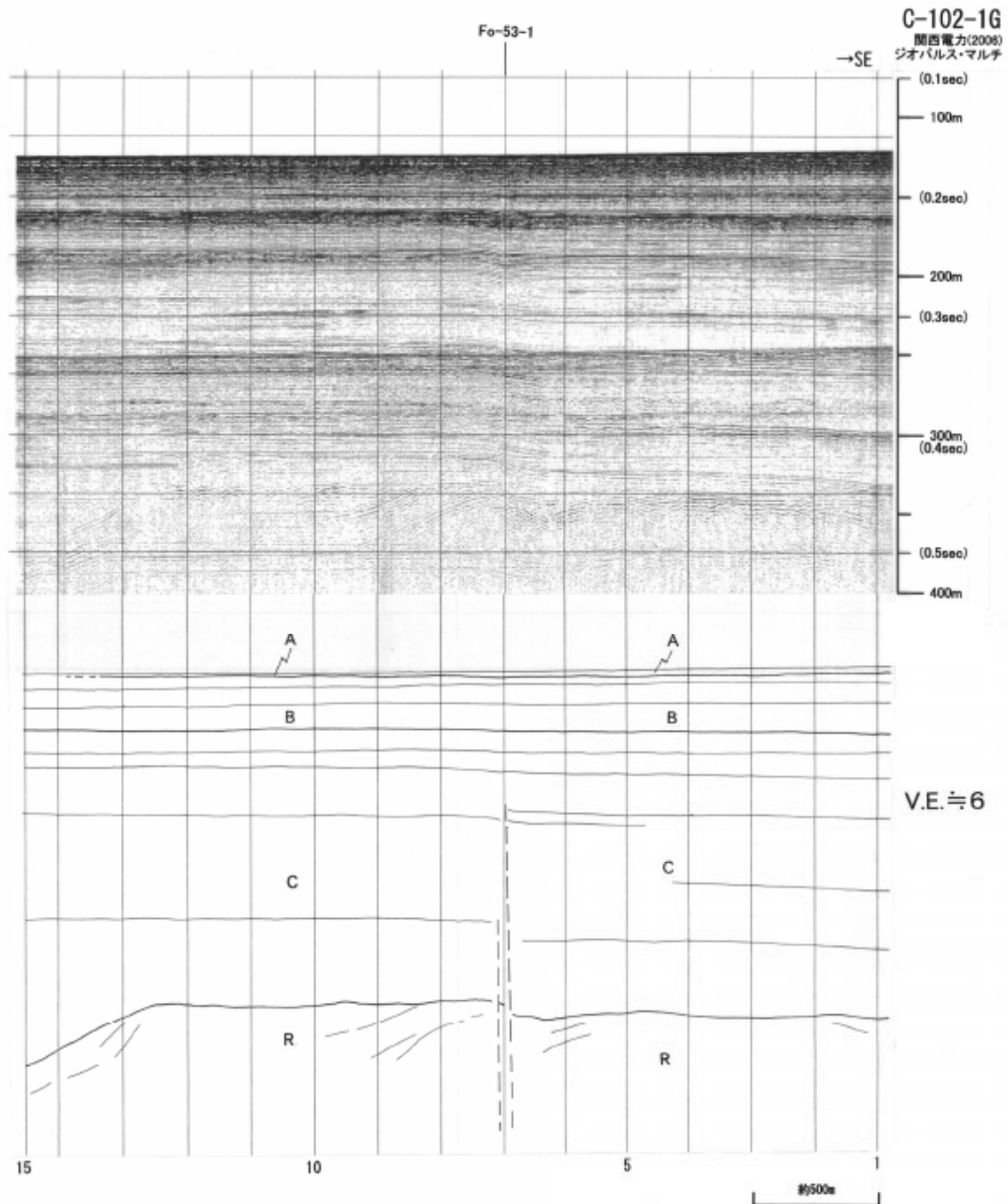
第 3. 2. 134 図(3) F O - B 断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-58G)



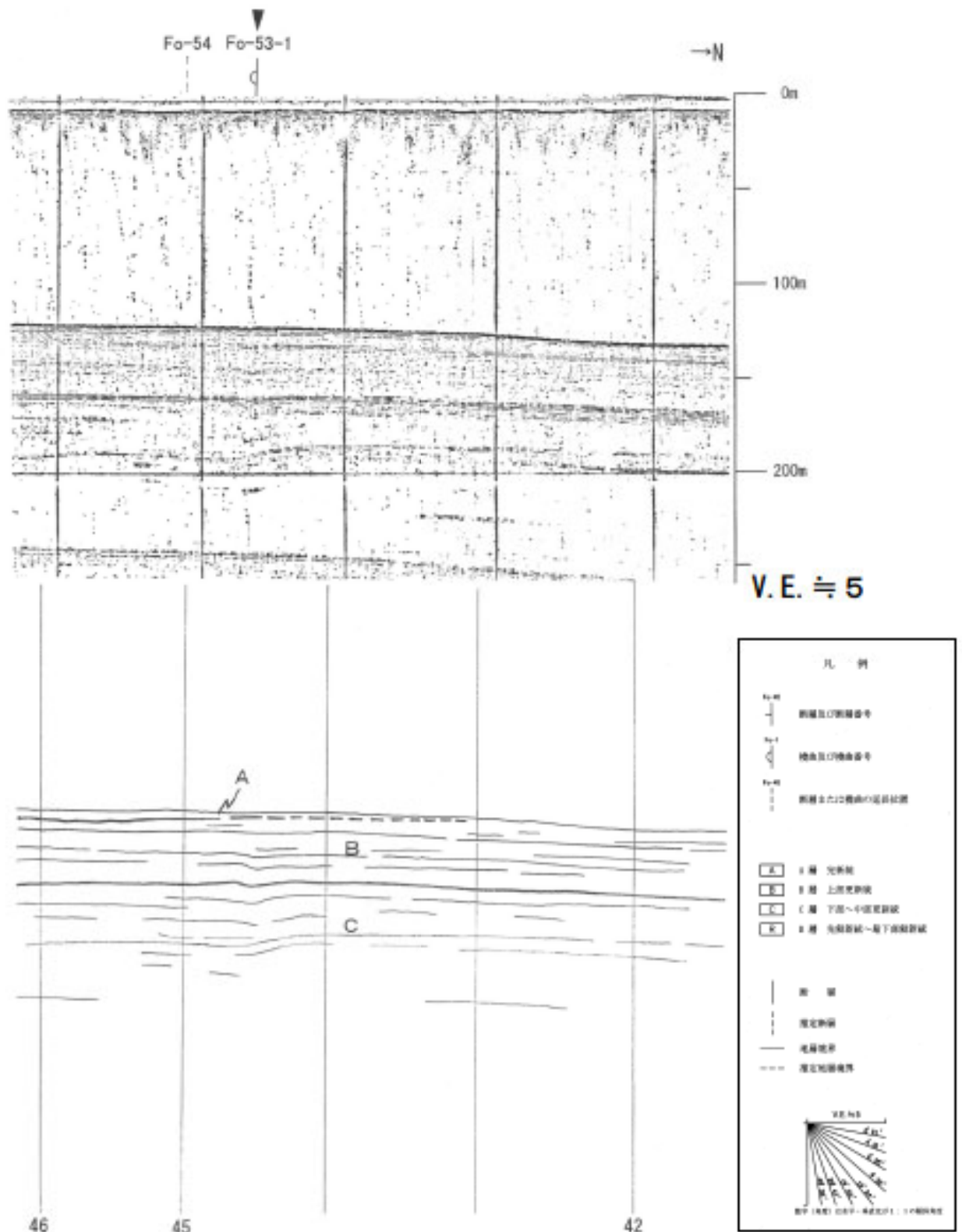
第3.2.135図 FO-A断層及びFO-B断層の鉛直変位量分布図



第3.2.136図 FO-A断層及びFO-B断層のB層基底等深線図



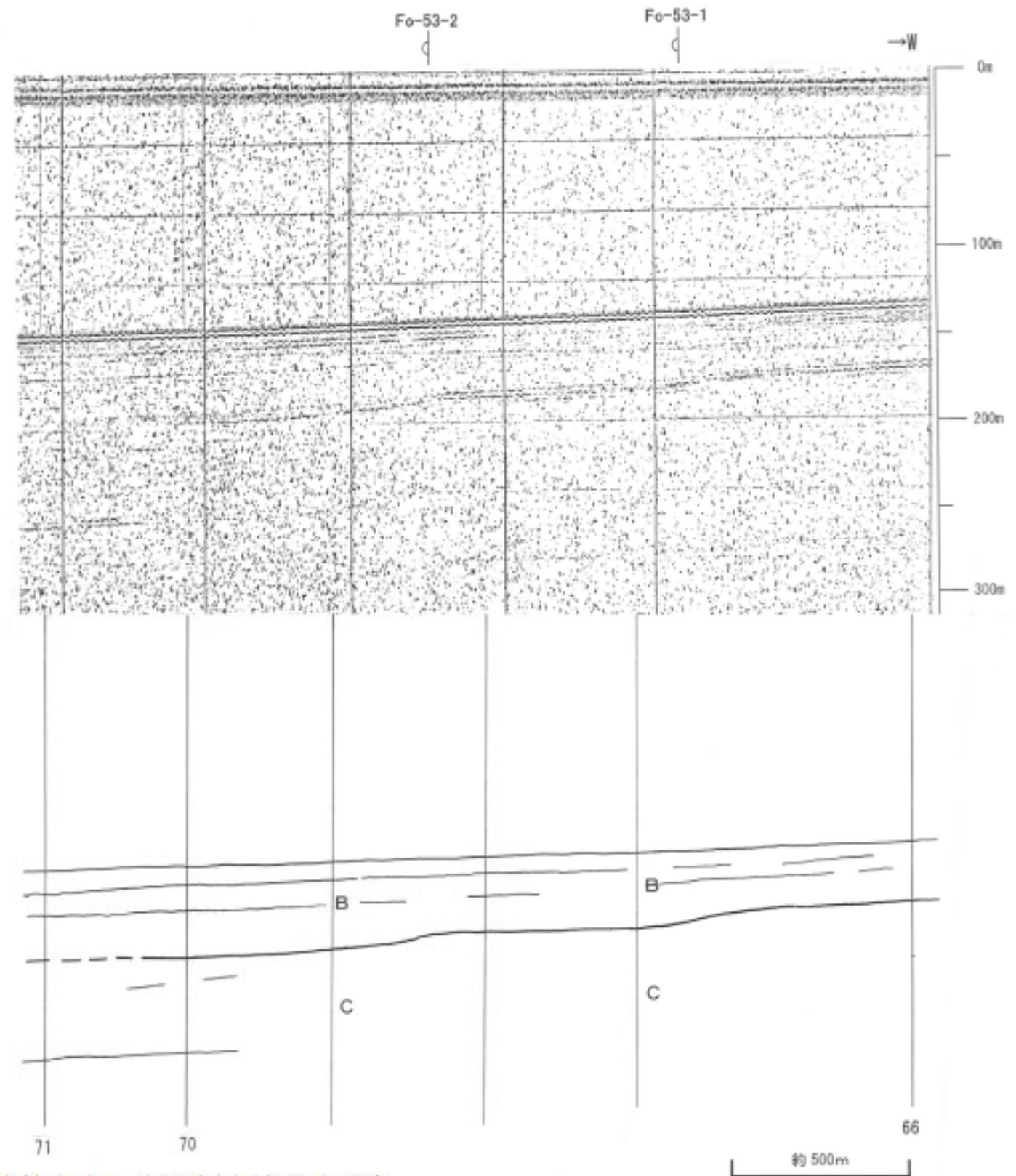
第 3. 2. 137 図(1) Fo-53-1 断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-102-1G)



※音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾西部」の原資料である。
 地質断面図は、事業者の解釈によるものである。

第 3.2.137 図(2) Fo-53-1 断層の海上音波探査記録及び地質断面図
 (海上保安庁：測線 No. 39)

交A-1
[海保「若狭湾西部」X1'-1-]



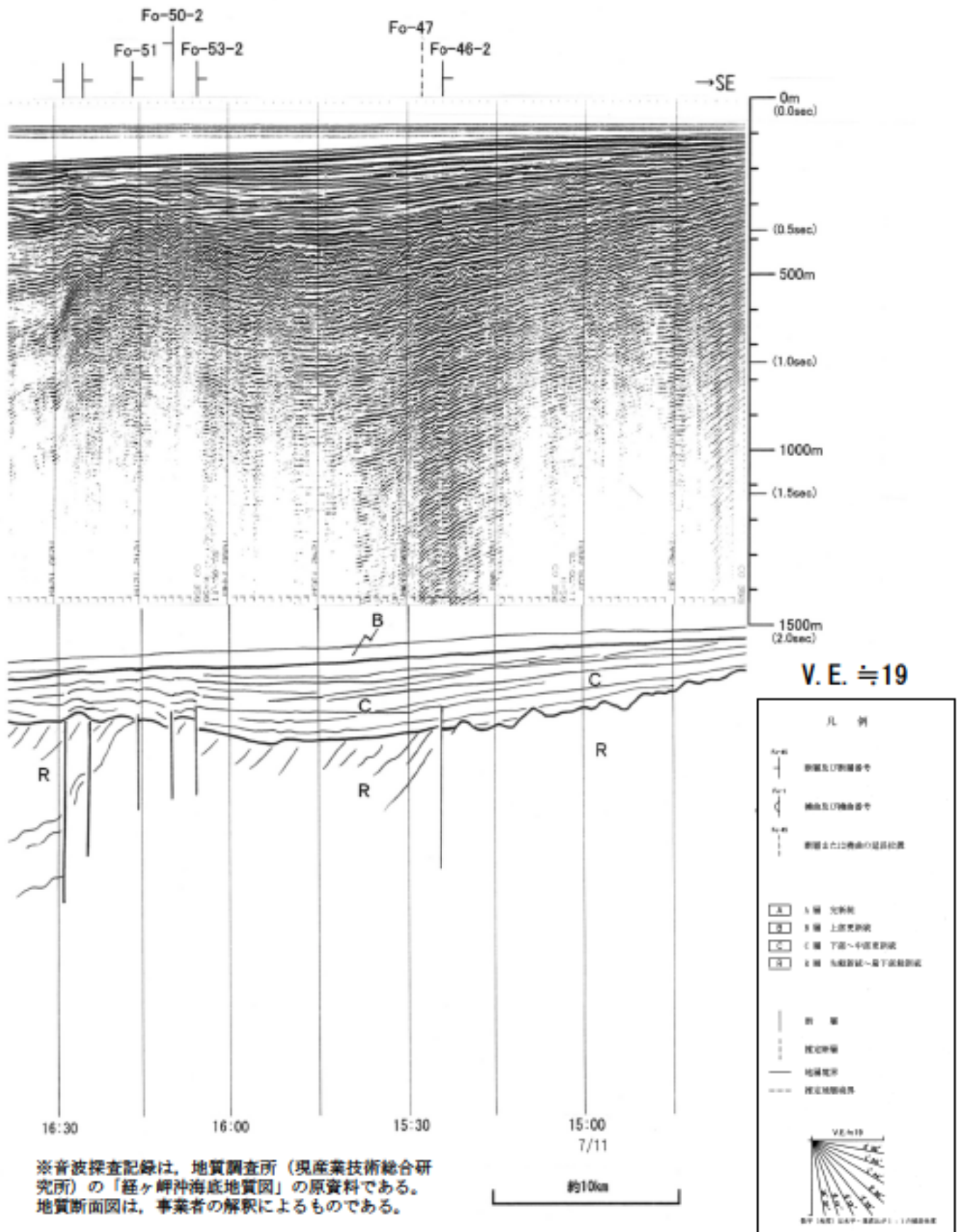
V.E. ≒ 5

凡例

- +— 観測点位置
- 観測点位置
- 観測点位置の概略位置
- A 層 沖積層
- B 層 上部硬砂層
- C 層 下部一中部硬砂層
- D 層 上部硬砂層-下部硬砂層
- 地層境界
- 地層境界
- 地層境界
- 地層境界

※音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾西部」の原資料である。
地質断面図は、事業者の解釈によるものである。

第 3. 2. 137 図(3) Fo-53-1 断層の海上音波探査記録及び地質断面図 (海上保安庁：測線交 A-1)



※音波探査記録は、地質調査所（現産業技術総合研究所）の「経ヶ岬沖海底地質図」の原資料である。
地質断面図は、事業者の解釈によるものである。

第 3. 2. 138 図(1) Fo-53-2 断層の海上音波探査記録及び地質断面図(旧地質調査所：K-20)